

第2部

障害のある人

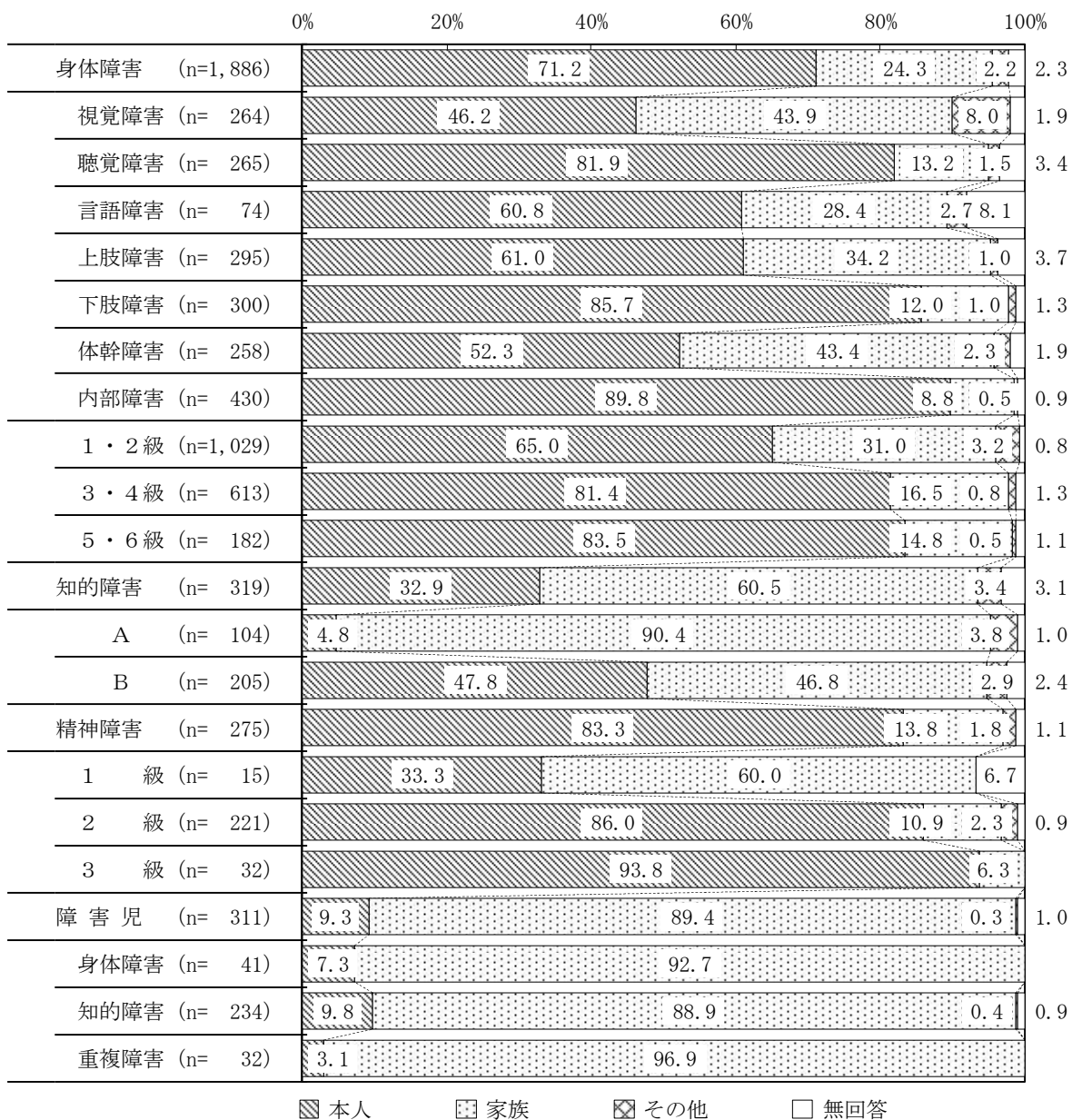
第1章 調査対象者の属性等

1 アンケートの記入者

アンケートの記入者が「本人」と答えているのは、身体に障害のある人が71.2%、精神に障害のある人が83.3%ですが、知的障害のある人は32.9%、障害のある児童は9.3%と、差が顕著になっています。身体に障害のある人を障害の種類別にみると、視覚に障害のある人の「本人」(46.2%)が低くなっています。また、障害の種類別にかかわらず、「本人」の比率は、重度ほど低くなる傾向がみられます。

「その他」として、「ヘルパー」(24件)、「施設職員」(7件)のほか、「友人」(2件)、「後見人」、「里親」などの記述がありました。

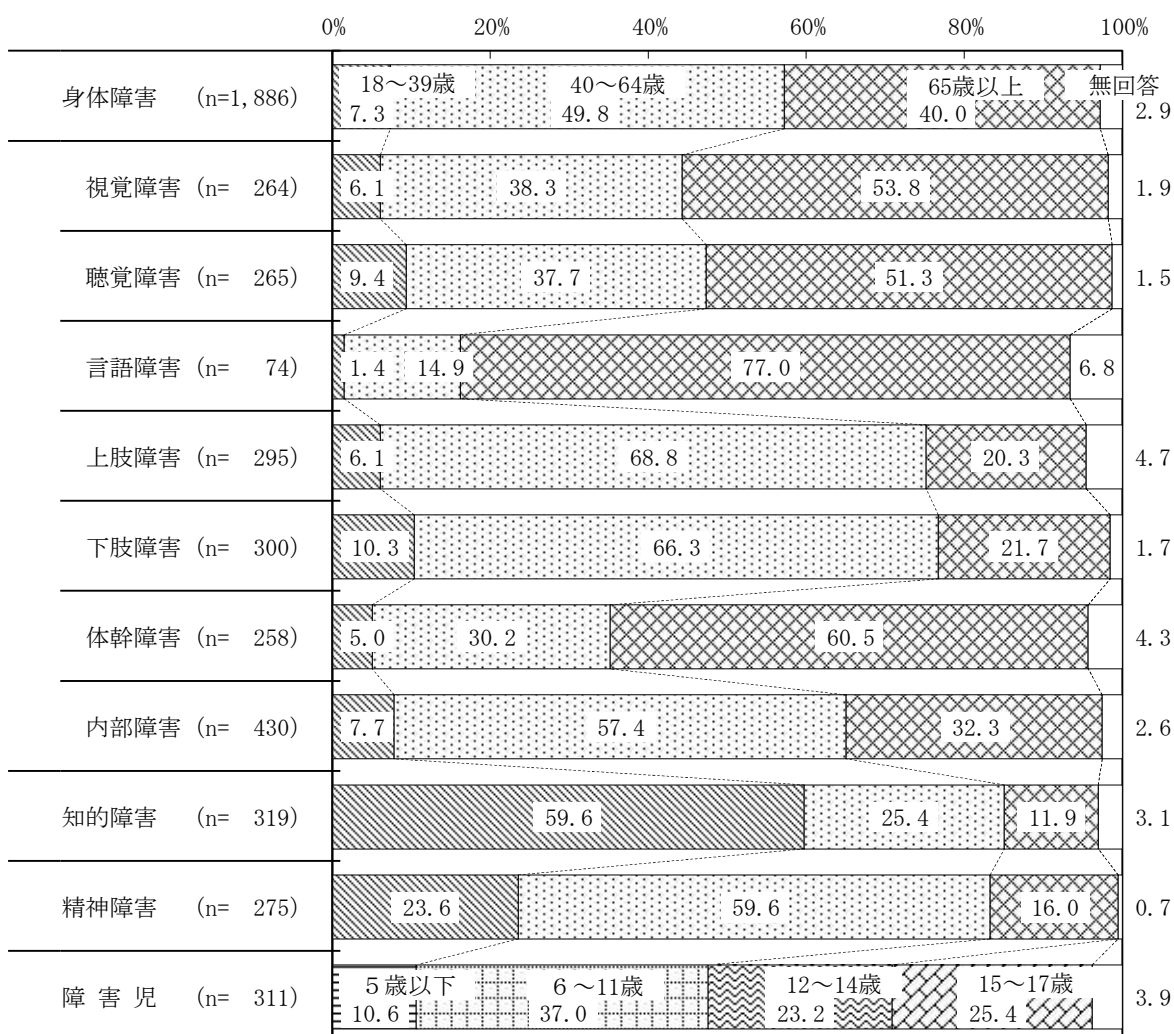
図表2-1 アンケートの記入者



2 年 齢

調査対象者を年齢階層別にみると、身体に障害のある人と精神に障害のある人は40～64歳、知的障害のある人は18～39歳が最も高くなっています。なお、身体に障害のある人については、今回の調査から65歳以上も対象としました。身体に障害のある人を障害の種類別にみると、視覚、聴覚、言語、体幹に障害のある人は65歳以上が最も高くなっています。障害のある児童は、小学生に該当する6～11歳が最も高くなっています。

図表2-2 年 齢



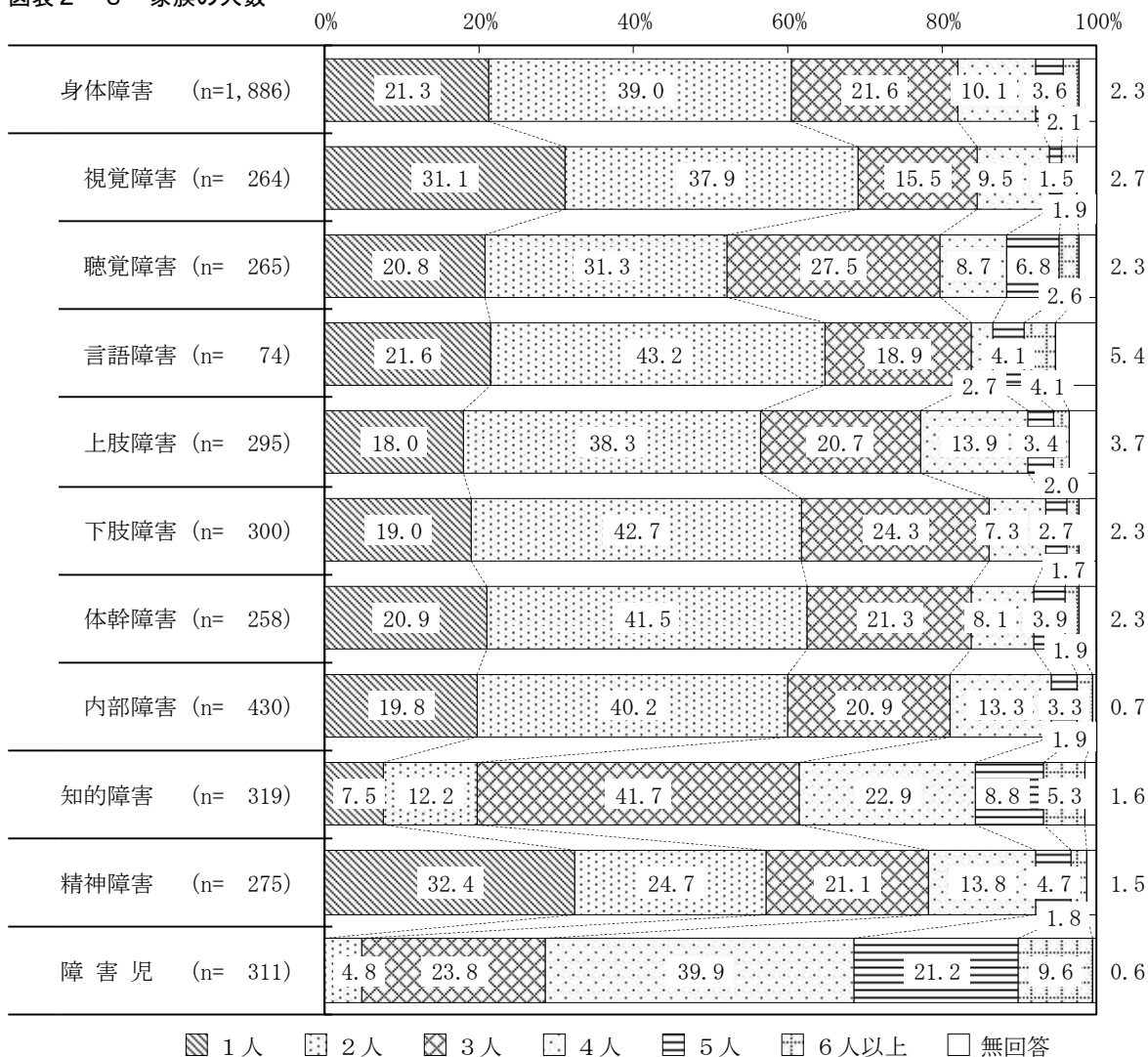
3 家族数と同居者

(1) 家族数

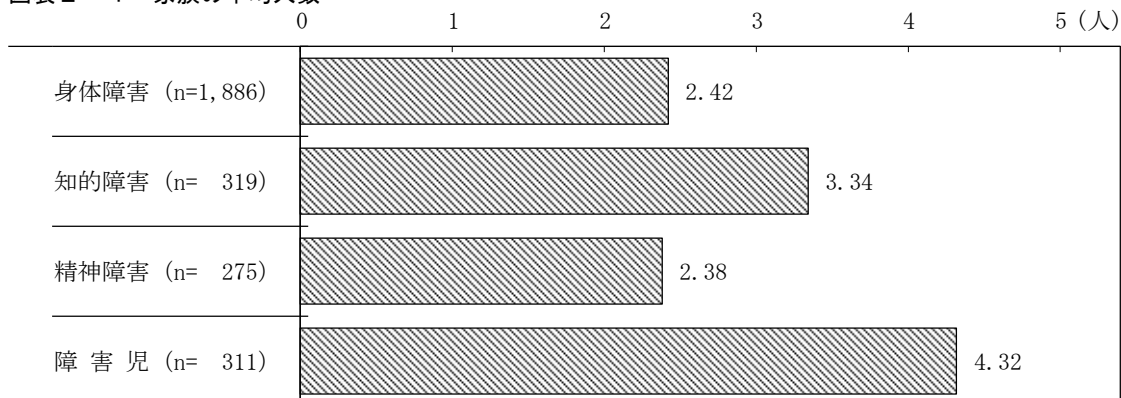
家族数は、身体に障害のある人の「2人」、知的障害のある人の「3人」、精神に障害のある人の「1人」、障害のある児童の「4人」が3割を超えています（図表2-3）。

平均の家族数は、身体に障害のある人が2.42人、知的障害のある人が3.34人、精神に障害のある人が2.38人、障害のある児童が4.32人です（図表2-4）。

図表2-3 家族の人数



図表2-4 家族の平均人数



(2) 同居者

図表2-5により同居者をみると、身体に障害のある人は「配偶者」「子ども」、知的障害のある人は「母・義母」「父・義父」「兄弟姉妹」、精神に障害のある人は「母・義母」「父・義父」、障害のある児童は「母」「父」「兄弟姉妹」が高くなっています。配偶者のいる比率は、身体に障害のある人（60.1%）が高く、知的障害のある人（4.1%）および精神に障害のある人（29.0%）が低くなっています。

「その他」として、主に図表2-6の記入がありました。

図表2-5 同居者（複数回答）

単位：回答数は人、他は%

区 分	回 答 数	配 偶 者	父・義父	母・義母	祖 父	祖 母	子 ども	子 ども の 配 偶 者	孫	兄 弟 姉 妹	親 戚	知 人 ・ 友 人	そ の 他	無 回 答
身 体 障 害	1,484	60.1	12.3	21.7	0.5	1.3	33.0	5.3	4.6	8.6	0.7	0.5	4.5	2.8
視覚障害	182	61.0	8.2	18.7	0.0	0.0	34.1	8.8	4.9	5.5	1.1	1.6	5.5	2.2
聴覚障害	210	55.2	15.7	23.3	0.5	0.5	43.8	8.1	6.7	6.7	1.0	0.0	2.9	1.9
言語障害	58	69.0	1.7	6.9	0.0	1.7	34.5	5.2	5.2	0.0	3.4	0.0	8.6	6.9
上肢障害	242	59.1	15.3	26.0	1.2	1.2	27.3	2.9	2.9	11.6	0.8	0.0	5.4	4.1
下肢障害	243	56.4	17.3	31.7	0.0	2.5	25.1	3.3	2.1	11.9	0.8	0.8	1.6	2.1
体幹障害	204	55.4	10.3	14.7	0.0	1.0	31.9	6.9	6.4	7.8	0.0	0.5	10.8	3.9
内部障害	345	67.2	9.9	18.8	1.2	2.0	35.9	3.8	4.9	9.0	0.0	0.6	2.0	1.7
知 的 障 害	295	4.1	65.8	83.1	3.7	8.8	2.4	0.7	0.3	33.2	2.0	0.3	5.8	1.7
精 神 障 害	186	29.0	35.5	53.2	1.6	4.8	19.9	1.1	0.5	22.6	1.6	0.5	7.0	0.5
障 害 児	311	-	89.4	96.5	4.8	7.7	-	-	-	70.1	-	-	1.6	0.3

(注) 1 ひとり暮らしを除いて計算した。

2 障害のある児童の「父・義父」は「父」に、「母・義母」は「母」に読み替える。

図表2-6 「その他」の同居者

身 体 障 害	知 的 障 害	精 神 障 害	障 害 児
<ul style="list-style-type: none"> ・施設（24件） ・入院中（17件） ・施設入所（入居）中（13件） ・特別養護老人ホーム（6件） ・グループホーム（4件） ・大学の寮（2件） 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループホーム（12件） ・入院中（2件） ・施設 ・義兄 ・きょうだいの配偶者 ・後見 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループホーム（4件） ・入院中（2件） ・介護施設（2件） ・有料老人ホーム入所中 ・病院 ・施設 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひいおばあさん（2件） ・里親父、母、里子 ・病院入院中

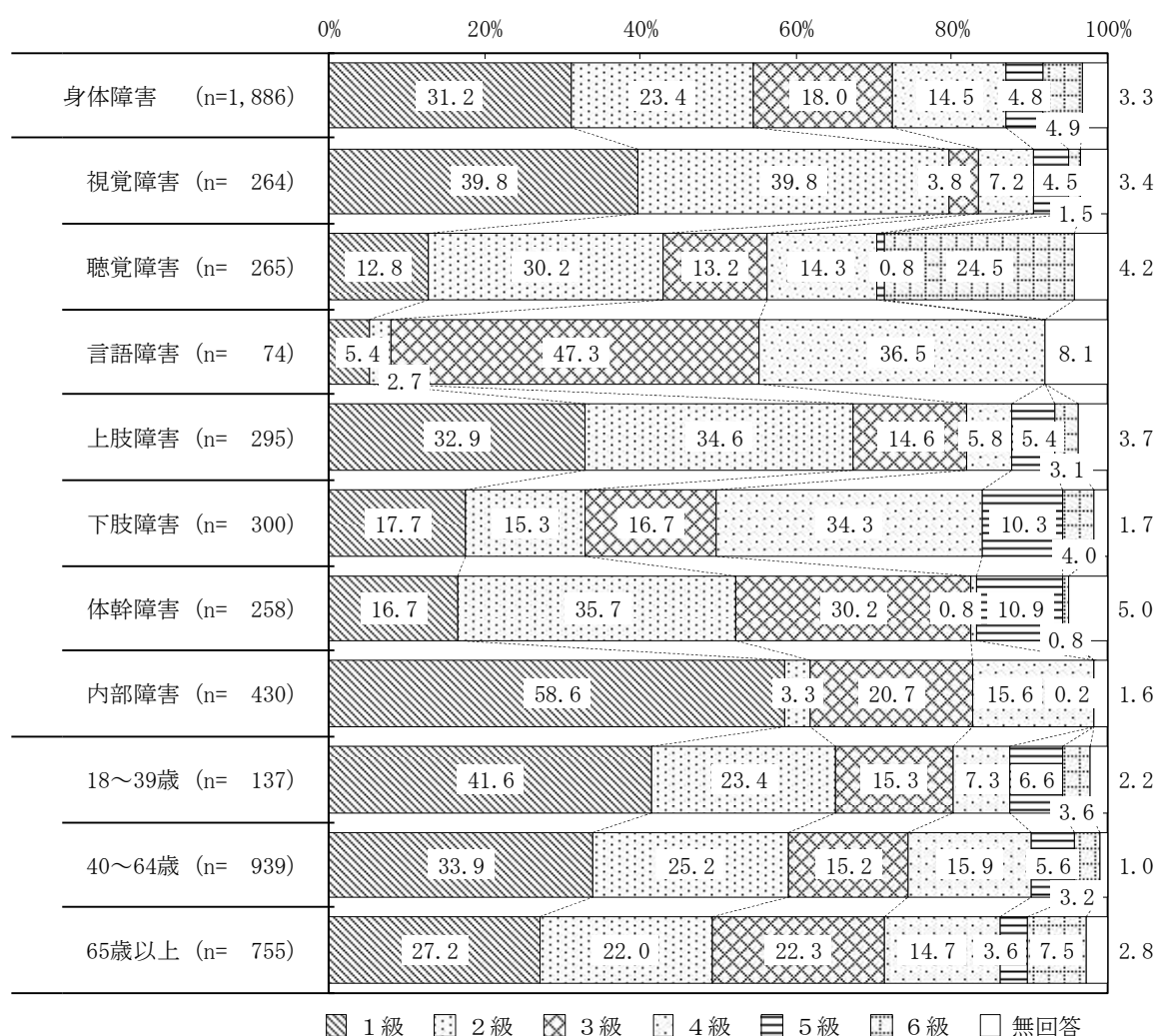
4 障害者手帳・障害支援区分

(1) 身体に障害のある人

① 身体障害者手帳所持者の障害等級

身体障害者手帳所持者の障害等級は、1・2級の重度が54.6%、3・4級の中度が32.5%、5・6級の軽度が9.7%です。1・2級の重度の比率が高い障害の種類は、視覚に障害のある人、上肢に障害のある人、体幹に障害のある人および内部障害のある人です。また、年齢別にみると、若いほどに重度の比率が高くなっています。

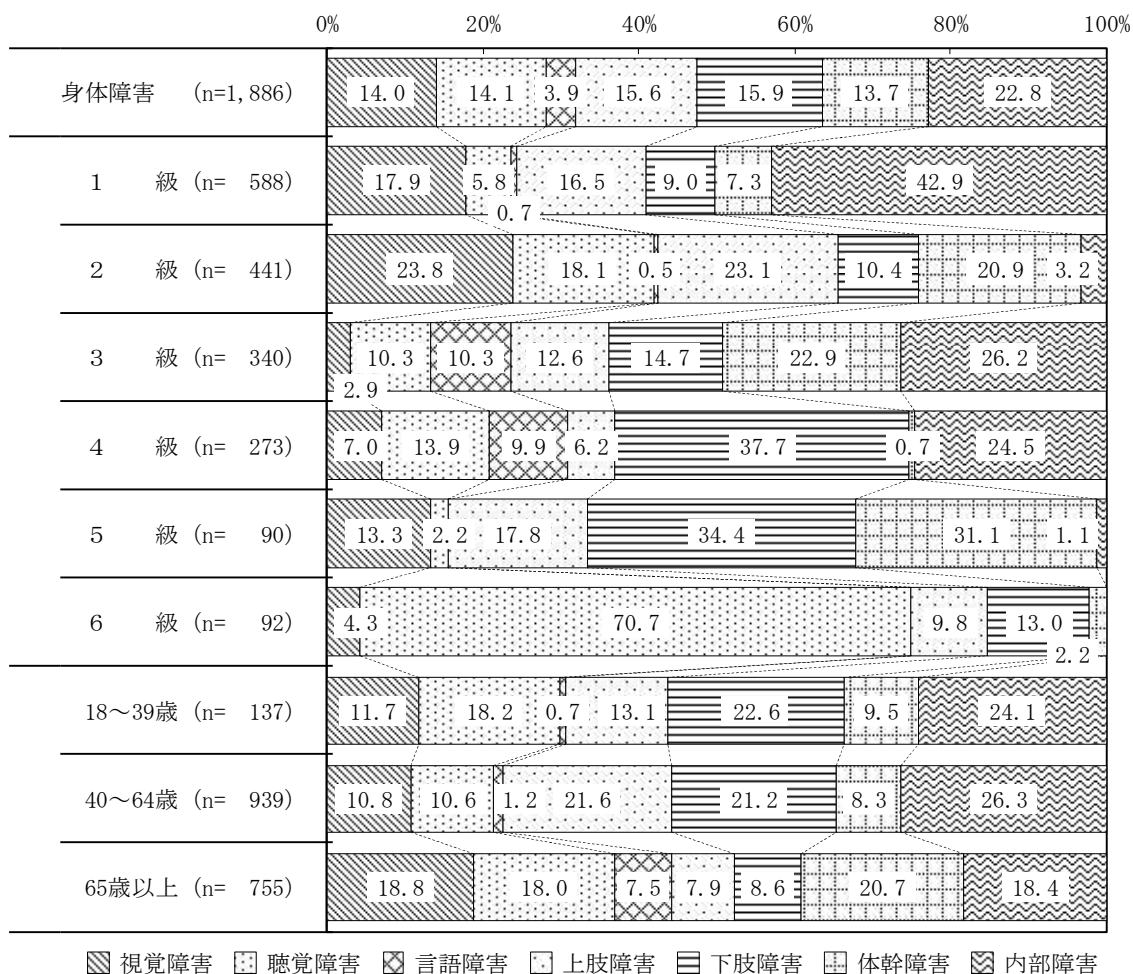
図表2-7 身体障害者手帳所持者の障害等級



② 身体障害の種類

身体障害の種類では、上肢に障害のある人、下肢に障害のある人および体幹に障害のある人を合計した肢体不自由が45.2%と最も高く、次いで内部障害のある人の22.8%です。障害等級別にみると、1級では内部障害のある人、6級では聴覚に障害のある人が最も高くとなっています。

図表2-8 身体障害の種類

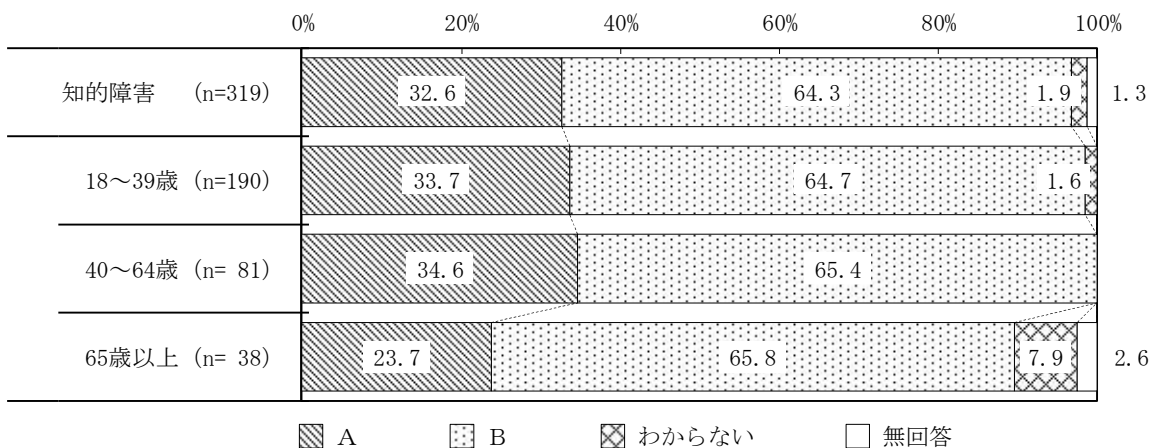


(2) 知的障害のある人

① 療育手帳所持者の障害の程度

療育手帳による障害の程度は、A（重度）が32.6%、B（中度）が64.3%でした。

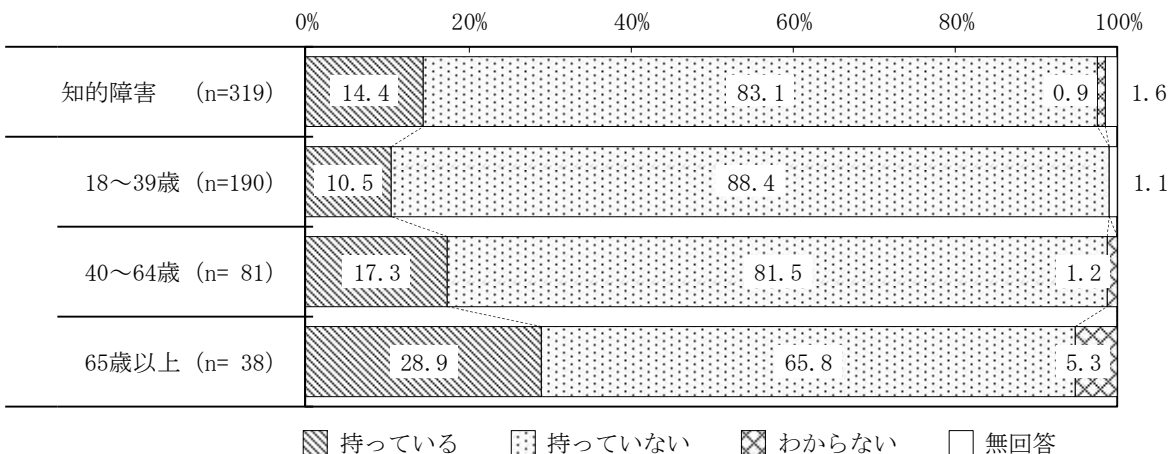
図表2-9 療育手帳所持者の障害の程度



② 重複障害のある人

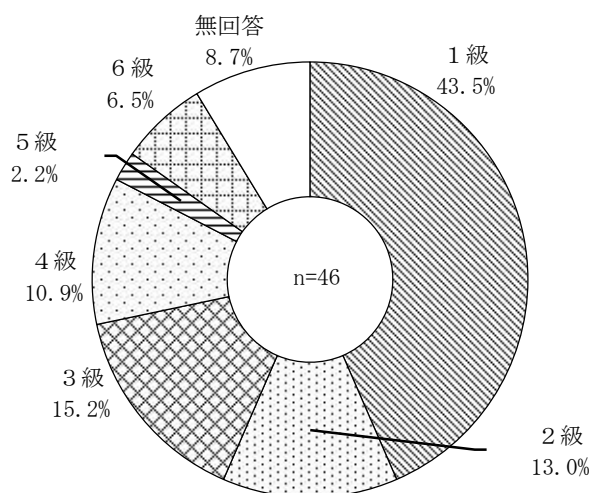
療育手帳所持者で身体障害者手帳を持っている人は14.4%で、年齢が高いほど、持っている比率がたかくなっています。

図表2-10 療育手帳所持者の身体障害者手帳の有無



身体障害者手帳の等級は、重度の1・2級で56.5%を占めています。

図表2-11 療育手帳所持者の身体障害者手帳の等級

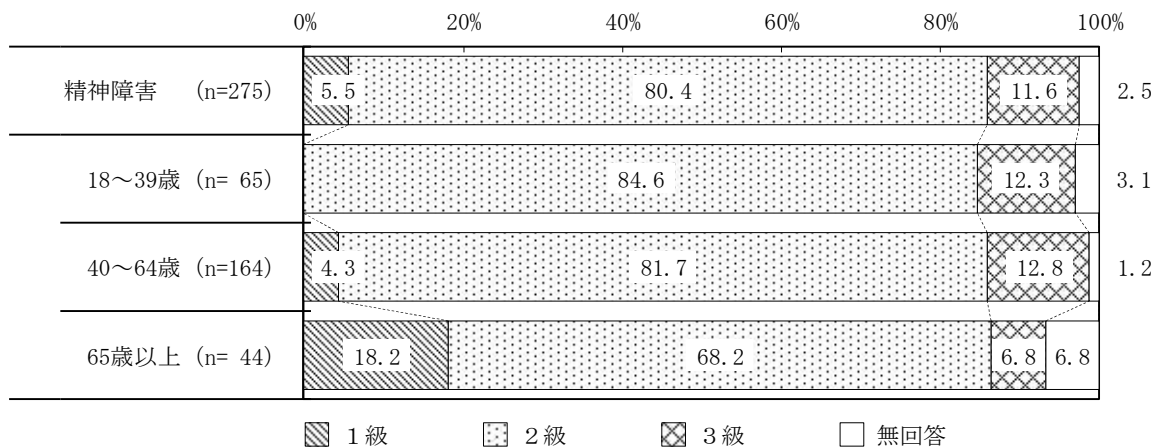


(3) 精神に障害のある人

① 精神障害者保健福祉手帳所持者の障害等級

精神障害者保健福祉手帳所持者の障害等級は、2級が80.4%を占めています。

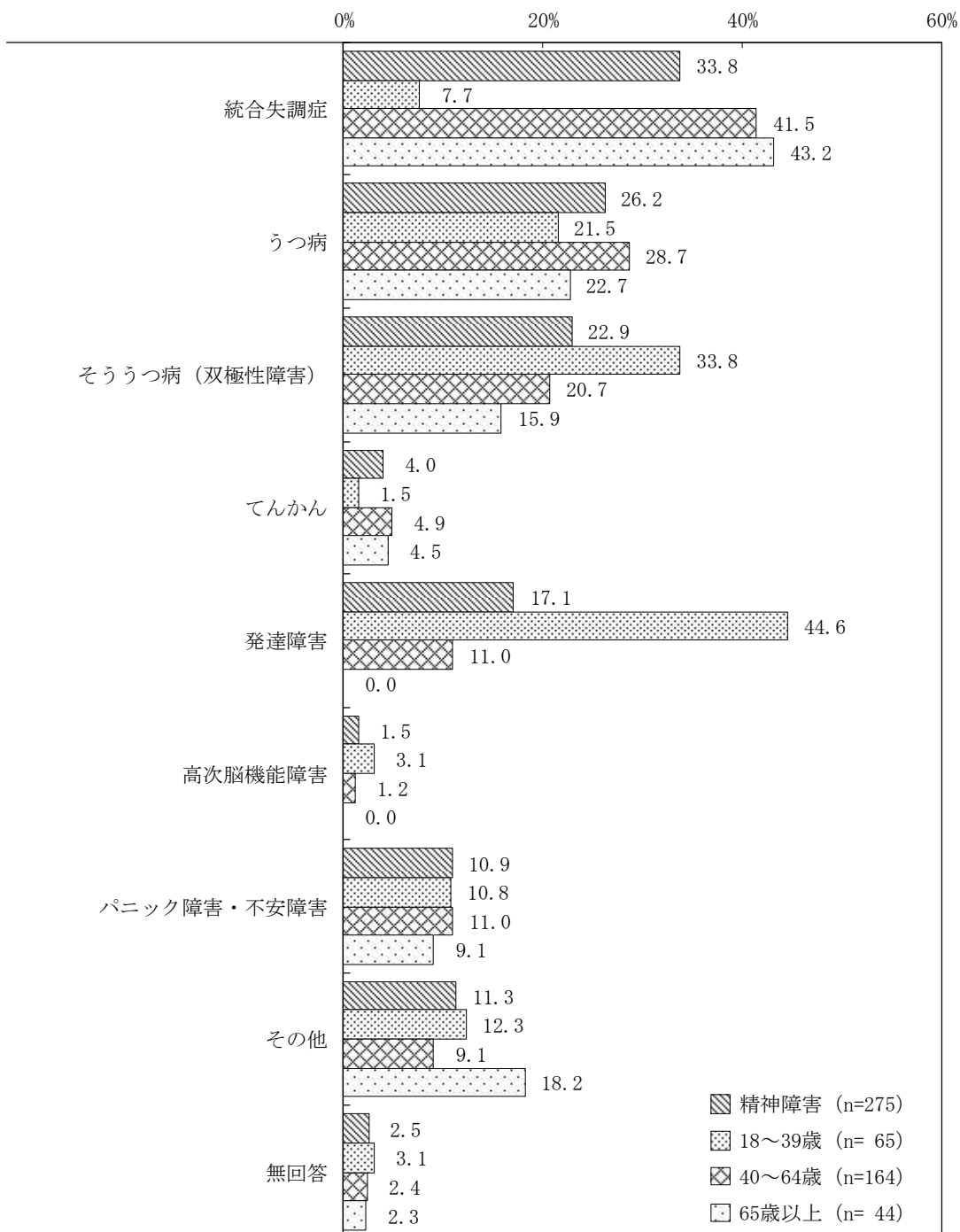
図表2-12 精神障害者保健福祉手帳所持者の障害等級



② 精神障害の種類

精神障害の種類では、統合失調症が33.8%と最も高く、次いでうつ病が26.2%、そううつ病（双極性障害）が22.9%、発達障害が17.1%です。年齢別にみると、発達障害では18～39歳が顕著に高くなっています。

図表2-13 精神障害の種類（複数回答）

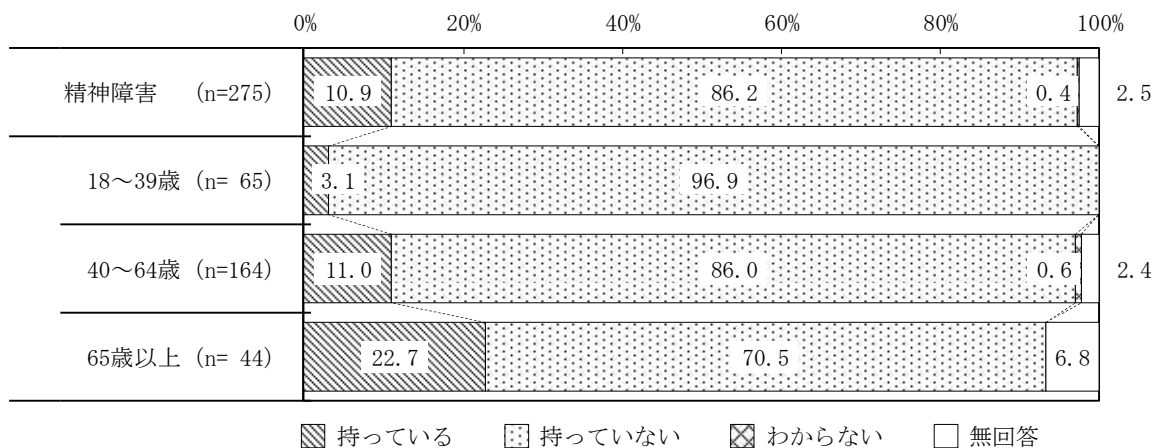


③ 重複障害のある人

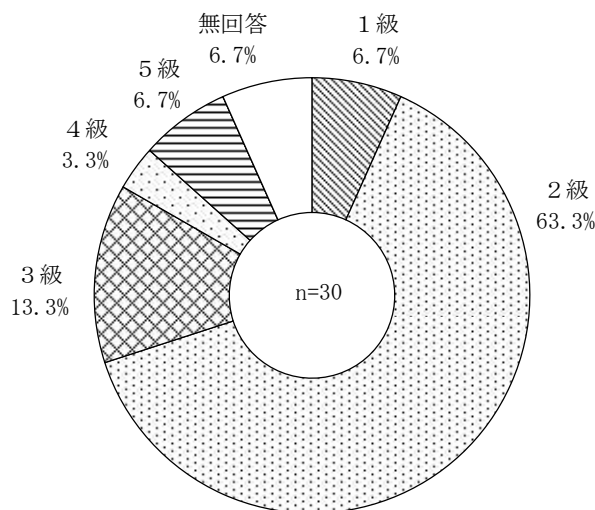
精神障害者保健福祉手帳所持者で身体障害者手帳を持っている人は10.9%で、年齢が高いほど、持っている比率がたかくなっています（図表2-14）。

身体障害者手帳の等級は、2級の63.3%が最も高くなっています（図表2-15）。

図表2-14 精神障害者保健福祉手帳所持者の身体障害者手帳の有無



図表2-15 精神障害者保健福祉手帳所持者の身体障害者手帳の等級

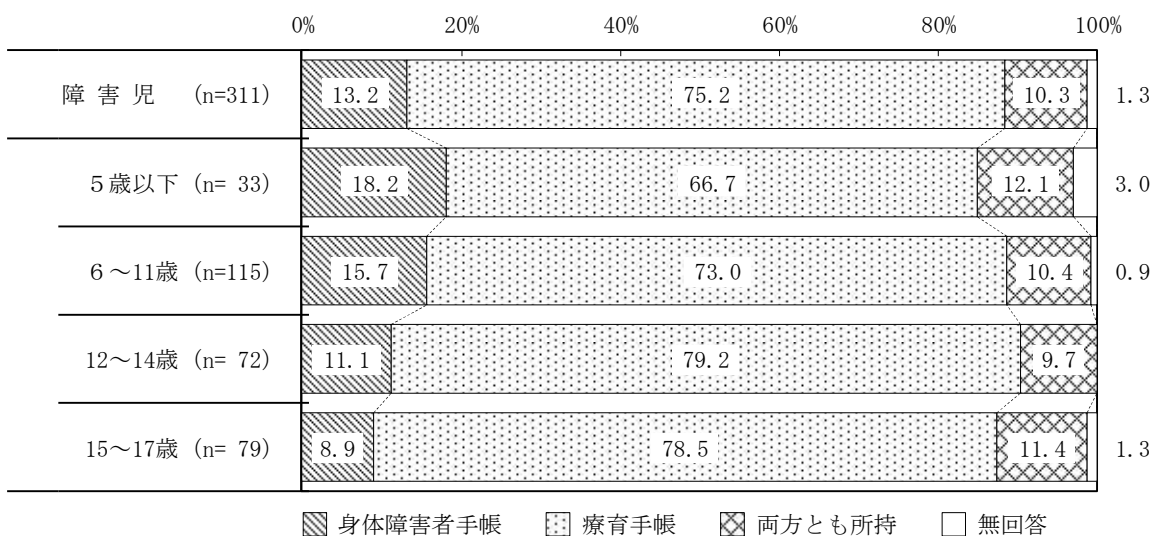


(4) 障害のある児童

① 手帳の種類

回答者311人中、療育手帳のみ所持している児童が75.2%、身体障害者手帳のみ所持している児童が13.2%、両方とも所持している児童が10.3%となっています。

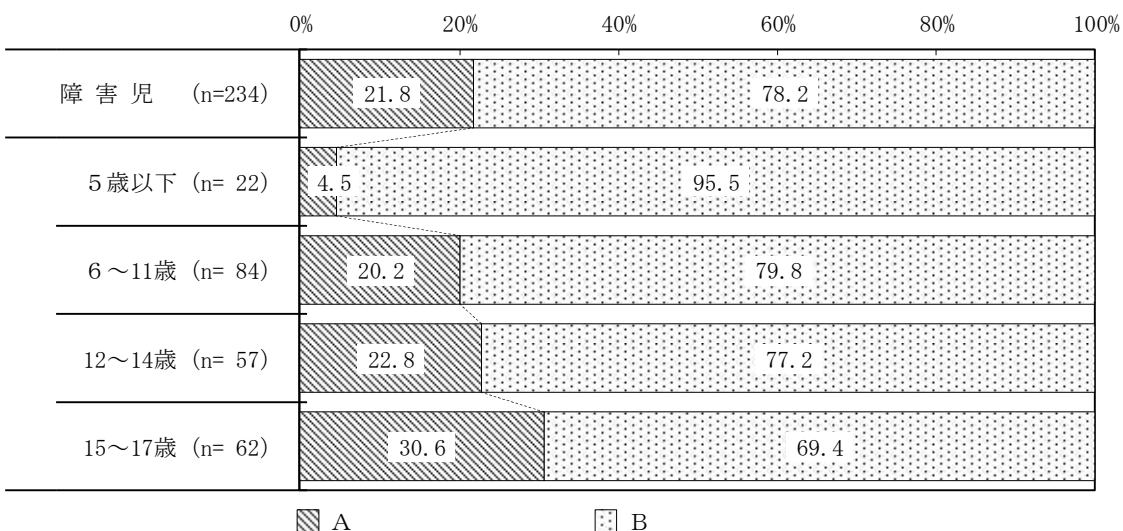
図表2-16 障害のある児童の手帳の種類



② 療育手帳所持児童の障害の程度

療育手帳のみを所持している児童の障害の程度は、Bが78.2%を占めています。

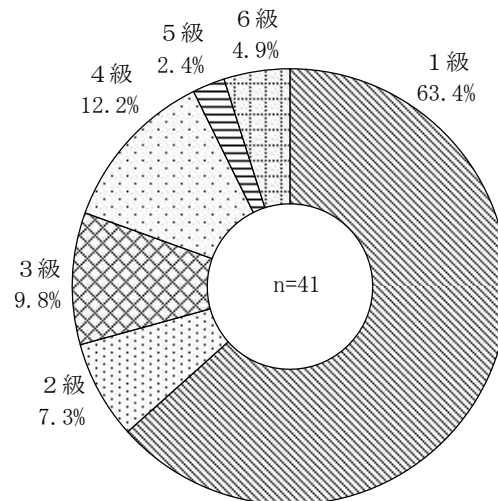
図表2-17 療育手帳のみ所持児童の障害の程度



③ 身体障害者手帳所持児童の障害等級

身体障害者手帳のみを所持している児童の障害等級は、重度である1・2級で70.7%を占めています。

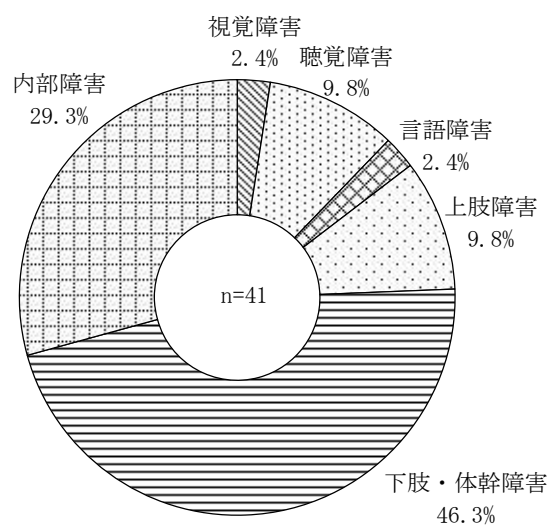
図表2-18 身体障害者手帳のみ所持児童の障害等級



④ 身体障害者手帳所持児童の障害の種類

身体障害者手帳のみを所持している児童の障害の種類は、「下肢・体幹障害」(46.3%)が最も高くなっています。成人の身体障害者手帳所持者と比較して、「下肢・体幹障害」および「内部障害」の比率が高くなっています。

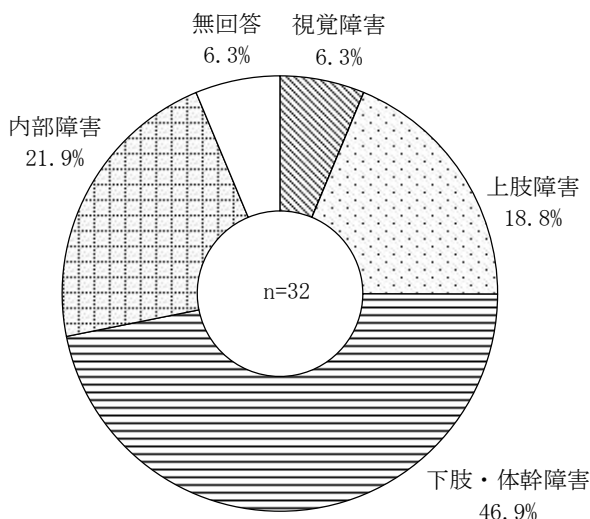
図表2-19 身体障害者手帳のみ所持児童の障害の種類



⑤ 重複障害のある児童

身体障害者手帳と療育手帳の両方を所持している児童は32人でした。身体障害者手帳の種類でみると、「下肢・体幹障害」が46.9%を占めています。

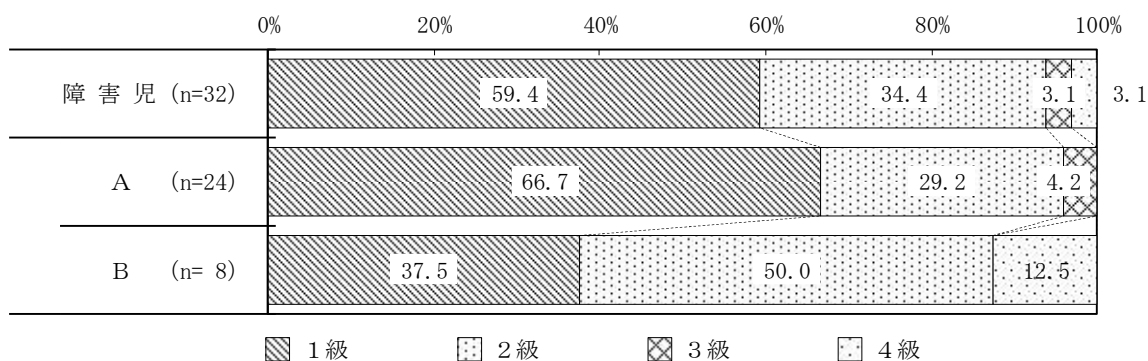
図表2-20 重複障害のある児童の身体障害の種類



⑥ 重複障害のある児童の障害の程度

重複障害のある児童の障害の程度は、重度が多くを占めています。身体障害者手帳1級で療育手帳Aを所持している児童は、重複障害のある児童全体の50.0%を占めています。

図表2-21 重複障害のある児童の障害の程度

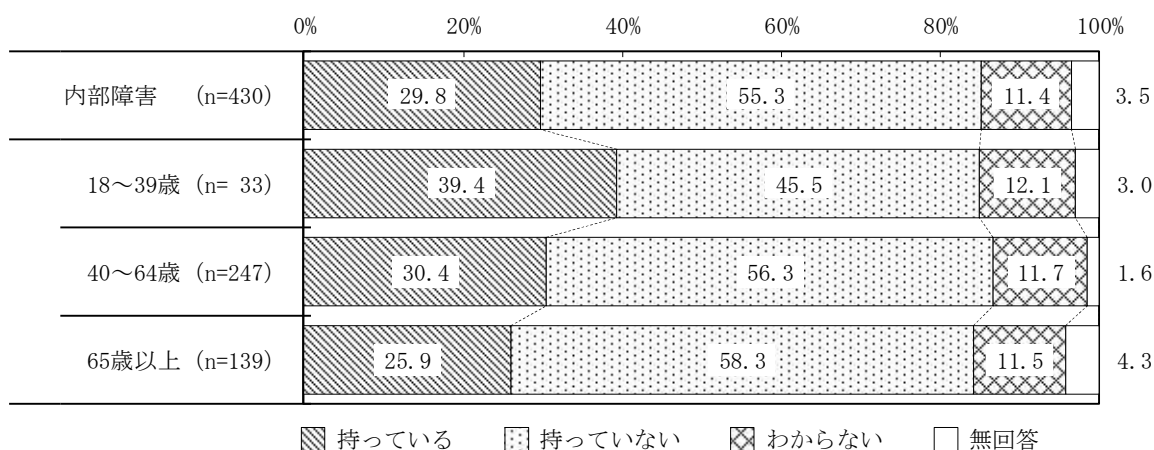


(5) 難病患者等

① 指定難病特定医療費受給者

特定医療費（指定難病）受給者証を「持っている」内部障害のある人は29.8%です。年齢別にみると、若いほど「持っている」比率が高くなっています。

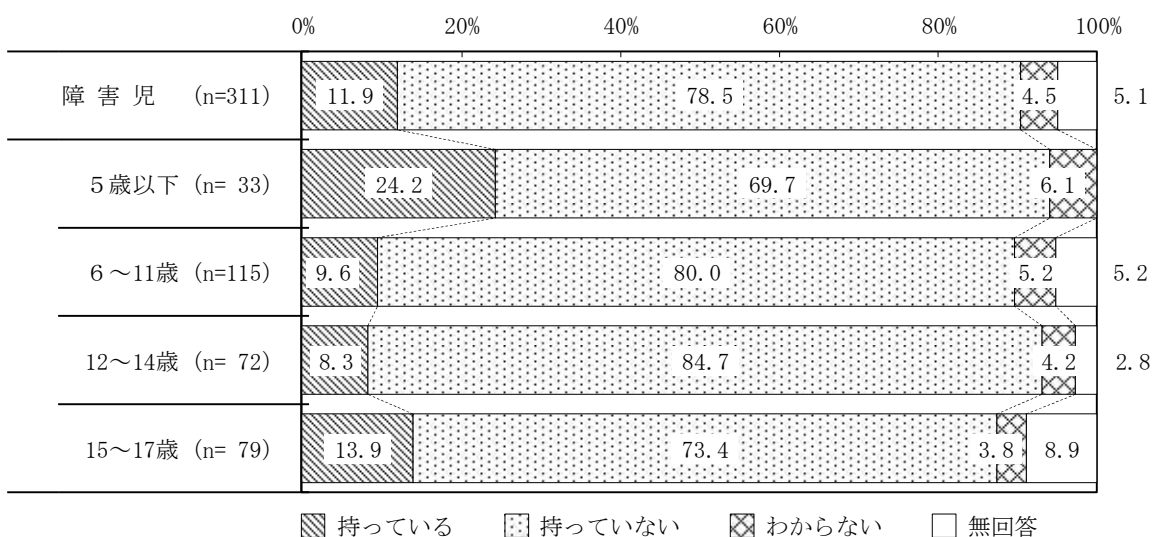
図表2-22 指定難病特定医療費の受給の有無



② 小児慢性特定疾病医療費受給者

小児慢性特定疾病医療費受給者証を「持っている」障害のある児童は11.9%です。年齢別にみると、5歳以下の「持っている」が比較的高くなっています。

図表2-23 小児慢性特定疾病医療費の受給の有無

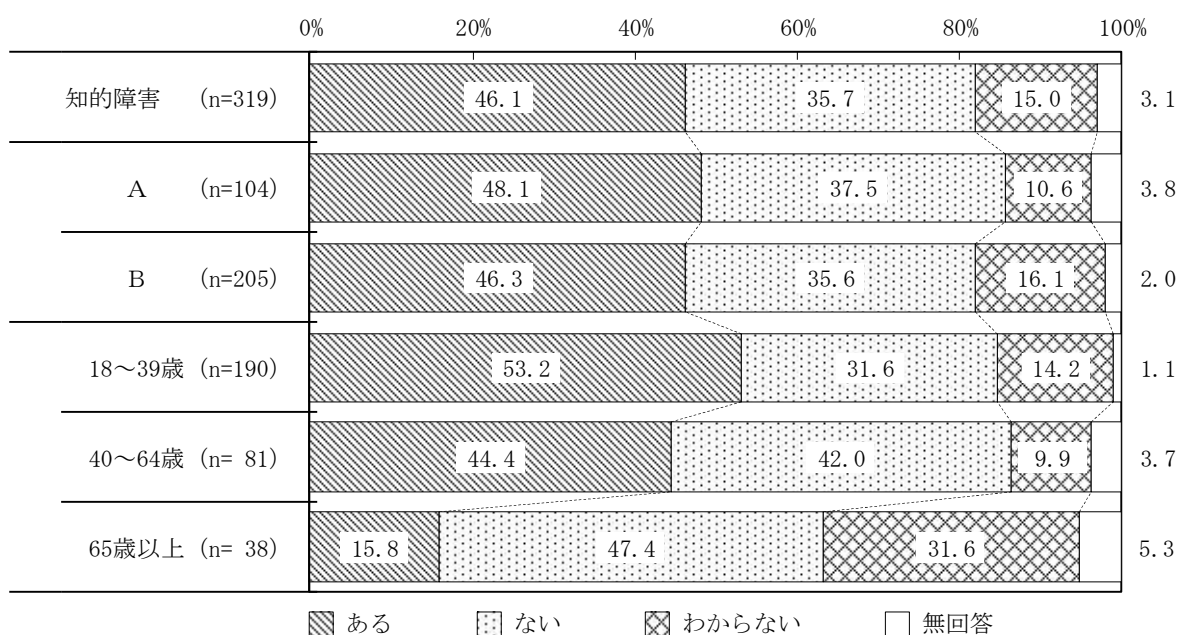


(6) 発達障害のある人

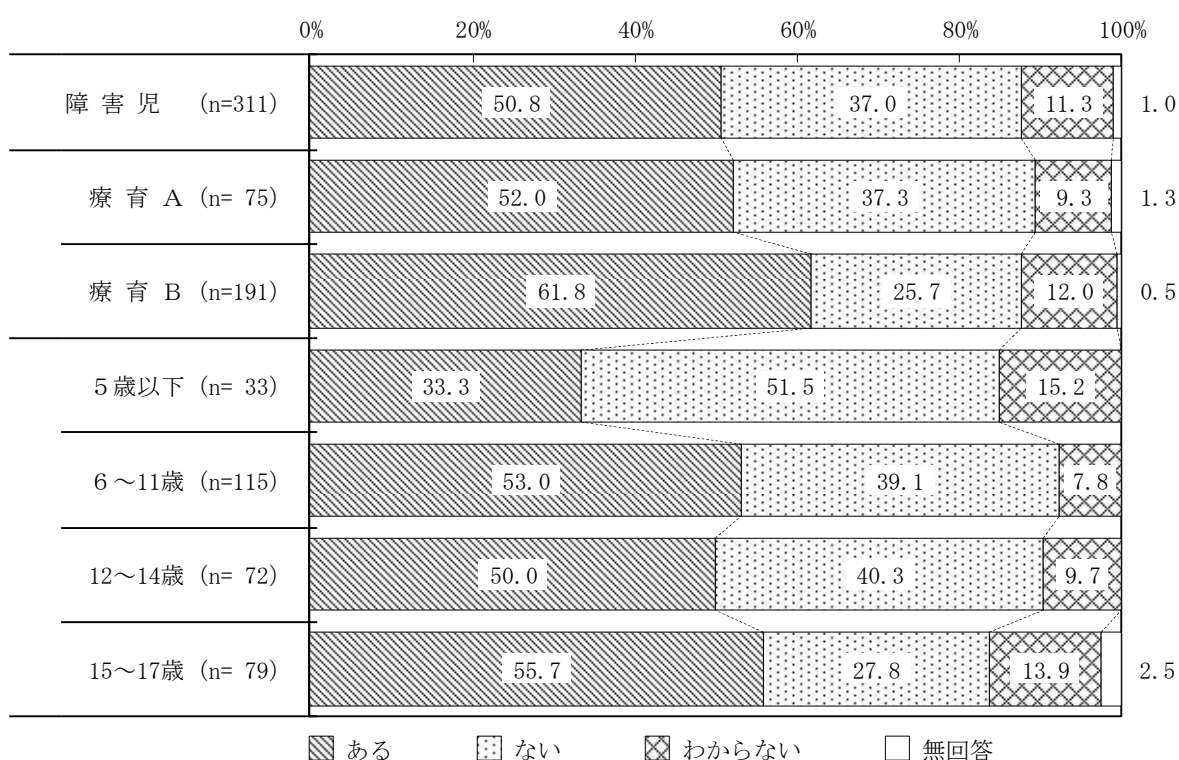
発達障害と診断されたことの「ある」知的障害のある人は46.1%です。精神障害者保健福祉手帳所持者と比較して、比率が高くなっています。年齢別にみると、若いほど発達障害と診断されたことの「ある」比率が高くなっています（図表2-24）。

また、知的障害が4分の3を占める障がいのある児童では、「ある」が50.8%です。知的障害の程度別にみると、Bでは「ある」が61.8%を占めています（図表2-25）。

図表2-24 療育手帳所持者の発達障害の診断の有無



図表2-25 障害のある児童の発達障害の診断の有無

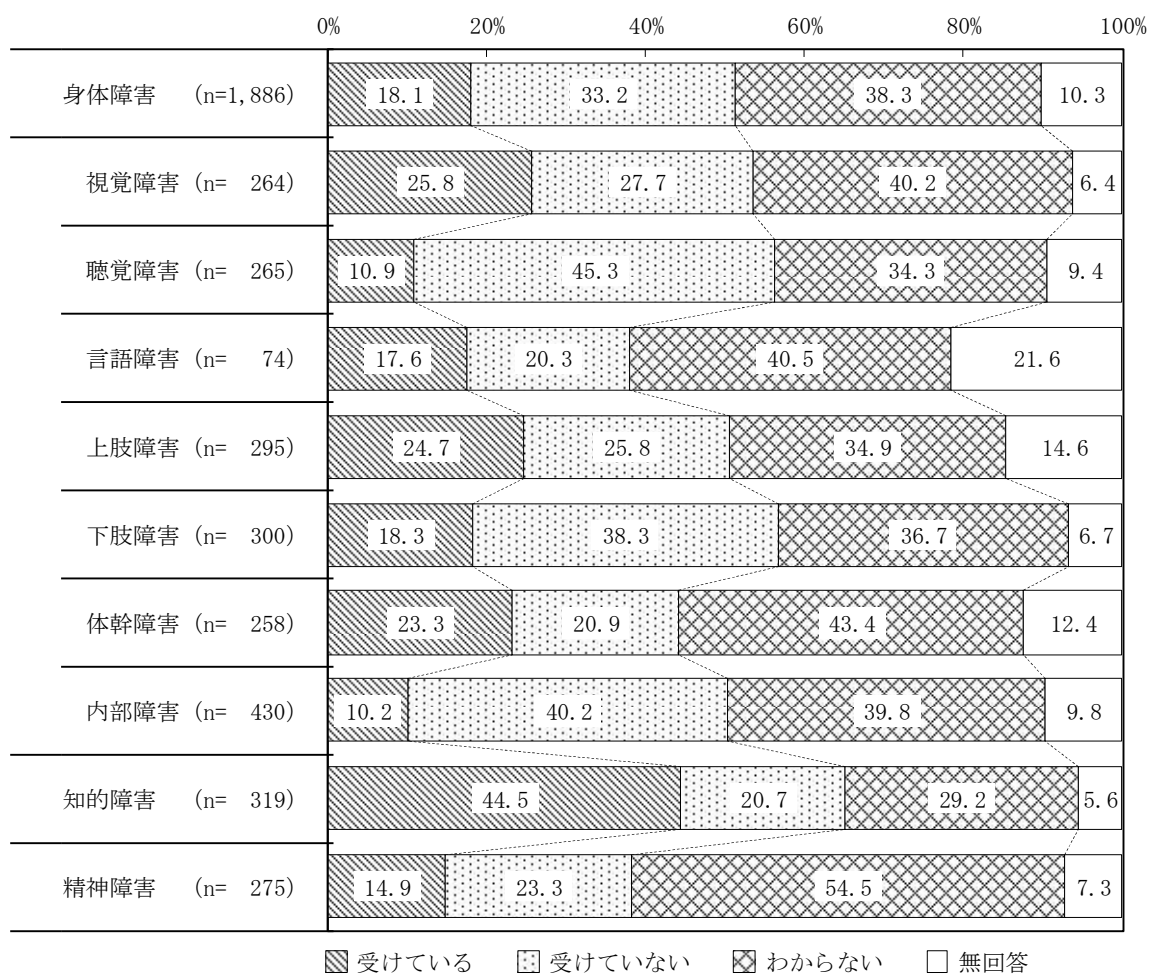


(7) 障害支援区分

① 障害支援区分の認定

障害支援区分の認定を「受けている」のは、身体に障害のある人が18.1%、知的障害のある人が44.5%、精神に障害のある人が14.9%です。いずれも、「わからない」が高い率を占めていますが、「わからない」と答えた人のほとんどが障害支援区分の認定を受けていない人と推定されます。

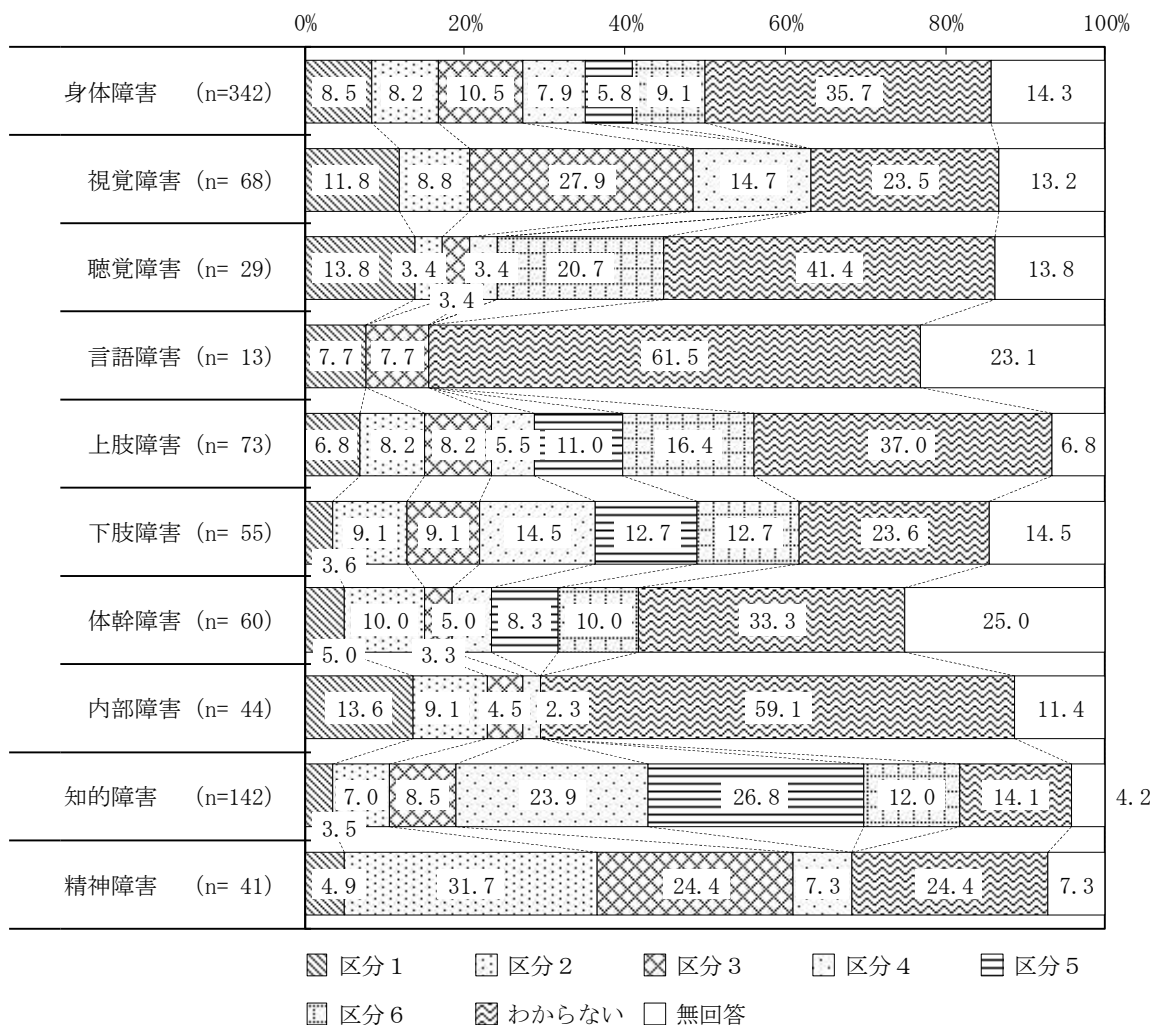
図表2-26 障害支援区分の認定



② 障害支援区分

障害支援区分の認定を「受けている」と答えた人の障害支援区分は、図表2-27のとおりです。身体に障害のある人では「わからない」が3分の1を超えています。

図表2-27 障害支援区分



第2章 ニーズ等

I とともに生きる

1 住居・生活の場所

(1) 現在の住まい

現在の住まいは、「持ち家（分譲マンションを含む）」が高くなっているものの、精神に障害のある人は53.8%にとどまっています。「グループホーム・福祉ホーム」は、知的障害のある人が7.8%、精神に障害のある人が7.6%となっています。

図表2-28 現在の住まい



(注) 障害のある児童には「グループホーム・福祉ホーム」という選択肢はない。

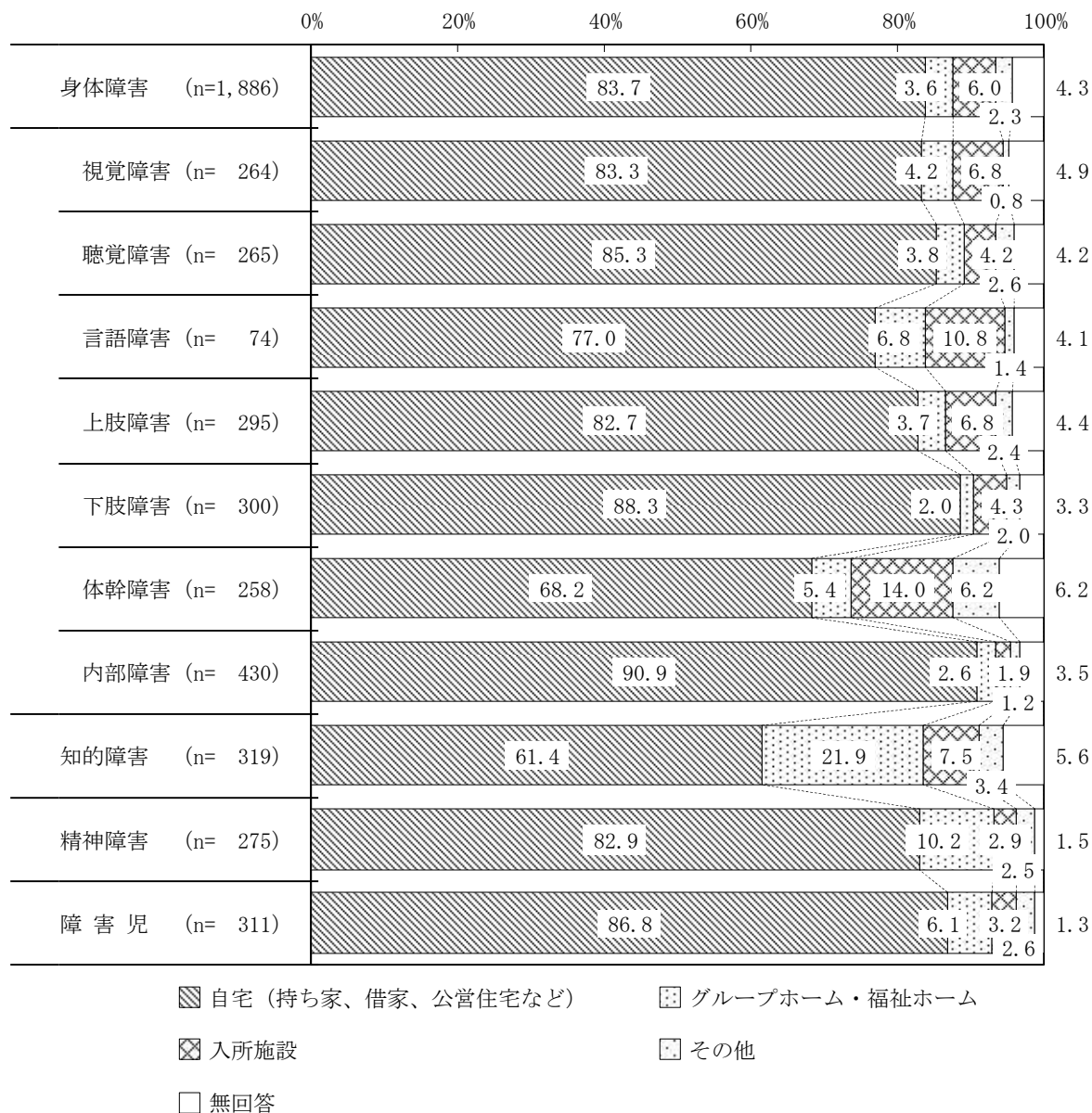
「その他」として、「病院（入院中）」（23件）、「施設（入所中）」（8件）のほか、「家族の持ち家」（4件）、「社宅」（3件）、「学生寮」（2件）、「公務員宿舎」などの記述がありました。

(2) これからの生活

これからの生活をどこで送りたいかたずねたところ、すべて「自宅（持ち家、借家、公営住宅など）」が最も高くなっています。「グループホーム・福祉ホーム」は、知的障害のある人の21.9%が最も高く、精神に障害のある人が10.2%、障害のある児童が6.1%などとなっています。

「その他」として、「病院」（16件）、「シェアハウス」（2件）、「アパート」などのほか、「わからない」（10件）、「本人の気持ちはわかりません」などの記述がありました。

図表2-29 これからの生活場所

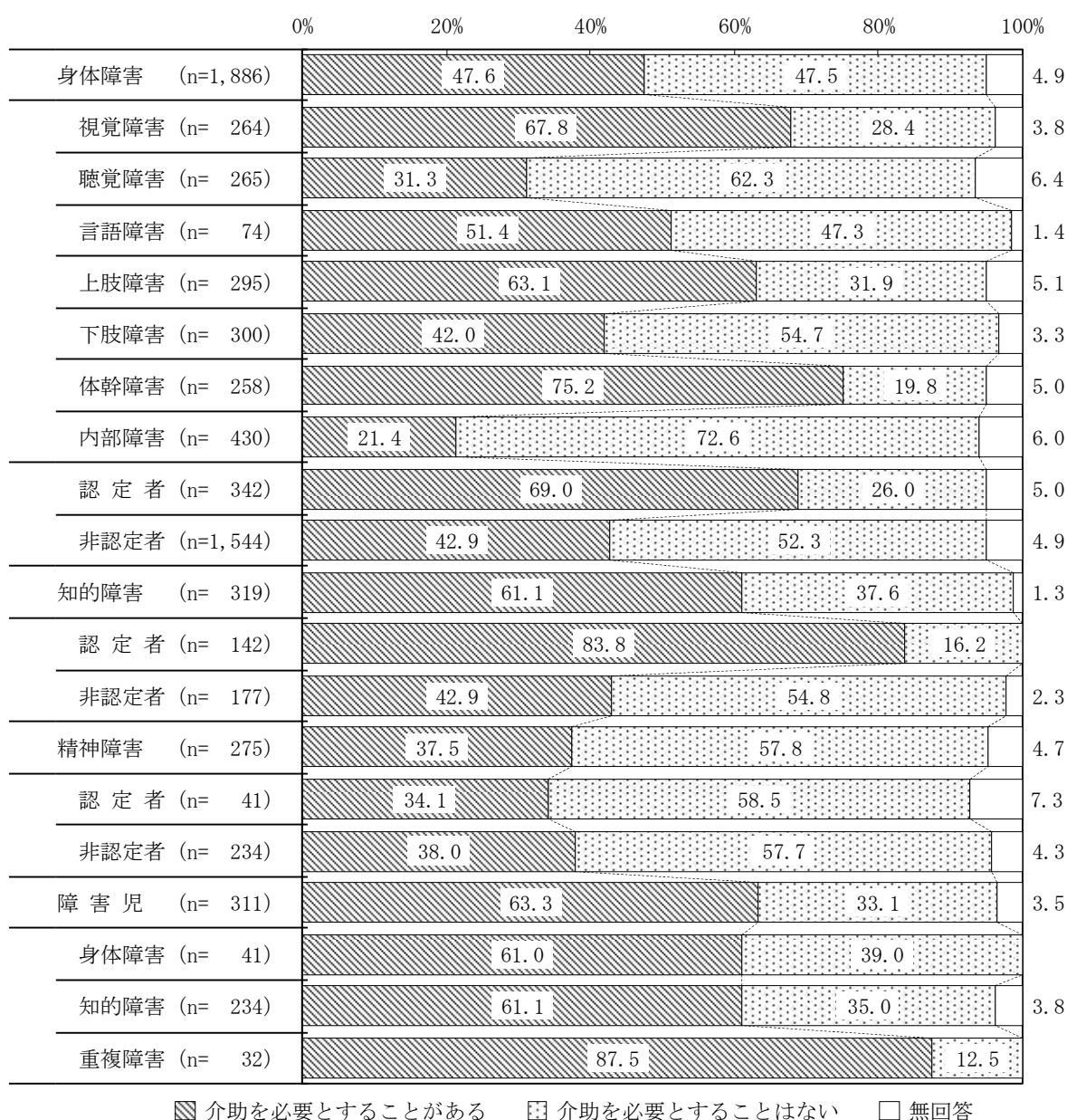


2 日常生活上の介助および介助者

(1) 介助が必要か

「日常生活で介助を必要とすることがありますか」という設問に対して、「介助を必要とすることがある」と答えているのは、身体に障害のある人が47.6%、知的障害のある人が61.1%、精神に障害のある人が37.5%、障害のある児童が63.3%です。18歳以上の障害のある人について、障害支援区分認定者と非認定者を比較すると、身体に障害のある人および知的障害のある人は、認定者のほうが「介助を必要とすることがある」が高くなっています。

図表2-30 介助が必要か

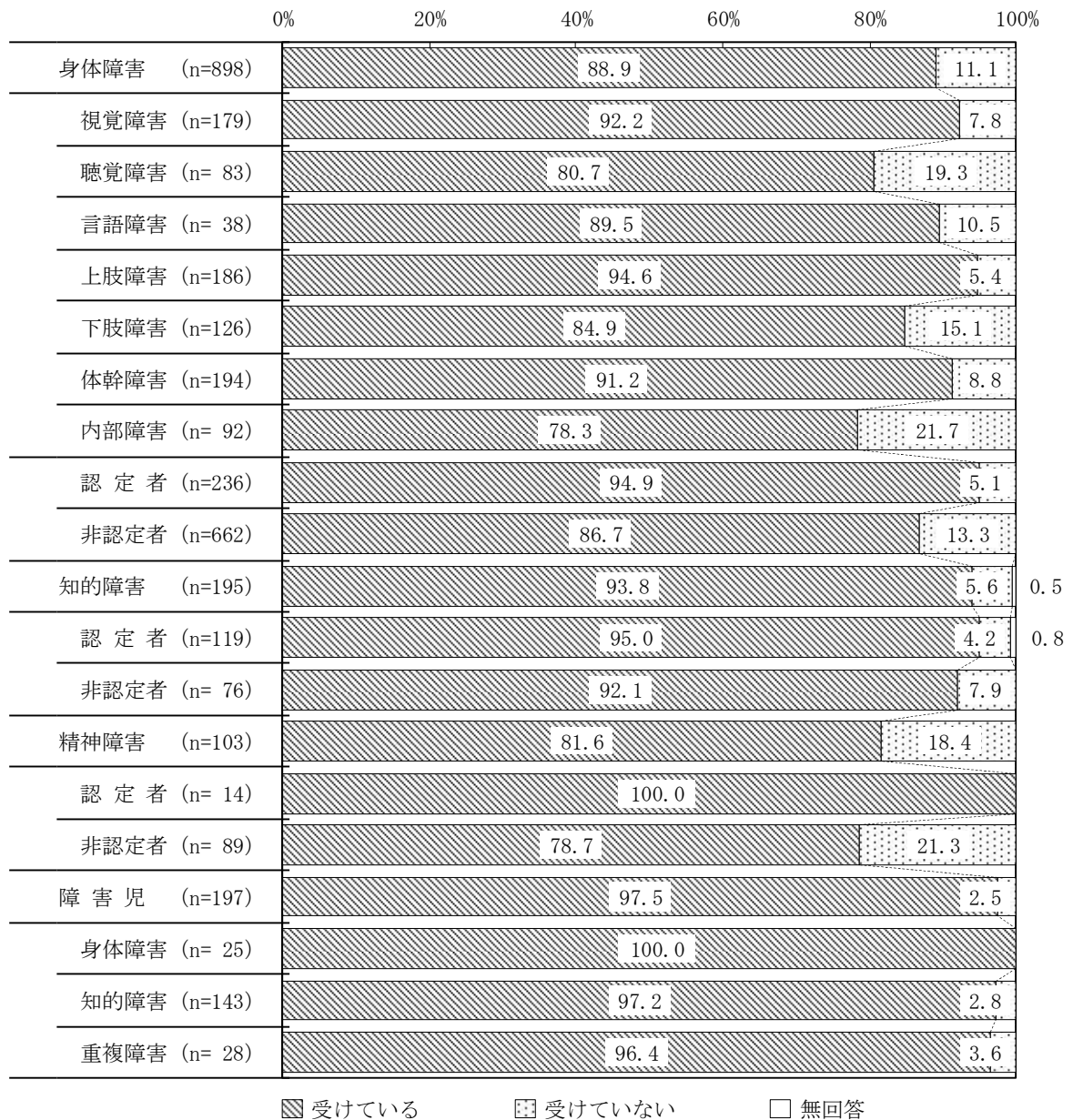


(注) 「非認定者」とは、21頁の図表2-26の「受けていない」「わからない」および無回答の合計である。
(以下同じ)

(2) 介助を受けているか

前問で介助が必要と答えた人に、実際に介助を受けているかを聞いたところ、身体に障害のある人の88.9%、知的障害のある人の93.8%、精神に障害のある人の81.6%、障害のある児童の97.5%が「受けている」と答えています。

図表2-31 介助を受けているか（介助が必要と答えた人）



(3) 主な介助者

(1)で介助が必要と答えた人の主な介助者は、図表2-32のとおりです。身体に障害のある人は「配偶者」(37.3%)、知的障害のある人は「父母・義父母」(80.3%)、精神に障害のある人は「父母・義父母」(32.1%) および「配偶者」(28.6%) が、障害のある児童は「父母」(98.4%) が、それぞれ高くなっています。18歳以上の障害のある人について、障害支援区分認定者と非認定者を比較すると、非認定者は「配偶者」や「父母・義父母」などの家族の比率が高く、認定者は「ヘルパー」の比率が高くなっています。

「その他」の介助者として、図表2-33の記入がありました。

図表2-32 主な介助者（介助が必要と答えた人）

単位：回答数は人、他は%

区 分	回 答 数	配 偶 者	父 母 ・ 義 父 母	祖 父 母	子 ど も ・ 子 ど も の 配 偶 者	兄 弟 姉 妹	知 人 ・ 友 人	ヘ ル パ ー	そ の 他	無 回 答
身 体 障 害	798	37.3	15.2	0.1	11.7	3.5	1.3	17.0	13.4	0.5
視覚障害	165	35.8	7.3	0.0	17.6	3.6	2.4	23.6	9.7	0.0
聴覚障害	67	26.9	11.9	0.0	20.9	0.0	3.0	13.4	23.9	0.0
言語障害	34	50.0	0.0	2.9	20.6	2.9	0.0	11.8	11.8	0.0
上肢障害	176	39.2	21.0	0.0	7.4	5.1	0.0	11.9	14.2	1.1
下肢障害	107	30.8	35.5	0.0	5.6	2.8	0.9	18.7	5.6	0.0
体幹障害	177	36.7	8.5	0.0	10.7	4.5	1.7	19.8	16.9	1.1
内部障害	72	51.4	15.3	0.0	6.9	1.4	0.0	11.1	13.9	0.0
認 定 者	224	25.0	16.1	0.0	8.5	3.1	0.4	36.2	10.7	0.0
非認定者	574	42.2	14.8	0.2	12.9	3.7	1.6	9.6	14.5	0.7
知 的 障 害	183	2.2	80.3	2.2	0.5	0.5	0.0	6.6	6.0	1.6
認 定 者	113	1.8	83.2	1.8	0.0	0.9	0.0	4.4	6.2	1.8
非認定者	70	2.9	75.7	2.9	1.4	0.0	0.0	10.0	5.7	1.4
精 神 障 害	84	28.6	32.1	0.0	4.8	2.4	0.0	17.9	14.3	0.0
認 定 者	14	28.6	14.3	0.0	0.0	7.1	0.0	28.6	21.4	0.0
非認定者	70	28.6	35.7	0.0	5.7	1.4	0.0	15.7	12.9	0.0
障 害 児	192	-	98.4	1.0	-	0.0	-	0.0	0.5	0.0
身体障害	25	-	96.0	0.0	-	0.0	-	0.0	0.4	0.0
知的障害	139	-	98.6	1.4	-	0.0	-	0.0	0.0	0.0
重複障害	27	-	100.0	0.0	-	0.0	-	0.0	0.0	0.0

(注) 障害のある児童の「父母・義父母」は、「父母」に読み替える。

図表2-33 「その他」の介助者

区 分	内 容	
身 体 障 害	視覚障害 <ul style="list-style-type: none"> ・施設職員（5件） ・特別養護老人ホーム（3件） ・ショートステイ利用 ・BeMyEyesなどでネット経由で視覚支援をしてくれる誰か 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師 ・親族 ・母の妹 ・めい
	聴覚障害 <ul style="list-style-type: none"> ・手話通訳者（4件） ・施設職員（4件） ・施設（2件） ・ケアセンター ・看護師 	<ul style="list-style-type: none"> ・寮母 ・姪 ・おい ・同棲中の女性とその子ども
	言語障害 <ul style="list-style-type: none"> ・病院（2件） ・介護施設 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護老人保健施設 ・パートナー
	上肢障害 <ul style="list-style-type: none"> ・入院中（6件） ・施設入所中（3件） ・訪問看護（2件） ・看護師（2件） ・介護職員（2件） ・介護士 ・施設スタッフ 	<ul style="list-style-type: none"> ・療養病院スタッフ ・療養型病院に入院 ・介護医療院 ・特別養護老人ホーム ・ホームの介助員 ・デイケアの介護士 ・内妻
	下肢障害 <ul style="list-style-type: none"> ・病院 ・施設のスタッフ ・デイサービススタッフ 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護士 ・グループホームの世話人さん
	体幹障害 <ul style="list-style-type: none"> ・入院中（12件） ・施設職員（5件） ・施設（5件） ・病院スタッフ ・サ住での介護 ・介護士 ・訪問介護 ・特老職員 	<ul style="list-style-type: none"> ・難病のため特別老人施設に入居、そこでお世話になっています ・病院に入院のときは病院の職員、一時退院しているときは自宅に住んでいる息子 ・PDハウス ・シャンテケア金沢 ・みらいのさと太陽
	内部障害 <ul style="list-style-type: none"> ・施設（2件） ・リハビリ付き施設 ・訪問看護 ・医療者 	<ul style="list-style-type: none"> ・病院スタッフ ・入院先の看護師 ・看護師 ・看護

区 分	内 容
知的障害	<ul style="list-style-type: none">・看護師（2件）・病院スタッフ・グループホーム・GH職員・GH支援員・生活支援員・施設職員・義姉・おば
精神障害	<ul style="list-style-type: none">・訪問看護（4件）・介護士・入院中・医療従事者・病院職員・ケースワーカー・有料老人ホーム職員・職員・元夫
障害児	<ul style="list-style-type: none">・病院の看護師や介護士

(4) 主な介助者に必要な支援

(1)で介助が必要と答えた人の主な介助者に必要だと思われる支援（サポート）をたずねた結果が図表2-34です。全般的に障害のある児童が高い率を示しています。障害のある児童以外で特徴的なことは、「外出できるようなサポート」は視覚に障害のある人、「経済的な援助」および「相談する相手」は精神に障害のある人、「緊急時のサポート」は知的・精神に障害のある人が、それぞれ高くなっています。また、障害支援区分認定者と非認定者を比較すると、多くの項目で認定者のほうが高くなっています。

図表2-34 主な介助者に必要な支援（介助が必要と答えた人、複数回答） 単位：回答数は人、他は%

区 分	回 答 数	仕事ができるようなサポート	外出できるようなサポート	代わりに介助を頼めること	介助者本人が自分の時間を持つようにすること	介助の方法に関するアドバイス	経済的な援助	相談する相手	緊急時のサポート	特にない	その他	無回答
身体障害	798	10.5	32.3	23.2	15.3	11.8	24.9	21.2	37.5	17.2	4.6	7.5
視覚障害	165	7.3	44.8	24.2	10.9	12.7	21.8	20.0	38.2	15.2	3.6	6.1
聴覚障害	67	7.5	23.9	16.4	9.0	13.4	16.4	19.4	38.8	25.4	6.0	9.0
言語障害	34	11.8	20.6	11.8	8.8	8.8	23.5	17.6	32.4	20.6	8.8	5.9
上肢障害	176	13.6	29.5	27.3	21.6	13.1	34.7	22.7	35.8	15.3	5.7	5.7
下肢障害	107	16.8	28.0	30.8	11.2	6.5	25.2	20.6	38.3	22.4	3.7	4.7
体幹障害	177	8.5	32.8	18.1	20.3	10.7	19.8	19.8	40.1	15.3	5.6	10.7
内部障害	72	8.3	29.2	23.6	12.5	16.7	29.2	27.8	33.3	13.9	0.0	11.1
認定者	224	12.1	42.4	26.8	17.4	14.3	22.3	27.2	39.7	11.6	5.8	5.4
非認定者	574	9.9	28.4	21.8	14.5	10.8	26.0	18.8	36.6	19.3	4.2	8.4
知的障害	183	23.0	39.9	38.3	26.2	10.9	32.2	28.4	51.4	8.2	3.8	6.6
認定者	113	24.8	45.1	52.2	34.5	14.2	34.5	28.3	58.4	4.4	0.9	5.3
非認定者	70	20.0	31.4	15.7	12.9	5.7	28.6	28.6	40.0	14.3	8.6	8.6
精神障害	84	21.4	31.0	23.8	11.9	13.1	44.0	48.8	53.6	3.6	2.4	4.8
認定者	14	28.6	57.1	28.6	28.6	14.3	50.0	35.7	71.4	0.0	7.1	0.0
非認定者	70	20.0	25.7	22.9	8.6	12.9	42.9	51.4	50.0	4.3	1.4	5.7
障害児	192	54.7	33.3	45.3	42.7	25.5	55.2	32.3	58.9	3.1	0.0	2.1
身体障害	25	68.0	28.0	44.0	28.0	24.0	56.0	8.0	48.0	4.0	0.0	0.0
知的障害	139	53.2	34.5	43.9	41.7	23.7	51.8	33.1	60.4	3.6	0.0	2.2
重複障害	27	51.9	33.3	55.6	63.0	37.0	70.4	48.1	63.0	0.0	0.0	3.7

「その他」の必要な支援として、次の記述がありました。

図表2-35 主な介助者に必要な「その他」の支援

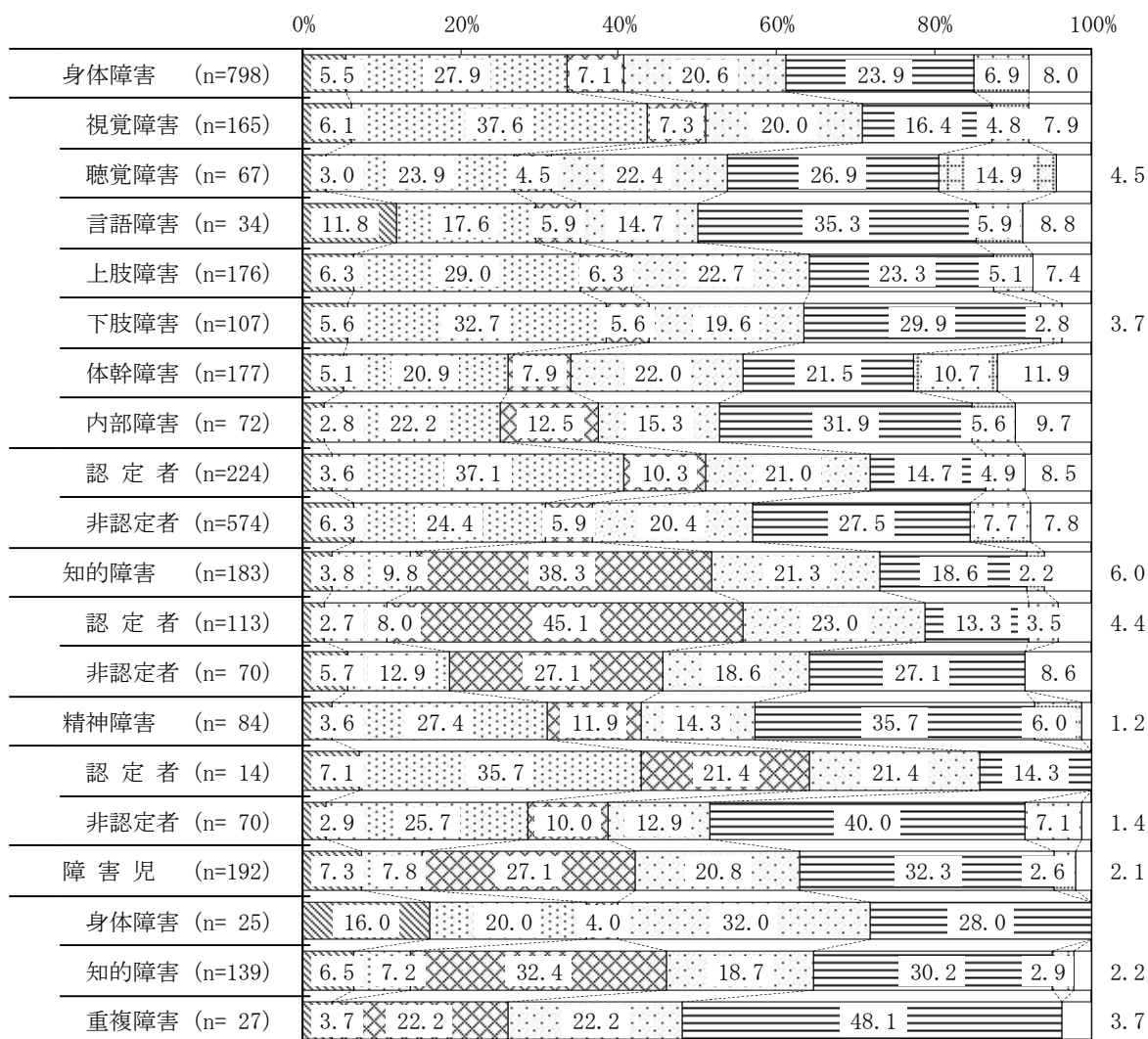
区 分	内 容		
身 体 障 害	視覚障害	<ul style="list-style-type: none"> ・各種類の手続き、代筆（3件） ・ヘルプ時間を増やしてほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・デイサービスに通っている
	聴覚障害	<ul style="list-style-type: none"> ・電話の対応 ・たまに手話が必要です ・将来家族が介助できなくなったとき、代わりの人に頼めると助かる。特に病気になるたときの通訳など。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活全般においてすべてのこと ・食事支度、会話 ・リハビリ、看護 ・わからない
	言語障害	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉を理解する ・家事等 	<ul style="list-style-type: none"> ・わからない
	上肢障害	<ul style="list-style-type: none"> ・わからない（2件） ・プロにお任せしているのでわかりません ・買い物、洗濯 ・重い物を持つとき、手伝ってもらう ・爪切り ・介助の器具の改良 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護士 ・賃金の上昇 ・病院 ・入院中 ・なし
	下肢障害	<ul style="list-style-type: none"> ・洗濯、掃除、買い物を持ってくる ・入浴時 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルパー不足に対する行政の取り組み ・主人も障害者
	体幹障害	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての支援がないと生活できない ・入浴、ほかすべて ・生活 ・主な介護者もヘルパーが必要 ・施設の方 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設内サポート ・介護医療院（千義病院） ・ホームに入っている ・わからない
知的障害	<ul style="list-style-type: none"> ・わからない（2件） ・あまり覚えていません ・高齢なので、病気になった時、介助を頼みたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業所に通所しているので、その間に自由な時間（送迎している） ・洗濯、食事の用意 ・入浴のサポート受けています 	
精神障害	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物、病院の送迎介助 	<ul style="list-style-type: none"> ・わからない 	
障害児	<ul style="list-style-type: none"> ・3（代わりに介助を頼めること）：一緒に協力 		

(5) 主な介助者が介助できなくなった場合

(1)で介助が必要と答えた人への「主な介助者が高齢、病気などで将来介助ができなくなった場合は、どうしますか」という設問に対しては、身体に障害のある人は「ヘルパーなどを利用し、自宅で暮らしたい」、知的障害のある人は「グループホーム・福祉ホームで暮らしたい」、精神に障害のある人および障害のある児童は「わからない」が最も高くなっています。18歳以上の障害のある人について、障害支援区分認定者と非認定者を比較すると、非認定者は「わからない」が高くなっています。

「その他」として、図表2-37の記述がありました。

図表2-36 主な介助者が介助できなくなった場合の手段（介助が必要と答えた人）



- 親族の介助を受けたい
- ヘルパーなどを利用し、自宅で暮らしたい
- グループホーム・福祉ホームで暮らしたい
- 施設に入所したい
- わからない
- その他
- 無回答

図表2-37 主な介助者が介助できなくなった場合の「その他」の手段

区 分	内 容	
身 体 障 害	視覚障害	<ul style="list-style-type: none"> ・施設入所中（5件） ・施設の職員なので問題ないです ・誰も頼れない場合は死を選ぶこともある ・妻が亡くなったら仲間同士で施設を考えています
	聴覚障害	<ul style="list-style-type: none"> ・一人で暮らす（2件） ・すでに施設を利用している（2件） ・病院に入院している ・老人ホームに入所したい ・近親者もおらず、子ども知的障害にて、遠い親戚の方と施設職員が対応している ・子どもに助けてもらう、電話してもらう ・介助内容が手話通訳や電話通訳であるので、手話通訳派遣制度を利用することになると思います ・通訳、介助員は年々養成されているので心配ない ・一通りの生活は一人でもできているため、タクシーやバスなどの移動手段の経済的な援助がほしい
	言語障害	<ul style="list-style-type: none"> ・施設に入所中 ・今の施設のままでよい
	上肢障害	<ul style="list-style-type: none"> ・施設入所中（5件） ・入院中 ・市営住宅に入りたい ・自宅でできることだけで生活する
	下肢障害	<ul style="list-style-type: none"> ・病院
	体幹障害	<ul style="list-style-type: none"> ・現在施設入所（4件） ・入院（3件） ・現在シェアハウスで生活をしている（2件） ・現在老人ホームに入所している ・すでに病院でケアを受けている ・ずっと施設か病院 ・死にたい（2件） ・入所施設予約中 ・難病の治療法の開発に貢献したいので、療養病床のある病院に入院する ・自力 ・自分はそういうことにならない
	内部障害	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の入所中なので、問題なし ・施設に入っています ・病院に入院したい ・どれも選択不可
知 的 障 害	<ul style="list-style-type: none"> ・既にグループホームへ入居しているので、生活支援員が対応している ・医王病院の医療型施設へ入るしかない ・親としては夜間の見守りがある入所を希望しますが、受入れ先があるか不安です 	
精 神 障 害	<ul style="list-style-type: none"> ・入院中→そのまま入院か、胃ろうを受け入れてくれる施設があれば、そこへ入居 ・訪問看護の方とか来ていただき、自宅で暮らしたい。自分でどうしようもできなくなった時は病院。 ・訪問看護 ・看取りができる病院 ・夫婦でサ高住に転居しておくことで、サ高住でサポートを受けることが想定される ・通院手段がなくなる。通院のための交通の提供。 ・それを相談できる人、知る機会 	
障 害 児	<ul style="list-style-type: none"> ・入所するしか方法がない ・いろんな選択肢がほしい ・それが今後の不安材料の一つである。困っている。 ・本人が申込みできる支援制度の利用 ・死にたい ・まだまだ幼い4歳のため、まだそこまで考えていません… 	

3 地域生活支援拠点等の整備

(1)で介助が必要と答えた人に対して、何らかの急な理由によって家族と一緒に過ごすことができなくなったときなどに備えて、とくに必要だと思う取り組みについて聞いたところ、身体に障害のある人は「緊急時に対応可能な居宅介護など自宅での生活を支援するサービス」、知的障害のある人は「緊急時に対応・受入可能な短期入所やグループホームなどのサービス」、精神に障害のある人は「24時間365日対応可能な緊急相談」が最も高くなっています。障害支援区分認定者と非認定者を比較すると、精神に障害のある人の認定者は「緊急時に対応・受入可能な短期入所やグループホームなどのサービス」が高くなっています。

「その他」として、図表2-39の記述がありました。

図表2-38 家族と過ごせなくなったときに備えた必要な取り組み（複数回答）単位：回答数は人、他は%

区 分	回 答 数	24時間365日対応可能な緊急相談	「親なき後」や緊急時などに備えた計画相談	緊急時に対応・受入可能な短期入所やグループホームなどのサービス	緊急時に対応可能な居宅介護など自宅での生活を支援するサービス	緊急時に対応可能な短期入所やグループホームなどのサービス	生活介護やグループホームなどのサービスを事前に体験する機会	緊急時に円滑にサービスを提供するための人材の確保・養成	緊急時に円滑にサービスを提供するための集約・提供	緊急時に対応・受入可能な事業所の情報集約・提供	事業所間の連携	その他	とくに必要ない	無回答
身体障害	798	40.0	17.7	38.6	41.9	16.4	31.0	33.6	15.3	4.8	6.3	8.9		
視覚障害	165	43.0	16.4	41.2	51.5	18.2	33.9	37.0	13.9	3.6	7.9	6.7		
聴覚障害	67	34.3	13.4	35.8	37.3	11.9	41.8	26.9	20.9	1.5	1.5	7.5		
言語障害	34	38.2	2.9	38.2	38.2	11.8	26.5	35.3	2.9	5.9	8.8	8.8		
上肢障害	176	43.8	22.2	38.1	40.3	13.6	30.7	35.2	17.0	6.8	5.7	8.5		
下肢障害	107	46.7	28.0	35.5	45.8	17.8	32.7	40.2	20.6	6.5	2.8	6.5		
体幹障害	177	34.5	12.4	36.2	32.2	18.1	22.6	28.8	13.6	2.8	9.6	13.6		
内部障害	72	33.3	18.1	47.2	47.2	19.4	34.7	29.2	11.1	6.9	4.2	8.3		
認定者	224	43.3	19.2	40.6	44.6	20.5	35.7	32.6	20.1	4.5	5.8	8.0		
非認定者	574	38.7	17.1	37.8	40.8	14.8	29.1	34.0	13.4	4.9	6.4	9.2		
知的障害	183	44.3	50.8	66.1	35.0	39.3	42.6	47.0	33.9	1.6	1.6	5.5		
認定者	113	51.3	56.6	75.2	32.7	43.4	50.4	51.3	39.8	1.8	0.9	2.7		
非認定者	70	32.9	41.4	51.4	38.6	32.9	30.0	40.0	24.3	1.4	2.9	10.0		
精神障害	84	52.4	35.7	42.9	48.8	26.2	32.1	39.3	19.0	4.8	4.8	2.4		
認定者	14	42.9	14.3	57.1	50.0	35.7	28.6	14.3	14.3	0.0	7.1	7.1		
非認定者	70	54.3	40.0	40.0	48.6	24.3	32.9	44.3	20.0	5.7	4.3	1.4		

図表2-39 家族と過ごせなくなったときに備えた必要な「その他」の取り組み

区 分	内 容	
身 体 障 害	視覚障害 <ul style="list-style-type: none"> ・施設入居中（2件） ・一人暮らし ・災害時に対応した訓練や勉強 	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時になる前からの障害者や家族への情報共有や福祉へつながる施策と、行政がしっかりと障害者に情報を発信できるシステムづくり ・わからない
	聴覚障害 <ul style="list-style-type: none"> ・金沢市聴力障害者福祉協会 	
	言語障害 <ul style="list-style-type: none"> ・咽頭がんで声帯がなく、喉に穴が開いているため、喉の穴をテープで止めているが、テープがずれると、水分を飲んでも食事をしても食べ物が漏れるため、自分がボケたり、手足が動かな 	<ul style="list-style-type: none"> ・なくなったら、その症状に対応できるところをお願いするしかないと思う。 ・そもそも電話ができない。会話がむずかしい。
	上肢障害 <ul style="list-style-type: none"> ・施設入所中（2件） ・病院入院中 ・家族と暮らせなくなったなら、どこかに入所する以外考えられないので、すみやかにどこかに収容してもらうこと ・お金がないから無料で入れるところ ・金銭補助 	<ul style="list-style-type: none"> ・デイサービスに2回行っていて、高齢の義母をみているが、息子夫婦が忙しいとき、母のホーム入所がない時があるので、サービスができるような支援をふやしてほしい。 ・今一人なので ・わからない（2件）
	下肢障害 <ul style="list-style-type: none"> ・県営等、家賃の安い所に住めるようなサポートがほしい。自分でも必要と思うところが分かっていないかもしれません、そのためアドバイスしてくれる人が必要。 ・ケアマネの専門性向上にかかる研修システム 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域生活支援拠点推進事業というものを今知りました。知識のない人たちに金沢市が何をされていて、何がその人に対してできるのかということを知らせてほしいし、届けてほしい。 ・今は考えつかない ・わからない
	体幹障害 <ul style="list-style-type: none"> ・入院中で当面退院できる見込みがない ・訪問介護や診察できる人材を増やす。泉野の地域包括センターは場所も悪く、福祉センターの中に設置できないか。あるいは市立病院内等、兼務。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヴィストなどの障害者の職業訓練所での職業訓練が終わって、就職先が決まるまでの生活費の全面的な支給 ・わからない（2件）
	内部障害 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者でない場合や、就労が比較的安定している場合でも、日常的な介助や相談できる場所がほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・（緊急時に対応・受入可能な）病院に入院するサービス ・今はわからない（2件）
知的障害	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急相談ができる電話番号を公開してほしいです 	<ul style="list-style-type: none"> ・わからない
精神障害	<ul style="list-style-type: none"> ・通院中の病院の24時間受け入れ ・家族（母親）としては3（緊急時に対応・受入可能な短期入所やグループホームなどのサービス）を希望している 	<ul style="list-style-type: none"> ・知的が重くても入れるグループホームの増加 ・災害時、町会などで、障害のある方の所在を把握するシステム

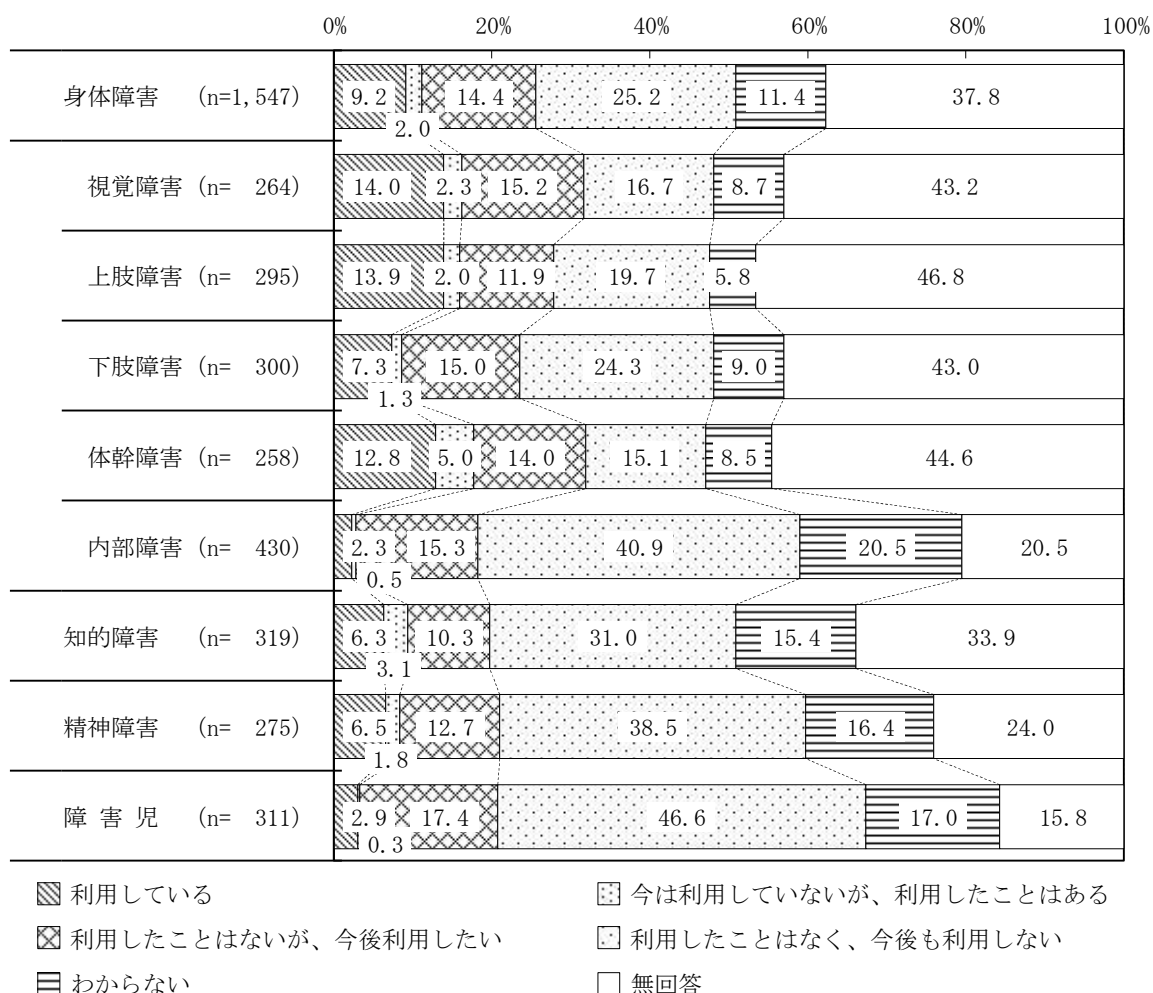
4 障害福祉サービスの利用

障害福祉サービスや地域生活支援事業の中には、障害の種類を限定していないサービスが数多くありますが、明らかに当該サービスを利用しないであろうと推定される障害の種類については、調査対象としませんでした。

(1) 居宅介護

居宅介護（利用対象は障害支援区分1以上（ほかにも該当要件あり））を「利用している」比率が10%以上あるのは、視覚に障がいのある人（14.0%）、上肢に障害のある人（13.9%）および体幹に障害のある人（12.8%）です。「利用したことはないが、今後利用したい」は、障害の種類にかかわらず10%以上あります。

図表2-40 居宅介護の利用状況と利用意向

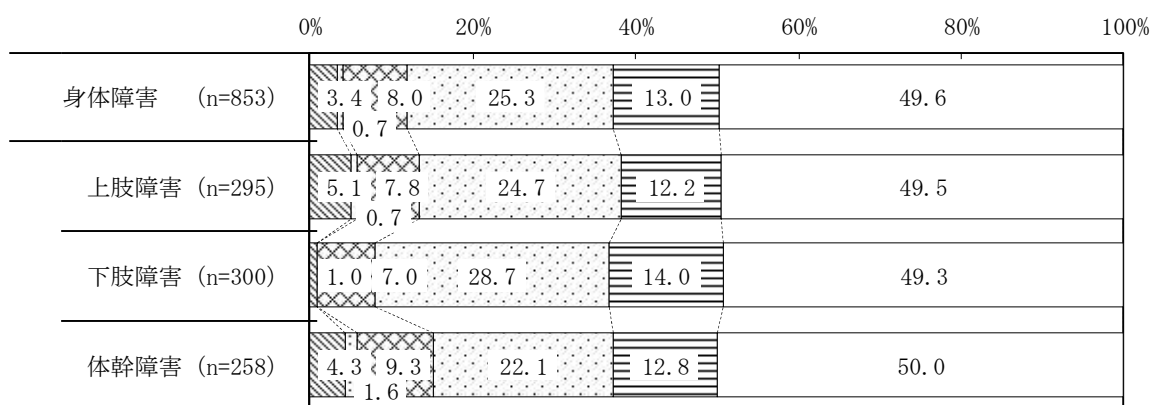


(2) 重度訪問介護

重度の肢体不自由のため常に介護を必要とする人が、自宅で入浴、排せつ、食事の介護、外出の際の移動支援などを総合的に受ける重度訪問介護（利用対象は障害支援区分4以上（ほかにも該当要件あり））については、調査対象を肢体不自由に限定しました。

全体で、「利用している」は3.4%ですが、「利用したことはないが、今後利用したい」が8.0%あります。

図表2-41 重度訪問介護の利用状況と利用意向

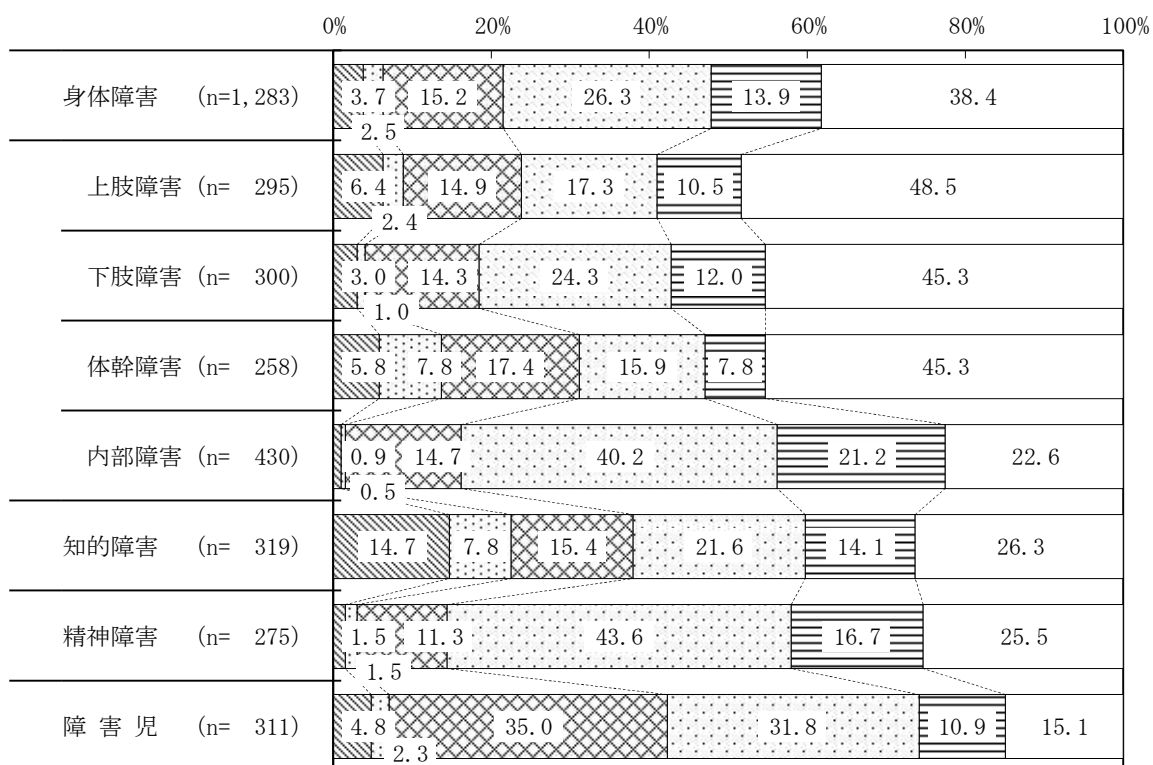


- 利用している
- ▨ 利用したことはないが、今後利用したい
- ▩ 利用したことはないが、今後も利用しない
- ▤ わからない
- 無回答

(3) 短期入所

短期入所（利用対象は障害支援区分1以上）を「利用している」比率が10%以上あるのは、知的障害のある人（14.7%）です。「利用したことはないが、今後利用したい」は、障害の種類にかかわらず10%以上ありますが、障害のある児童は35.0%と特に高くなっています。

図表2-42 短期入所の利用状況と利用意向

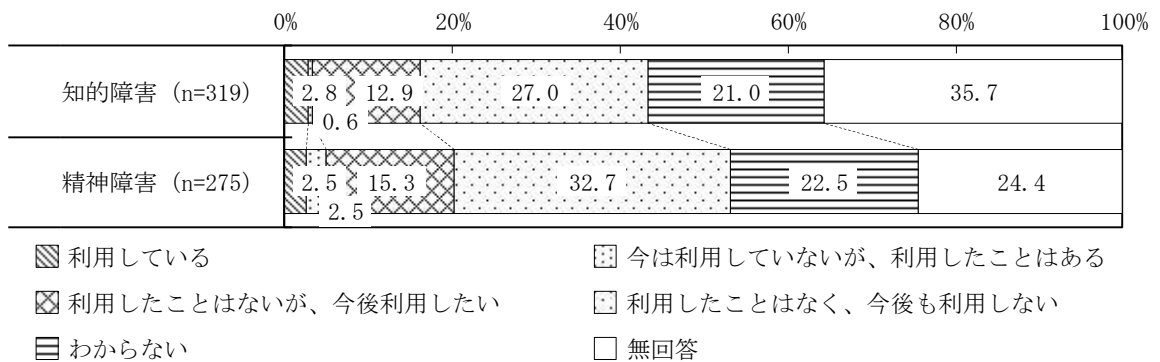


- ▨ 利用している
- ▩ 今は利用していないが、利用したことはある
- ▧ 利用したことはないが、今後利用したい
- ▦ 利用したことはなく、今後も利用しない
- ▤ わからない
- 無回答

(4) 自立生活援助

障害者支援施設やグループホーム等からひとり暮らしへの移行を希望する知的障害のある人や精神に障害のある人の地域での生活を支援する自立生活援助（障害支援区分の認定は不要）の「利用している」は、知的障害のある人が2.8%、精神に障害のある人が2.5%と低くなっています。「利用したことはないが、今後利用したい」は、知的障害のある人、精神に障害のある人とも、10%以上あります。

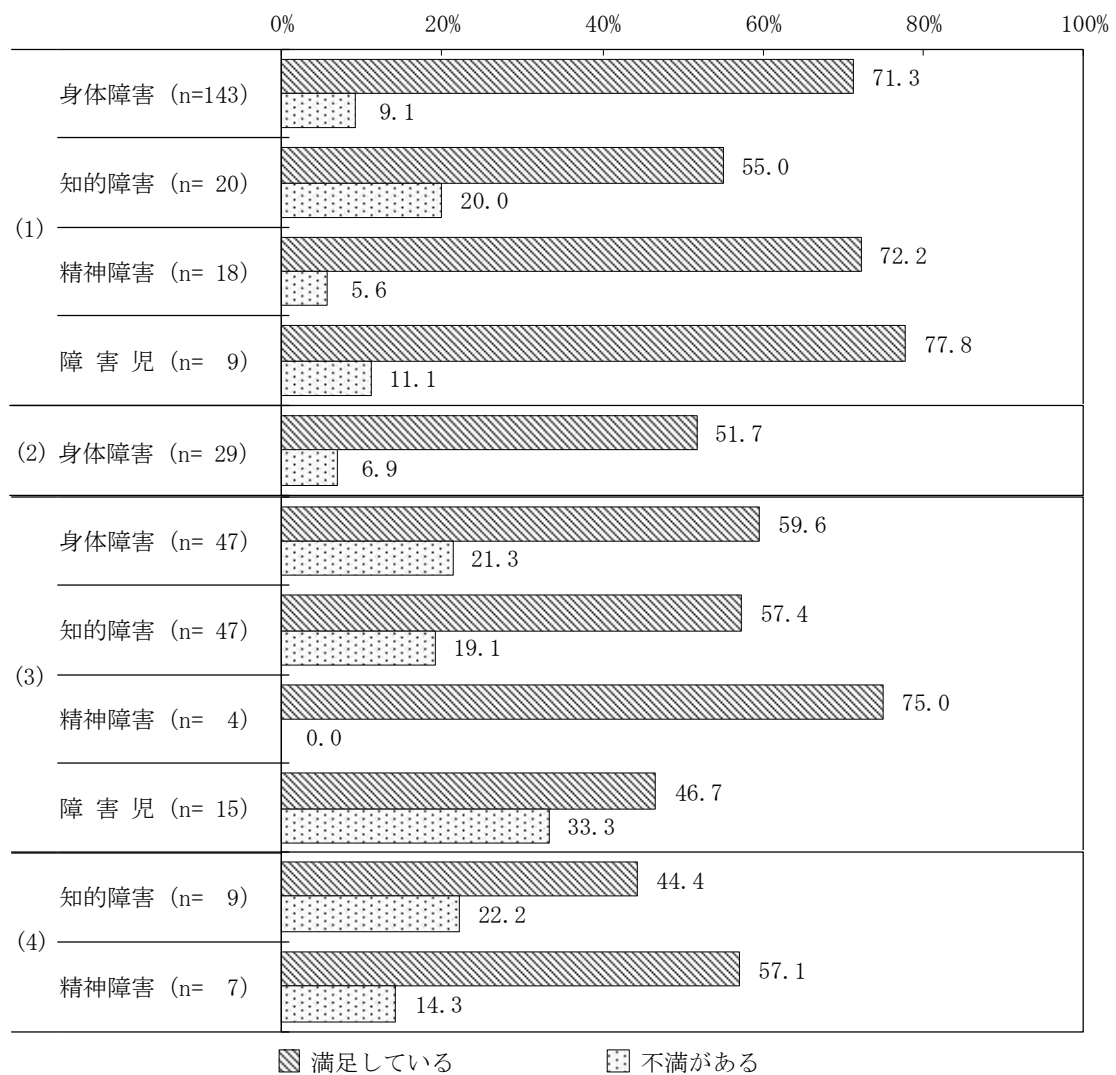
図表2-43 自立生活援助の利用状況と利用意向



(5) 障害福祉サービスの利用満足度

(1)～(4)のサービスを利用していると答えた人の利用満足度（「満足している」）は、(1)居宅介護および(2)重度訪問介護はいずれも50%以上と高くなっていますが、(3)短期入所の障がいのある児童、(4)自立生活援助の知的障害のある人は、50%を下回っています。(3)短期入所の障がいのある児童では、「不満がある」が30%を超えています。

図表2-44 障害福祉サービスの利用満足度

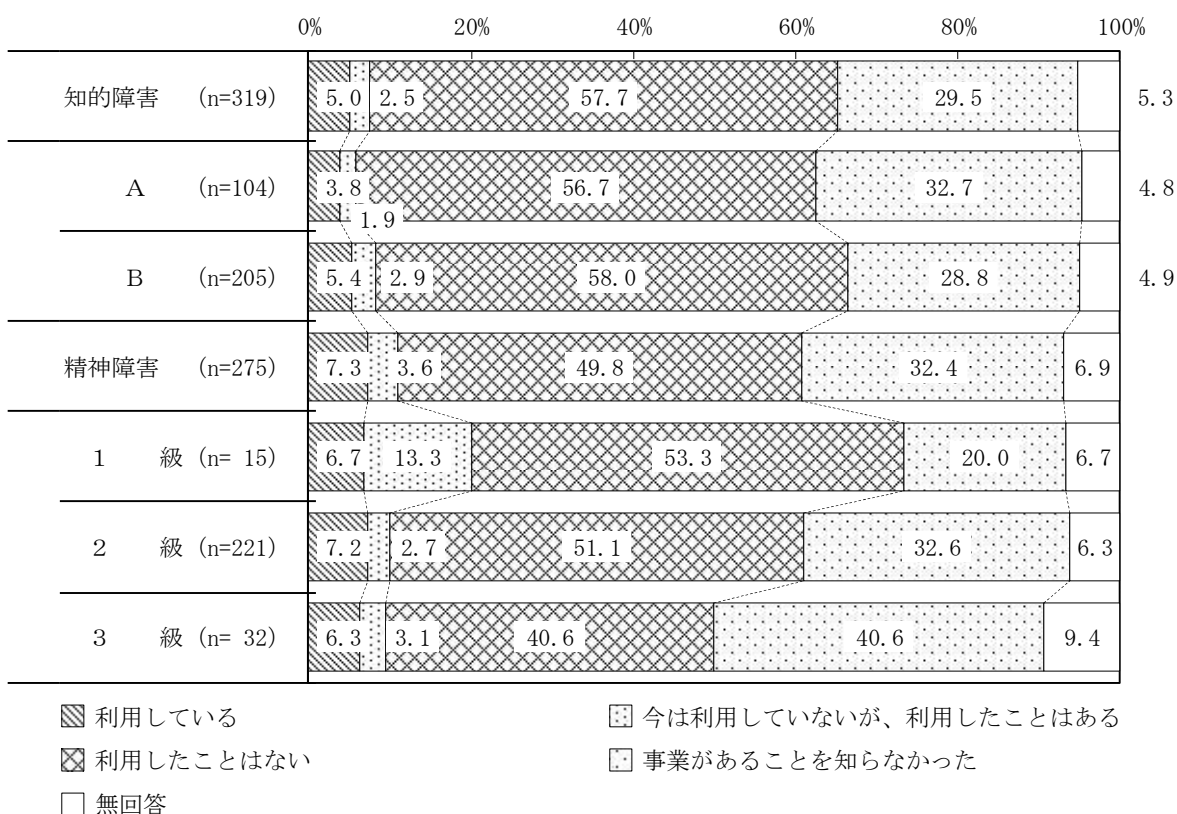


5 日常生活自立支援事業の利用

(1) 日常生活自立支援事業の利用状況

日常生活自立支援事業を「利用している」と答えているのは、知的障害のある人が5.0%、精神に障害のある人が7.3%となっています。「今は利用していないが、利用したことはある」は、知的障害のある人が2.5%、精神に障害のある人が3.6%です。「事業があることを知らなかった」は、知的障害のある人が29.5%、精神に障害のある人が32.4%あります。

図表 2-45 日常生活自立支援事業の利用状況

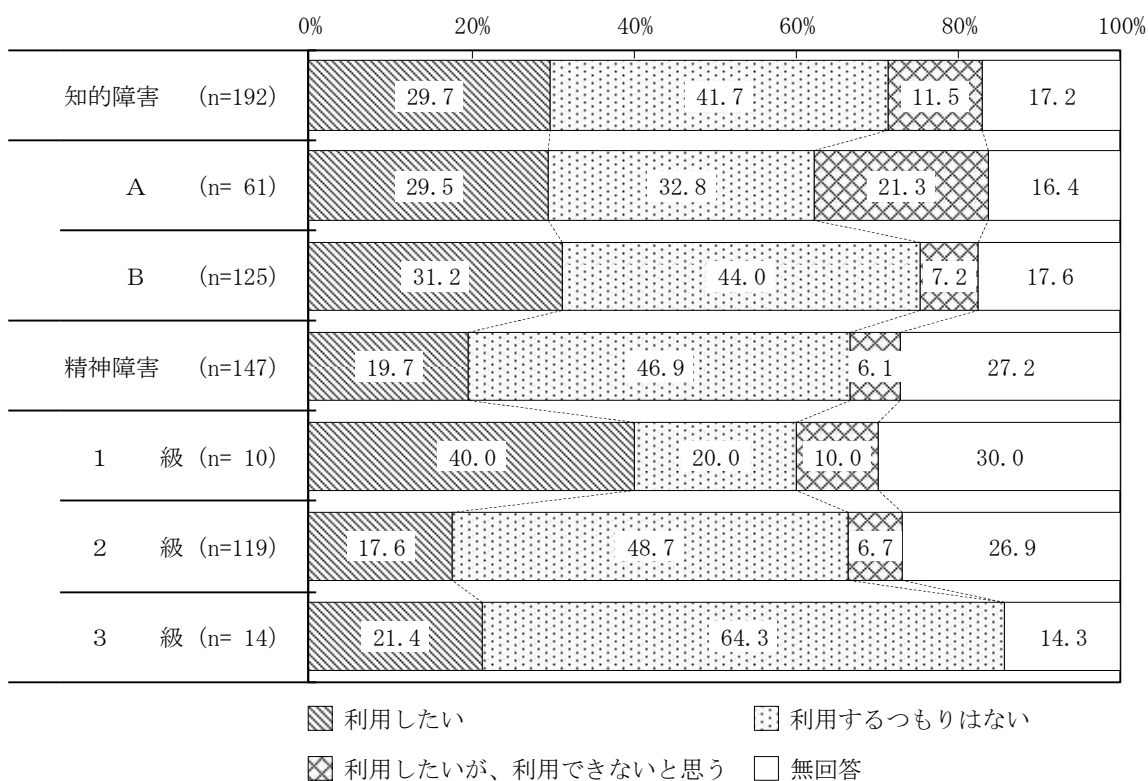


(2) 日常生活自立支援事業の利用意向

前問で「今は利用していないが、利用したことはある」または「利用したことはない」と答えた人の利用意向をたずねた結果が図表2-46です。「利用したい」は、知的障害のある人が29.7%、精神に障害のある人が19.7%となっています。

「利用したいが、利用できないと思う」と答えた人の利用できない理由は、図表2-47のとおりです。

図表2-46 日常生活自立支援事業の利用意向



図表2-47 日常生活自立支援事業を利用できない理由

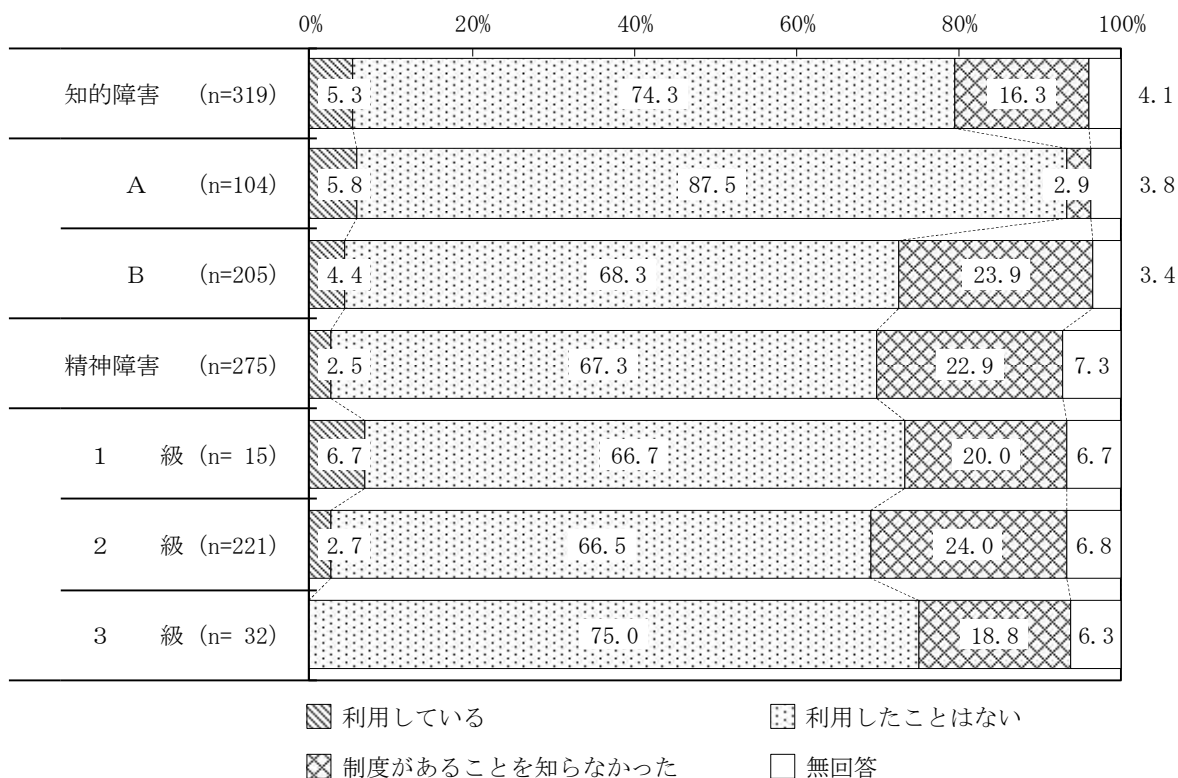
区 分	内 容	
知的障害	<ul style="list-style-type: none"> ・障害が重い ・理解ができない ・利用できる能力がないので、対象外と認識しています ・人との会話ができないのと、知らない人は無理 ・利用したいことがうまく伝えられない ・家族以外言葉がわからないので、利用できない。話できないので。 ・コミュニケーションが取れないため、会話ができないため ・コミュニケーション能力に自信がない・家族や介護している人がいなくなったら、利用することにはなると思いますが、それを本人がどう理解できるのか?…それがわかりません。 	<ul style="list-style-type: none"> ・無資格、未経験でも採用され、さほど高給でもない場合が多いので、家の中などへの出入りについて、不安な面があるため。 ・だまされるような気がする ・必要になったら使う ・今のところ、利用していない。今後、指導が必要。 ・事業について知らない ・内容がよくわからないから ・わからない
精神障害	<ul style="list-style-type: none"> ・信用、信頼できない。生活支援員が信用できない。不祥事が多発している。改善が必要。 ・自分を含めて人が信じられない 	<ul style="list-style-type: none"> ・配偶者が嫌がる ・やり方がわからない ・わからない

6 成年後見制度の利用

(1) 成年後見制度の利用状況

成年後見制度を「利用している」のは、知的障害のある人が5.3%、精神に障害のある人が2.5%です。「制度があることを知らなかった」は、知的障害のある人が16.3%、精神に障害のある人が22.9%あります。

図表2-48 成年後見制度の利用状況

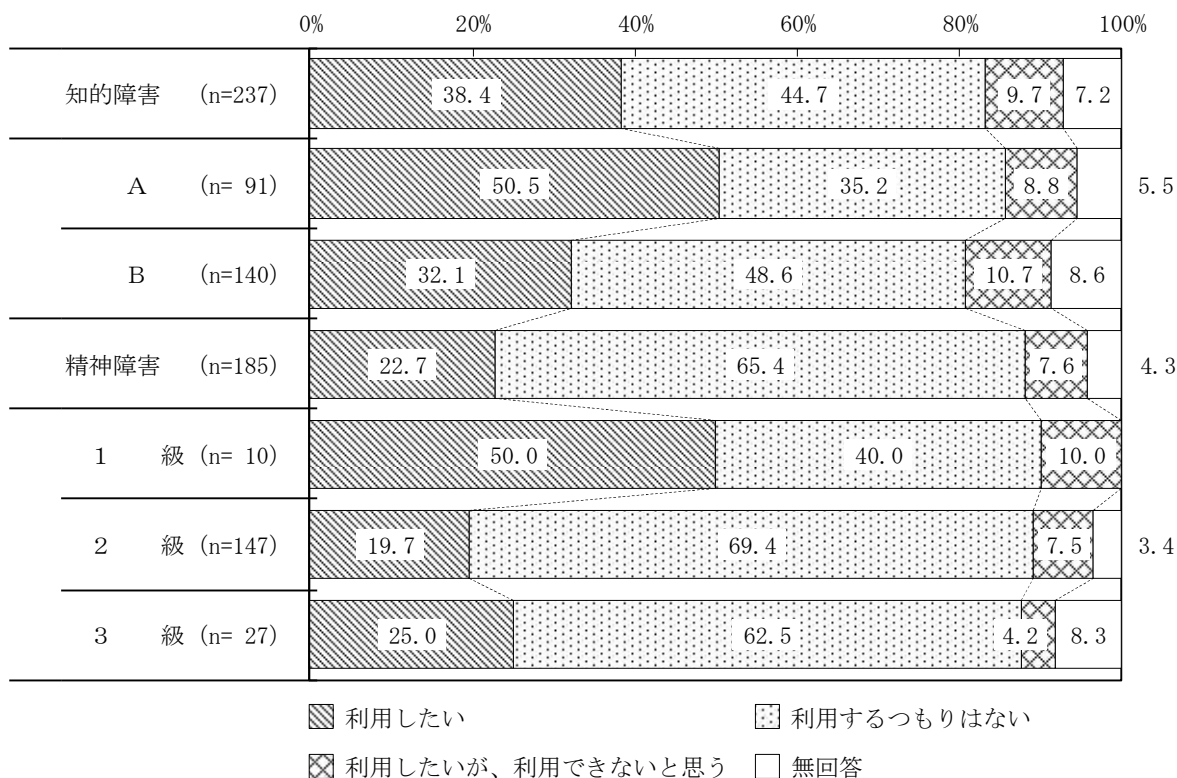


(2) 成年後見制度の利用意向

前問で「利用したことはない」と答えた人の利用意向をたずねた結果が図表2-49です。「利用したい」は、知的障害のある人が38.4%、精神に障害のある人が22.7%となっています。

「利用したいが、利用できないと思う」と答えた人の利用できない理由は、図表2-50のとおりです。

図表2-49 成年後見制度の利用意向



図表2-50 成年後見制度を利用できない理由

区 分	内 容	
知的障害	<ul style="list-style-type: none"> ・今は姉がいるので ・妹がいて、妹の考えもあるので。 ・知的度が低いので、家族以外怖い。 ・その時が来ても、自分で対応できないと思う。 ・制度について理解していない。 ・制度の詳細がよくわからない。障害者本人の意志や自由をある程度尊重してくれるのか？融通がきかないのではないか？家族から後見人が引き継ぐ時、家族の意図や思いを汲んでくれるのか？不安があるため。 ・制度が使用しにくい ・利用しにくい制度に感じるのでは 	<ul style="list-style-type: none"> ・制度を理解していない。高額になりそう。 ・費用が高い。後見報酬等の助成を行っている所があるようで、金沢市も行ってほしいです。 ・経済的負担が大きい（月2万円？）。後見人を決めたら、ずーっと同じ人を、止めることもできないと聞く。現在、改善すべく、審議中と聞いている。 ・費用がかかる ・誰を成年後見人にすればよいかわからない ・今後、必要なら使う ・わからない（2件） ・よくわからないから
精神障害	<ul style="list-style-type: none"> ・法律的にどういうものか、自分で理解していないので、自分の判断で行使するのが困難なため ・利用する条件が不明 ・やり方がわからない。わかっても、手続きする場所に行けない。 ・難しそうで、誰にどうしたらよいのかと、お金が高そう。 ・後見人に支払う金額がいくらかかるか不安 	<ul style="list-style-type: none"> ・金額がかかる ・財産があれば ・新聞で、制度を悪用する人がいると書いてあったので、不安でできない ・信用、信頼できない ・不安や抵抗のほうが強いの

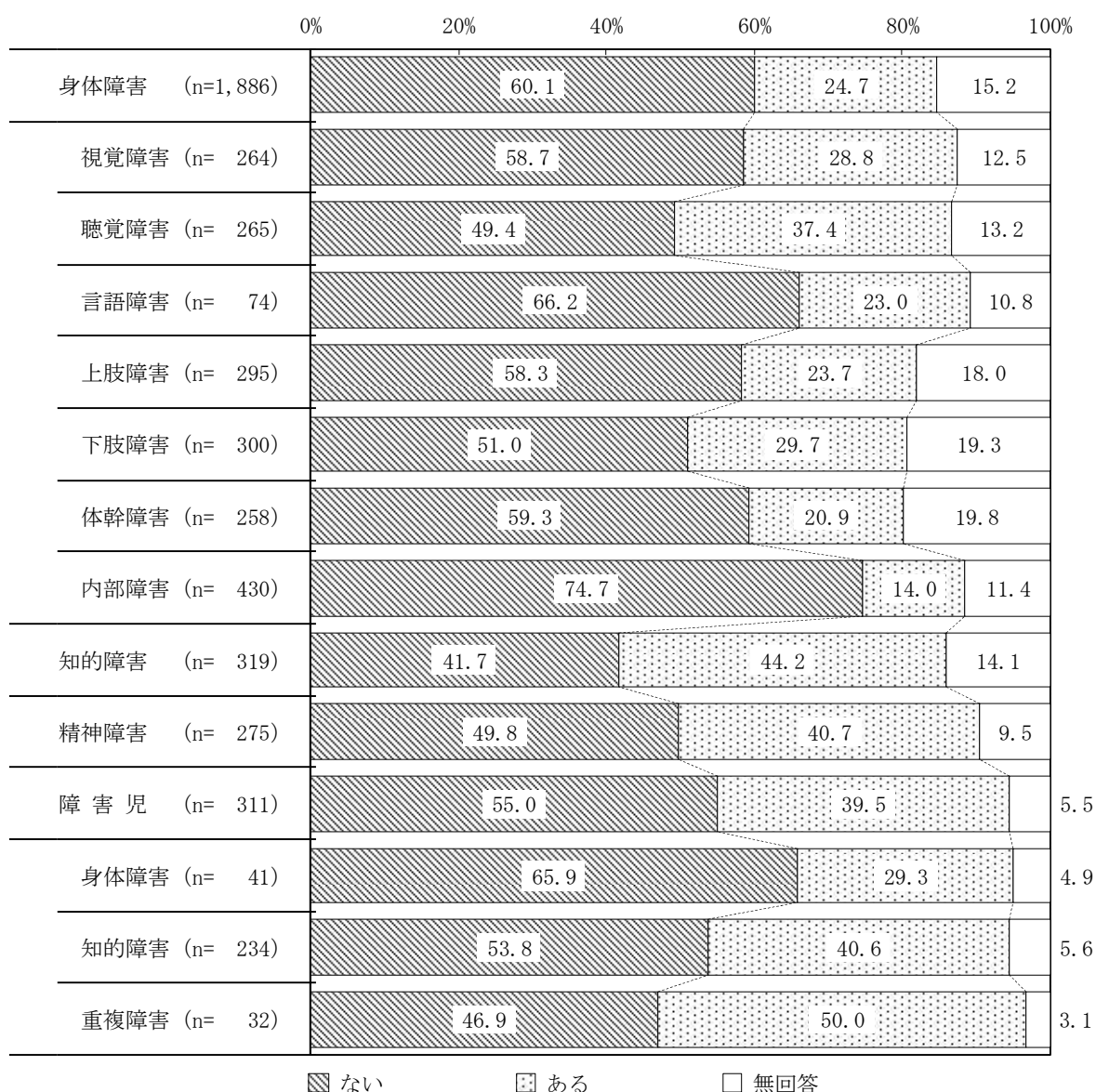
7 障害に対する理解や差別

(1) 差別やいやな思い

「これまでに障害があるために差別を受けたり、いやな思いをしたことがありますか」という設問に対して、「ある」が高いのは、知的障害のある人（44.2%）、精神に障害のある人（40.7%）、障害のある児童（39.5%）、聴覚に障害のある人（37.4%）などです。

記述していただいた具体的な事例については、第3章に収載しました。

図表2-51 障害があるために差別やいやな思いをしたことがあるか



(2) 障害についての理解の浸透

障害者差別解消法の施行や改正（令和6年4月から）に伴い、「障害に対する理解が以前に比べ進んでいると感じますか」と聞いたところ、「進んでいる」と「やや進んでいる」を合計した比率は、身体に障害のある人が22.6%、知的障害のある人が19.5%、精神に障害のある人が22.1%、障害のある児童が29.5%です。このうち、知的障害のある人および言語障害のある人は、「進んでいない」と「あまり進んでいない」の合計よりも低くなっています。

図表2-52 障害に対する理解が以前に比べ進んでいると感じるか

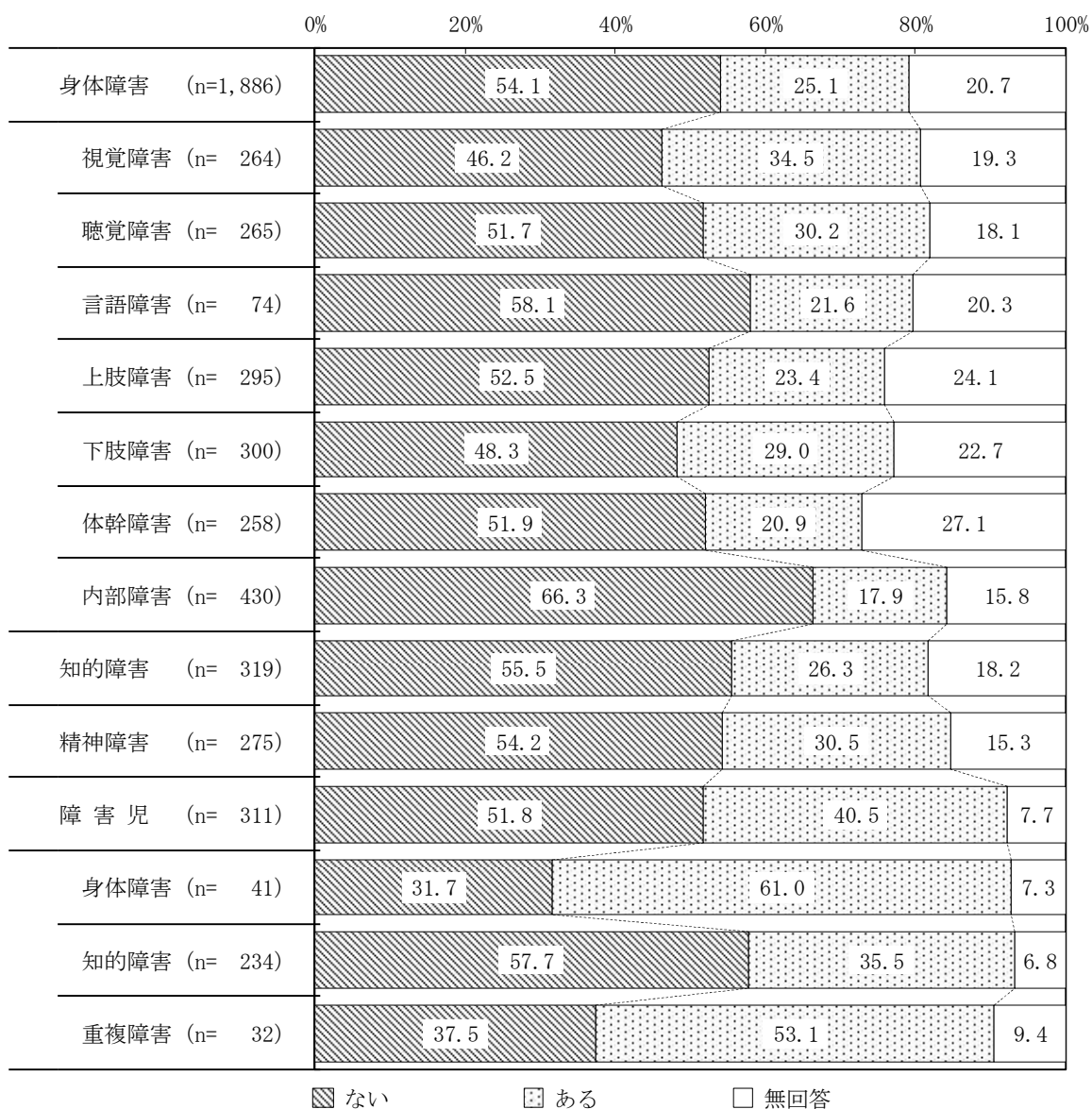


(3) 障害についての理解や配慮

「日常生活において、障害について理解や配慮があり、よかったと感じたことはありますか」という設問に対して、「ある」が高いのは、障害のある児童（40.5%）、視覚に障害のある人（34.5%）、精神に障害のある人（30.5%）、聴覚に障害のある人（30.2%）などです。

記述していただいた具体的な事例については、第3章に収載しました。

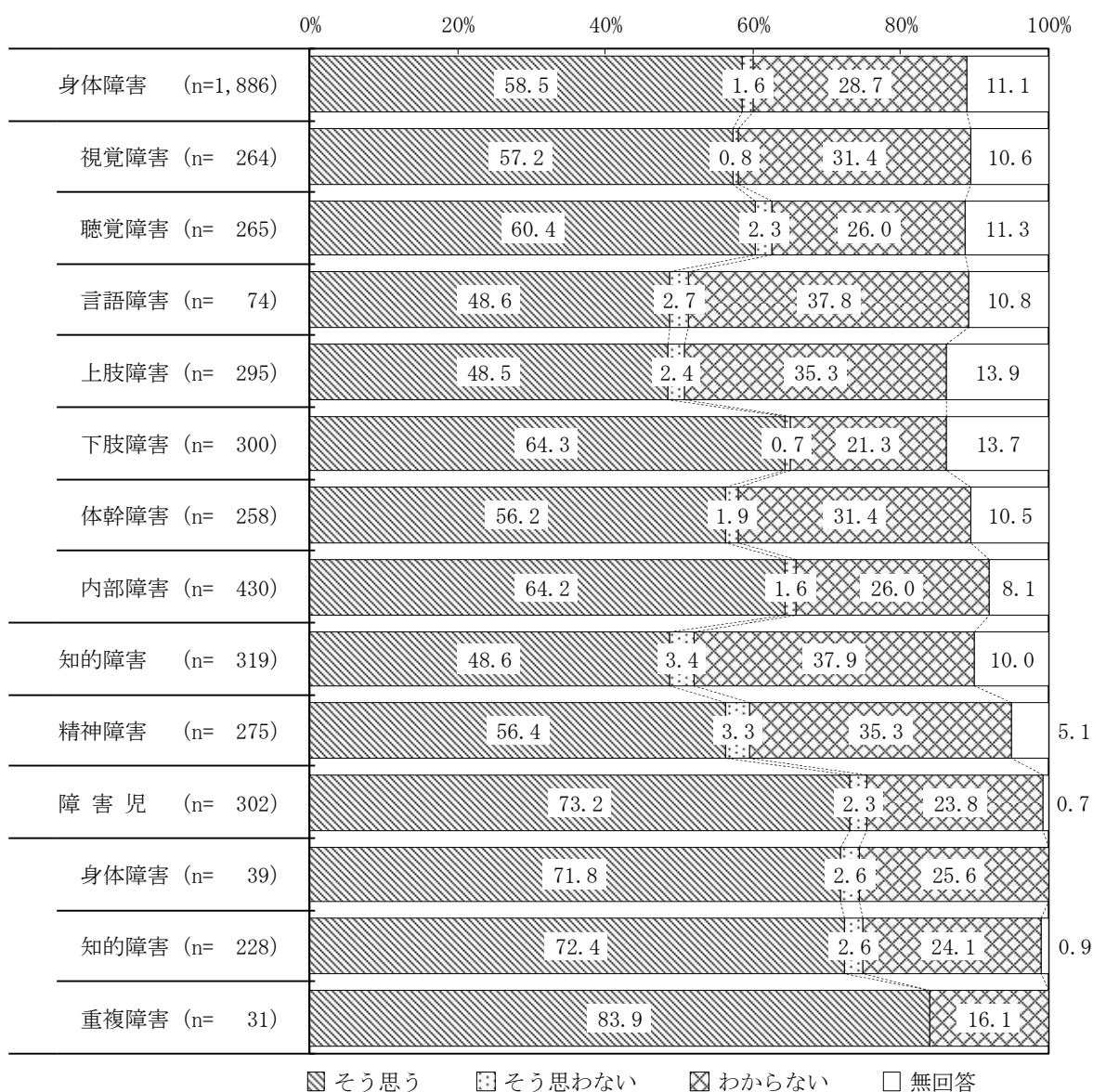
図表2-53 障害について理解や配慮があり、よかったと感じたことがあるか



(4) 共生社会の考え方への理解

金沢市では、「障害のある人もない人も、すべての人が一人ひとり大切にされ、いきいきと自分の生き方ができるまち・金沢」をめざし、令和4年12月に「共生社会を推進する金沢共同宣言」を行い、障害のある人もない人も共に生活できる社会づくりを進めています。そこで、「共生社会」の考え方について、今後、理解を深めていきたいと思いませんか」と聞いたところ、「そう思う」は、身体に障害のある人が58.5%、知的障害のある人が48.6%、精神に障害のある人が56.4%、障害のある児童が73.2%です。「そう思わない」は、各障害ともわずかですが、「わからない」が20～40%あります。共生社会の考え方について、より一層啓発し、推進していく必要があると考えられます。

図表2-54 共生社会の考え方について、今後、理解を深めていきたいか



8 災害への対策

(1) 災害時に困ること

地震などの災害時にすぐ困ることとしては、身体に障害のある人が「安全なところまで、迅速に避難することができない」「避難所の設備（トイレなど）について不安」「投薬や治療を受けられない」、知的障害のある人が「周囲の人とコミュニケーションがとれない」「安全なところまで、迅速に避難することができない」「救助を求めることができない」「避難所の設備（トイレなど）について不安」、精神に障害のある人が「投薬や治療を受けられない」「避難所の設備（トイレなど）について不安」、障害のある児童が「周囲の人とコミュニケーションがとれない」「安全なところまで、迅速に避難することができない」「救助を求めることができない」「避難所の設備（トイレなど）について不安」が高くなっています。

図表2-55 災害時にすぐ困ること（複数回答）

単位：回答数は人、他は%

区 分	回 答 数	投薬や治療を受けられない	補装具や日常生活用具の使用や入 手ができなくなる	救助を求めることができない	安全なところまで、迅速に避難す ることができない	被害状況、避難の呼びかけ、物資 の入手方法などの情報が入らない	周囲の人とコミュニケーションが とれない	避難所の設備（トイレなど）につ いて不安	その他	とくにない	無回答
身 体 障 害	1,886	42.3	18.3	16.6	43.1	17.8	16.3	42.7	4.2	11.7	7.1
視覚障害	264	38.3	17.0	22.3	56.4	25.0	15.2	46.2	5.7	11.7	6.8
聴覚障害	265	25.3	26.8	15.1	18.9	40.0	39.2	32.8	5.3	11.3	7.2
言語障害	74	39.2	14.9	39.2	41.9	23.0	40.5	35.1	4.1	13.5	4.1
上肢障害	295	45.1	17.3	21.0	54.9	13.2	14.6	46.8	4.1	11.5	9.5
下肢障害	300	35.7	20.7	16.3	58.0	14.7	10.7	57.0	2.7	11.0	7.0
体幹障害	258	34.9	16.3	19.0	57.8	8.5	13.2	46.1	4.3	8.1	8.9
内部障害	430	63.0	14.7	5.8	22.6	9.8	5.8	33.3	3.7	14.2	4.9
知 的 障 害	319	32.6	6.0	42.6	43.3	34.2	54.9	44.5	4.7	11.9	5.3
精 神 障 害	275	58.9	8.0	17.5	28.7	18.9	31.6	40.4	6.2	8.7	6.9
障 害 児	311	27.0	12.2	49.5	50.5	35.7	57.2	48.2	10.9	10.6	3.2
身体障害	41	53.7	41.5	29.3	58.5	26.8	24.4	36.6	14.6	12.2	0.0
知的障害	234	17.9	3.0	53.4	45.3	36.8	64.5	47.0	8.5	11.1	3.8
重複障害	32	62.5	40.6	53.1	78.1	40.6	50.0	71.9	21.9	6.3	3.1

「その他」の災害時にすぐ困ることとして、次の記述がありました。

図表2-56 「その他」の災害時にすぐ困ること

区 分		内 容	
身 体 障 害	視覚障害	<ul style="list-style-type: none"> ・介助者がいるかどうか ・視覚障害のため、一人で知らない場所は動けない ・危険物に気づかず、ケガをする可能性が高い ・夜間の避難時、視力障害により移動しづらい ・夜など暗いとき、特に見えにくいいため、災害時一人だと行動できない ・目が見えないので何もかも困ると思う ・自宅から動かない ・災害時は障害者専用の窓口が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員、町内に任せている ・福祉避難所がほしい ・血糖値の管理 ・金沢市が提供している水害アプリなどでは、視覚障害者が使うスクリーンリーダーでは操作ができないために水害状況などが判断できない。視覚障害者が使うことができる災害時のアプリの導入を強く願う。そのためには自治体とサービス提供者側が契約をする必要がある。 ・入院中のため ・わからない
	聴覚障害	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急のサイレンが聞こえないので避難が遅れてしまう ・電話（連絡）ができないこと ・町会の放送が家の中だと聞こえづらい ・耳が聞こえないので、災害情報や緊急避難すらわからない。マンションにいるので火事の警報すら聞こえない。 ・家族や知人との連絡手段がない。安否確認や自分の無事を知らせる手段がない。 ・人工内耳の電池（充電）の心配 	<ul style="list-style-type: none"> ・充電式なので不安 ・補聴器を外して就寝中に地震が起きると不安 ・どこに避難すればよいのか分からない。補聴器の電池やコンタクトレンズを使用しているので洗ったり（洗浄液）、手を洗って清潔にできないと目にもトラブルが起こると困る。 ・食料、水の入手方法 ・考える余裕がなくわからない ・現在ほぼ通常生活が送っております
	言語障害	<ul style="list-style-type: none"> ・しゃべれないのでコミュニケーションがとれない ・食事（固形物がとれない） 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症を発症しているため、他者との協調が困難
	上肢障害	<ul style="list-style-type: none"> ・家に誰もいないときだと困る ・水害は心配だが、地震でエレベーターが止まるので困る ・福祉避難所が遠い。あるところが偏っているため町にもほしい。 ・行動援護が必要で、大人数で生活する避難場には行けない、生活できない、周囲に迷惑がかかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・片手での食事 ・弟がすぐに来る ・たくさんあると思います ・とにかく不安 ・病院の対応に全面的に依存するしかない ・入院中でわからない
	下肢障害	<ul style="list-style-type: none"> ・他の人の迷惑になってしまうのではと不安。心の隔たりを感じ、申し訳なさを感じる。 ・歩けるが、本人は判断ができないので、一人で行動はとれない ・一人でいたときに移動できない（車いす）、ペットの猫がとても心配、助けられない 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難すべきか否か判断に迷う ・大きな音や声を出すので避難所で過ごせない ・トイレ和式は絶対無理なので、和式しかない不安 ・地面に座れない ・犬がいるから避難しない

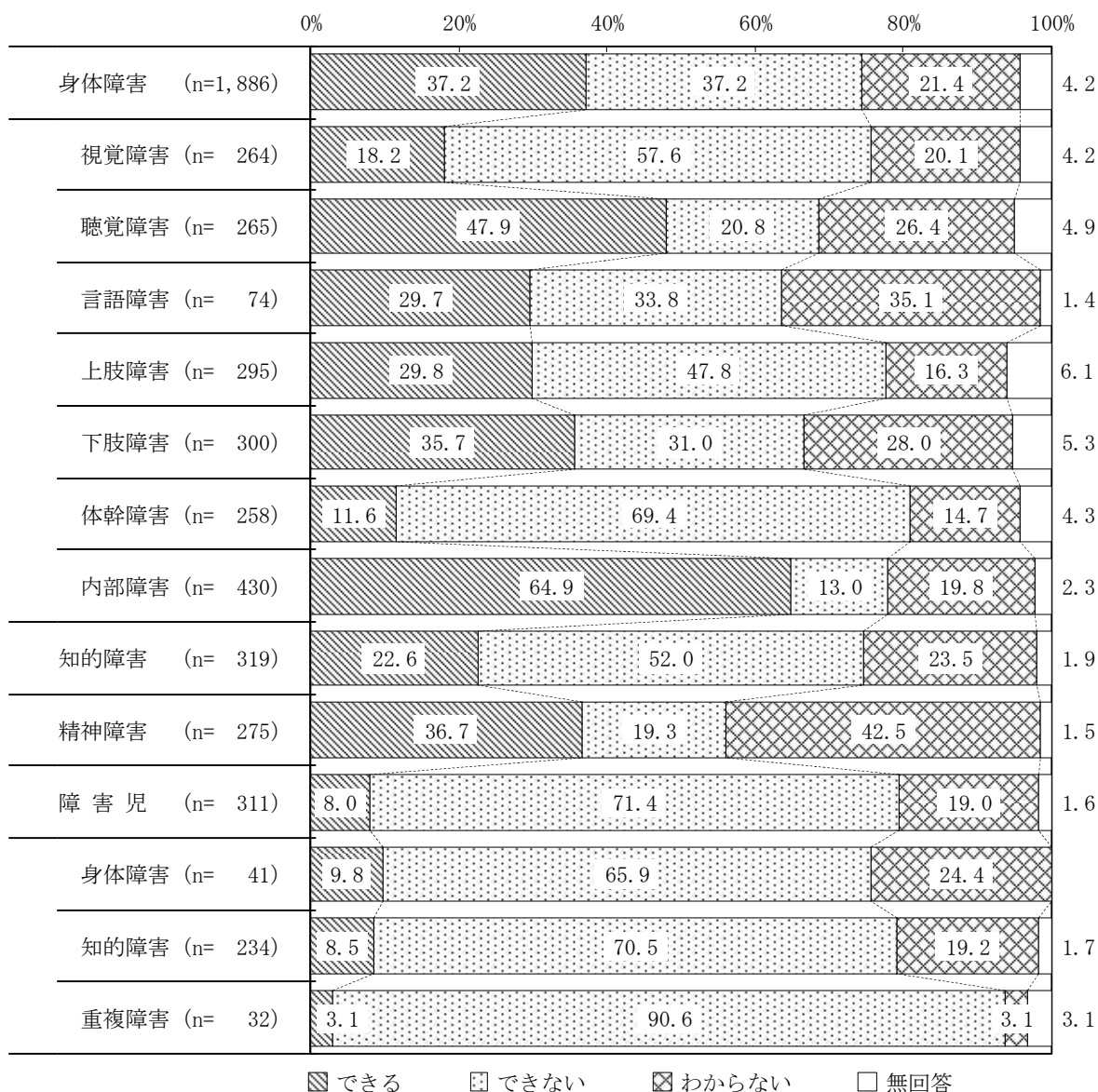
区 分		内 容	
身 体 障 害	体幹障害	<ul style="list-style-type: none"> ・寝たきりである（2件） ・動けない、避難できない ・胃ろうによる経腸栄養のため「ラコー ル（栄養）」をどうするか。口から食 べたり飲むことができないので。 ・避難所まで行けない 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所内の移動、避難用具を持つての 避難所への移動に不安 ・避難者たちの笑顔が見たくない ・答えられません ・不明
	内部障害	<ul style="list-style-type: none"> ・救助できない ・家族との連絡 ・家族に無視されているので、不安 ・要介護の母親がいるので、避難するこ とは困難です ・透析ができるのか？ ・透析の病院がすぐわかると嬉しい ・人工透析ができるかどうか。 ・避難場所まで歩けません。車などで 回っていただければ、助かります。 ・HOTの電源確保、生活できる場所の 確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・電気が必要（治療のための機器を動か すため） ・酸素が必要である ・ストーマ器具交換できる場所（週2～ 3回交換が必要）、ストーマ用トイレ ・ストーマとかないと困る ・ストレスや環境による病状の悪化 ・プライバシーの確保 ・臨機応変 ・現在、施設に入所中。施設を頼りにし ている。 ・わからない
	知 的 障 害	<ul style="list-style-type: none"> ・親がいない時は、介助者が必要 ・一人の時に、行動できない ・近所以外の地域との触れ合いがほとん どないので ・避難所では、静かにできないので、い られない ・避難所には、音や他人が気になり、滞 在できない ・音に過敏。慣れない状況でパニックにな る。避難所には行けない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パニックになる ・パニックを起こして、冷静でいられな くなる ・集団生活は難しい ・ミキサー食のため配布される食料は食 べることができない ・薬や注射が必要なので、家から出られ ない ・どうしていいかわからない ・わからない
	精 神 障 害	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅が壊れたりして、下敷きになりそう ・優先順位をつけられず、逃げ遅れそう ・人のいる所が苦手（病気のため）…そ のため、避難所に行けない。 ・避難所での声、音、コミュニケーション、不眠 ・眠れない ・毎日の生活が困難 ・自己臭による不安。臭いから迷惑がか かっているのではないかと…。 ・パニックになりそうで、不安。誰もい ないので…。 ・知らない人がたくさんいる所に行かな ければならない 	<ul style="list-style-type: none"> ・福島でも被災しているので、フラッ シュバックが起きたら、どうなるかわ からない。 ・避難所の対応が悪い。医師などがいな くて、対応できないのではないかと思 うことがあったので。 ・避難所の対応（自治体の） ・家族（父や兄弟）と疎遠なため、連絡 が取れたり、助け合える身内がない ・近くの避難所の知識 ・吸痰 ・犬 ・ペットの避難

区 分	内 容	
障 害 児	<ul style="list-style-type: none"> ・災害に応じた行動について、適切に選択できるかどうか不安がある ・避難所生活になったとき、落ち着いてられないかもしれない ・理解・発言ゼロなので支援・介助者がいないとはぐれたら何もできない。叫んだりするので集団避難所で過ごせないと思う。 ・近くの学校に避難した時、障害のある方は、別の場所で部屋を分けてほしい。 ・個室などで避難しないと、周囲に迷惑がかかるんじゃないかと不安 ・避難所にて、静かに過ごせる場所などがあると、ありがたい。人の多い所、ザワザワする場所が苦手なため。 ・環境が変わると、変化についていけない不安。寝れるかなど…。 ・いつもと違う状況にパニックになる ・慣れない場所へのストレス、奇声による周囲への迷惑 ・周囲に迷惑をかける ・周りが気になる ・集団生活ができないので避難先へ行っても部屋から飛び出し外へ行き、危険な所へ行ってしまいうらな。そして親も追っかけなくては行けないので完全に避難はできないだろう。個別的な安心グッズもないし環境の変化に適応できないと思われる。 ・じっとできない、声を出すので、福祉避難所でないと無理 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の状態でも避難所に移動したら、やれることが多いが、実際の状況になると、雰囲気にも飲まれたい、視覚支援も受け入れる幅がなくなると思う。 ・避難所で過ごすことが困難。災害時は、自宅避難の予定。 ・障害を理解してもらえない可能性が非常に高い ・腹膜透析器具を利用できないと、生命に関わる ・胃ろうや吸痰時の電源の確保 ・人工呼吸器のため電源が必要 ・人工呼吸器の電池がなくなる ・人工呼吸器、吸痰器の電源、水 ・酸素や電源の確保 ・電気を使用する吸引薬（ネブライザー）が使用できない。 ・酸素濃縮器が使えなくなる（停電した場合）か、酸素ボンベがなくなると、呼吸がもたない。 ・気切しているため、声も出せない。 ・オムツがない。おしり拭きがない。 ・どこにも個人の対応がないため、すべてに心配する ・喋ることができないので、困っていることを言えない ・まだ、ありがたいことに避難したことがないので、困ることがわからない ・わからない

(2) 一人で避難できるか

地震などの災害時に一人で避難できるかという設問に「できない」と答えた比率が高い障害の種類は、障害のある児童（71.4%）、体幹に障害のある人（69.4%）、視覚に障害のある人（57.6%）、知的障害のある人（52.0%）などです。「わからない」は、精神に障害のある人が42.5%、言語障害のある人が35.1%あります。

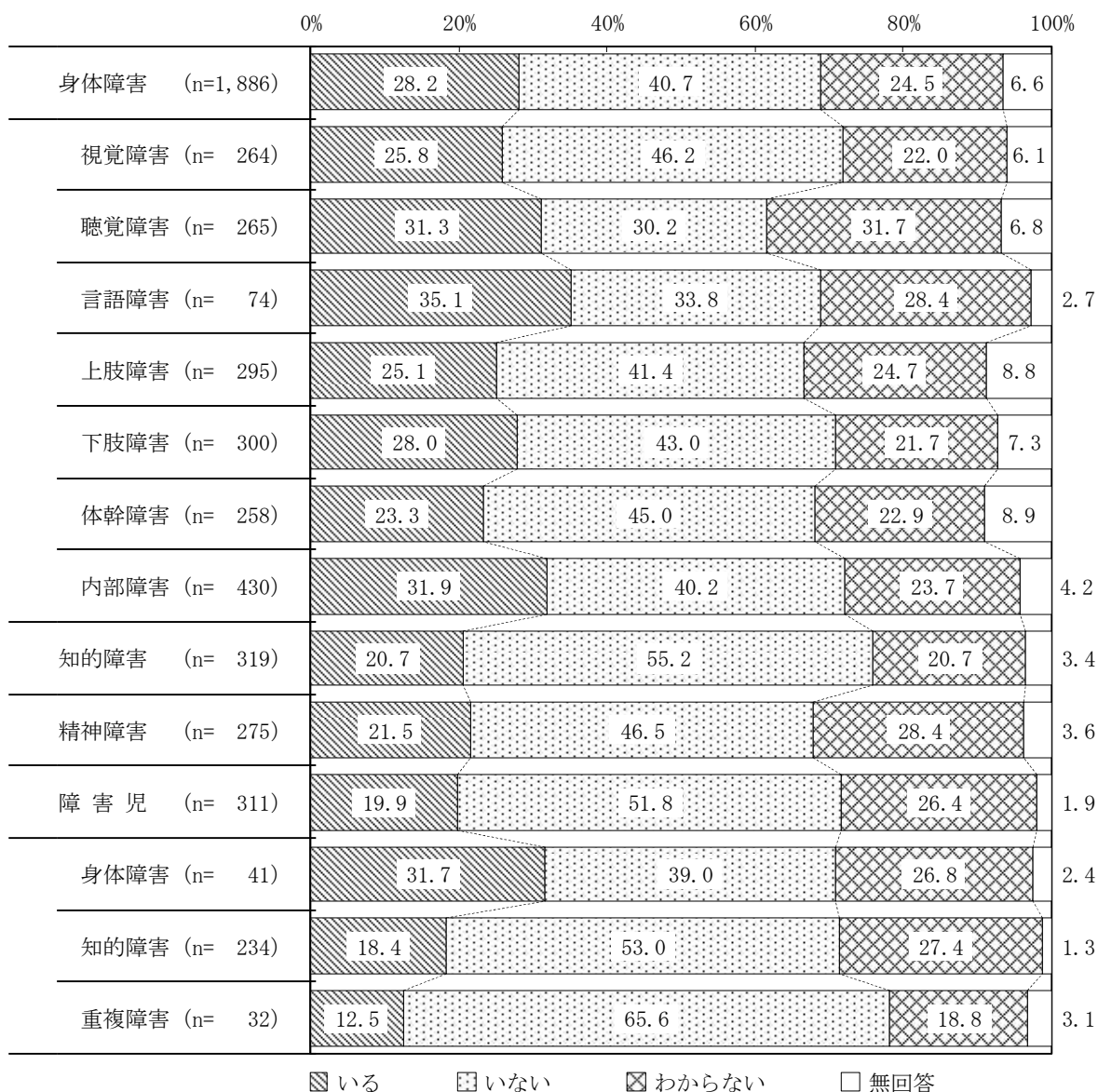
図表2-57 災害時に一人で避難できるか



(3) 一人で家にいる時に助けてくれる人がいるか

「家族がいない時または一人暮らしの場合、あなたを助けてくれる方はいますか」という設問に対して、「いない」と答えているのは、身体に障害のある人が40.7%、知的障害のある人が55.2%、精神に障害のある人が46.5%、障害のある児童が51.8%となっています。各障害とも、「わからない」が20~30%程度あります。

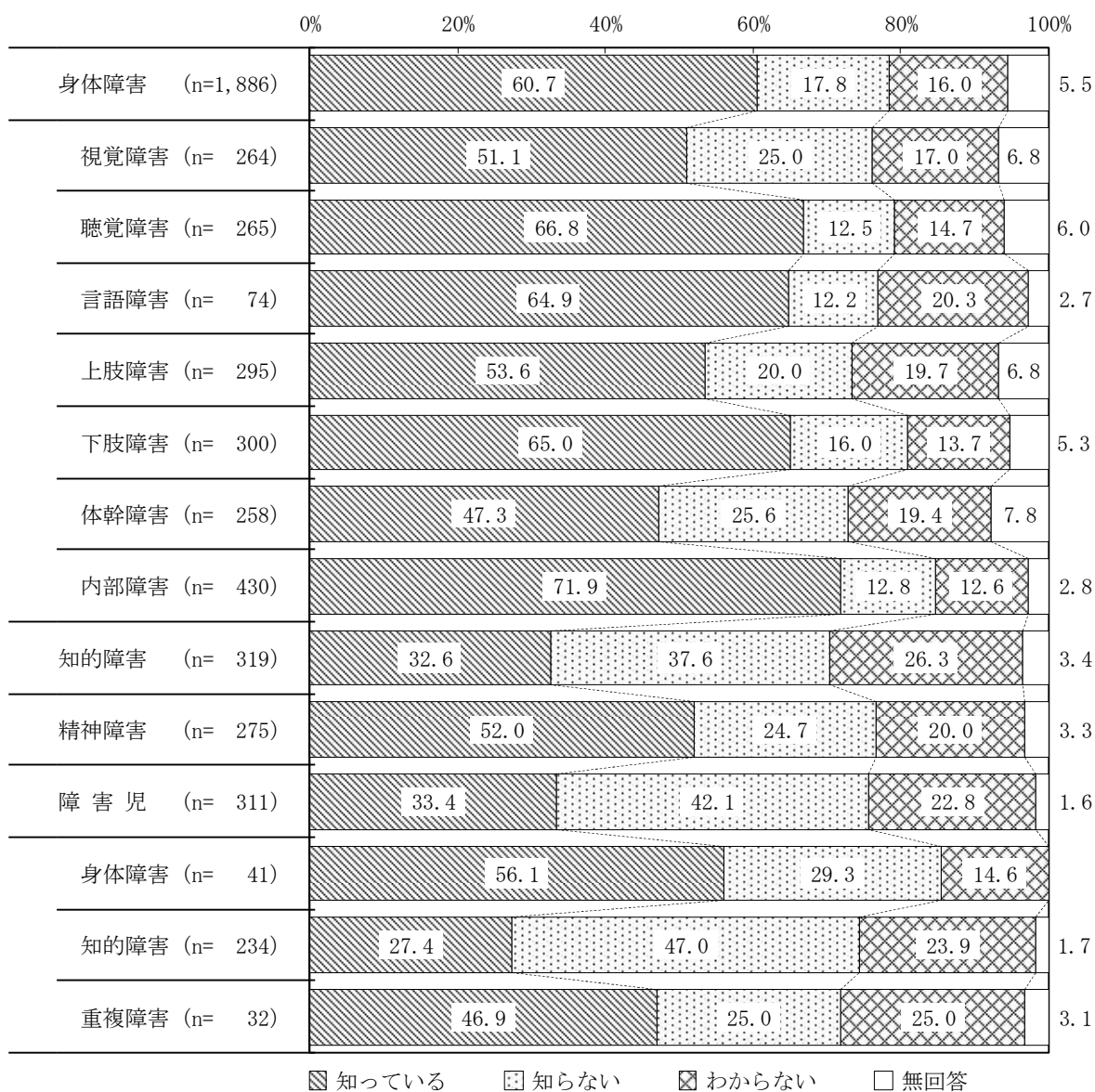
図表2-58 一人で家にいる時に助けてくれる人がいるか



(4) 避難場所を知っているか

地震などの災害時の避難場所を「知っている」のは、身体に障害のある人が60.7%、精神に障害のある人が52.0%、障害のある児童が33.4%、知的障害のある人が32.6%となっています。

図表2-59 災害時の避難場所を知っているか



(5) 避難所生活に必要なこと

地震などの災害時に避難所で生活を送ろうとしたときに必要になると思われることとしては、身体に障害のある人が「医療的ケアや医薬品の提供体制の整備」「障害の特性に応じた避難場所の建物・設備などの整備」、知的障害のある人が「避難場所での誘導や介助」「地域住民の障害への理解」「障害の特性に応じた避難場所の建物・設備などの整備」「障害の特性に応じた情報提供」「介護やコミュニケーションの支援」、精神に障害のある人が「医療的ケアや医薬品の提供体制の整備」が高くなっています。

「その他」の対応等として、図表2-61の記述がありました。

図表2-60 避難所生活に必要なこと（複数回答）

単位：回答数は人、他は%

区 分	回 答 数	障害の特性に応じた情報提供	避難場所での誘導や介助	介護やコミュニケーションの支援	障害の特性に応じた避難場所の建物・設備などの整備	医療的ケアや医薬品の提供体制の整備	地域住民の障害への理解	とくに必要なことはない	その他	避難場所では生活できない	無回答
身 体 障 害	1,886	34.7	35.9	22.5	39.3	45.8	27.3	7.8	2.5	20.6	6.7
視覚障害	264	44.3	57.6	23.9	42.0	41.3	38.6	6.4	2.7	18.9	6.8
聴覚障害	265	57.0	33.6	36.6	27.2	29.4	37.7	4.9	2.6	13.6	7.2
言語障害	74	28.4	37.8	39.2	24.3	39.2	25.7	12.2	2.7	25.7	5.4
上肢障害	295	30.2	40.3	19.3	42.7	44.4	25.4	10.2	1.4	26.1	7.1
下肢障害	300	26.3	35.0	19.3	54.0	41.7	30.0	7.3	2.7	19.3	7.7
体幹障害	258	25.6	37.2	27.1	48.4	43.4	22.5	3.5	3.5	34.1	8.1
内部障害	430	30.7	20.5	11.6	29.8	64.9	16.5	10.9	2.3	14.0	4.7
知 的 障 害	319	43.3	49.2	42.3	44.2	29.2	49.2	6.6	2.2	30.4	3.4
精 神 障 害	275	36.0	29.5	23.3	28.4	50.2	37.1	8.4	4.4	26.5	6.5

図表2-61 「その他」の避難所生活に必要なこと

区 分	内 容
視覚障害	<ul style="list-style-type: none"> 能登半島地震の際、1.5次避難所（スポセン）に知り合いの視覚障害者がいて、トイレまでの移動ができないと困っていた。困るだろうと察した自分は、他県から車いすユーザーでも邪魔にならない点字ブロックではない視覚障害者が一人で歩行可能になるシートを敷設できるようにメーカーに約束を取り付けたが、県の担当者が視覚障害者協会との協議の上、NGとなってしまった経緯がある。実際に必要としていたのに、被災していない視覚障害者協会の人間が却下した。こう
聴覚障害	<ul style="list-style-type: none"> ・プライベートの保護（2件） ・電源の確保（人工内耳充電） ・携帯や補聴器の充電の確保 ・補聴器の電池の備蓄がほしい ・物資の情報等 ・トイレ
言語障害	<ul style="list-style-type: none"> ・必要と思う物を用意はしてあるが、それを持っていけない
上肢障害	<ul style="list-style-type: none"> ・ベッドがないと眠れない、床から一人で起き上がれない
下肢障害	<ul style="list-style-type: none"> ・必要日用品がすぐ当たるようにしてほしい（大人おむつ、牛乳など） ・トイレ、段差等場所内移動できるか ・トイレ、寝るところ不安（あまりしたくない）
体幹障害	<ul style="list-style-type: none"> ・避難場所におけるプライバシーの確保 ・食事（栄養）胃ろうのため ・清潔なトイレ ・トイレが近い
内部障害	<ul style="list-style-type: none"> ・電気 ・食事 ・薬を飲むための水分、トイレが近いので気になる ・定期検診と薬 ・車の移動ができない時の透析病院までの送迎

第2部 障害のある人

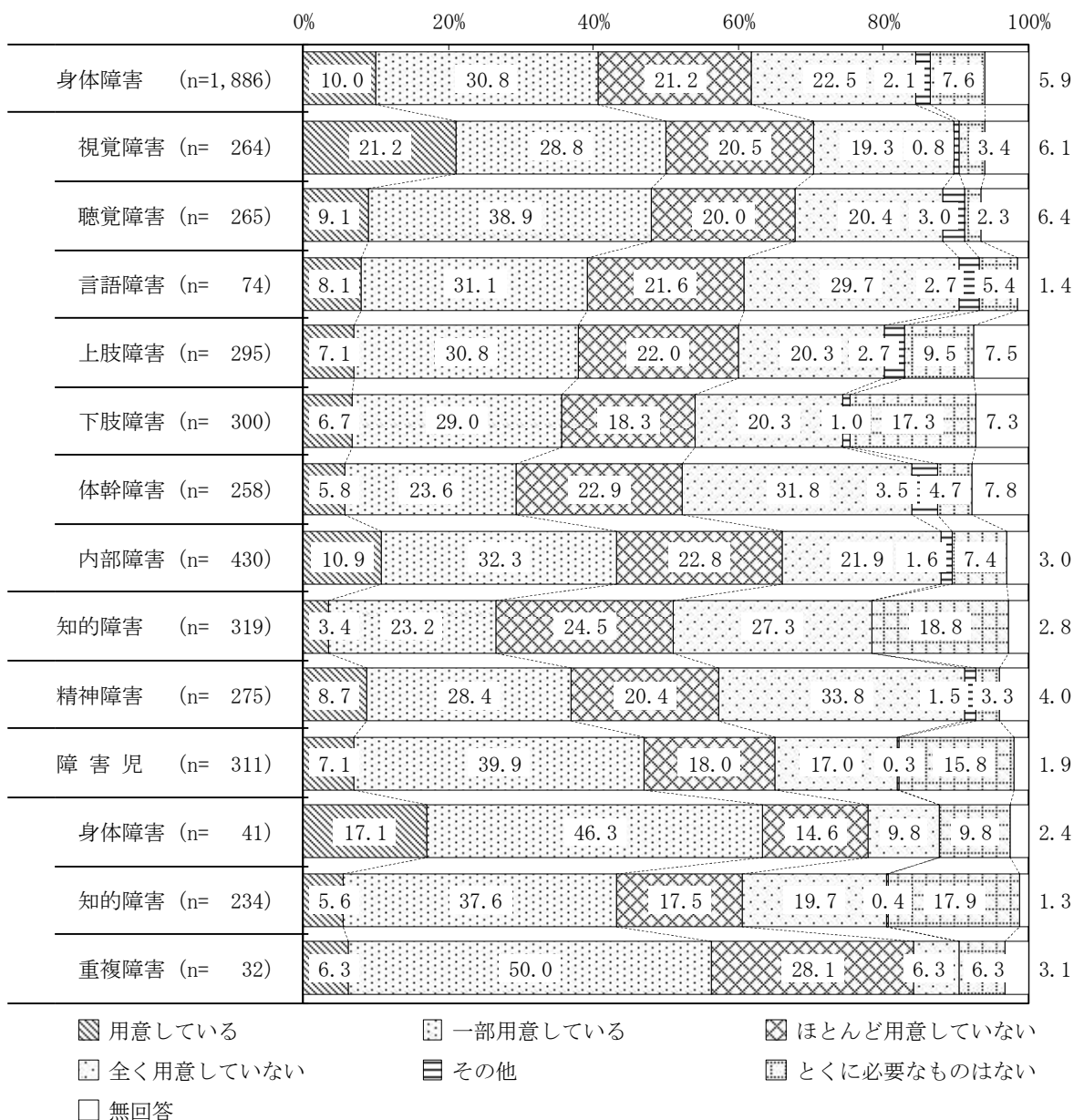
区 分	内 容	
知的障害	<ul style="list-style-type: none"> ・親がいない時は、誰か介助者が必要 ・家族とバラバラの場合、代わりにその情報をまとめてくれる人、探す方法を教えてくれるとか。 ・他の方への暴力や暴言が心配 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者の援助を行う家族やサポートする人への災害時に障害者を援助するガイドラインやサポート方法の周知 ・資金 ・わからない
精神障害	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚・感覚過敏のため、すぐストレスを感じてしまうので、イヤホンとスマホの充電が必要。 ・食事 ・空調がないと発作が出るので、空設の整備 ・清潔なトイレ ・トイレ 	<ul style="list-style-type: none"> ・薬の入手 ・プライバシー（2件） ・パーティション ・心身のケア、カウンセリング ・話し相手（障害者の） ・ペット（猫）の対策 ・わからない

(6) 災害への備え

「災害時に備え、障害に応じて必要な用品（医薬品や白杖など）を用意していますか」という設問に対して、「用意している」と「一部用意している」を合計した何らかの備えをしている比率が高い障害の種類は、視覚に障害のある人（50.0%）、聴覚に障害のある人（48.0%）、障害のある児童（47.0%）、内部障害のある人（43.2%）です。これらはいずれも、「全く用意していない」と「ほとんど用意していない」の合計よりも高くなっています（図表2-62）。

「その他」の対応等として、図表2-63の記述がありました。

図表2-62 災害に備えて必要な用品を用意しているか



第2部 障害のある人

図表2-63 災害に備えて必要な用品を用意しているかの「その他」

区 分	内 容
身 体 障 害	視覚障害 ・避難をしない ・わからない
	聴覚障害 ・筆談ボード（5件） ・電池（補聴器） ・聴力 ・補装具の金銭的負担が大きい ・施設におまかせ ・夫を50歳でなくして、年金が10万/1ヶ月で、節約して暮らしている。 ・自分ではできない
	言語障害 ・吸引器を毎日使用。災害時は手助け必要。 ・家族任せ
	上肢障害 ・施設入居中（2件） ・入院中（3件） ・病院の対応に依存 ・用意はしているが、とっさのときのことなのでわからない
	下肢障害 ・薬とお薬手帳 ・すぐに用意できる ・障害者になったばかりでわかりません
	体幹障害 ・入院中（2件） ・入所中につき不明 ・病院でしている ・施設が用意している ・何もできない、動けない
	内部障害 ・用意しているが、電源が必要 ・予備はいつも確保している ・その都度用意 ・個人で用意できない ・入院中
知的障害 ・ハード面ではなく、ソフト面、理解してくれる人、なじんだ人	
精神障害 ・簡易トイレだけ ・わからない（2件）	
障害児 ・学校には防災リュックを持たせてある	

9 ボランティアの受け入れ

ボランティアのサービスを受け入れると答えている選択肢は、身体に障害のある人が「病院などへの送迎・外出介助」「部屋のそうじ・庭の手入れ」、知的障害のある人および障害のある児童が「病院などへの送迎・外出介助」「調理」「話相手、相談相手」が高くなっています。身体に障害のある人は無回答、障害のある児童は「ボランティアのサービスは受け入れない」も高くなっています。身体に障害のある人を障害の種類別にみると、「病院などへの送迎・外出介助」「部屋のそうじ・庭の手入れ」以外では、視覚に障害のある人の「買物」「代筆・代読」、体幹に障害のある人の「買物」が高いなど、障害の特性が表れています（図表2-64）。

「その他」として、図表2-65の記述がありました。

図表2-64 ボランティアの受け入れ（複数回答）

区 分	回 答 数	調 理	洗 濯	部 屋 の そ う じ ・ 庭 の 手 入 れ	話 相 手 、 相 談 相 手	家 屋 内 外 の 簡 単 な 修 理	病 院 な ど へ の 送 迎 ・ 外 出 介 助	買 物	手 話 通 訳 又 は 要 約 筆 記	代 筆 ・ 代 読	そ の 他	ボ ラ ン テ ィ ア の サ ー ビ ス は 受 け 入 れ な い	無 回 答
身 体 障 害	1,886	14.2	8.6	20.4	11.6	15.4	24.3	18.1	2.6	6.8	6.1	17.7	20.9
視覚障害	264	19.3	11.0	23.9	13.3	18.9	37.9	29.5	-	21.6	6.4	11.7	16.3
聴覚障害	265	10.6	5.7	13.6	16.2	13.2	11.7	9.8	18.1	5.3	9.1	21.1	17.4
言語障害	74	10.8	5.4	12.2	13.5	10.8	23.0	10.8	1.4	5.4	8.1	17.6	23.0
上肢障害	295	16.9	11.5	24.4	11.5	15.9	23.7	18.6	-	6.8	4.1	15.6	26.1
下肢障害	300	12.7	9.0	23.7	11.0	16.3	26.0	18.7	-	3.0	5.0	16.0	22.0
体幹障害	258	15.1	10.9	21.3	10.5	14.0	31.8	23.6	-	7.0	3.9	14.3	22.9
内部障害	430	12.3	6.0	18.4	8.4	15.3	18.8	13.3	-	1.4	7.2	24.0	20.0
知 的 障 害	319	29.8	19.1	19.7	28.2	13.8	34.5	22.9	-	14.1	6.6	16.6	11.9
障 害 児	311	25.4	15.1	16.4	25.1	9.0	34.7	19.9	-	10.3	7.7	23.2	7.4
身体障害	41	19.5	9.8	4.9	12.2	2.4	31.7	12.2	-	0.0	7.3	36.6	9.8
知的障害	234	26.5	15.8	17.5	26.5	10.3	33.3	21.4	-	11.5	6.4	22.2	6.8
重複障害	32	28.1	18.8	25.0	31.3	9.4	53.1	18.8	-	15.6	18.8	9.4	6.3

図表2-65 ボランティアの受け入れの「その他」

区 分		内 容	
身 体 障 害	視覚障害	<ul style="list-style-type: none"> ヘルパー業務以外の掃除等 同性と一緒に温泉施設へ行って入浴してくれる人 除雪、落ち葉掃除 雪かき 床屋（友人の車で） 	<ul style="list-style-type: none"> 今は妻がしているが、できなくなれば調理をしてほしい その時の状況に応じて 特に必要ない（6件） 今は大丈夫（2件） わからない（2件）
	聴覚障害	<ul style="list-style-type: none"> 電話の代行（2件） 通院内の医師、NSとの会話内容の要約してくれる人 字幕付きテレビ 雪かき、草むしり、高いところの作業が怖くてできない。 	<ul style="list-style-type: none"> 勉強を教えてくれる 特に妻以外は考えていない 施設に入所しているので 今のところ必要ない（13件）
	言語障害	<ul style="list-style-type: none"> 遠慮して難しい 入院中のため不要 	<ul style="list-style-type: none"> 今のところ必要ない（2件） 特になし
	上肢障害	<ul style="list-style-type: none"> 家の片づけ ごみ捨て 冬場の雪かき、除雪 美容院などの送迎 	<ul style="list-style-type: none"> ATMでの引き出し 妻がやってくれる（2件） 特に必要なし わからない（3件）
	下肢障害	<ul style="list-style-type: none"> 大雪時の除雪、買い物 雪すかしとゴミが遠いところで集められるので困る 雪かき、木の伐採、家具の移動処分 子どもの学校の送迎 夕方の預かり 	<ul style="list-style-type: none"> 職場への送迎 初めての人はちょっと困る 現状は必要としていないが、状況により考えます 特に必要なし（3件） 今はわかりません
	体幹障害	<ul style="list-style-type: none"> パソコンの接続、不具合のときに詳しく見てくれる人 コミュニケーションができない 	<ul style="list-style-type: none"> 病院入院中（2件） 現在は不要（3件） 不明
	内部障害	<ul style="list-style-type: none"> クリニックのバスで週3回朝送ってもらっている 車の免許返納で足がない。自分の趣味で満足。 薬局へ処方箋を受け取って来てもらう 雪かき 段ボールの回収 行政への申請事 受け入れたいが、今は思いつかない 	<ul style="list-style-type: none"> 今は困っていないのですが、今後困ることはあると思う。 福祉サービスを使っているので、いらぬ 大家族なので、いらぬ 自分でできるから まだ自分で何でもできる 自身でできるだけ対応

区 分	内 容	
内部障害	<ul style="list-style-type: none"> ・今のところ、必要ない（3件） ・今のところ、なし（2件） ・わからない（2件） ・今のところは、わからない ・今は大丈夫なのでわからない。もし将来必要になったら考える。 ・将来的には、サービスを受けたい。現状では、特にない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・その時になってみないとわからない。臨機応変です。 ・必要ない ・不要 ・今は不要 ・今は特にない ・ない
知的障害	<ul style="list-style-type: none"> ・困ったこと、わからないことに対してのサポートや代行 ・介助者の代わりに用事を頼める人 ・家族がいない時の見守り ・総合病院を受診する時のサポート ・グループホームのスタッフ ・散歩 ・見守り ・トイレの介助 ・食事介助 ・親がいないと、選択肢のすべて必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で自立できるように、日頃から練習している ・今はいらない。今後はすべて。 ・将来、自分ではどれもできない ・今は家族と一緒にだから。今後はわからない ・現在は父母 ・現在、母がいるので、必要ではないが…。 ・必要がありません ・今は、わからない ・わからない
障害児	<ul style="list-style-type: none"> ・きょうだいをみてもらう。または、きょうだいの外出時に本人をみてもらう。 ・服薬管理、服薬だけのヘルパーさん ・わからない（2件） ・通学の付き添い ・移動支援 ・ちょっとしたことのお手伝いがほしい。 ・学校の勉強・授業のサポート ・預かり ・入浴 ・時間的に家族が仕事で付き添い出来ない ・ゴミ当番 	<ul style="list-style-type: none"> ・知らない方が来て、すんなり受け入れることが出来ないと思う ・今は必要ないが、必要な時は受け入れたい ・今のところ、特にない ・今は必要ない ・特になし ・まだ小さい子なので、よくわからない ・まだ家族や訪看のサポートがあるため、今後何が必要かわからない ・必要にならないとわからない ・わからない（2件）

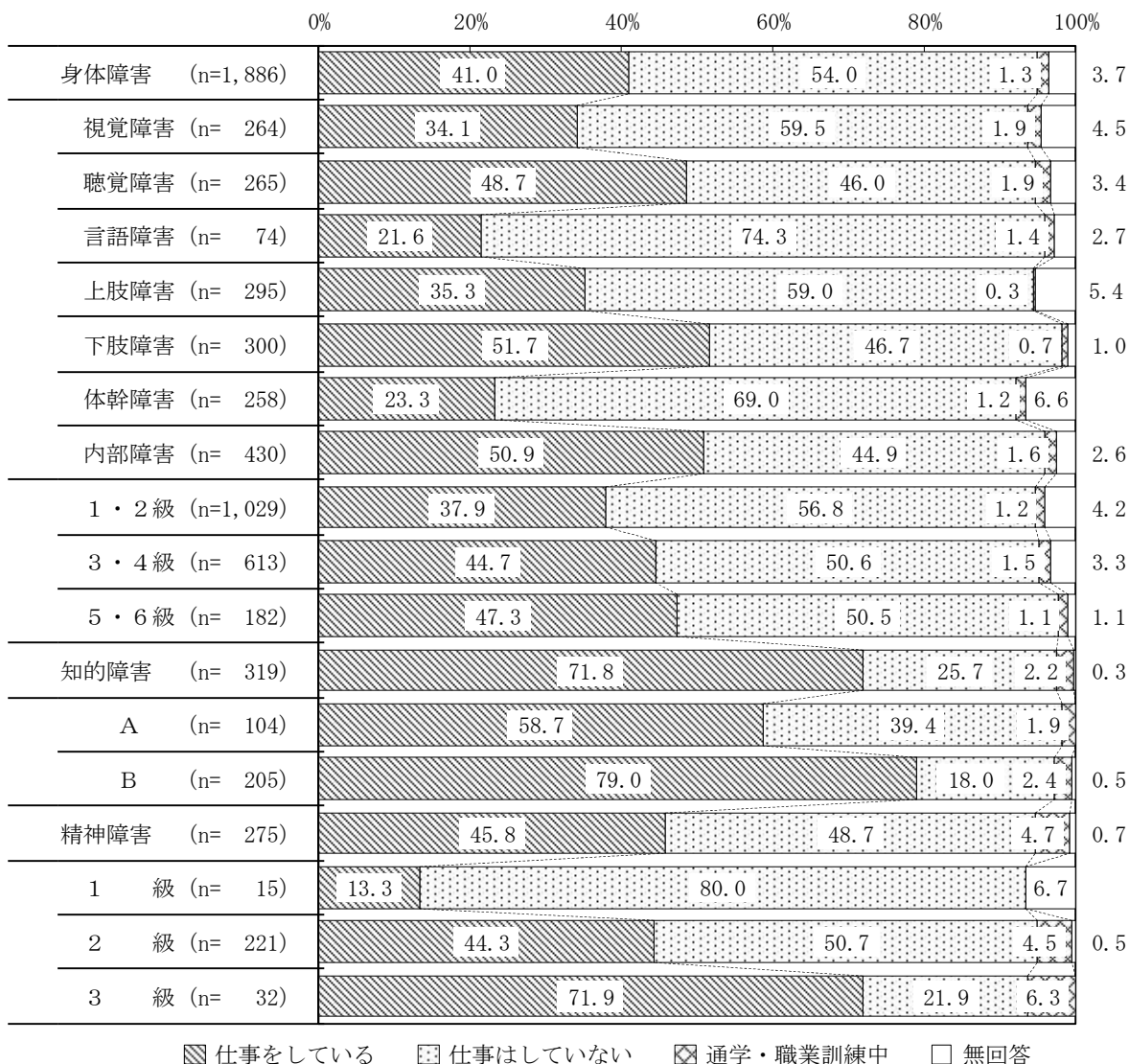
Ⅱ 働 く

1 就労状況

(1) 就労の有無

「仕事をしている（就労移行支援・就労継続支援（A型・B型）・作業所などを含む）」が50%以上ある障害の種類は、知的障害のある人（71.8%）、下肢に障害のある人（51.7%）および内部障害のある人（50.9%）です。「仕事をしている」には就労継続支援や作業所などを含んでいるので、福祉的就労を除いた障害のある人の就業率はかなり低いと考えられます。

図表2-66 就労状況

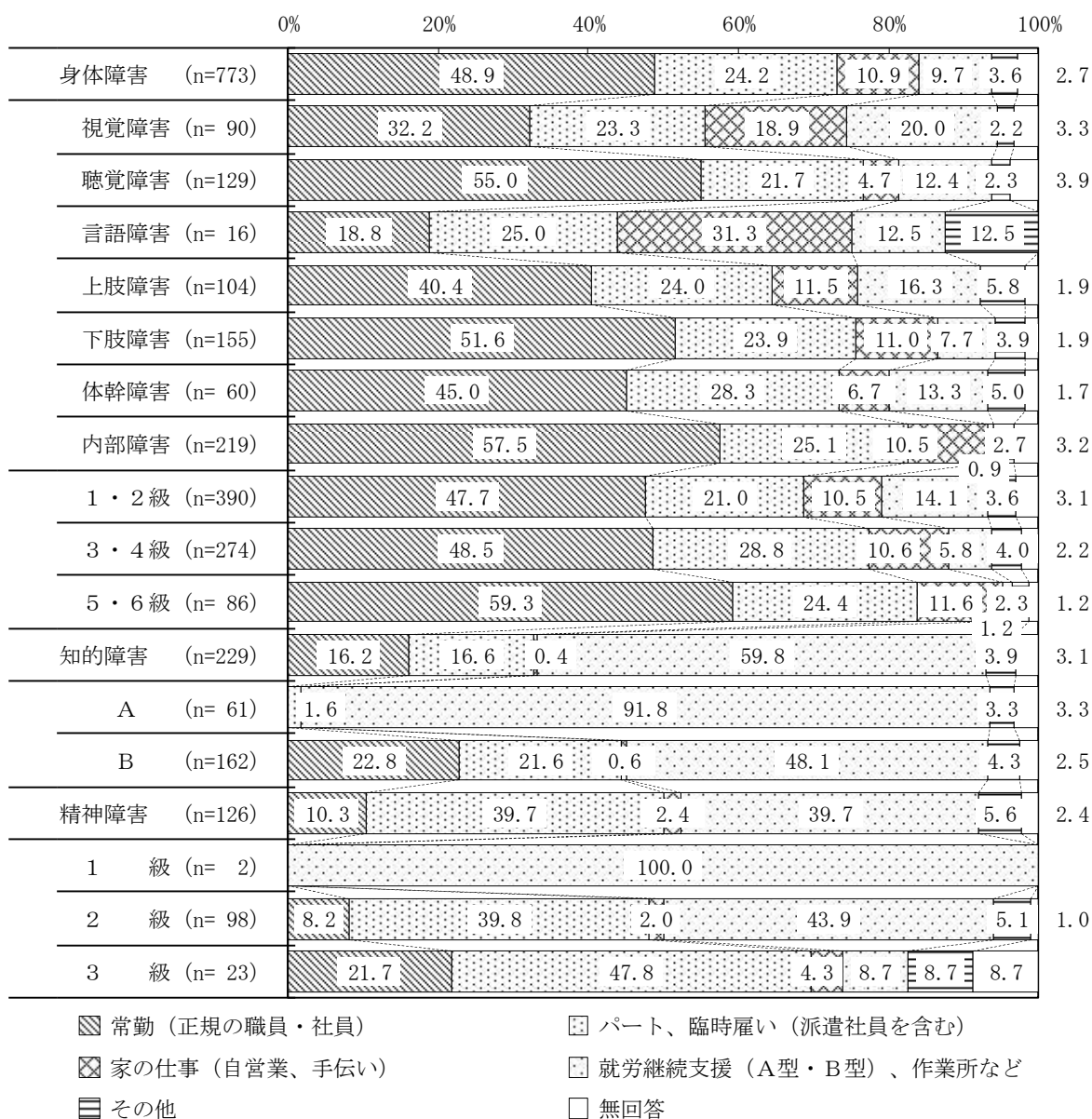


(2) 勤務形態

就労している人の勤務形態は、図表2-67のとおりです。身体に障害のある人全体では「常勤」が48.9%ですが、視覚に障害のある人および言語障害のある人の「常勤」が低くなっています。「就労継続支援（A型・B型）、作業所など」は、知的障害のある人が59.8%、精神に障害のある人が39.7%と高くなっています。

「その他」として、「契約社員」（9件）、「嘱託社員」（4件）、「会計年度任用職員」（4件）、「準社員」（2件）、「会社役員」、「個人事業主」、「在宅」、「非常勤職員」、「作家」、「アルバイト」、「休職中」、「無職」などの記述がありました。

図表2-67 就労している人の勤務形態

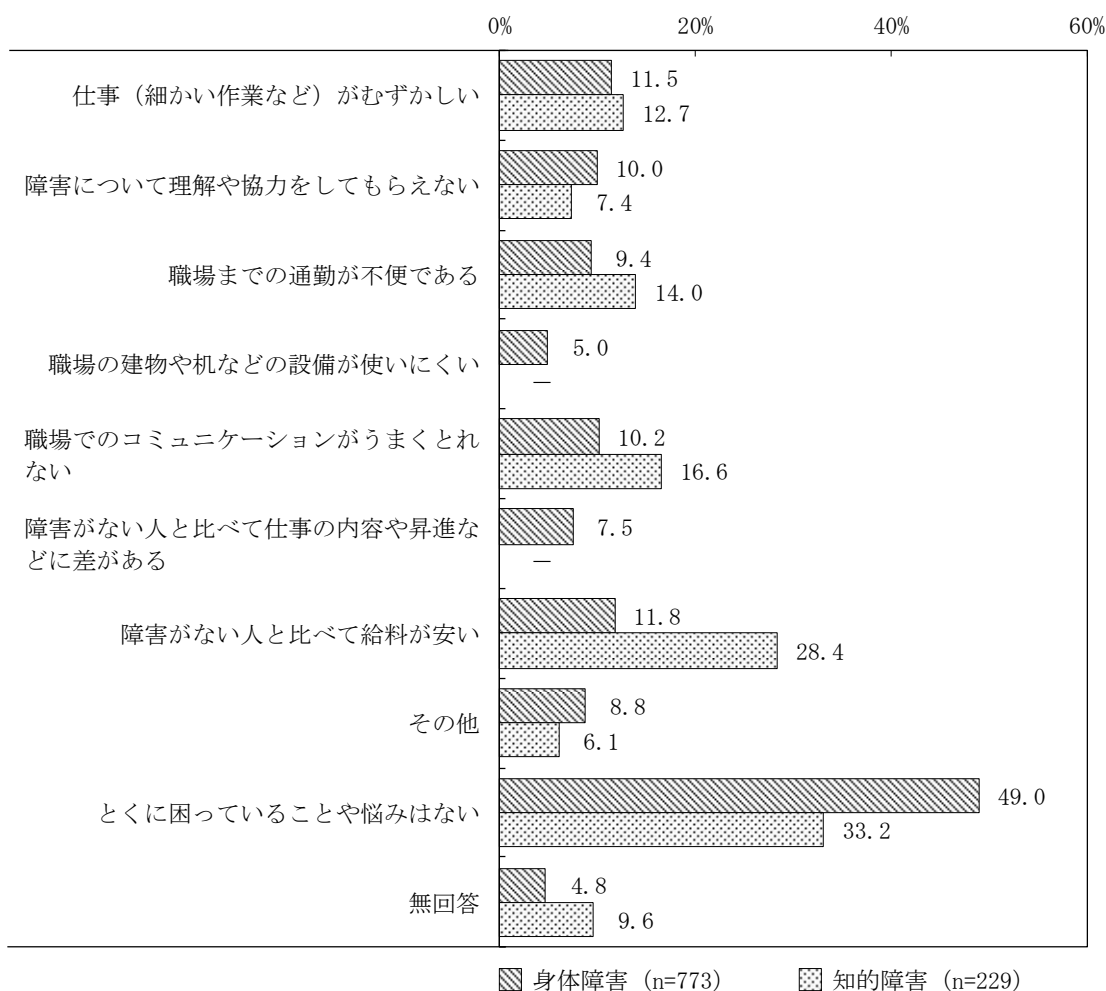


(3) 仕事の悩みや困っていること

仕事の悩みや困っていることとして20%以上の人あげているのは、身体に障害のある人にはなく、知的障害のある人の「給料が少ない」(28.4%)、精神に障害のある人の「賃金が少ない」(38.9%)、「病気であることを話せない」(21.4%) および「職場でのコミュニケーションがうまくとれない」(21.4%) の4項目です。「とくに困っていることや悩みはない」は、身体に障害のある人が49.0%、知的障害のある人が33.2%、精神に障害のある人が23.0%です(図表2-68・図表2-69)。

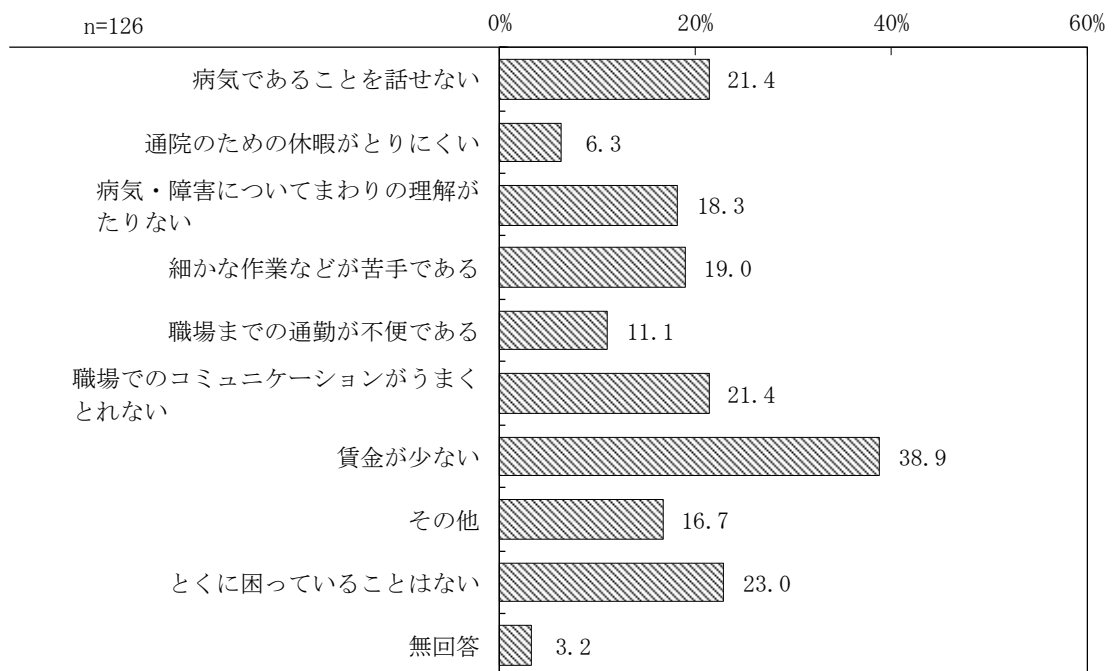
「その他」として、図表2-70の記述がありました。

図表2-68 仕事の悩みや困っていること(複数回答)



(注) 知的障害のある人は、「障害がない人と比べて給料が安い」を「給料が少ない」と読み替える。

図表2-69 仕事の悩みや困っていること（複数回答・精神に障害のある人）



図表2-70 仕事の悩みや困っていることの「その他」

区分	内容
身体障害	<ul style="list-style-type: none"> 収入が少ない、いつまでもできない 給料が安い 障害が理由で正社員になれない。社員と同じに働けないなら（同じことができないなら）ダメと言われた。 障害がない人と同等の業務を任される 障害があることを言えない。首になるかもしれない。
	<ul style="list-style-type: none"> 自営業をしているが、仕事で移動する際、同行援護が使えない。 近所の交差点が少々使いにくいので、現在警察や県庁、市役所に相談し、徐々に修繕していただいておりますが、まだまだ不十分です。
身体障害	<ul style="list-style-type: none"> 少し前までは会社の人とのコミュニケーションが上手いかず、長い間悩んでいましたが、現在は話し合い、少しずつですが解決に向けて努力しているところです。 仕事の電話の応対が難聴により上手いかなことがある、補聴器を使用している。 情報保障がない、特に会議 電話、タイマーの音が聞こえない 手話通訳派遣制度の利用に制限がある（主に予算上の理由） 研修などあっても十分に参加できない。振られる仕事がつまらない分野。
	<ul style="list-style-type: none"> 60歳を過ぎると急に給料が安くなり、働ける職種も限られてくる。65歳以上ではもったです。60歳以上の働く環境と収入をもっとよくしないと人生100年時代には対応していないと思う。 クラッシャー上司に対する信頼が持てない。給料に不満。 神谷内～疋田・疋田東へのバスの便が少ない 膝が痛い 腰やひざに痛みがある わからない

第2部 障害のある人

区 分		内 容	
身 体 障 害	上肢障害	<ul style="list-style-type: none"> ・寒い場所での作業をするとき、筋肉がこわばる ・物を持ち上げることが難しいことがある ・力仕事は痛みを伴いキツイことが多い ・重たいものを持つのが難しい ・疲れやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の能力が出し切れていない気がする ・障害がないときと比べて、お客さんを探しにくい ・ボーナスがない ・差別がある
	下肢障害	<ul style="list-style-type: none"> ・移動する際に車しかなく、乗り降りが面倒 ・雪が降ったときに通勤が困難 ・足が悪いので雪が降ったら困る ・階段での移動が基本であり、身体障害者には辛いことがある ・2Fで仕事をしているので、階段の上り下りがつらい ・7階建てで、トイレ個室17のうち、洋式が4しかない。健常者も使用しているのでなかなか空かない。競争率が激しい。 ・ハード面で困難な面が多い。車いす利用のため ・営業で歩く、探す仕事に長時間あまり歩けない。30~50mの間で休まないと歩けない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・肉体労働（物の移動）などで困難なことがある ・病気のため、長く仕事ができない。集中力、忍耐力が続かない。 ・仕事はしたいけど、年がたっていて使ってくれるところがない ・障害者雇用数を調整するため本来雇用されるべき会社（業務している会社）ではなく、特例子会社でもないグループ会社に雇用されている。（その会社はその業務内容を有しない） ・国立大学卒業の高学歴だからと過剰な作業量が割り当てられること ・上司よりパワハラを受けました ・周りが騒がしい ・内職などの軽作業が激減 ・できない
	体幹障害	<ul style="list-style-type: none"> ・重いものが持てない、持って歩けない。 ・字を書くとき、枠の中に納まらず提出物は代筆が必要。この部分は妻が代筆。言葉で相手にうまく伝えられないことがある。 ・雪が降ったら歩行が困難 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業所には様々な障害を持った人がいるので、どこまで注意したり、どういふことを言ったらいいかわからない。 ・うつ病のときに対応が遅れる ・寝たきりです
	内部障害	<ul style="list-style-type: none"> ・病院（透析）の日に仕事ができない ・力仕事、電気系の仕事ができない ・たまに肉体労働的なことも必要に応じてやらざるを得ない ・体力面での不安を感じている ・疲れやすい ・気のせい、長時間の立ち仕事が疲れやすくなっています ・お手洗い回数が多い ・周囲に気を使わせているのではないかと思うことがある ・直接の仕事場以外の理解がない ・見える障害の方が偉い 	<ul style="list-style-type: none"> ・正規にはなれない ・障害があっても、配慮がまったくされていない。採用時は、再雇用でなく、就業途中で身体障害となり、手帳も提出しているが、比較的病状が安定していた前職場（部署）から配置を変えさせられた。 ・正規の方と比べて、派遣社員の時間給（給料）が低い ・収入が少ない ・障害がない人との考慮がない ・家族と働いているが、家族が高齢なこと ・定年後の仕事

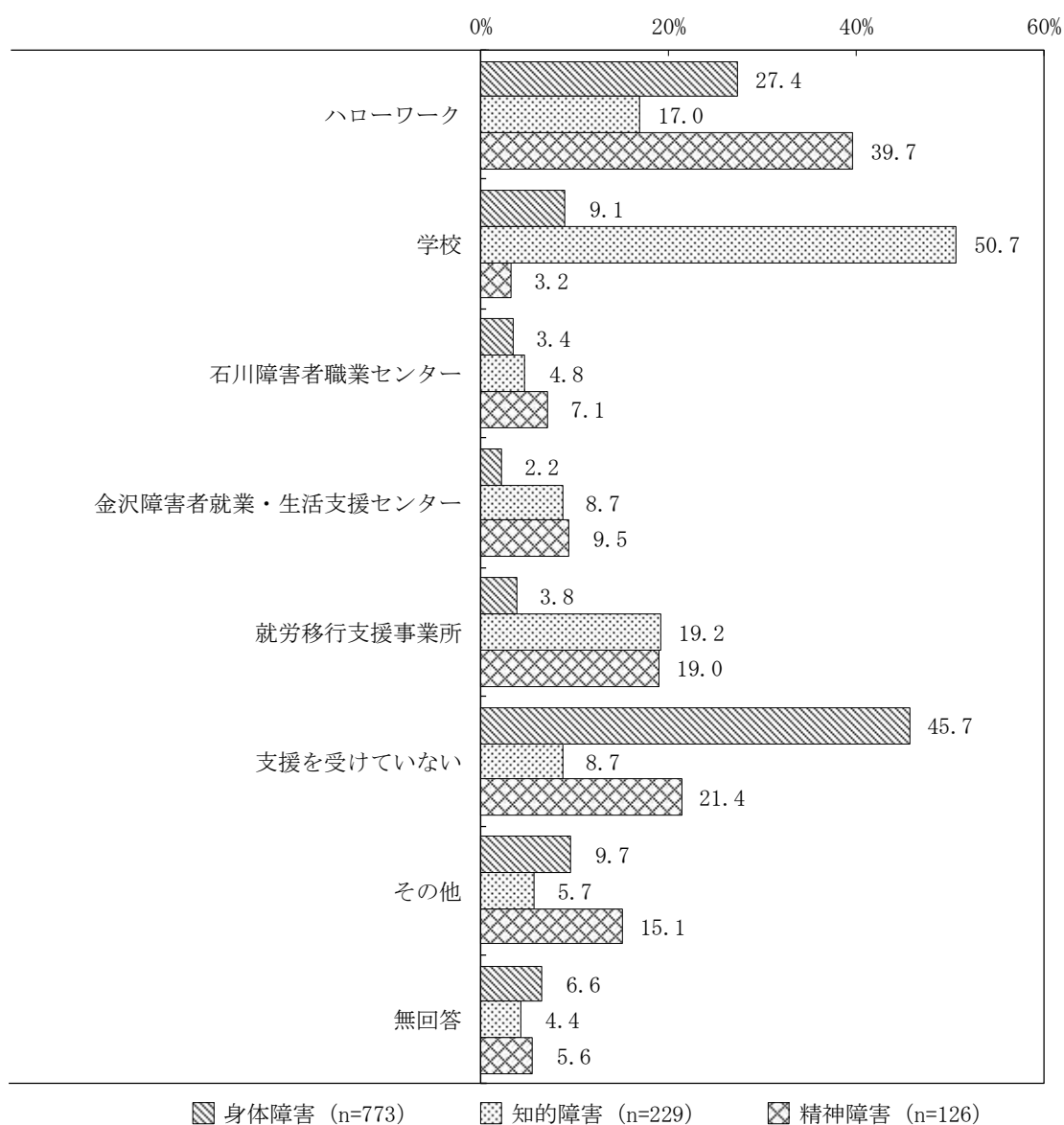
区 分	内 容	
知的障害	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仕事内容についていくことが難しい ・ 注意された時に固まってしまう ・ こだわりが強い ・ 外での仕事なので、夏場や冬場はきつい ・ 心臓が悪く、その日の体調で仕事に行けない ・ 作業所が請け負っている仕事が少ない ・ B型作業所へいつまで通えるか心配 ・ スタッフ、職員が退職して、少ない。継続できるのか、これからが不安。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 冬季雪の季節の通勤が困る ・ 冬だけバス通勤だがバスの本数が少ない ・ 会社の駐車場で接触事故になった時、はぐらかされてしまって、困ったことがあった。自分の仕事分担に大きい変更があり、なかなか慣れなくて、ストレスもある。 ・ 風邪をひいた時、有給にしてもらえない（事前申請のみ） ・ もやもや病の理解がない
精神障害	<ul style="list-style-type: none"> ・ なかなか働けない（行くことはできる） ・ 病状が良くなく、なかなか出勤できない ・ 続けて日数を働くと言えぬ ・ 体調が安定しないことで、継続して働くことが難しい ・ 仕事が長続きしない ・ 体がつらい ・ 疲れやすい（腰痛） ・ うつ状態と診断され、休業していました ・ つらい時につらいと言えない ・ 私にとって仕事内容が多くて、体調を崩しがち ・ 仕事が少なく困っているが、どうしたら良いかわからない ・ 続けての通所が困難 ・ 封筒に紙を入れる作業が苦手である 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分のスケジュール管理ができない。忘れ物が多い。人からの評価が気になる。不真面目な人を見ると、黙ってられない。人から言われたことをくよくよ悩み、眠れない。 ・ 学習障害であることを話すと、雇ってもらえないかもしれないので、本当は自分の特性を話したいが、クビになるかもしれないので、話せないこと。 ・ 障害者枠で働いている同僚が、正社員で簡単な仕事（体力、精神ともに）をさせてもらっている。うらやましい。見ていてつらい。 ・ 一緒に仕事している人たちが、気分がムラがあったりなど、やりにくい時がある。人が足りない。 ・ サービス残業多い。休憩まともには取れない。 ・ 働く時間を増やしたい ・ 音声により集中できない

(4) 就職するときの支援

就労している人に対する「就職するときに、どこの支援を受けましたか」という設問に対して、身体に障害のある人は「ハローワーク」(27.4%)、知的障害のある人は「学校」(50.7%)、精神に障害のある人は「ハローワーク」(39.7%)などが高くなっています。身体に障害のある人の「支援を受けていない」が45.7%と高くなっています(図表2-71)。

その他として、図表2-72の記入がありました。

図表2-71 就職するときの支援(複数回答)



図表2-72 就職するときの支援の「その他」

区 分		内 容	
身 体 障 害	視覚障害	<ul style="list-style-type: none"> ・知人（4件） ・友人の紹介 ・相談員（2件） 	<ul style="list-style-type: none"> ・開業 ・中途視覚障害
	聴覚障害	<ul style="list-style-type: none"> ・知人の紹介 ・石川県聴覚障害者協会 ・国立吉備高原職業リハビリテーションセンター ・ハローワークで探していたが、早期就職の派遣登録で就職した 	<ul style="list-style-type: none"> ・民間の障害者向け人材紹介会社 ・退職後も仕事を続けている ・自営業 ・フリーランス ・わからない
	言語障害	<ul style="list-style-type: none"> ・知人の紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ・所沢国立障害者リハビリテーションセンター
	上肢障害	<ul style="list-style-type: none"> ・知人の紹介 ・友人の紹介 ・昔の先輩 ・母が探した ・自立支援センター 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者職業能力開発校 ・派遣会社 ・紹介業 ・インターネット ・常勤中に障害者になった
	下肢障害	<ul style="list-style-type: none"> ・知人の紹介 ・就労している障害者に紹介された ・相談支援 ・石川障害者職業能力開発校（2件） ・県リハ 	<ul style="list-style-type: none"> ・シルバー人材センター ・金沢大学の就職支援室 ・継続雇用（復帰） ・自営業（3件） ・家の仕事
	体幹障害	<ul style="list-style-type: none"> ・友人 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族
	内部障害	<ul style="list-style-type: none"> ・友人（2件） ・ヘッドハント ・石川県障害者職業訓練校 ・職業訓練校 ・新聞の応募 ・求人チラシ ・求人情報誌 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット ・転職サイト ・民間エージェント ・タイミー ・インディード ・健康な時 ・障害者になる前からの職場
知的障害	<ul style="list-style-type: none"> ・知人を頼り、通所できる所を探した ・親のコネクション ・就労A、相談支援事業所、生活困窮者自立支援制度 ・相談支援員 ・相談支援事業所 ・地域支援センター ・児童入所 	<ul style="list-style-type: none"> ・前の事業所（継続支援事業）の相談支援員外事業所を立ち上げた創業者の方（引退されてる）に現在の悩みを訴え、今通っている事業所はどうかと紹介を受けて、こっちの方が合っていることとなった。 ・自分たちでつくった ・不明（2件） 	

第2部 障害のある人

区 分	内 容
精 神 障 害	<ul style="list-style-type: none">・ 知り合い・ 家族会・ 父・ 石川県ナースセンター・ 病院のソーシャルワーカー・ 病院・ かないわ病院・ 岡部診療所・ 支援員の紹介・ 指定相談支援事業所・ 派遣会社・ インターネットの求人（2件）・ スマホ内のアプリ・ 休職→復職

(5) 仕事による1年間の収入

仕事による1年間の収入は、身体に障害のある人が「200万円以上～500万円未満」、知的障害のある人と精神に障害のある人が「50万円以下」が高くなっています。500万円以上は、身体に障害のある人が13.7%、精神に障害のある人が1.6%いますが、知的障害のある人はいません。

図表2-73 仕事による1年間の収入

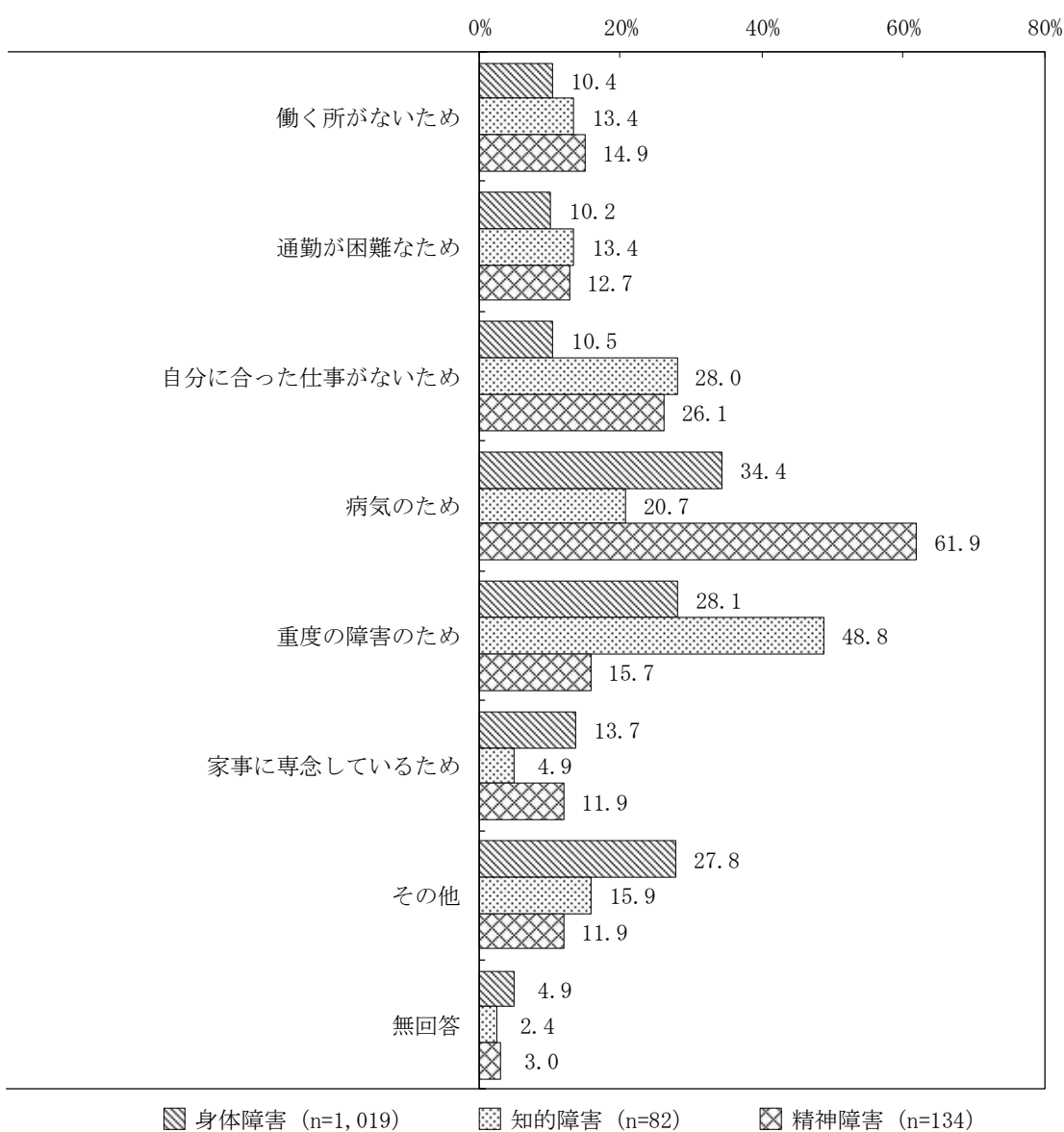


2 働いていない理由

仕事をしていない人の働いていない理由として、身体に障害のある人は「病気のため」(34.4%)、「重度の障害のため」(28.1%)などが、知的障害のある人は「重度の障害のため」(48.8%)、「自分に合った仕事がないため」(28.0%)などが、精神に障害のある人は「病気のため」(61.9%)、「自分に合った仕事がないため」(26.1%)などが高くなっています(図表2-74)。

「その他」として、図表2-75の記述がありました。

図表2-74 働いていない理由(複数回答)



図表2-75 働いていない「その他」の理由

区 分	内 容	
身 体 障 害	視覚障害 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢のため（40件） ・年金生活者（5件） ・身体的老化 ・目が不自由なため ・家族に重病人がいたため、数年前から仕事を辞め家にいた ・両親の介護、看取り後、仕事をやめた・妻の介護のため ・共済年金 	<ul style="list-style-type: none"> ・収入があるため ・運転もできず、免許も取られなくて ・自分にできる仕事があるのかわからないため ・一度リタイヤしているため ・各種教室、家庭菜園、町会等、神社のボランティアで時間が足りない ・一人暮らしのため、家事がやっとなです ・愛犬がいるため
	聴覚障害 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢のため（34件） ・年金生活（2件） ・定年退職（2件） ・体力 ・身体機能の低下 ・難聴と腰痛のため ・腰痛 	<ul style="list-style-type: none"> ・投資である程度生活できる ・長男と同居 ・職場が見当たらないため ・休職中 ・自営業をやめた ・働きたくない ・施設に入所しているため
	言語障害 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢のため（14件） ・年金生活 ・定年 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションしづらい ・障害のある息子の介護 ・ボランティアをしている
	上肢障害 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢のため（8件） ・入院中（2件） ・半身麻痺のため（2件） ・定年退職 ・長時間続かない 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者と住んでいる ・仕事をする必要がない、年金で十分 ・就職活動中 ・休職中 ・働く必要がない
	下肢障害 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢のため（10件） ・定年退職（3件） ・年金で生活（2件） ・引退 ・体力がなくなった ・ケガ ・歩行困難 ・車いす生活のため ・軽度の障害のため ・人との付き合いに疲れたため 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在行動中 ・求職中 ・自営業 ・子どもも障害があり、自分もリハビリ毎週病院のため ・病院に入院しているため ・ドクターストップのため ・施設に入居しているため ・する気がない

第2部 障害のある人

身 体 障 害	体幹障害	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢のため（26件） ・年金生活者（2件） ・退職（2件） ・定年 ・障害 ・歩行困難のため ・疲れて ・疲れやすいため家事と仕事の両立が難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の体の状態（障害）のできる仕事の情報を得る機会やロールモデルがないため ・妻が経営代行 ・子育て ・入院中 ・寝たきりです ・トイレ
	内部障害	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢のため（16件） ・年金暮らし（2件） ・定年退職したため（2件） ・年齢的（2件） ・退職後 ・高齢者で仕事できない ・体力がないため ・働くほど動けない ・年齢的にも体力的にも働けない 	<ul style="list-style-type: none"> ・排便のコントロールが難しい ・金銭的に問題（不自由さ）はないため ・働かなくても生活できる ・自分の体力にも心配な所があるのと、現在、何とか生活できているから。 ・親の介助（介護）をしているため ・七尾市実家解体や、5月に転入したばかりで、多忙なので ・無職 ・入院中
	知的障害	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢のため（2件） ・年だから ・年齢のため ・高齢者 ・人間関係 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活介護で通所しているため ・生活介護 ・一度B型の事業所へ通所しましたが、続けることが困難でした ・外で働く能力なし ・失業した
	精神障害	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢のため（2件） ・高齢者 ・年のため ・腰のオペを2回しているため、10kgを超える物が持てないため ・知的障害あり。自立歩行、立ち上がりすらできない。寝返りもできない。胃ろう。 ・高齢及び障害のため ・人間関係 	<ul style="list-style-type: none"> ・B型を辞めさせられた ・現在、新しいB型就労をされる人に声をかけてもらっているので、待機中。以前は、デイケアへ行っていました。 ・現在の収入で十分暮らしていけるため ・引っ越しのため ・趣味に没頭 ・休職中 ・探し中

3 就労意向

(1) 今後、働きたいか

働いていない人に就労意向をたずねたところ、身体に障害のある人は「働きたくない・働く必要がない」、知的障害のある人が「わからない」、精神に障害のある人は「働きたいが、自分の身体状況などを考えるとむずかしい」が最も高くなっています。「働きたい」は、知的障害のある人が17.1%、精神に障害のある人が13.4%、身体に障害のある人が9.2%です。

図表2-76 今後、働きたいか

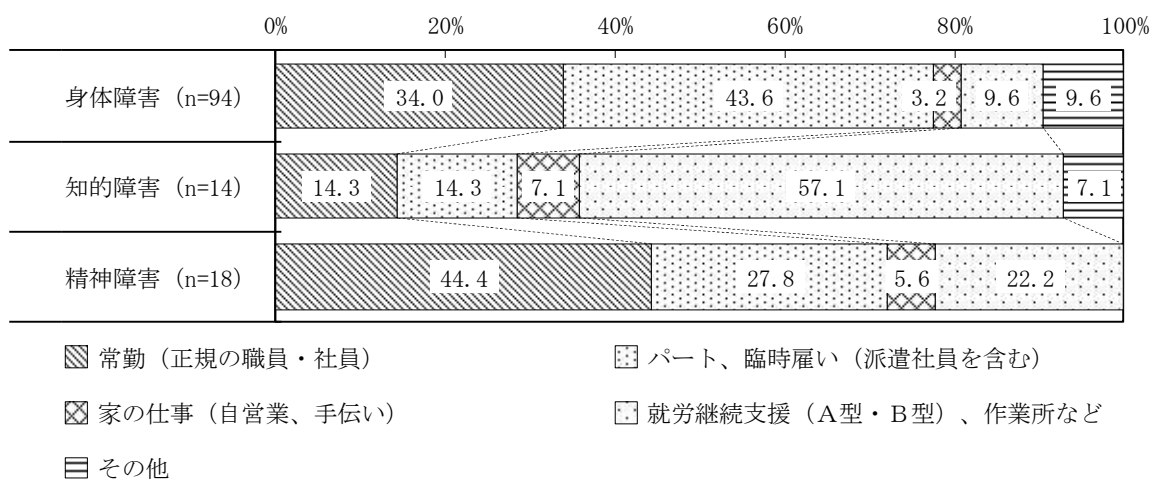


(2) 希望勤務形態

就労していない人で「働きたい」と答えた人に、その希望勤務形態を聞いたところ、身体に障害のある人は、「パート、臨時雇い（派遣社員を含む）」が最も高く、次いで「常勤（正規の職員・社員）」となっています。知的障害のある人は「就労継続支援（A型・B型）、作業所など」が50%以上を占め、精神に障害のある人は「常勤（正規の職員・社員）」が最も高く、次いで「パート、臨時雇い（派遣社員を含む）」となっています。

「その他」として、「体力に合った仕事」、「できれば家にてオンライン等で」、「雇用形態は問いません」、「わからない」などの記述がありました。

図表2-77 希望勤務形態



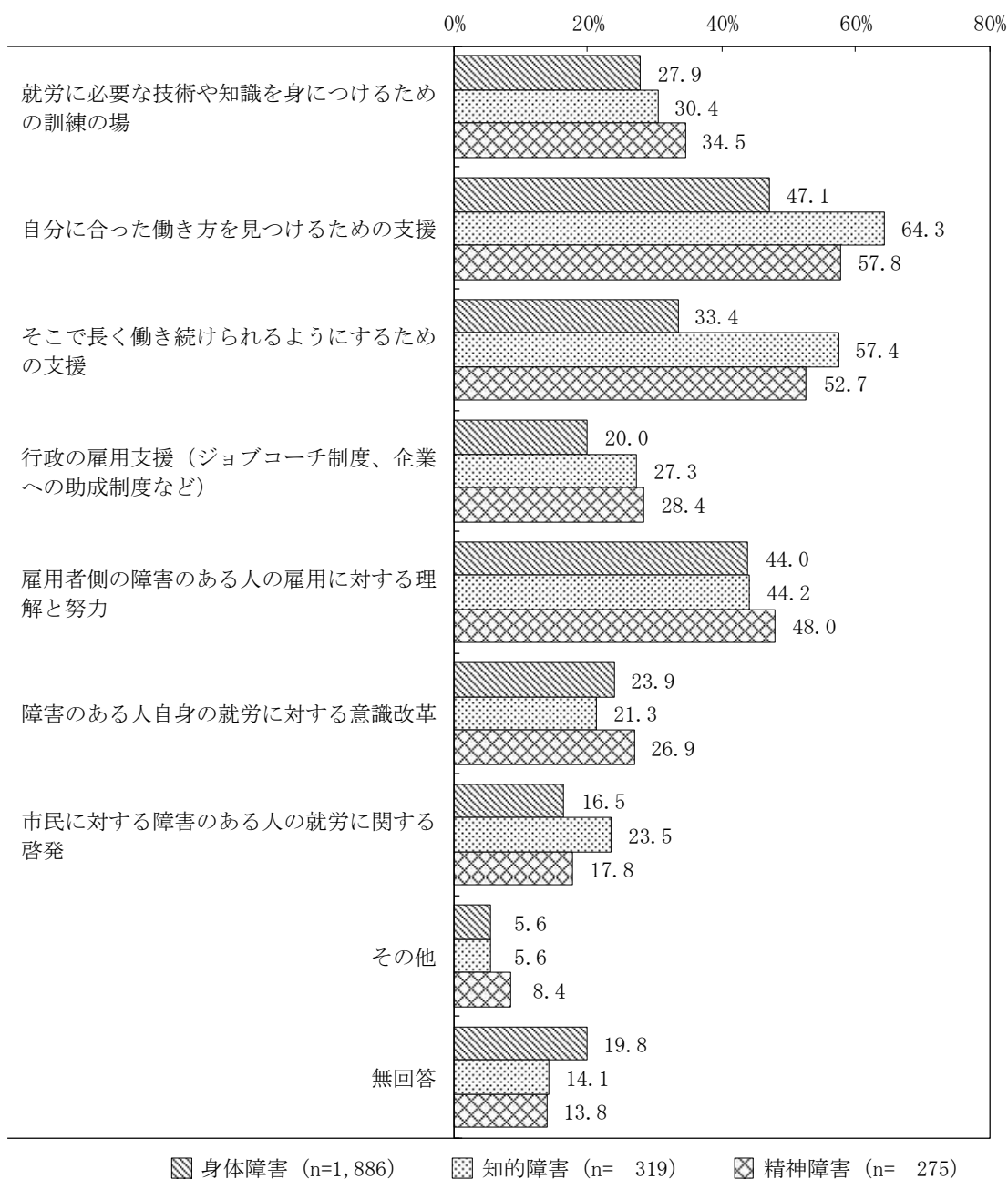
4 就労促進のために必要なこと

「障害のある人の就労を促進するため、何が必要と考えますか」という設問に対しては、「自分に合った働き方を見つけるための支援」、「そこで長く働き続けられるようにするための支援」、「雇用者側の障害のある人の雇用に対する理解と努力」が、いずれの障害も30%を超えて高くなっています（図表2-78）。

障害の等級別にみると、「雇用者側の障害のある人の雇用に対する理解と努力」は、知的障害のある人のB、精神に障害のある人の3級で特に高くなっています（図表2-79）。

「その他」として、図表2-80の記述がありました。

図表2-78 障害のある人の就労促進に必要なこと（複数回答）



第2部 障害のある人

図表2-79 障害のある人の就労促進に必要なこと（複数回答、身体障害・等級別）単位：回答数は人、他は%

区分	回答数	就労に必要な技術や知識を身につけるための訓練の場	自分に合った働き方を見つけるための支援	そこで長く働き続けられるようにするための支援	行政の雇用支援（ジョブコーチ制度、企業への助成制度など）	雇用者側の障害のある人の雇用に対する理解と努力	障害のある人自身の就労に対する意識改革	市民に対する障害のある人の就労に関する啓発	その他	無回答
身体障害	1,886	27.9	47.1	33.4	20.0	44.0	23.9	16.5	5.6	19.8
視覚障害	264	33.7	40.2	29.2	23.5	39.8	22.7	19.3	6.1	22.7
聴覚障害	265	27.2	40.0	34.3	17.4	40.8	22.6	14.7	4.5	29.8
言語障害	74	23.0	35.1	28.4	17.6	36.5	20.3	9.5	5.4	25.7
上肢障害	295	22.0	50.5	29.8	21.0	47.8	23.4	16.9	5.8	18.6
下肢障害	300	32.7	56.0	38.0	23.0	47.7	27.3	15.3	7.3	13.3
体幹障害	258	27.1	40.3	27.1	18.2	41.9	22.5	18.2	7.0	26.7
内部障害	430	27.0	53.3	39.3	18.4	46.0	24.7	16.5	3.7	12.1
1・2級	1,029	28.2	45.4	33.7	20.3	43.9	22.8	18.2	6.1	19.6
3・4級	613	27.6	49.9	34.4	20.4	45.0	24.8	15.7	4.9	18.4
5・6級	182	31.3	47.8	33.5	19.2	42.9	28.0	11.0	4.4	20.9
知的障害	30.4	64.3	57.4	27.3	44.2	21.3	23.5	5.6	14.1	30.4
A	104	26.0	59.6	46.2	13.5	25.0	12.5	26.9	5.8	19.2
B	205	33.7	67.8	64.4	34.1	54.6	26.8	22.9	5.4	10.7
精神障害	275	34.5	57.8	52.7	28.4	48.0	26.9	17.8	8.4	13.8
1級	15	26.7	40.0	33.3	26.7	33.3	6.7	26.7	6.7	40.0
2級	221	36.7	60.2	53.4	29.4	47.1	28.5	16.7	8.6	11.3
3級	32	25.0	46.9	62.5	25.0	65.6	28.1	21.9	9.4	15.6

図表2-80 就労促進のために必要な「その他」のこと

区 分	内 容		
身 体 障 害	視覚障害	<ul style="list-style-type: none"> ・ わからない（2件） ・ 通勤手段の確保、拡充 ・ 通勤への配慮、サポート ・ 運転の条件や視覚の支援や制限のない支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害別で仕事がないことが多い ・ 就労できないのでわからない ・ 考えが浮かばない ・ なし
	聴覚障害	<ul style="list-style-type: none"> ・ わからない（2件） ・ 手話通訳派遣制度に関する予算枠の拡充 ・ 社会環境の物理的な向上。何事も音声文字変換する機器など当たり前利用できるなど案内がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職場で孤立しないような環境 ・ 就労に必要なマナー、礼儀を身につける ・ 自宅での簡単なアルバイト
	言語障害	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年齢 	
	上肢障害	<ul style="list-style-type: none"> ・ わからない（3件） ・ 通勤補助、タクシー代（2件） ・ 通勤が難しい。行くだけで体力を消耗してしまい、すべてにおいて時間を要するため、どうしたらいいかわからない。でも収入がないのがこの先怖い。 ・ 働けなくなった人への経済的援助 ・ 障害者だからとおさえつけるのではなく、説明してほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仕事は無理 ・ 重度のため就労は無理 ・ 高齢のため ・ 一般的な意見として印をつけましたが、本人は重度障害で胃ろう、オムツを利用している寝たきりの者です。認知能力も全くありません。この質問がどう本人のためになるのかよくわかりません。 ・ 脳に障害のある人には質問が難しすぎる ・ 質問の内容がよく理解できない
	下肢障害	<ul style="list-style-type: none"> ・ わからない（2件） ・ 通勤の移動支援 ・ 楽な移動、車いすごと乗れる車 ・ 車の運転がしたい人に対する支援。教習所に入ってスムーズに学習して免許を取れるような仕組みなど必要と思います。金銭などの助成金ではなく、移動手段を得るための支援です。 ・ 障害者が働きやすい環境づくり。バリアフリートイレ、エレベーター対応、段差、移動の利便性 ・ 職場のトイレや施設の充実 ・ トイレが切実。和式や狭いところは使用できないので、それが原因の一つで離職しました。 ・ バリアフリー、エレベーターの設備を整えること ・ 一緒に働く人の理解 ・ 病気のことを理解してもらいたい ・ 親の理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害のある人の人権を守る法律・条令の制定 ・ 障害以前より大きく収入が減ったため、障害者手当 ・ 立ち作業不可、軽作業だと仕事がないに等しい。収入を得たく働きたいと面接を受けるが、不採用が続き気力が低下する。何が必要なか教えてほしいほどです。 ・ 以前A型で働いていました。施設外での就労が多くワゴン車に乗せられていました。施設外での就労を減らしてほしい。 ・ 3障害の区分けと当事者の会議、ぴあディスカッション ・ 年齢も年齢だし、60歳頃からの大手術を経ているので、仕事どころではないです ・ 働けない ・ 寝たきりでできない ・ クリエイティブ

第2部 障害のある人

区 分		内 容	
身 体 障 害	体幹障害	<ul style="list-style-type: none"> ・わからない（2件） ・行政が直接障害者との意見交換 ・本人と国と雇用者の意識が低く、制度が整っていない ・国が強制的に企業に障害者を雇用するようにする仕組みと個人への保証 ・いろいろありますが、社会全体の問題、意識改革が必要 ・支援そして理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・根性 ・人の手を借りて自分自身が生きるよりも、自分で対応できる毎日を希望するが、対応に必要な浴室の用具等、外出用の電動カートが手元があれば、外出を多くして世の中の「今」を見たいです。 ・働くことができる体になること ・身体が悪いので無理です ・家事手伝い
	内部障害	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者が従事できる業務の把握及び配置 ・障害に見合った職業選択肢の拡大 ・通勤等の支援、バリアフリー建築 ・車の2種免許（タクシー）を持っていましたが、年齢的なものと、不況の中で売り上げ確保が困難なため、免許証を返しました。ところが、それに代わる仕事がなかなか見つからず、現在に至る。免許証を持っていれば、すぐにも仕事があり、収入も得られたはずで、免許証の復活、再交付の制度でもあれば…。 	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレが近くにある職場 ・個性を受け入れる意識醸成 ・差別意識 ・就労しないと生きていけないネガティブループがもううんざり ・重度の障害、病気のため、働くことができない ・高齢のため、病は全身にあり ・該当なし
知 的 障 害		<ul style="list-style-type: none"> ・わからない（4件） ・その障害者個人の特性と、それを活かせる企業、職種のマッチング。人不足と言われている業種の中には、障害者の力が活かせる仕事があると思う。 ・健常者への障害特性への理解推進、及び健常者が障害者支援を過度な優遇と感じて、反発を覚えないような健常者への十分な配慮。 ・障害者同士、談話できる機会とか、時間、場所があれば…。その会社内だと、定着できる。 ・小学校や中学校で、障害者に関する情報が必要かと思う。 ・選択の場が広がるよう（マッチングできるよう）、学校内での就労実習を多くできる取り組みを願っています。 ・健常者と同等の給料 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園などの掃除（落葉など）、それを再利用して、腐葉土作りなどの仕事にしていく場所と資金補助など。 ・病気の理解をしてほしいです。A型就労でも、病院に通えるように配慮してほしい。 ・就労先の職員の方が離職しないような行政の支援が必要と思います。 ・まず、職員への処遇改善。まず安心して、職員が働いてくれて、初めて我々も支えてもらえる。 ・自分の障害に対する理解が必要。興奮した時の対処の仕方、一方的に叱るのではなく、気持ちを静められる対処がほしいです。 ・本人は、考えたことがないと言っています

区 分	内 容	
精 神 障 害	<ul style="list-style-type: none"> ・わからない（3件） ・精神障害への偏見をなくすこと ・障害者に対する公平性を持って接すること ・周りの理解があること ・思いやりの心と理解 ・収入の増加 ・賃金、生活が苦しくならない程度はほしい ・金銭的サポート ・企業も大変。固定費と物価が高すぎるから、生活費がたくさんかかると思う。無理なく働いて暮らせる就労先と仕組みが必要だと思う。 ・リモートワークの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・人に会うのが怖いので、対面以外で就業訓練や仕事の斡旋があれば、助かる気がする。 ・資格の特性を生かせる仕事内容、職業の幅 ・手続きが簡単で何か所で働いてもまとめてくれて、確定申告や書類の書き方等相談できる場所がほしい。 ・病気でそれどころではない。生きてるので精一杯。 ・重度の障害（病気のため）働けません ・諸々 ・まだ考えられない ・特になし

Ⅲ 得 る

1 生活費

「何により生活費を得ていますか」という設問に対しては、「就労（給料・自営業）」「障害年金」「家族による扶養」などが高くなっています。身体に障害のある人は「就労（給料・自営業）」、知的障害のある人と精神に障害のある人は「障害年金」が最も高くなっています。

「その他」として、「不動産収入」（7件）、「傷病手当金」（7件）、「雇用保険」（4件）、「配当、分配金」、「家族の年金」、「民間の介護保険」などの記述がありました。

図表2-81 生活費（複数回答）

単位：回答数は人、他は%

区 分	回 答 数	就 労 （ 給 料 ・ 自 営 業 ）	預 金 ・ 貯 金	家 族 に よ る 扶 養	障 害 年 金	障 害 年 金 以 外 の 年 金	特 別 障 害 者 手 当	生 活 保 護	そ の 他	無 回 答
身 体 障 害	1,886	37.3	16.8	20.1	34.4	29.3	2.1	3.6	2.1	3.0
視覚障害	264	29.2	17.0	14.8	44.7	36.7	1.1	3.4	1.1	3.4
聴覚障害	265	46.4	19.2	11.7	37.4	34.7	1.5	0.8	1.5	2.3
言語障害	74	18.9	18.9	9.5	14.9	56.8	0.0	6.8	1.4	2.7
上肢障害	295	30.2	11.9	29.8	48.8	17.6	4.7	5.4	3.1	3.7
下肢障害	300	48.3	14.7	24.0	31.0	18.3	3.0	3.7	2.0	1.7
体幹障害	258	21.3	23.3	19.8	31.4	43.4	3.5	4.3	3.5	3.5
内部障害	430	46.5	15.8	21.2	23.7	23.7	0.2	3.0	1.6	3.3
1・2級	1,029	34.4	16.2	21.6	51.4	24.5	3.8	3.3	1.7	2.3
3・4級	613	41.9	16.3	19.6	16.8	34.3	0.0	4.4	2.0	1.8
5・6級	182	46.2	19.8	16.5	6.0	36.8	0.5	2.2	3.3	1.6
知 的 障 害	319	49.8	6.6	43.9	75.9	2.2	6.6	2.2	1.6	0.9
A	104	25.0	2.9	52.9	87.5	1.0	17.3	1.0	1.9	0.0
B	205	63.4	8.8	40.0	70.7	2.4	1.5	2.9	1.0	0.5
精 神 障 害	275	34.5	15.3	29.8	65.1	8.7	0.7	14.2	2.2	1.1
1 級	15	0.0	13.3	46.7	80.0	20.0	6.7	0.0	0.0	6.7
2 級	221	33.9	14.9	29.0	70.1	7.2	0.5	16.7	2.7	0.0
3 級	32	62.5	21.9	21.9	34.4	9.4	0.0	3.1	0.0	3.1

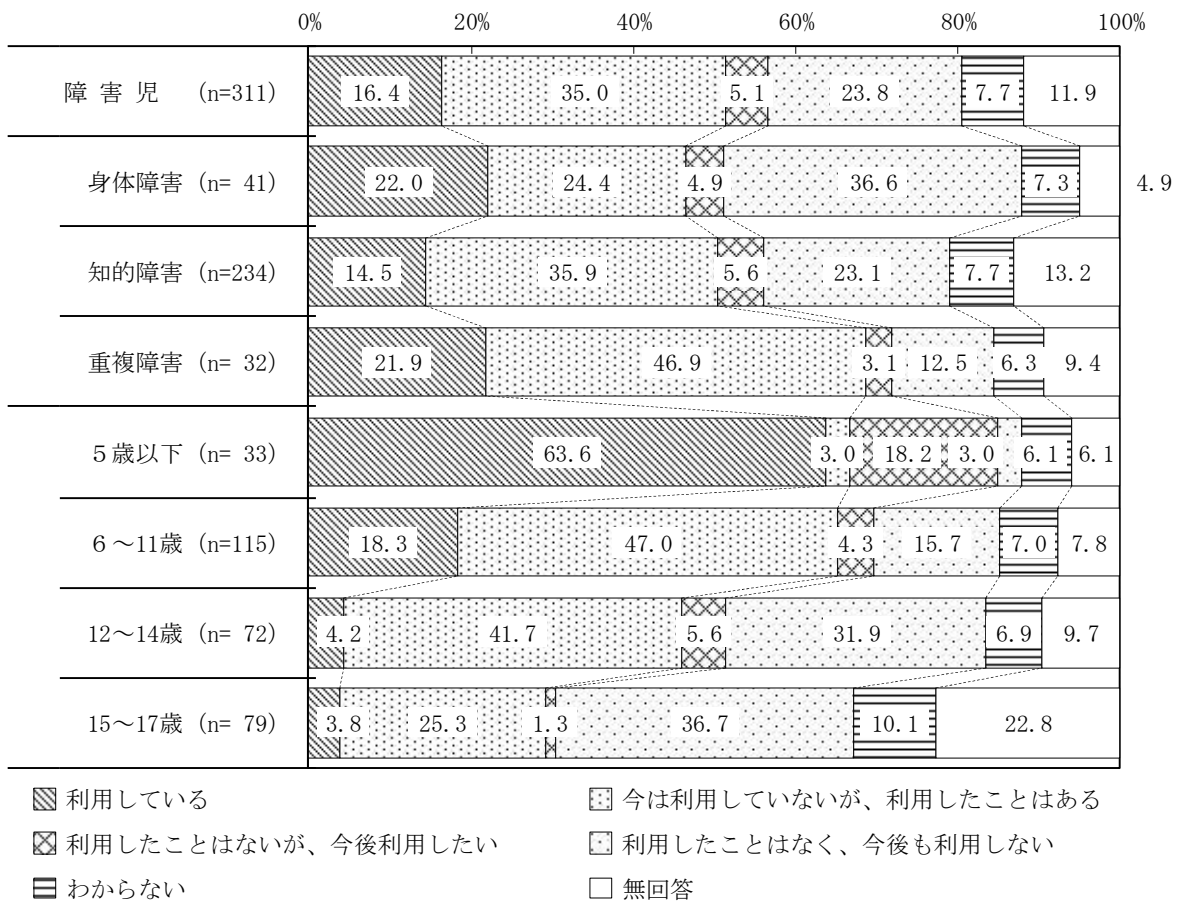
IV 豊かに育つ

1 早期療育

(1) 児童発達支援

主に未就学の障害のある児童やその家族が通所により、日常生活における基本的な動作の指導や集団生活への適応訓練などを受ける児童発達支援は、5歳以下の「利用している」が63.6%を占めています。5歳以下の「利用したことはないが、今後利用したい」は18.2%です。

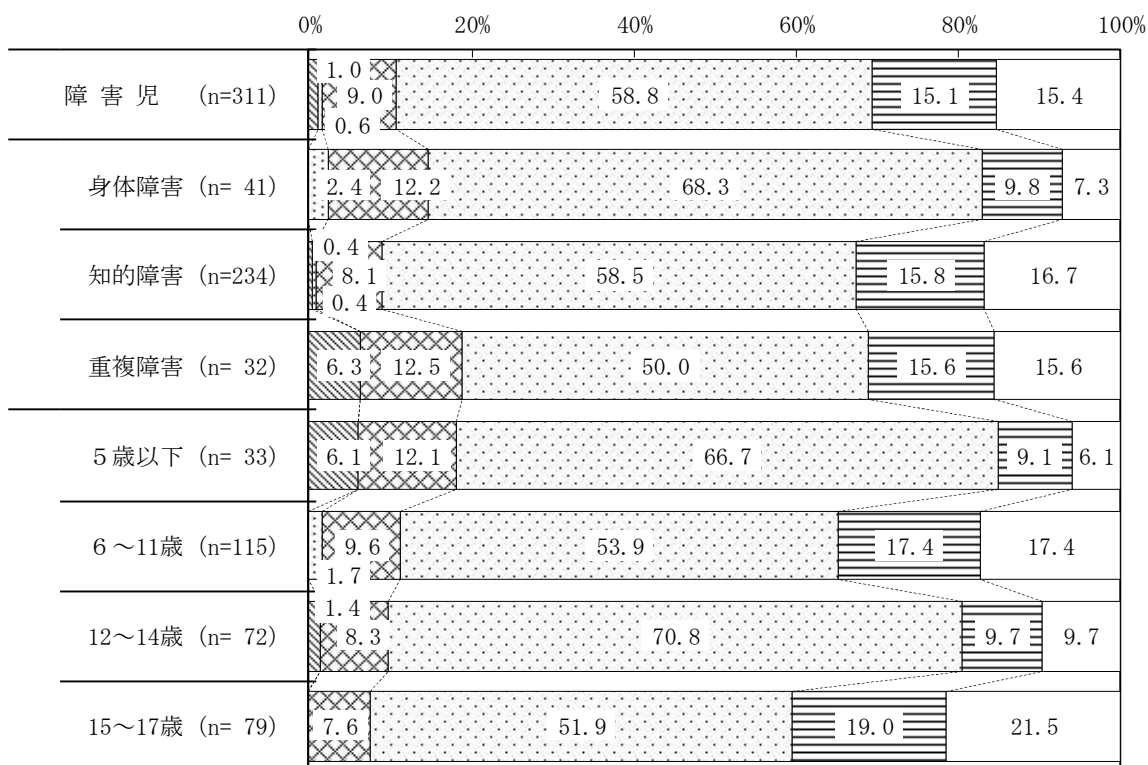
図表2-82 児童発達支援の利用状況と利用意向（障害のある児童）



(2) 居宅訪問型児童発達支援

主に未就学の障害のある児童が自宅で日常生活における基本的な動作の指導や適応訓練などを受ける居宅訪問型児童発達支援は、5歳以下の「利用している」が6.1%となっており、「利用したことはないが、今後利用したい」は12.1%です。

図表2-83 居宅訪問型児童発達支援の利用状況と利用意向（障害のある児童）

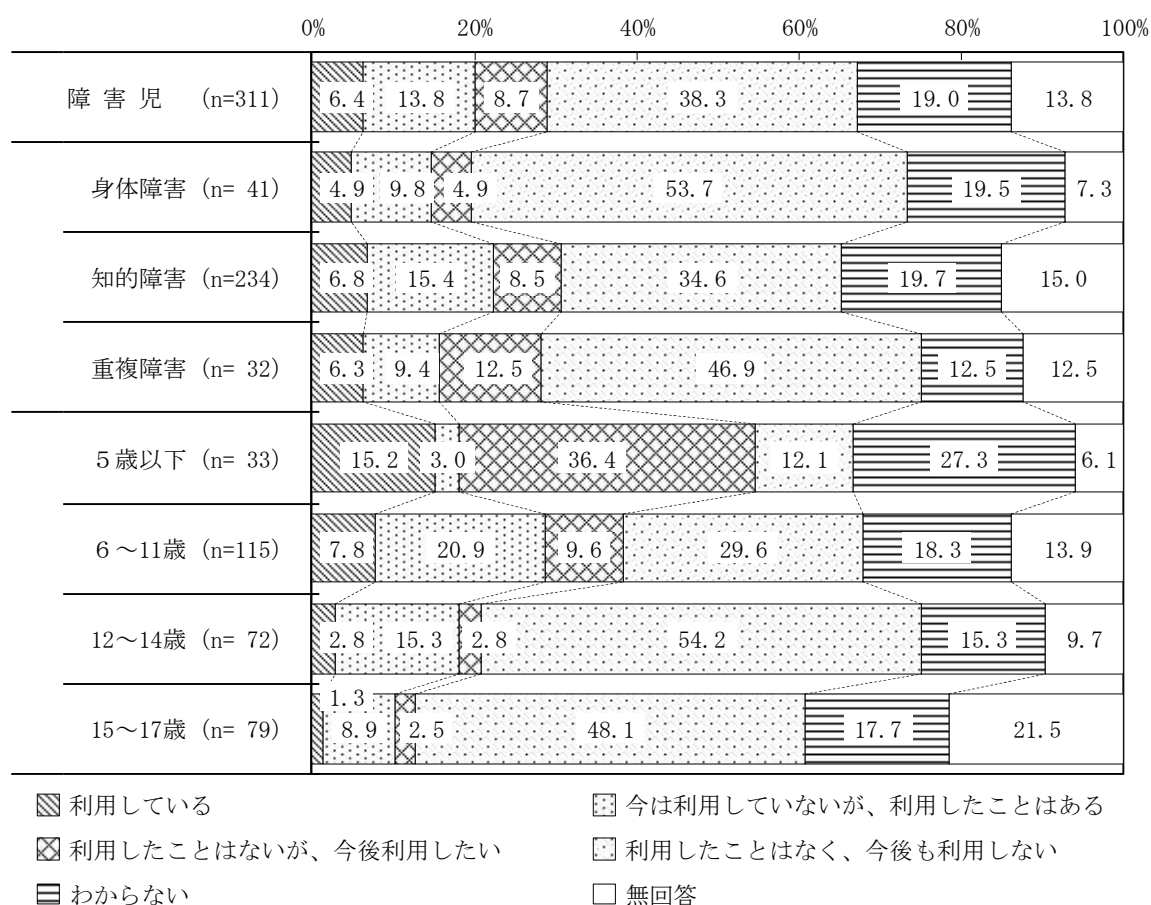


- ▨ 利用している
- ▧ 利用したことはないが、今後利用したい
- ▩ 利用したことはなく、今後も利用しない
- ▤ わからない
- 無回答

(3) 保育所等訪問支援

保育所、幼稚園、認定こども園、小学校、特別支援学校などに通うまたは通う予定の障害のある児童に、他の児童との集団生活への適応のための専門的支援を行う保育所等訪問支援を「利用している」のは、5歳以下が15.2%、6～11歳（小学生に該当）が7.8%などとなっています。「利用したことはないが、今後利用したい」は、5歳以下が36.4%、6～11歳（小学生に該当）が9.6%です。

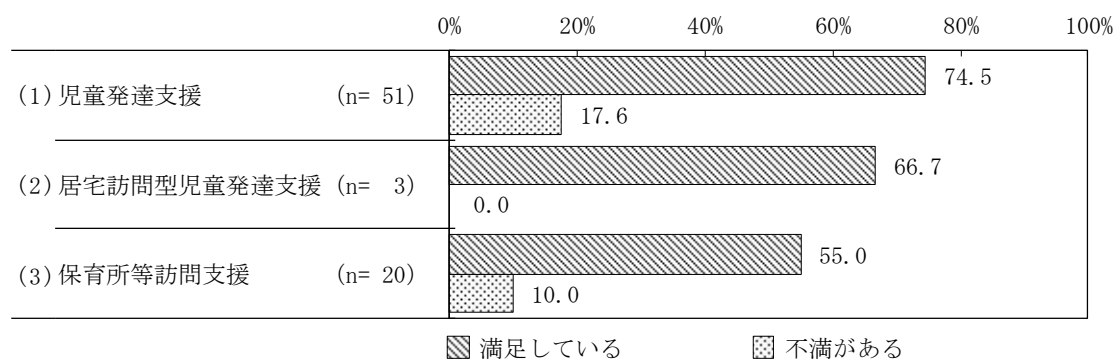
図表2-84 保育所等訪問支援の利用状況と利用意向（障害のある児童）



(4) 障害児通所支援の利用満足度

(1)～(3)のサービスを利用していると答えた人の利用満足度(「満足している」)は、いずれも50%以上と高くなっています。

図表2-85 障害児通所支援の利用満足度(障害のある児童)



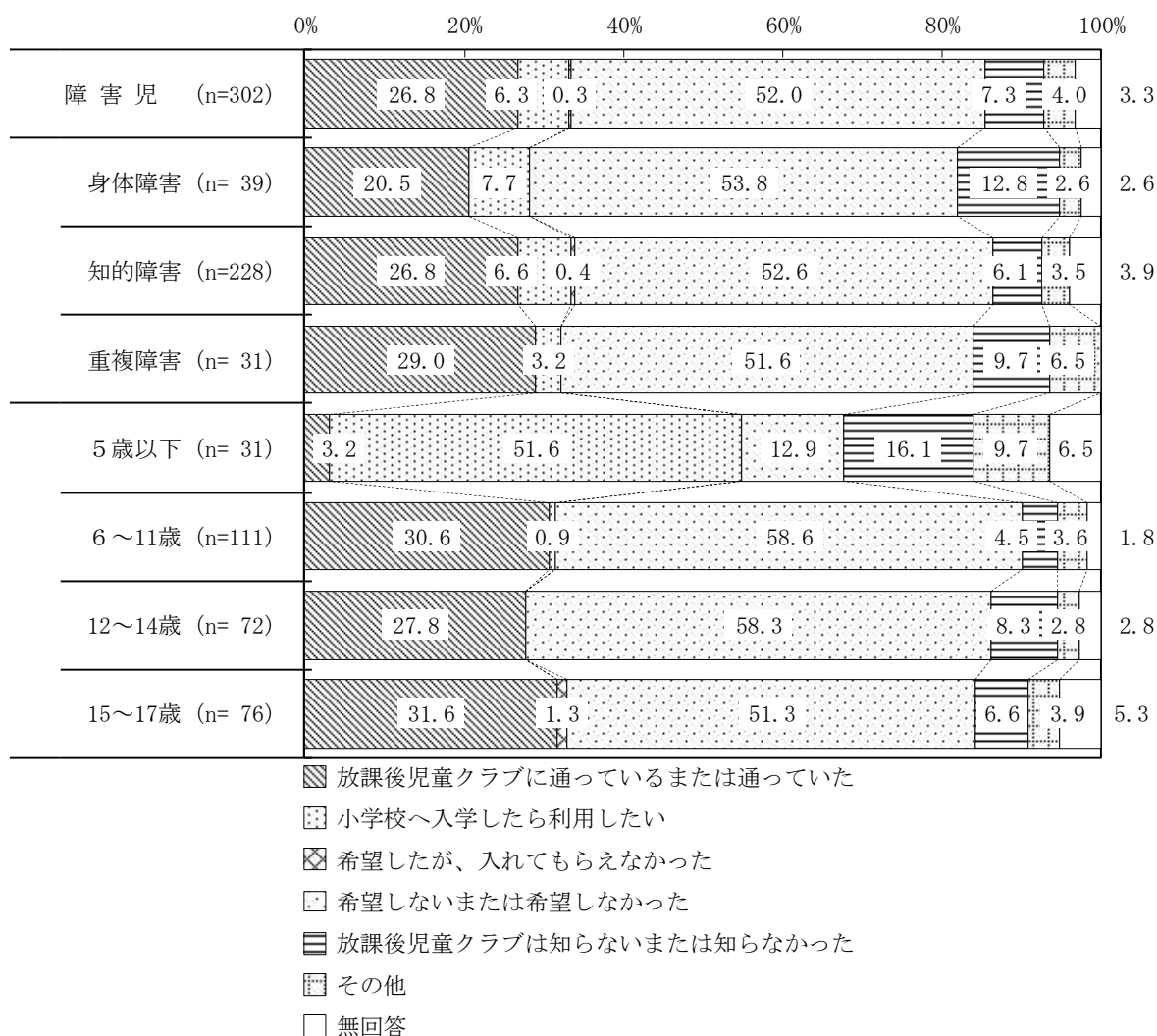
2 放課後等の支援

(1) 放課後児童クラブ

「放課後児童クラブに通っている。または、通っていた」と答えたのは、6～11歳（小学生に該当）の30.6%、12～14歳（中学生に該当）の27.8%、15～17歳（高校生に該当）の31.6%です。また、「小学校へ入学したら利用したい」は、5歳以下の51.6%を占めています。なお、「希望したが、入れてもらえなかった」は、15～17歳（高校生に該当）の1.3%のみで、近年は、概ね希望どおり利用できていると推察されます。

「その他」として、図表2-87の記述がありました。

図表2-86 放課後児童クラブの利用状況と利用意向（障害のある児童）



図表2-87 放課後児童クラブについての「その他」の記述（障害のある児童）

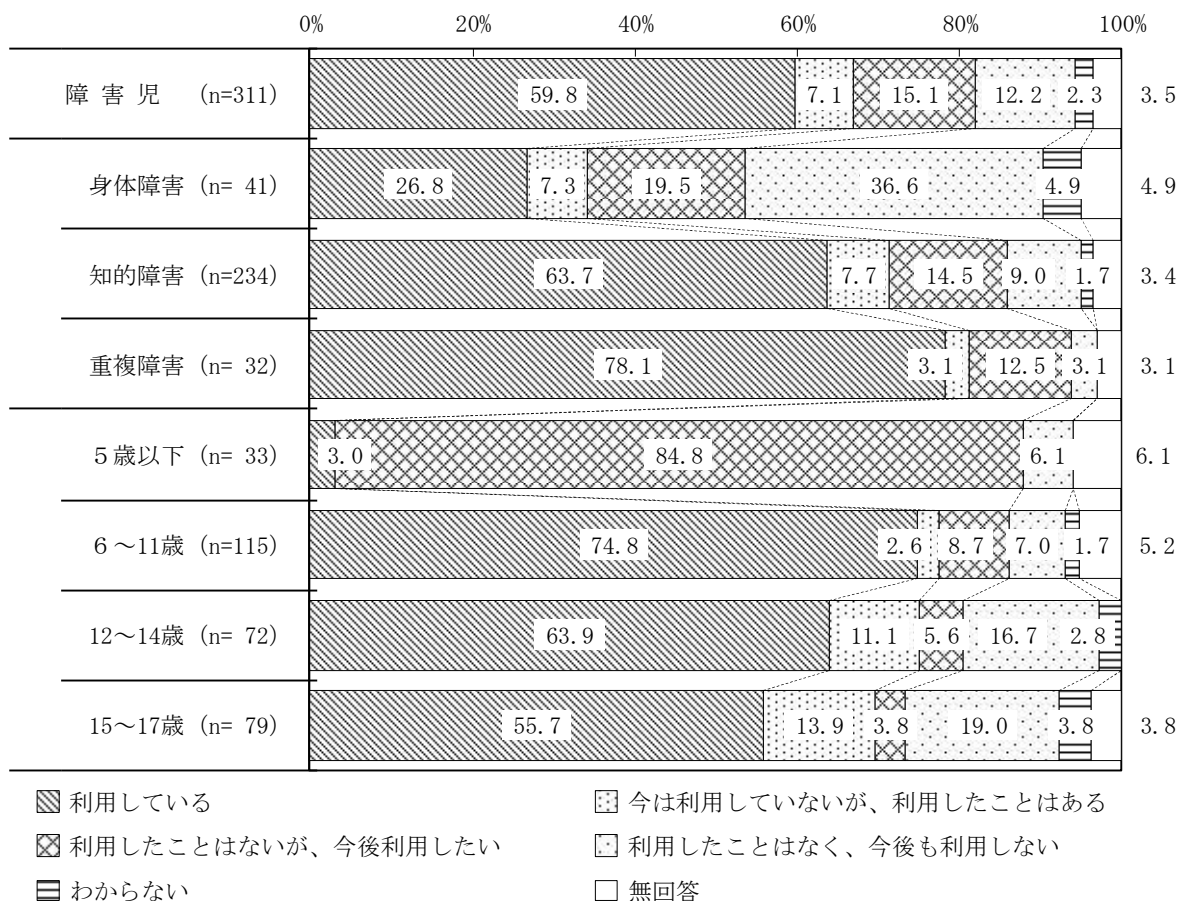
内	容
<ul style="list-style-type: none"> ・発達支援から、放課後等デイサービスに利用を変えた。 ・希望しても、1～4年までが多いのと、障害を理解してないことが多く、困る。 ・現在、申請中 ・2（小学校へ入学したら利用したい）もしくは4（希望しない）を検討中 ・通っていたが、指導員の方の対応に不満があり辞めた。 ・放課後児童クラブと、放課後等デイサービスの併用を考えたこともあったが、いくつかのハードルがあつて、断念した。 ・放課後デイサービス ・利用していなかった ・まだ利用したいかわからない 	

(2) 放課後等デイサービス

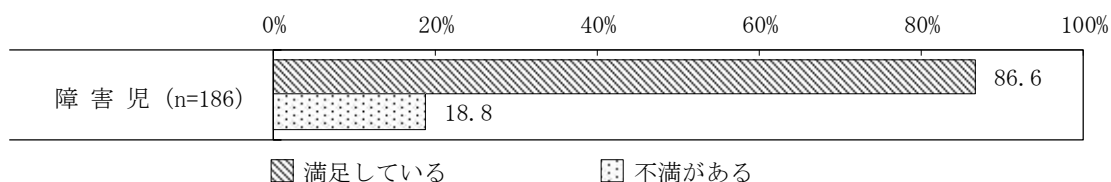
障害児通所支援のサービスの1つで、放課後や夏休み等の長期休暇中に障害のある児童を
あずかる放課後等デイサービスについては、6～11歳（小学生に該当）の74.8%、12～14
歳（中学生に該当）の63.9%、15～17歳（高校生に該当）の55.7%が「利用している」と答
えています。また、5歳以下の84.8%が「利用したことはないが、今後利用したい」と答
えています。近年になって、放課後等デイサービス事業への民間事業者の参入が進んでおり、
利用児も増加しています。「利用している」を障害の種類別にみると、重複障害のある児童
が78.1%と高く、身体に障害のある児童が26.8%と低くなっています（図表2-88）。

放課後等デイサービスを利用していると答えた人の利用満足度（「満足している」）は、
86.6%と非常に高くなっています（図表2-89）。

図表2-88 放課後等デイサービスの利用状況と利用意向（障害のある児童）



図表2-89 放課後等デイサービスの利用満足度（障害のある児童）

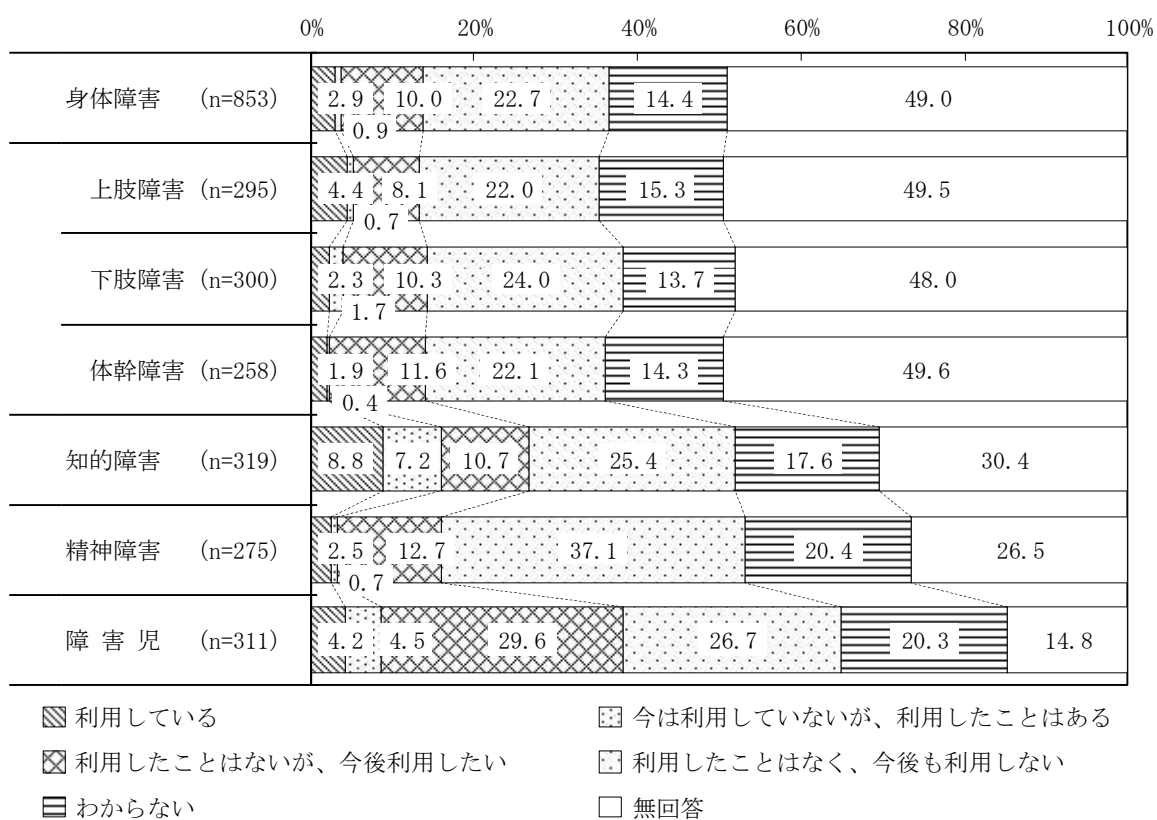


(3) 日中一時支援事業

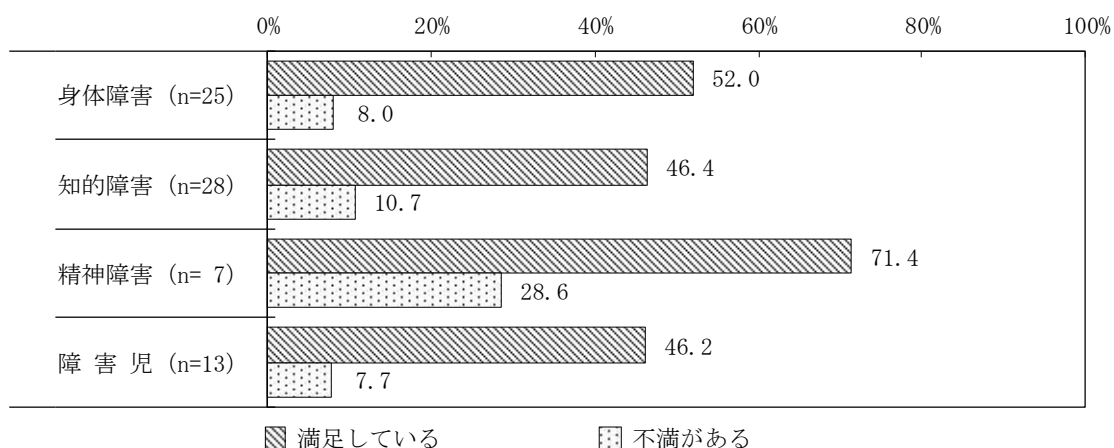
地域生活支援事業（任意事業）である日中一時支援事業については、知的障害のある人の8.8%、障害のある児童の4.2%が「利用している」と答えています。「利用したことはないが、今後利用したい」は、障害のある児童が29.6%と比較的高くなっています(図表2-90)。

日中一時支援事業を利用していると答えた人の利用満足度（「満足している」）は、知的障害のある人および障害のある児童では50%を下回っています。なお、精神に障がいのある人では、「不満がある」が30%弱に及んでいます(図表2-91)。

図表2-90 日中一時支援事業の利用状況と利用意向



図表2-91 日中一時支援事業の利用満足度



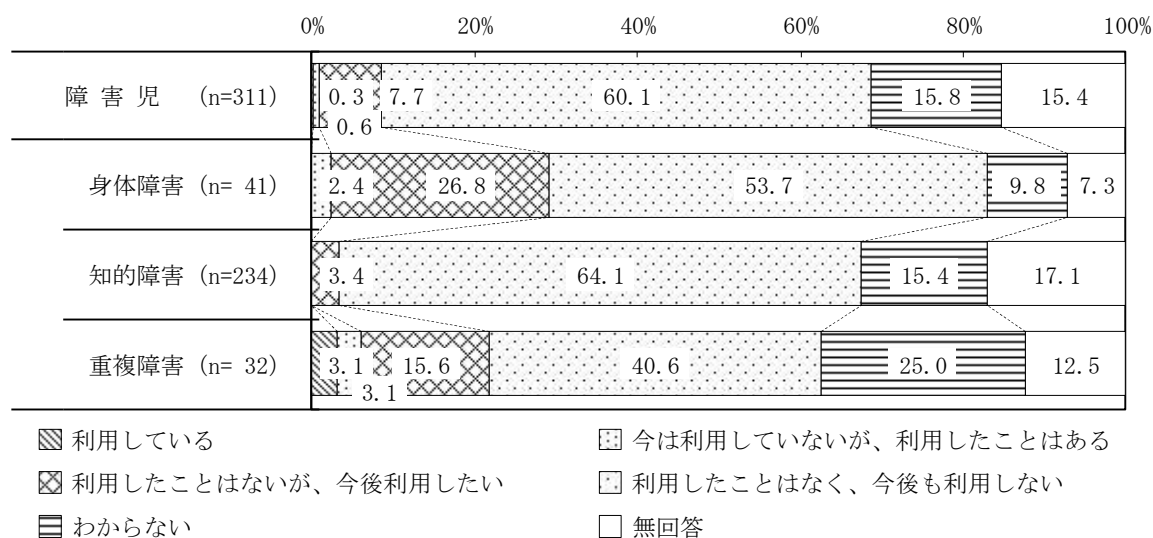
3 医療的ケア児の支援

(1) 医療的ケア児移動介護支援事業

医療的ケア児（人工呼吸器を装着している障害のある児童その他の日常生活を営むために医療を要する状態にある障害のある児童）が外出する際に看護職員が医療的ケアを伴う移動介護を行う金沢市独自の医療的ケア児移動介護支援事業を「利用している」のは0.3%（1人）で、重複障害のある児童です。「利用したことはないが、今後利用したい」は全体で7.7%ですが、身体障害では26.8%と比較的高くなっています（図表2-92）。

医療的ケア児移動介護支援事業を利用していると答えた人（1人）の利用満足度については、回答がありませんでした。

図表2-92 医療的ケア児移動介護支援事業の利用状況と利用意向（障害のある児童）

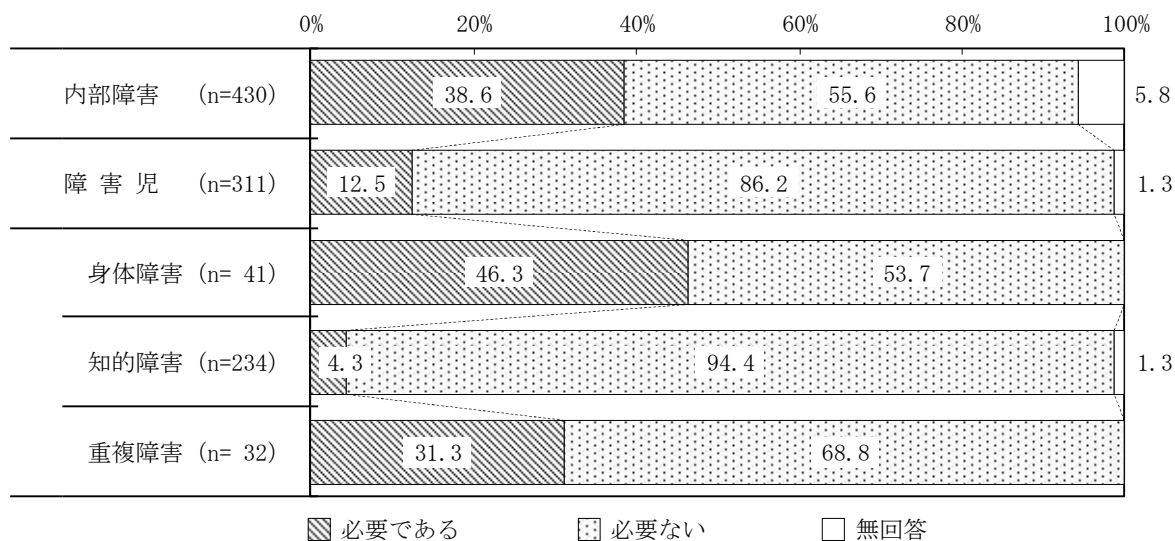


(2) 医療的ケアが必要か

日常的に医療的ケア（医療機器の管理や医療的な処置）が必要かという設問に「必要である」と答えたのは、障害のある児童が12.5%、内部障害のある人が38.6%です。「障害のある児童を障害の種類別にみると、重複障害に比べて身体障害の比率が高くなっています。

必要とする具体的な医療的ケアとして、図表2-94の記述がありました。

図表2-93 医療的ケアが必要か



図表2-94 必要とする具体的な医療的ケア

区分	内 容	
内部障害	<ul style="list-style-type: none"> ・人工透析（43件） ・透析週3回（9件） ・2日に1度の透析 ・透析施設 ・透析機器 ・透析機器の電源、操作（自宅）が必要 ・腹膜透析 ・人工透析をするための機器や液が必要。 ・人工透析の設備が必要 ・ストーマ装具（5件） ・ストーマ交換 ・ストーマの交換を常にしないといけない。 ・現在、自分でストーマの手入れをしているが、いつどうなるかわからない。 ・医薬品（4件） ・在宅酸素（2件） ・人工呼吸器（2件） ・ペースメーカー（2件） ・ペースメーカー点検 ・ペースメーカー管理 ・ペースメーカーのチェック ・薬 ・処方箋による服薬 ・投薬（3件） ・注射（2件） ・皮下注射 ・注射の投与 ・ICD ・ICDが入っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インシュリンなど ・血圧・血糖のコントロール、心臓・血管のケア、足のケア ・機器管理及び医療診断 ・薬があるか？ ・輸血治療週1回 ・栄養点滴毎日 ・ASV ・数種類の病気保持 ・酸素ボンベ ・消毒、ガーゼの交換、腹膜透析 ・カテーテル、洗腸の機器、薬 ・HOTの管理点検 ・糖尿病測定の機器 ・毎日、無呼吸Cパップを使用しているの で、避難所では使用できないと考える。 ・心電図の検査やペースメーカー検査機器 ・ワーファリンを毎日投薬する必要あり。 ・酸素濃縮装置 ・吸入器 ・血圧計をはかる。 ・毎日の薬と、1か月に1回程度交換が必要 な処置がある。 ・C-PAP ・8週間ごとに通院し、検診している。 ・酸素ボンベの供給、対応してもらっている。 ・腰痛 ・シャワー付きトイレ ・いろいろあるので、書けない。
障害児	<ul style="list-style-type: none"> ・導尿（2件） ・吸痰器（3件） ・吸痰、経管栄養 ・吸痰、胃ろうからの栄養 ・胃ろうからの栄養吸入 ・吸引、胃ろう ・痰の吸引、胃ろうからの注入 ・痰吸引、胃ろう注入 ・胃ろう、気管切開、吸痰 ・痰の吸引、栄養注入（胃ろう）、人工呼吸 器管理 ・気管切開・胃ろう ・人工呼吸器の管理、痰吸引、胃ろう管理 ・人工呼吸器、吸引器、吸入器（たまに）、酸 素（ごくたまに）、酸素モニター（念のため） ・人工呼吸器、在宅酸素、吸引、胃ろう ・人工呼吸器 吸痰器 カンガルーポンプ 	<ul style="list-style-type: none"> ・人工呼吸器、酸素 ・人工呼吸器 ・在宅酸素 ・酸素器 ・経管栄養 ・腹膜透析・ネブライザー（吸引薬）、てん かん薬 ・ネブライザー吸入の使用 ・医薬品 ・薬を飲んでいる（落ち着く）。 ・服薬 ・てんかん薬の服用が必ず必要 ・情緒の薬（ADHD・ASD） ・睡眠障害あるため安定剤を飲んでいる。 ・オロパタジンを服用している。 ・コンタクト着脱

V 学 ぶ

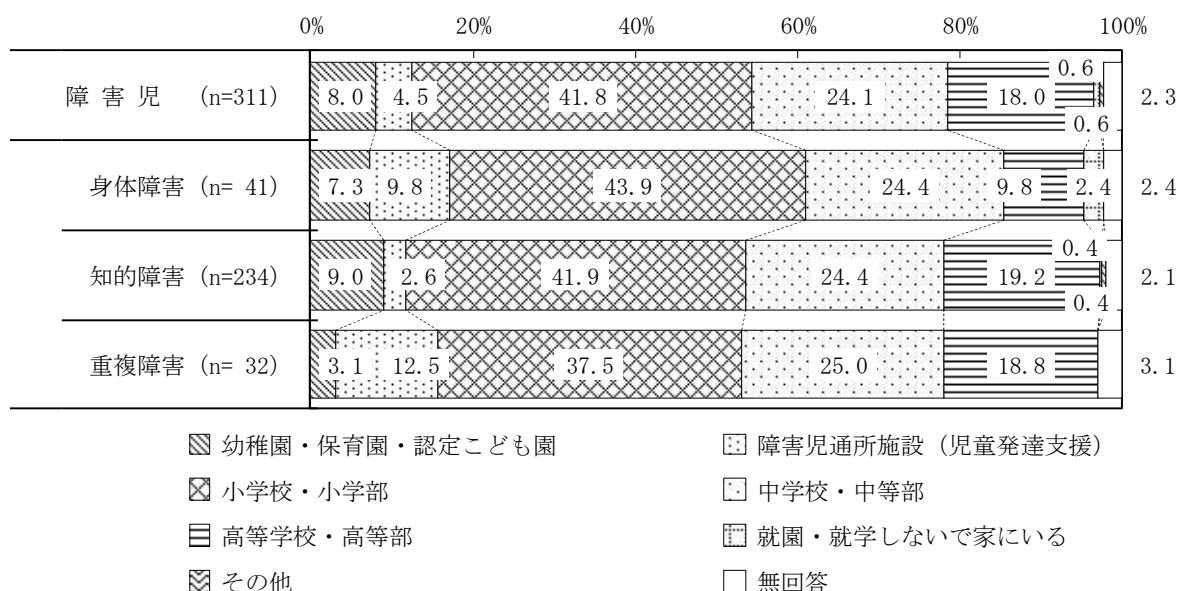
1 通園・通学の状況

(1) 通園・通学の状況

障害のある児童の通園・通学等の状況は、図表2-95のとおりです。「幼稚園・保育園・認定こども園」の8.0%に対し、「障害児通所施設（児童発達支援）」は4.5%です。「就園・就学しないで家にいる」が0.6%（2人）いますが、そのうち1人は小学校就学前児童です。

「その他」として、「石川県立ろう学校 幼稚部」という記述がありました。

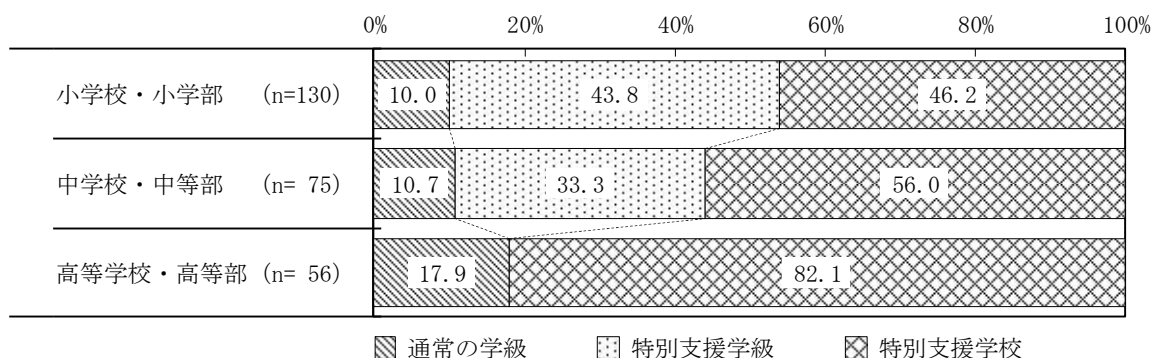
図表2-95 通園・通学等の状況（障害のある児童）



(2) 就学の状況

障害のある児童の就学状況は、小学校・小学部、中学校・中学部、高等学校・高等部とも、「特別支援学校」の比率が最も高く、「通常の学級」は10%台となっています。

図表2-96 就学の状況（障害のある児童）

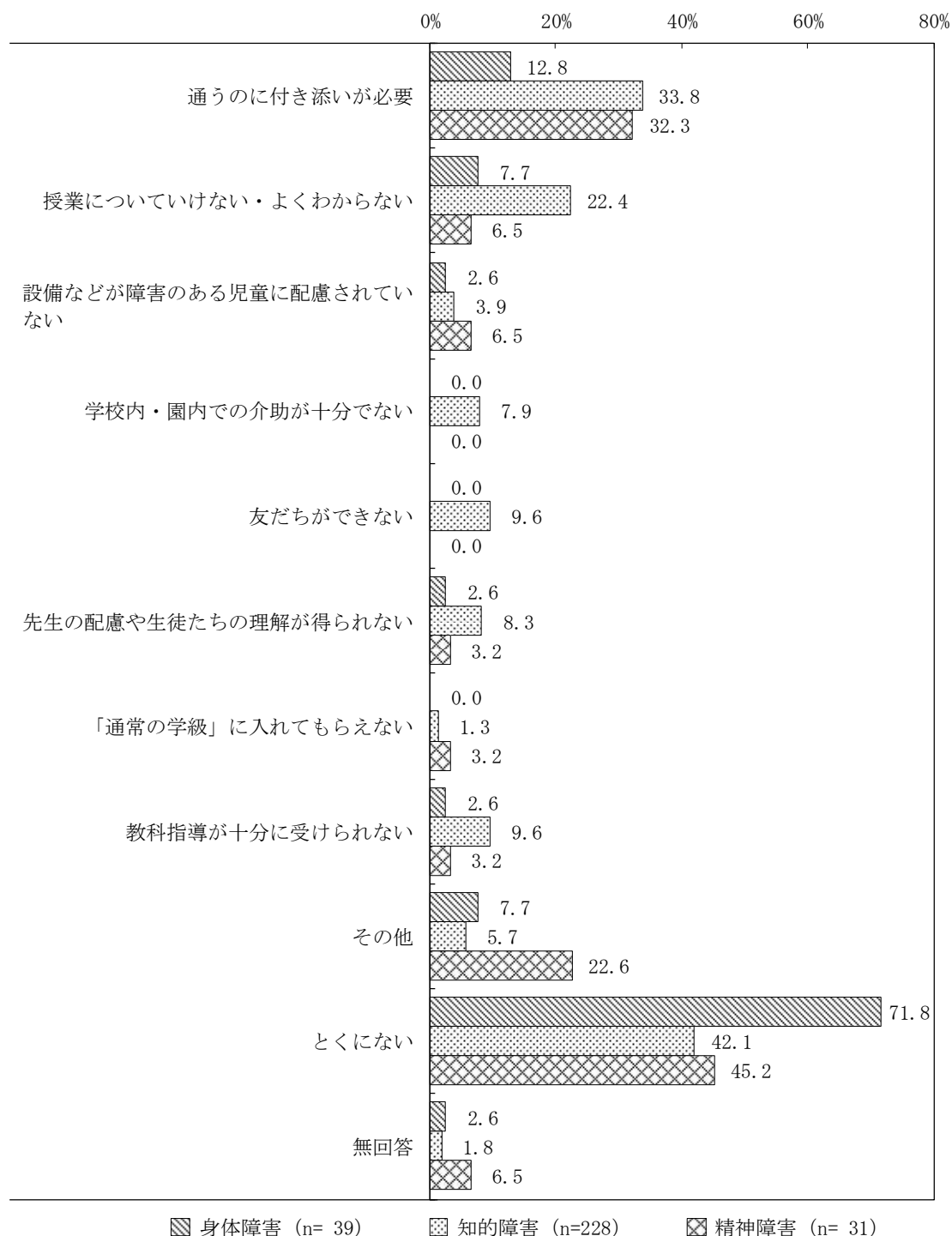


(3) 通園・通学で困ること

通園・通学で困っていることとしては、知的障害のある児童および重複障害のある児童とも「通うのに付き添いが必要」が30%以上と高くなっています。「とくにない」は、身体に障害のある児童が顕著に高くなっています（図表2-97）。

通園・通学で困っている「その他」のこととして、図表2-98の記入がありました。

図表2-97 通園・通学で困っていること（障害のある児童、複数回答）



図表2-98 通園・通学で困っている「その他」のこと（障害のある児童）

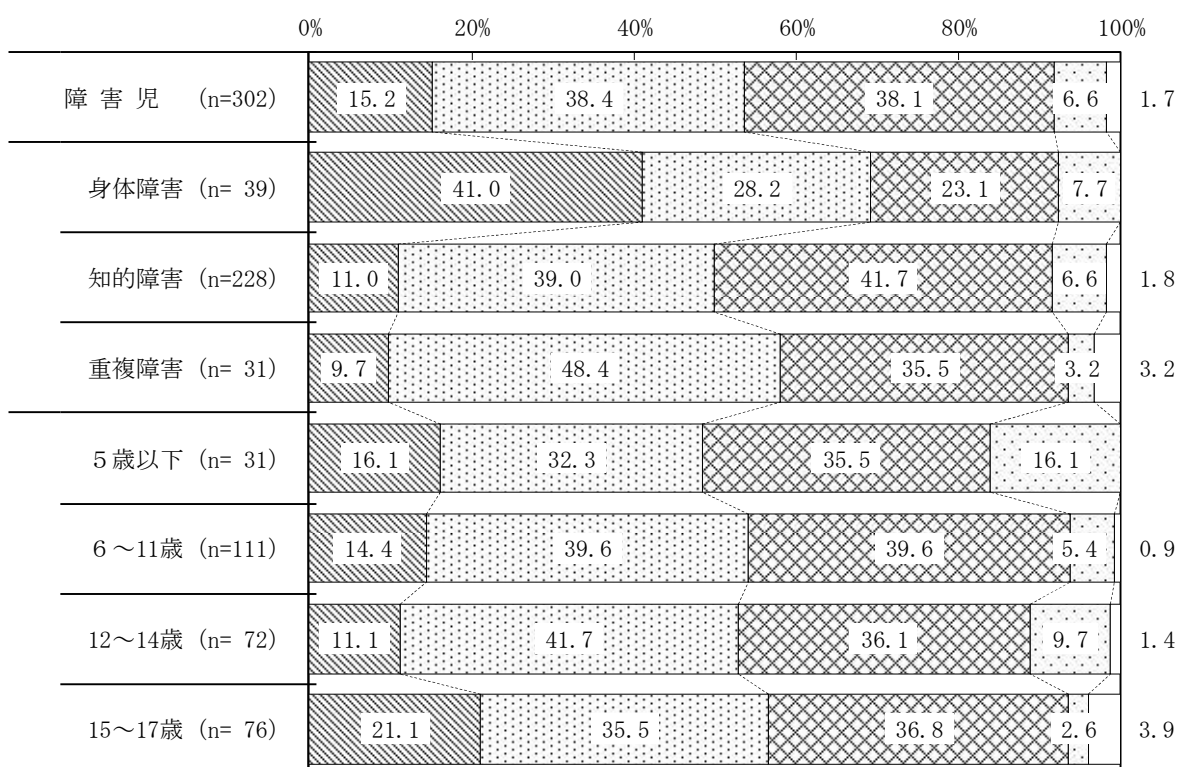
内	容
<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係でよくトラブルがある ・こだわりが強く、波があるので、荒れた時の対応が家庭でケアするにとどまっている。 ・運動（体を鍛える）する機会があまりないこと ・保育時間が短い ・通園したい施設に行けないこと。そこに通園できたとしても、痰吸引の医療ケアがあり、送迎サービスを受けられないこと。 ・送迎が必要 ・通学バス停まで遠いため、車がないのでタクシーで付き添いが往復しなければいけない。 ・スクールバスに乗車できないため送迎が必須。 ・支援級ではなく、交流の授業を受けたい教科があっても、上限があり、交流の授業を受けられない。 ・学校へ行きたくない。 ・不登校 ・訪問教育 ・授業中、常に付き添いが必要 ・定型児の中にいて、のびのび過ごせない。 ・先生の理解度やキャパシティの影響をすごく受ける。 ・先生が不足していると感じる。 ・支援の先生の不足。6年間安定して交流クラスに付き添ってもらえなかった。 ・特別支援学級でも、鉛筆を持って授業など取り入れてほしい。 ・ケンカや対応が大変。学校などの授業面の支援を充実してほしい。 ・中央小芳齋分校に通っていますが、中央小学校芳齋分校と長町中学校芳齋分校の学校としての在り方に乖離があり、小学校から中学校に上がるときに芳齋分校に通い続けられなくなることに困っています。具体的には芳齋小は支援学校よりのカリキュラムなのに対し、芳齋中は支援学級として、一般高校への受験も視野に入れた通常学級に準ずるカリキュラムであり、小6までと中1からの学習レベルが全く違うために、同じ建物の上の階にあっても進学できないことに困っています。 ・まだ1歳で、今後どのように進学していけば良いかわからない。 	

2 希望する学習形態

学校で勉強する時は、身体に障害のある児童は「障害のあるなしに関係なく、一緒のクラスで勉強したい」（41.0%）、知的障害のある児童は「障害のある仲間たちのクラスで勉強しながら、障害のない仲間たちとも勉強する機会をもちたい」（41.7%）、重複障害のある児童は「同じような障害のある仲間たちのクラスで勉強したい」（48.4%）が最も高くなっています。（図表2-99）

「その他」として、図表2-100の記述がありました。

図表2-99 希望する学習形態（障害のある児童）



- ▨ 障害のあるなしに関係なく、一緒のクラスで勉強したい
- ▤ 同じような障害のある仲間たちのクラスで勉強したい
- ▩ 障害のある仲間と勉強しながら、障害のない仲間とも勉強したい
- ▦ その他
- 無回答

図表2-100 希望する「その他」の学習形態（障害のある児童）

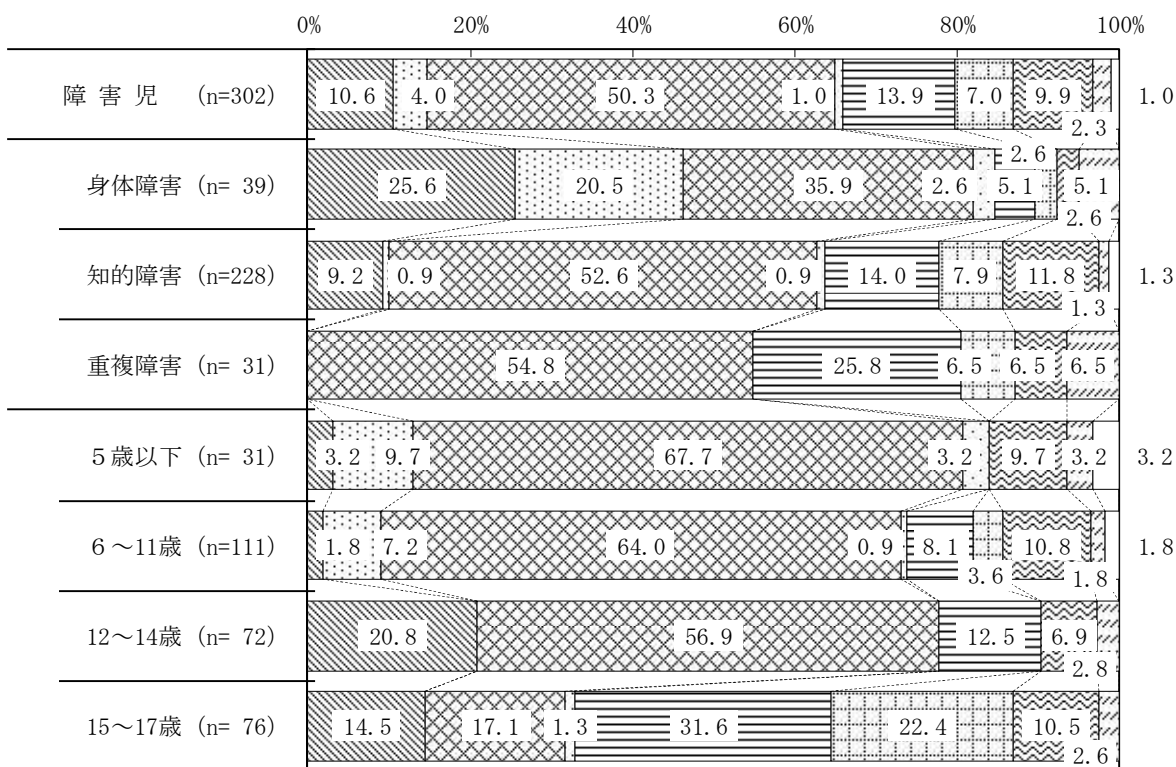
内	容
<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害の程度と年齢による ・ 本来1（障害のあるなしに関係なく、一緒のクラスで勉強したい）を希望するが、一般の教育機関でインクルーシブを進める基盤がまったくないと感じる現状では、2（同じような障害のある仲間たちのクラスで勉強したい）を選択 ・ 障害特性に合った授業を受けたい ・ 障害のある子もない子も、それぞれが必要な支援をうけながら、勉強できる形がよいと思う。 ・ 支援学校だとできない子どもに合わせて授業するので、全然レベルに合った勉強をしてもらえない。 ・ レベル別に、特別支援学校でも、もうちょっと教科の勉強に力を入れてほしい。 ・ たまに、障害のないお友だちとの交流の場があるといい。 ・ 長期入院に伴い、授業の遅れを取り戻したいため、支援学級等で集中的に勉強したい。 ・ 病棟に先生が来てくれる。今のままでいい。 ・ 大学みたいな選択できる授業スタイル ・ 一人で ・ 現在、通級に通っていて、来年は通級か特別支援学級で迷っている。 ・ 地域の学校の支援級と支援学校、どちらもまだ迷っています。 ・ 学校へ通う予定はない。 ・ 勉強したくない。 ・ 学校に行っていないので、わからない。 ・ 主人がそこまで考えられない。 ・ まだよくわからない。 	

3 卒業後の進路

現在の学校を卒業したあとの進路は、「特別支援学級・特別支援学校などに進学したい」(50.3%)が最も高く、次いで「施設に通いたい(福祉施設で働きたい)」(13.9%)、「高校・大学・専門学校などに進学したい」(10.6%)などとなっています。年齢別にみると、15～17歳(高校生に該当)は「施設に通いたい(福祉施設で働きたい)」が31.6%と最も高く、次いで「企業で働きたい」が22.4%あります。その他の年齢階層は「特別支援学級・特別支援学校などに進学したい」が最も高くなっています(図表2-101)。

「その他」として、図表2-102の記述がありました。

図表2-101 卒業後の進路(障害のある児童)



- 高校・大学・専門学校などに進学したい
- 特別支援学級・特別支援学校などに進学したい
- 通常の学級に進学したい
- 施設に入所したい
- 施設に通いたい
- 企業で働きたい
- とくに考えていない
- その他
- 無回答

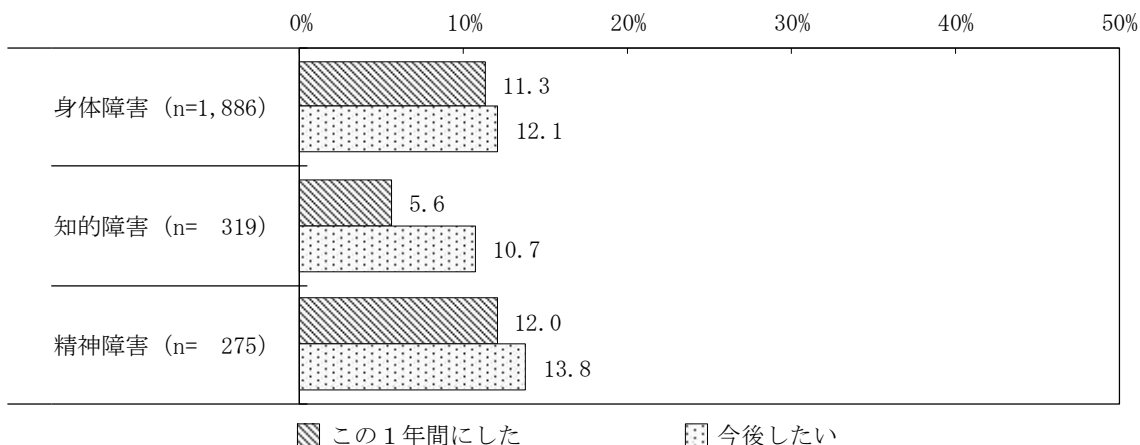
図表2-102 卒業後の進路についての「その他」の記述（障害のある児童）

内 容
<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援学校ほどでもなく、かといって高校受験できるのかも難しく、合格しても卒業できなさそうであり、悩んでいる（配慮を受けながら、高校を卒業したい）。 ・ デイサービス、ショートステイを利用していきたい。 ・ 生活介護を支援してくれるところに通いたい。 ・ 通信 ・ 本人の意思はわからない ・ まだわからない ・ まだ考えられていない

4 この1年間の学習活動と今後の意向

障害のある人の学習活動について、この1年間にしたと答えているのは、精神に障害のある人が12.0%、身体に障害のある人が11.3%、知的障害のある人が5.6%です。一方、今後、学習活動をしたと答えているのは、精神に障害のある人が13.8%、身体に障害のある人が12.1%、知的障害のある人が10.7%です。

図表2-103 この1年間の学習活動と今後の意向

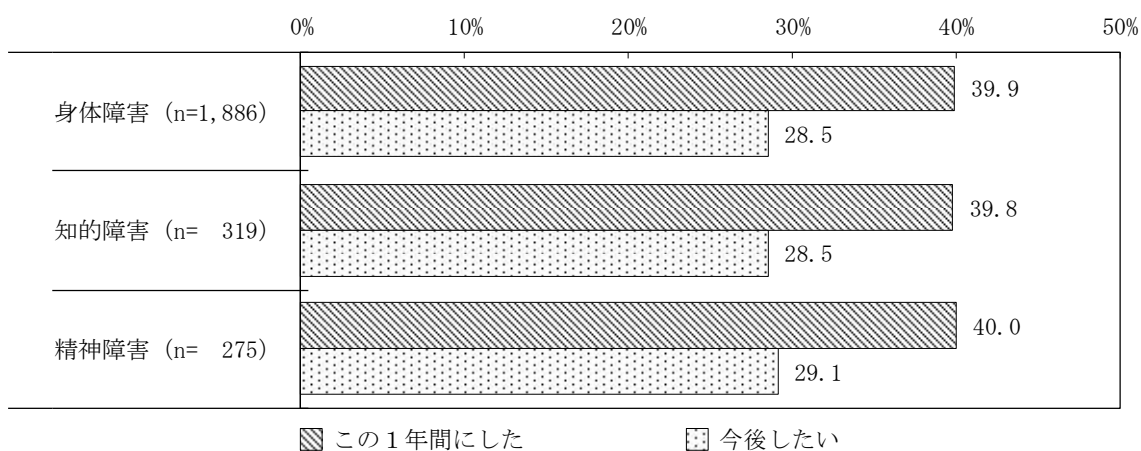


VI 遊 ぶ

1 映画、スポーツ、美術展などの鑑賞・見学

この1年間に映画、スポーツ、美術展などの鑑賞・見学をした人の比率は、障害による差異はみられず、いずれも40%程度となっています。映画、スポーツ、美術展などの鑑賞・見学を今後したい人の比率も、同様に障害による差異はみられませんが、この1年間に参加した比率より低くなっています。

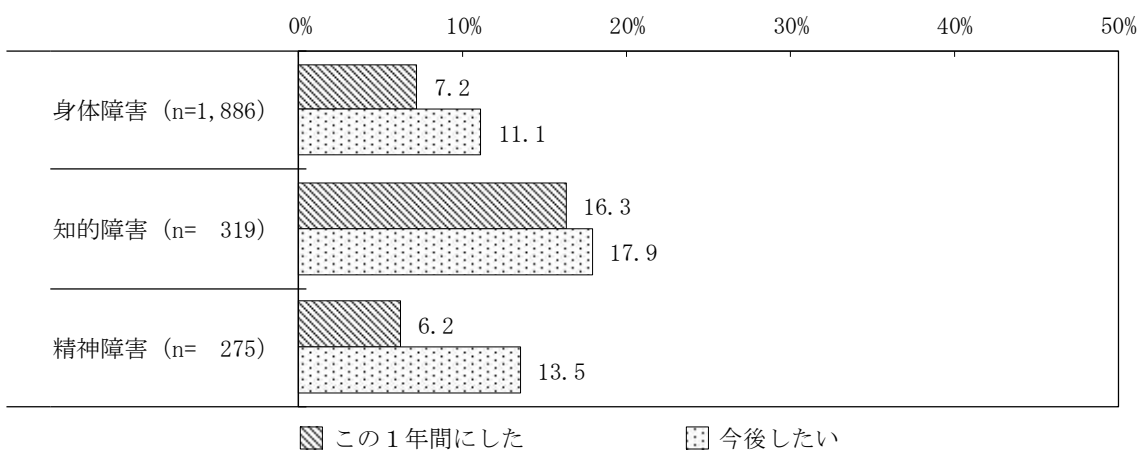
図表2-104 この1年間の映画、スポーツ、美術展などの鑑賞・見学と今後の意向



2 スポーツ教室、大会などへの参加

この1年間にスポーツ教室、大会などへ参加したと答えているのは、知的障害のある人が16.3%、身体に障害のある人が7.2%、精神に障害のある人が6.2%となっています。今後のスポーツ教室、大会などへの参加意向は、知的障害のある人が17.9%、精神に障害のある人が13.5%、身体に障害のある人が11.1%です。

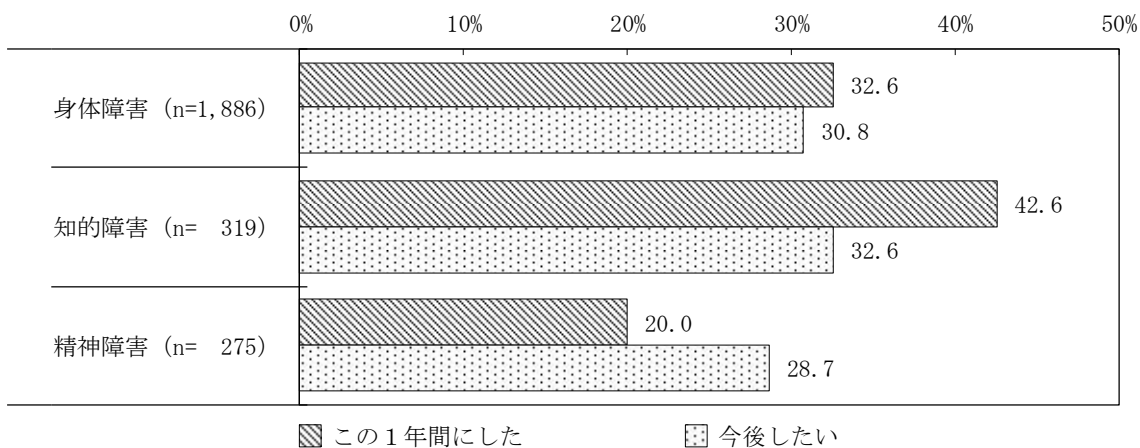
図表2-105 この1年間のスポーツ教室、大会などへの参加と今後の意向



3 旅行・キャンプ・つりなどの活動

この1年間に旅行・キャンプ・つりなどをした人の比率は、知的障害のある人が42.6%、身体に障害のある人が32.6%、精神に障害のある人が20.0%です。旅行・キャンプ・つりなどを今後したい人の比率は、知的障害のある人がこの1年間にした比率より低く、精神に障害のある人がこの1年間にした比率より高くなっています。

図表2-106 この1年間の旅行・キャンプ・つりなどの活動と今後の意向

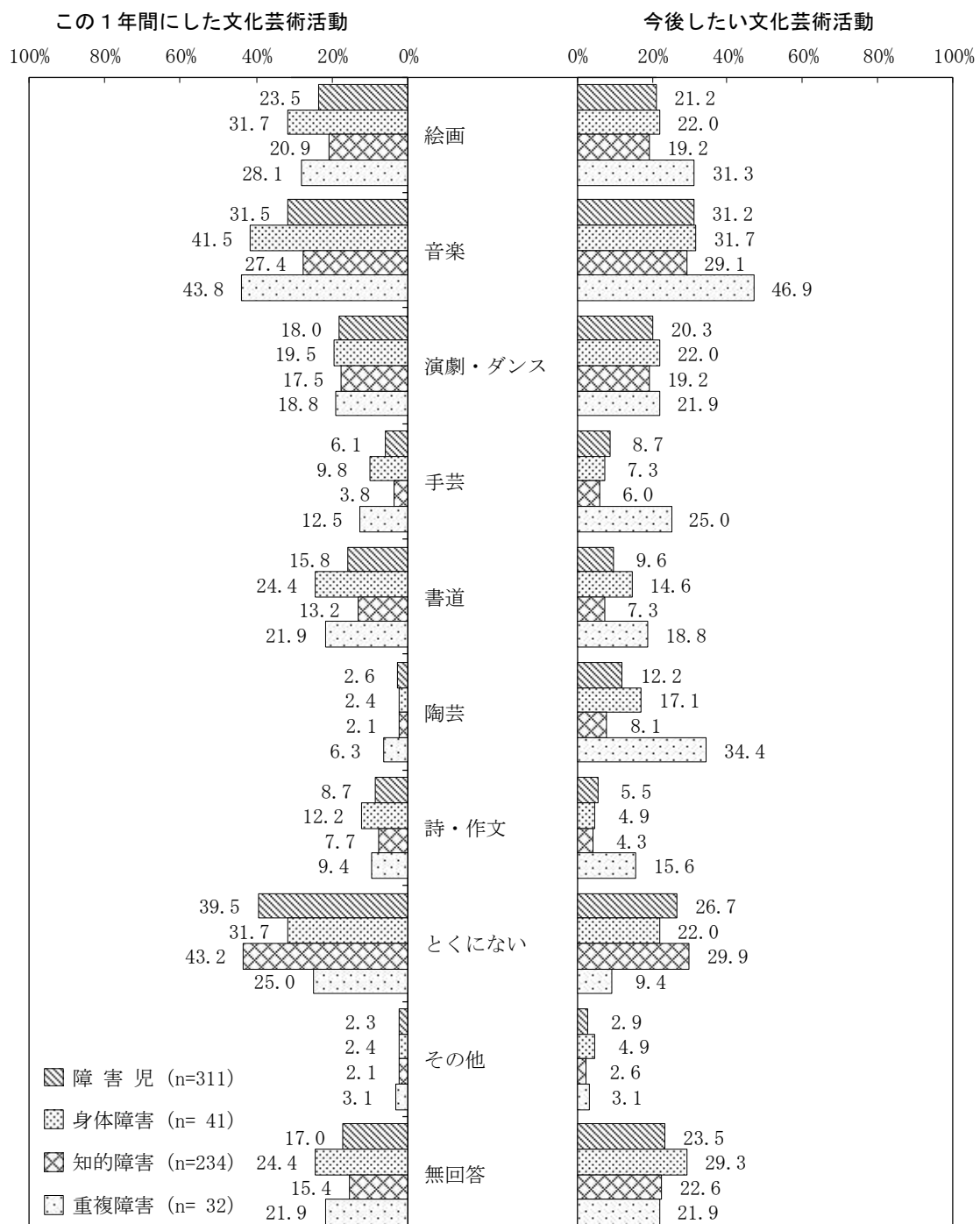


4 文化芸術活動

(1) 文化芸術活動と今後の意向

障害のある児童に対しては、文化芸術活動についてのみお聞きしました。この1年間にした文化芸術活動としては、「音楽」(31.5%)、「絵画」(23.5%)が高い一方、「とくにない」が39.5%もあります。今後したいことをこの1年間にしたことと比較すると、「音楽」や「絵画」などにあまり差異はみられないものの、「陶芸」は2.6%から12.2%になっていることが注目されます。

図表2-107 この1年間にした文化芸術活動と今後の意向（障害のある児童、複数回答）



「その他」として、次の記述がありました。

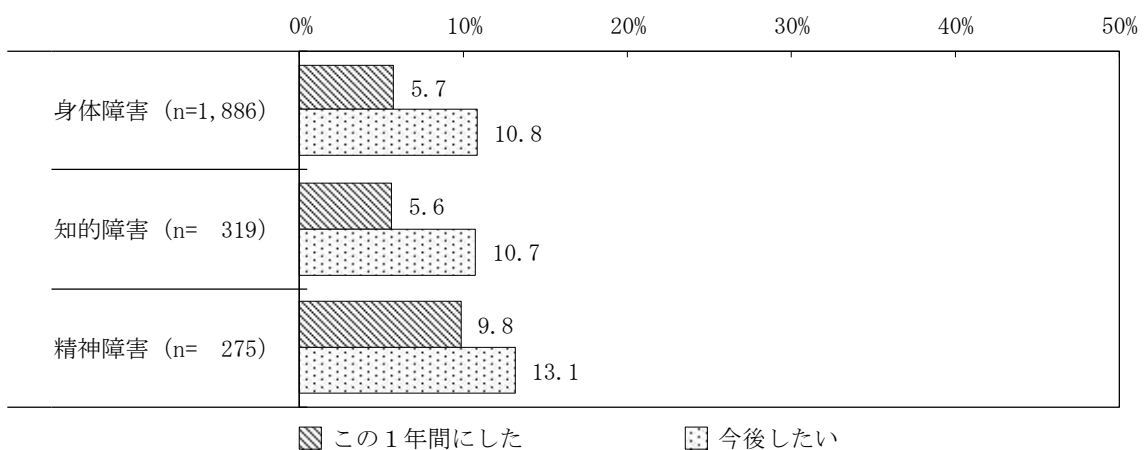
図表2-108 この1年間の文化芸術活動と今後の意向の「その他」

区分	この1年間にした	今後したい
障害児	<ul style="list-style-type: none"> ・スイミング ・手話 ・造形 ・九谷焼の絵付け ・いろいろな体験やものづくり ・太鼓サークル ・保育園に通っているのので、そこで、絵を描いたり、歌をうたったりすることがある。 ・質問の意図がわかりません…。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スイミング ・スポーツ ・いろいろな体験やものづくり ・日曜大工 ・太鼓サークル ・まだ2歳なのでいろいろな経験をさせてあげたい ・わからない(2件)

(2) 文化芸術創作活動と今後の意向

障害のある人の文化芸術創作活動について、この1年間にしたと答えているのは、精神に障害のある人が9.8%、身体に障害のある人が5.7%、知的障害のある人が5.6%と、いずれも10%未満です。一方、文化芸術創作活動を今後したいという答えとしては、いずれの障害も10%を超えています。

図表2-109 この1年間の文化芸術創作活動と今後の意向

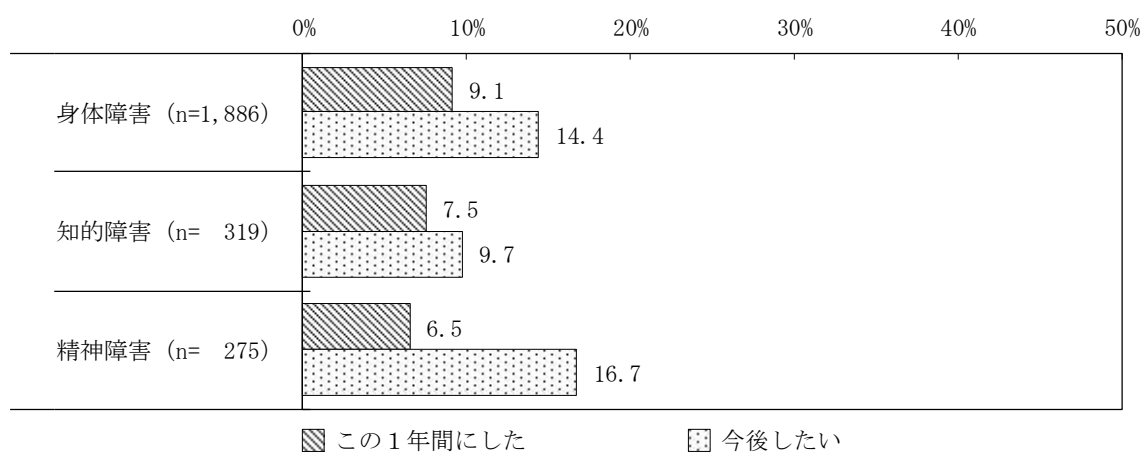


VII つきあう

1 趣味の同好会への参加

この1年間に趣味の同好会へ参加したと答えているのは、身体に障害のある人が9.1%、知的障害のある人が7.5%、精神に障害のある人が6.5%と、いずれも10%未満です。一方、趣味の同好会への参加を今後したい人の比率は、精神に障害のある人がこの1年間にした比率より特に高くなっています。

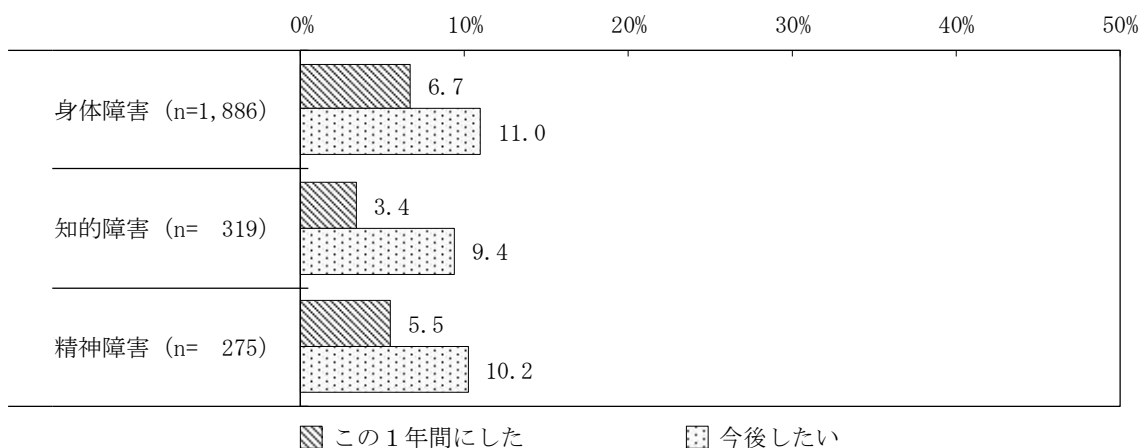
図表2-110 この1年間の趣味の同好会への参加と今後の意向



2 ボランティアなどの社会活動

この1年間にボランティアなどの社会活動をしたと答えているのは、身体に障害のある人が6.7%、精神に障害のある人が5.5%、知的障害のある人が3.4%と、いずれも10%未満です。一方ボランティアなどの社会活動を今後したいという答えとしては、身体に障害のある人および精神に障害のある人が10%を超えています。

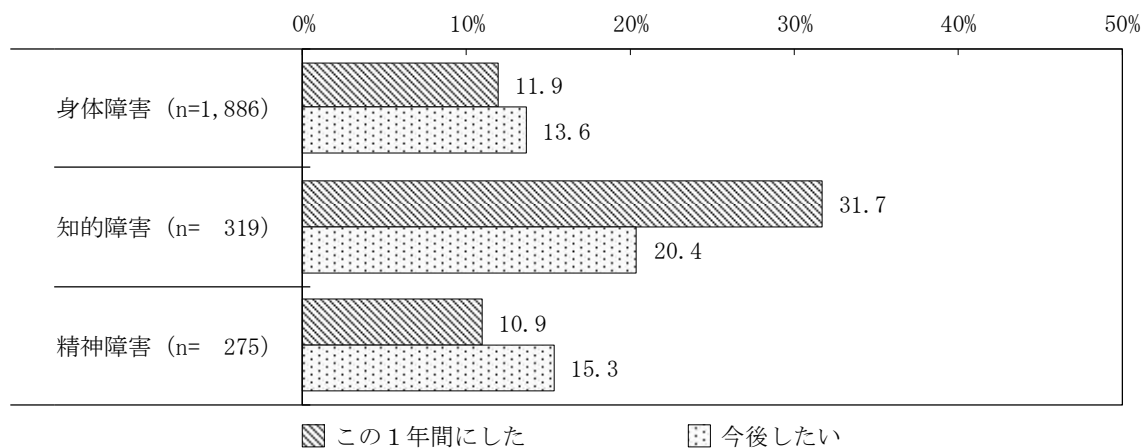
図表2-111 この1年間のボランティアなどの社会活動と今後の意向



3 障害のある仲間とのふれあい

この1年間に障害のある仲間とのふれあいをした比率は、知的障害のある人が31.7%と、特に高く、身体に障害のある人および精神に障害のある人は10%程度となっています。障害のある仲間とのふれあいを今後したい人の比率は、知的障害のある人がこの1年間にした比率より低くなっています。

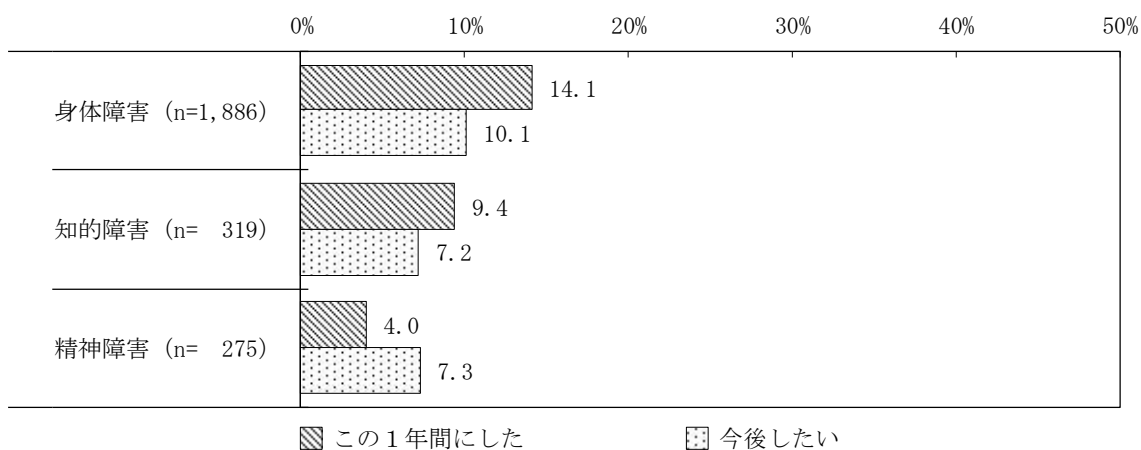
図表2-112 この1年間の障害のある仲間とのふれあいと今後の意向



4 町会・地域活動

この1年間に町会・地域活動をしたと答えているのは、身体に障害のある人が14.1%、知的障害のある人が9.4%、精神に障害のある人が4.0%です。一方、町会・地域活動を今後したいと答えているのは、身体に障害のある人が10.1%、精神に障害のある人が7.3%、知的障害のある人が7.2%です。

図表2-113 この1年間の町会・地域活動と今後の意向

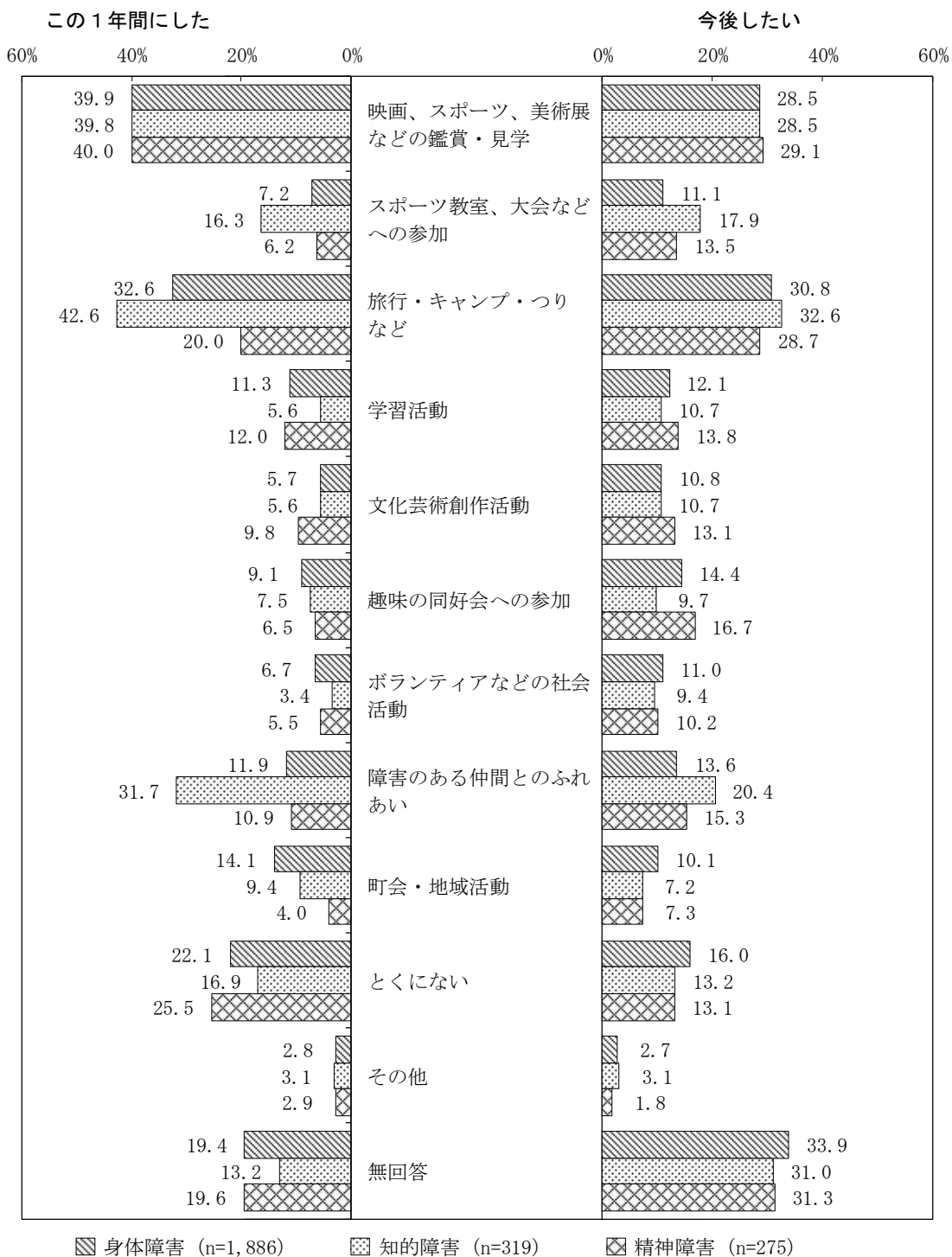


5 この1年間の活動と今後の意向

この1年間の活動と今後したい活動とも高い割合を占めているのは、すべての障害の種類の「映画、スポーツ、美術展などの鑑賞・見学」「旅行・キャンプ・つりなど」、知的障害のある人の「障害のある仲間とのふれあい」となっています（図表2-114）。

「その他」として、図表2-115の記述がありました。

図表2-114 この1年間の活動と今後の意向（図表2-103～図表2-106・図表2-109～図表2-112のまとめ）



図表2-115 この1年間の活動と今後の意向の「その他」

区分	この1年間にした	今後したい
身体障害	<ul style="list-style-type: none"> ・ デイサービス ・ 施設の行事イベント ・ 長い間行きつけの美容室 ・ テレビ（BS野球、相撲）、レコード聞く、家族で数回外食に行く、友人と温泉3回/年 ・ 石川県の資格研修 ・ ドライブ ・ 親の介護 ・ 施設内でのいろいろな活動 ・ デイケア ・ 庭木（27本）の選定（春・秋）、コンピューター（OS、プログラム、ゲーム等） ・ ショッピング、友人との食事等 ・ 土地建物管理 ・ 宗教活動 ・ 健康継続のためのウォーキング ・ 脳トレ ・ 病棟看護師（半年） ・ 田んぼ ・ アビリンピック出場 ・ ドライブ ・ ラジオを聞く ・ 親の介助 ・ 同窓会への参加 ・ 買い物 ・ 友人との食事会 ・ 兄弟で食事、外食 ・ 移動支援 ・ できるだけ捏ねないやり方でできるパンづくりの模索 ・ 友人と遊びたい ・ 友人とのふれあい ・ 音楽鑑賞 ・ リハビリ ・ ショッピング ・ 外食 ・ 自然との触れ合い ・ 散歩、図書館、買い物 ・ パソコン 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ピアノ ・ 施設の行事イベント ・ 長い間行きつけの美容室 ・ 喫茶店（同行援護） ・ 石川県の資格研修 ・ ドライブ ・ 親の介護 ・ 施設内でのいろいろな活動 ・ 庭木（27本）の選定（春・秋）、コンピューター（OS、プログラム、ゲーム等） ・ 畑仕事 ・ 東京や大阪に住んでみたい ・ ショッピング、友人との食事等 ・ 宗教活動 ・ 田んぼ ・ コロナ禍のため、外出できないので ・ 家でのんびり過ごしたい ・ ラジオを聞く ・ 親の介助 ・ 外出介助 ・ 友人との食事会 ・ 週1～2程度の仕事 ・ 仕事 ・ 屋外での散歩 ・ 気分転換的な外出 ・ 友人と遊びたい ・ 友人とのふれあい ・ 音楽鑑賞 ・ ショッピング ・ 外食 ・ 自然との触れ合い ・ 好きなアーティストのライブへの参加 ・ パソコン ・ 施設入居者とのコミュニケーション ・ 施設内のカラオケ ・ 長距離ドライブ ・ 近所の桜を見る散歩（車いす） ・ バイク（2件）

第2部 障害のある人

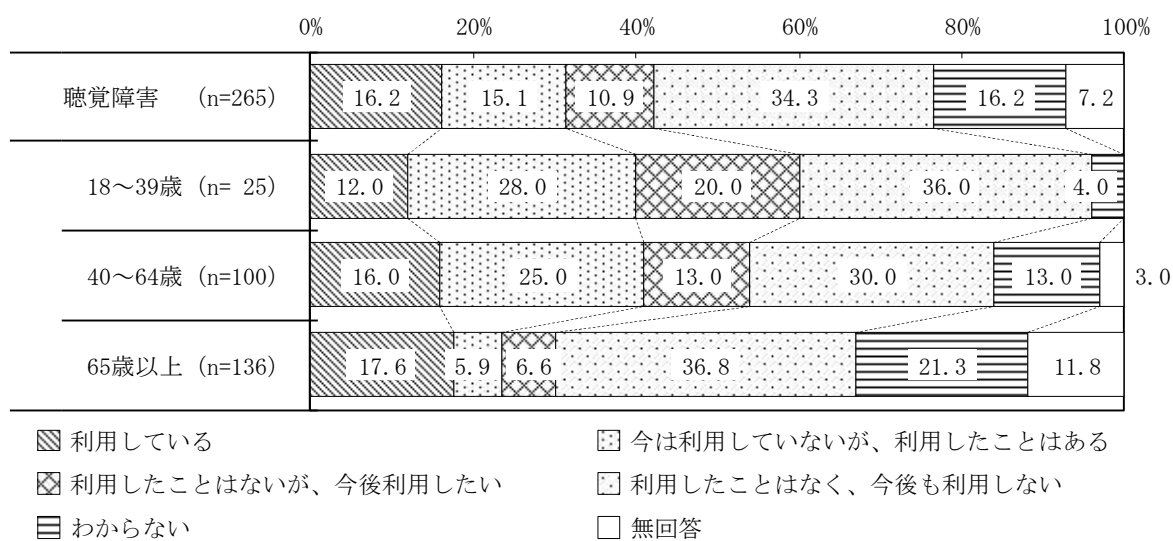
区分	この1年間にした	今後したい
身体障害	<ul style="list-style-type: none"> ・施設入居者とのコミュニケーション ・近所の桜を見る散歩（車いす） ・野菜づくり、栽培など ・施設内のカラオケ ・できれば、音楽会などを鑑賞したい ・読書、童謡合唱 ・体操教室 ・家族の看病、自分の療養 ・趣味の家庭菜園続行 ・仕事（2件） ・エレクトーンを弾く ・読書、童謡合唱 ・そんな余裕なし ・何もできない状態です ・できない、諦めている ・入院中（2件） ・わからない 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクーター ・デイサービス送迎車 ・介護タクシー（寝台） ・退院したい ・しない
知的障害	<ul style="list-style-type: none"> ・電車に乗る ・イオンモール白山などへショッピングに行く ・ゲームの大会オンラインなど ・前の病院の帰りふらっとバスに乗った ・休みの日に、ショッピングモールを散策し、フードコートで食事をする ・パソコン教室 ・親戚との集まり ・同窓会（2件） ・買い物 ・家族、ヘルパーさんとの外出 ・ボーカルレッスン（発表会に出る） 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな鉄道に乗って出かけた ・イオンモール白山などへショッピングに行く ・身近な場所に連れて行ければいいと思います ・休みの日に、ショッピングモールを散策し、フードコートで食事をする ・親戚との集まり ・同窓会、買い物 ・ボーカルレッスン（発表会に出る） ・カードバトル大会 ・わからない
精神障害	<ul style="list-style-type: none"> ・好きな歌手のコンサートへ行く ・趣味を見つける ・読書 ・デイサービス ・介護病院内のイベント ・外食 ・家族との交流 ・対面恐怖症で誰とも会いたくない ・わからない 	<ul style="list-style-type: none"> ・好きな歌手のコンサートへ行く ・買い物 ・読書 ・外食 ・家族との交流 ・もう福祉には頼らないかもしれない ・わからない

6 聴覚または言語に障害のある人のコミュニケーション手段

(1) 手話通訳者・要約筆記者の利用（聴覚に障害のある人）

聴覚に障害のある人のコミュニケーション手段である手話通訳者・要約筆記者を「利用している」のは16.2%、「今は利用していないが、利用したことはある」が15.1%、「利用したことはないが、今後利用したい」が10.9%となっています。年齢別にみると、年齢が若いほど、「利用している」が低く、「利用したことはないが、今後利用したい」が高くなっています。

図表2-116 手話通訳者・要約筆記者の利用（聴覚に障害のある人）



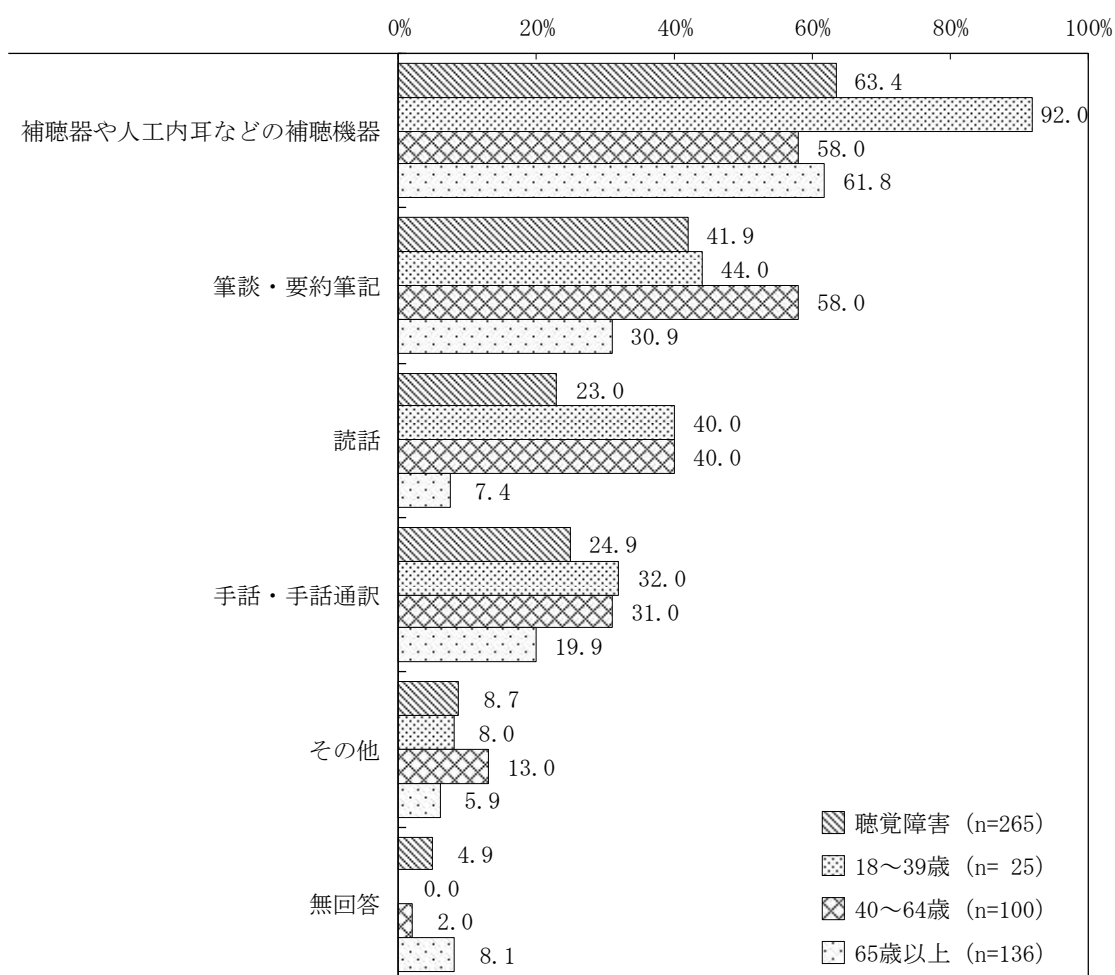
(2) 聴覚または言語に障害のある人のコミュニケーション手段

聴覚に障害のある人の日常的なコミュニケーション手段としては、「補聴器や人工内耳などの補聴機器」(63.4%)、「筆談・要約筆記」(41.9%)、「手話・手話通訳」(24.9%)、「読話」(23.0%)が高くなっています。年齢別にみると、「補聴器や人工内耳などの補聴機器」では18～39歳、「筆談・要約筆記」では40～64歳が特に高い比率を示しています(図表2-117)。

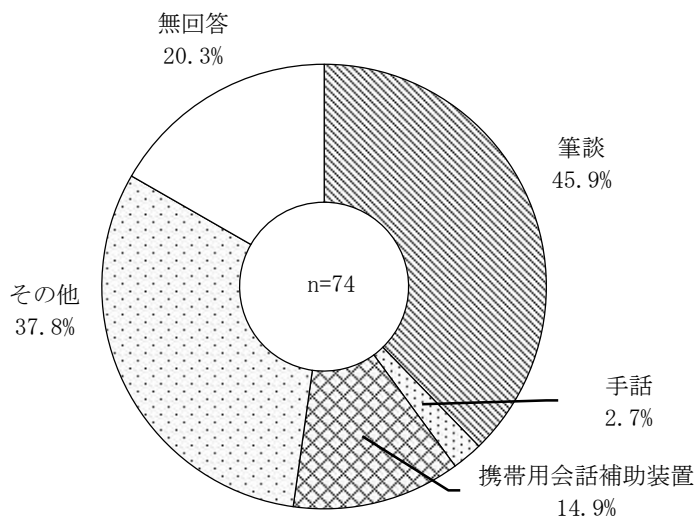
一方、言語に障害のある人は、「筆談」が45.9%で、「その他」が37.8%を占めています(図表2-118)。

「その他」として、図表2-119の記述がありました。

図表2-117 聴覚に障害のある人のコミュニケーション手段(複数回答)



図表 2-118 言語障害のある人のコミュニケーション手段（複数回答）



図表 2-119 聴覚または言語に障害のある人の「その他」のコミュニケーション手段

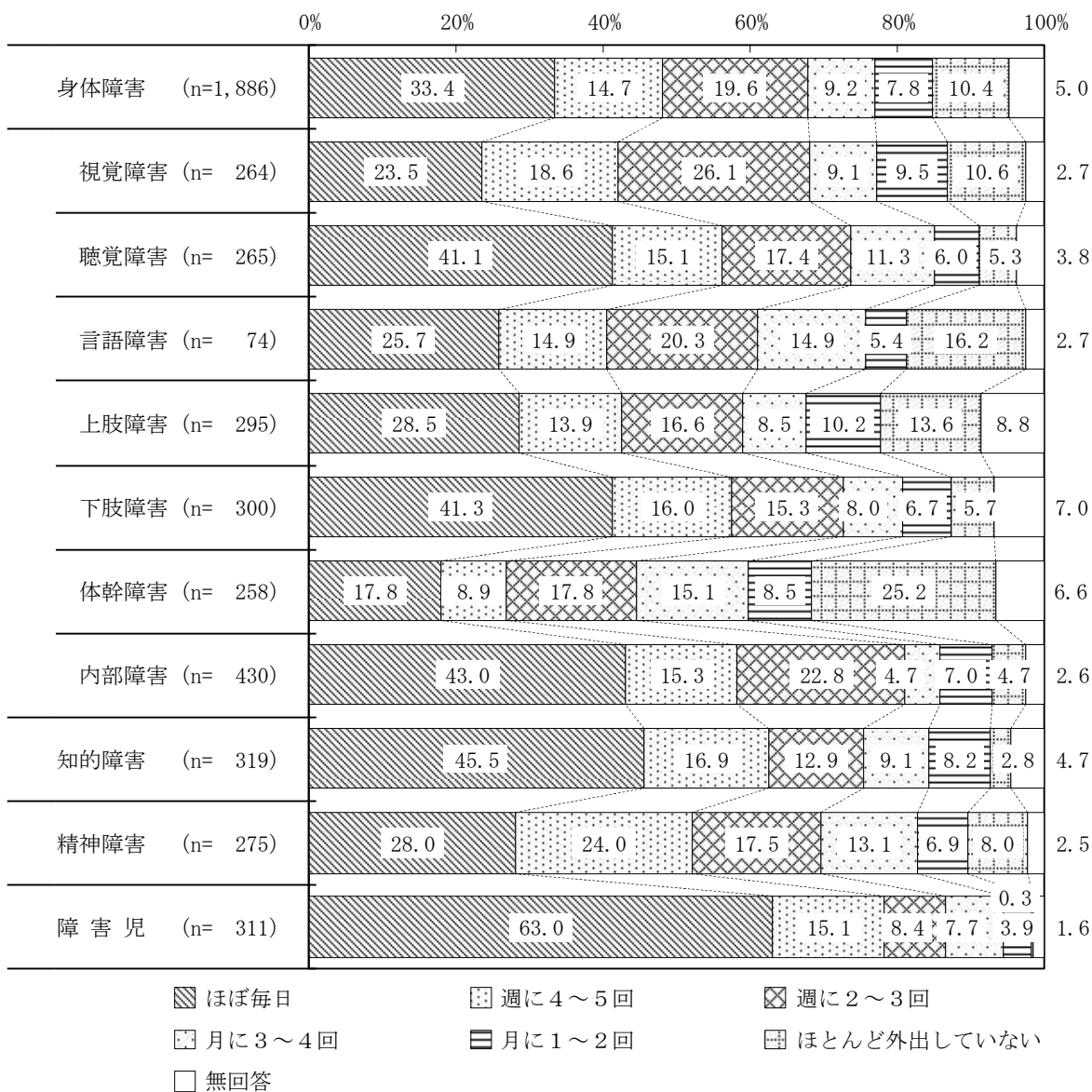
区分	内 容
聴覚障害	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大声で話す（3件） ・ 会話ができる（2件） ・ アプリ（3件） ・ 文字起こしアプリ（3件） ・ 音声文字変換アプリ（2件） ・ 音声認識アプリ（UDトーク、YYプローブ）（2件） ・ UDトークアプリと私のスマホの音声認識アプリを同時に使用しています。100%正解での文字変換はないですが、それでも以前に比べれば話し手の負担と、私の読み取り間違いが軽減されたと思います。
言語障害	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通訳 ・ 触手話 ・ 指で指す（コンビニ） ・ 身振り ・ 片側が少し聞こえるので、そちら側で話してもらう ・ 繰り返し問う、家族の会話はわからないので電話は出ない ・ なし
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食道発声（2件） ・ 咽頭機 ・ 会話は困らない。スマホでLINE等でコミュニケーションをとっています。 ・ メール ・ スマホ、写真 ・ 言語障害ですが、日常生活に支障はない ・ 普通に ・ なし

VIII 出かける

1 外出頻度

「ほぼ毎日」と「週4～5回」を合計した週4回以上外出しているのは、身体に障害のある人が48.1%、知的障害のある人が62.4%、精神に障害のある人が52.0%、障害のある児童が78.1%です。身体に障害のある人の障害種類別にみると、体幹に障害のある人の外出回数が少なくなっています。

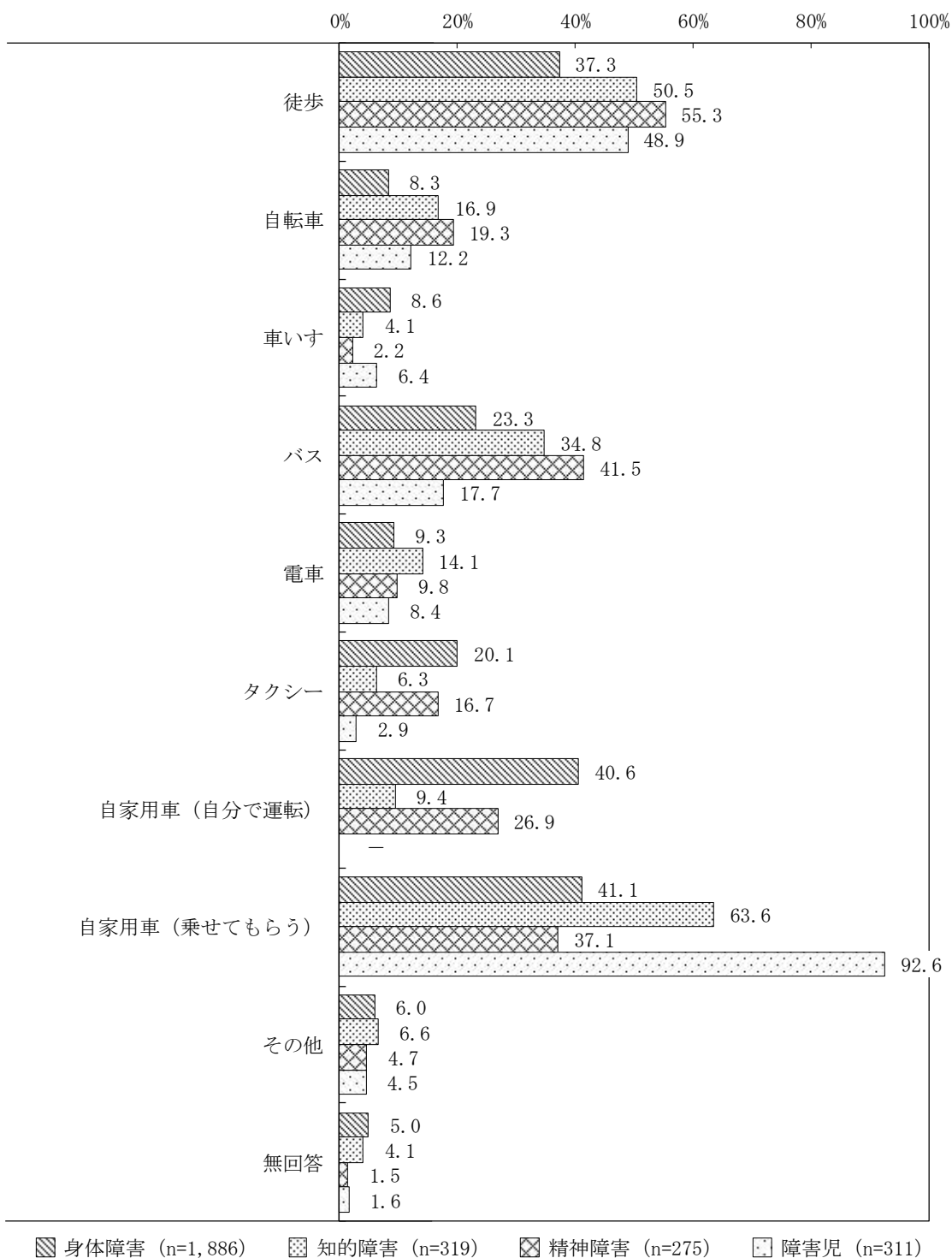
図表2-120 過去1年間の外出回数



2 外出時の移動手段

外出時の移動手段は、各障害とも、「徒歩」および「自家用車（乗せてもらう）」が高い比率を示しているほか、身体に障害のある人の「自家用車（自分で運転）」、知的障害のある人と精神に障害のある人の「バス」も高くなっています。

図表 2-121 外出時の移動手段（複数回答）



第2部 障害のある人

図表2-122は、身体障害を障害の種類別にみたものです。「徒歩」、「自家用車（乗せてもらう）」および「自家用車（自分で運転）」以外では、視覚に障害のある人の「バス」および「タクシー」聴覚に障害のある人の「バス」が高い比率を示しているほか、体幹に障害のある人の20.9%が「車いす」を利用していると答えています。

図表2-123は、「その他」の記述です。

図表2-122 外出時の移動手段（身体に障害のある人、複数回答）

単位：回答数は人、他は%

区分	回答数	徒歩	自転車	車いす	バス	電車	タクシー	自家用車 (自分で運転)	自家用車 (乗せてもらう)	その他	無回答
視覚障害	264	52.3	6.8	2.7	34.5	12.9	34.1	4.5	60.2	12.5	3.4
聴覚障害	265	53.2	15.8	1.1	37.0	15.8	12.1	54.0	32.5	3.0	2.6
言語障害	74	43.2	9.5	2.7	17.6	4.1	14.9	43.2	43.2	2.7	1.4
上肢障害	295	28.1	3.4	16.6	18.3	7.5	18.3	31.5	44.7	7.8	9.5
下肢障害	300	29.7	7.7	13.0	19.7	11.3	18.7	51.3	35.0	3.0	6.3
体幹障害	258	18.2	2.7	20.9	7.8	2.3	23.6	24.0	46.1	12.0	8.5
内部障害	430	40.2	11.6	1.9	24.4	7.9	17.4	62.8	33.3	1.9	1.9

図表2-123 外出時の「その他」の移動手段

区分	内容
身体障害	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルパーの車（6件） ・移動支援（4件） ・送迎サービス（3件） ・デイサービス（4件） ・施設の送迎（3件） ・障害サービス ・盲導犬 ・杖
	<ul style="list-style-type: none"> ・就労支援B型の送迎車 ・作業所の送迎 ・事業所の車 ・特別養護老人ホームの車 ・体操教室の送迎の自動車 ・介護タクシーで胃ろうの取り換えのため ・していない
	<ul style="list-style-type: none"> ・施設送迎車（2件） ・デイサービスの車
	<ul style="list-style-type: none"> ・バイク（2件） ・歩行器で歯医者、スーパー
	<ul style="list-style-type: none"> ・介護タクシー

区 分		内 容	
身 体 障 害	上肢障害	<ul style="list-style-type: none"> ・介護タクシー（5件） ・施設の送迎車（4件） ・デイスーパー送迎車（2件） ・送迎 ・電動カート ・シルバーカー 	<ul style="list-style-type: none"> ・足こぎペダル付COGY ・小松空港からJAL ・長く座位を保てないので難しい ・外出していない ・できない
	下肢障害	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルパーによる移動、事業所の車 ・通院介助等 ・移動支援の車 ・デイスーパー 	<ul style="list-style-type: none"> ・病院の送迎車 ・送迎車 ・飛行機 ・知人の車に同乗させてもらう
	体幹障害	<ul style="list-style-type: none"> ・介護タクシー（11件） ・デイスーパーの送迎車（4件） ・移動支援（2件） ・事業所の車（2件） ・施設の車（2件） ・ヘルパー（2件） ・介護者の車 	<ul style="list-style-type: none"> ・病院のリハビリ ・もし外出する場合は、全介助で移乗、移動。身体状況を考えれば外出する意味がありません。 ・病院入院中 ・病院に行くだけ ・外出していない、寝たきりである
	内部障害	<ul style="list-style-type: none"> ・バイク（2件） ・スクーター ・介護タクシー（寝台） 	<ul style="list-style-type: none"> ・デイスーパー送迎車 ・しない
知 的 障 害	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎車（3件） ・送迎バス（3件） ・施設の送迎車 ・事務所からの送迎 ・生活介護の送迎 ・事業所の車 ・GHの車 ・GHのスタッフ運転による移動 	<ul style="list-style-type: none"> ・デイ迎え ・施設の送迎バス ・作業所送迎バス ・施設のバス ・通所バス ・作業所のバス ・移動支援 ・友人から車を借りて 	
精 神 障 害	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームヘルパーの車に乗せてもらう ・ヘルパーさんと ・ヘルパー、生活介護、デイケア ・送迎車・移動支援 ・移動支援の乗用車 	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉タクシー ・福祉車輦 ・カーシェア ・チョイソコ ・バギー、だっこ 	
障 害 児	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールバス（4件） ・バギー（3件） ・デイスーパーの送迎（3件） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ベビーカー（2件） ・抱っこ（2件） ・外出しない 	

3 外出するうえで困ること

外出するうえで困ることは、各障害とも、「とくに困ることはない」が20%以上を占めています。このほかに20%以上あるのは、身体に障害のある人の「道路や駅に段差や階段、障害物が多い」、精神に障害のある人の「交通費の負担が大きい」、障害のある児童の「車などに危険を感じる」「まわりが気にかかる」です。身体障害のある人について、障害の種類別にみると、視覚に障害のある人、下肢に障害のある人、体幹に障害のある人は、複数の項目で20%以上あり、このうち、視覚に障害のある人、下肢に障害のある人の「道路や駅に段差や階段、障害物が多い」、視覚に障害のある人の「無人の駅、交番、セルフレジなど、支援してくれる人がいないと不安」および「車などに危険を感じる」は、30%を超える高い比率を示しています（図表2-124）。

図表2-125は、「その他」の記述です。

図表2-124 外出するうえで困ること（複数回答）

単位：回答数は人、他は%

区 分	回 答 数	バス・電車などが容易に利用できるよう改良されていない	乗物や公共施設の案内表示がわかりにくい	多い	道路や駅に段差や階段、障害物が多い	出入口や階段、トイレなど建物が容易に利用できるよう改良されていない	援してくれる人がいないと不安	無人の駅、交番、セルフレジなど、支援してくれる人がいないと不安	車などに危険を感じる	まわりが気にかかる	介助者がいないので外出できない	交通費の負担が大きい	ほとんど外出しないのでわからない	とくに困ることはない	その他	無回答
身 体 障 害	1,886	16.4	10.7	22.3	14.7	12.6	14.4	8.5	7.2	16.6	9.1	26.8	7.5	10.2		
視覚障害	264	23.9	29.5	34.5	19.7	30.7	34.1	12.1	10.6	17.4	11.0	9.1	8.3	10.2		
聴覚障害	265	13.2	13.6	5.7	3.4	16.6	14.0	10.9	1.1	12.8	5.3	31.7	10.2	9.8		
言語障害	74	12.2	12.2	12.2	8.1	14.9	10.8	9.5	6.8	13.5	12.2	28.4	8.1	8.1		
上肢障害	295	15.9	6.8	25.4	16.3	10.8	12.9	9.2	9.2	16.9	15.9	25.1	6.4	11.2		
下肢障害	300	20.7	7.3	35.7	22.0	10.0	11.0	9.7	6.7	22.0	3.7	24.7	9.0	9.0		
体幹障害	258	15.9	7.4	28.7	21.3	8.5	12.0	8.5	14.7	15.5	15.5	12.8	6.2	15.1		
内部障害	430	12.1	4.2	11.4	9.5	4.2	7.9	3.3	3.3	15.6	4.9	45.3	5.8	7.9		
知 的 障 害	319	14.4	10.7	8.2	7.2	16.9	18.5	19.1	8.5	14.4	6.9	26.3	8.8	7.2		
精 神 障 害	275	10.5	6.9	5.1	5.1	14.2	14.5	19.3	2.5	26.2	9.1	22.9	10.9	9.1		
障 害 児	311	8.7	5.5	9.0	9.6	15.1	29.9	21.9	9.3	9.0	3.2	22.8	10.3	5.1		

図表2-125 外出するうえで困る「その他」のこと

区分	内	容
身体	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドヘルパーがサポートしてくれている。 ・ガイドヘルパー付きの事業者が少ないように思われる。 ・介護者がいないとき外出できない。 ・夫婦で散歩のみ ・点字ブロックがガタガタ、自転車が怖い、夜は盲人です。 ・点字ブロックが途切れているところが多い。温泉へ行きたいが、家族に同性の介助者がいないため、行くことをあきらめている。本当は温泉に行きたい。 ・特に日中、音の出ない信号は渡りにくいことがある。 ・信号が見えない。 ・近所の交差点が使いづらい。暗いので車などが近づいてくるとわからないので危険だ。 ・暗いところが多い。 ・お天気が悪いと困ります。 ・今後自分で運転できなくなったとき、バスはない。どうすればよいかわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バスの乗り間違いがたまにある。 ・バスの本数が減っている ・北鉄バスの音声アナウンスが小さい。時刻通りにバスが来ない。 ・バスの音声小さくてわからないことがある。 ・介護タクシーの料金を援助してほしい。 ・公共交通機関（バスなど）が始発・最終が働き方改革で短くなっているから、移動したい時間でも移動しづらくなっていて、タクシーを使おうにも料金が高くなっているし、またタクシーも捕まりにくくなっている。タクシーを呼んでも人員削減でなかなか来ないので、結果的に外出できないなどの不都合がある。 ・視覚障害者なのでタクシーしか使用できない ・弱視のためタッチパネルが使えない。 ・スーパーのタッチパネルレジや、カフェなどのタブレットによる注文が見えない。「ここは危険」という看板に気付けない。案内サインが見えない。 ・外出（家族・友人）
障害	<ul style="list-style-type: none"> ・音声だけの案内は理解不能（一人にいるときの場合）。 ・車内放送を文字化してほしいと思います。例えば、事故が原因で出発が遅れるとか、地震で走行不可能のため、徒歩で〇〇駅まで向かうから、などの指示を文字化してほしいと思います。 ・電車等の車内放送がわからない。（例）遅延しているとき等に放送があっても内容がわからない。 ・アナウンスがわからない。 ・アナウンスなど文字情報がないとき。 ・バス停が遠い、35分かかる。 ・夜遅いとバスの運用がない。 ・優先席に若者が座っていて困る。 ・香林坊のバスに乗ろうと思いましたが、バスの番号が多すぎてわからない。20分ほど過ぎてやっと乗れました。 ・公共で障害割が少ない。 ・放送内容がわからない。 ・店員、外で会う人と会話が難しい。 ・難聴のためレジや窓口の音が聞き取りにくい。 ・病院の受付等、会話がスムーズにいかないことが多い。 ・車で外出のとき、サイレンの音が聞こえづらい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・放送がわからない。放送の内容を知る手段がない。ETCの無人の出口で障害の割引を受けるとき、何を言っているのかわからないと言っているのに、出てこなくて不都合。どこの出口でも同じような対応。最近登録車両以外でも割引が利くようになったので、出口で話をする必要がある。 ・聴覚障害で、雨の日補聴器が壊れるので防ぐため、障害者駐車場に停めると他のお客さんから「普通のやつが停めるな」と言われる。 ・自分で運転ができないため、運転者が不在だと外出が難しい。 ・人工内耳を埋め込んだ頭部と、人工内耳外機をつけた状態では、どちらもヘルメットが入らず、自転車を利用しにくい。 ・施設送迎車を使用するため、職員確保が必要。 ・職員が見守ってくれている ・夜、照明灯が減って暗すぎ。 ・公園のトイレの照明。 ・今歩ける間に、電動イスで外出（医者、買物、桜を見物）ができれば、どんなにか人生の思い出が残せるでしょう。 ・膝が痛い ・家の近くウォーキング（2～3回/週）

第2部 障害のある人

区 分		内 容	
身 体 障 害	言語障害	<ul style="list-style-type: none"> ・言語障害で話せない。 ・話すことができないので、さみしさを感じる。 ・道を聞いたが、なんて言っているかわからない。早すぎて聞き取れない。親の状態を説明できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・横断歩道を渡る時の時間が短くて渡りきれない。 ・外出する場所がだいたい決まっている。 ・一人では外出できない。
	上肢障害	<ul style="list-style-type: none"> ・一人で外出することはできない。(2件) ・必ず介助者がいること。 ・ガイドヘルパーの業者が少ない。 ・車いすで動ける、行ける場所がない。 ・車いすの改良(タイヤの幅、座席の幅) ・横断歩道が渡り切れないので焦ってしまう。 ・信号が変わるのが早く、渡り切る前に赤になる。 ・生活道路を近道として車が通る ・地震の後、道がデコボコになり、転ぶのが怖くて出歩く回数が減った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害のある人を何とも思わない若い人 ・バスで優先席に座れない ・満員のバスの中で席を譲ってくれないときがある。 ・バスがフラットでない場合 ・バスで行く ・東京は電車の乗換だけで疲れる。小松空港は建物内の移動は短い、羽田空港内の移動が遠い。自動車椅子の台数が少ない。 ・タクシーを拾ったが急発進をして転んでしまった。 ・困っていることが多いので、ほとんど外出できない、しない。
	下肢障害	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルプマークを付けようと思っても、逆にそれを目印に攻撃される事例を見聞きしてからためらってしまうこと。 ・外出しづらい ・一人では外出不可 ・一人での外出に不安を感じたり、道路が凍っていたり、積雪のある時は歩けず、外に出られない。足が動かなくなったり、痛みで立っていられなくなるので、ベンチや座れる所をもっと増やしてほしい。バス停にベンチすらない場所もありつらいです。 ・車いす生活のため、外出すると転倒して大ケガになるのでできない。 ・両手で杖を突くので、物が持てる量が限られる。 ・歩きスマホの通行者が向かってくる。 ・歩道のデコボコが多くて歩きづらい。 ・エスカレーターが少ない ・階段だけつらい。手摺必須。 ・バス停まで遠く感じる。 ・バスで外出する際、バス停まで遠い。 ・優先席に座れない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通機関、近隣のバスの便が少ない。足が不自由だが便の多いところに出るまで距離がある。 ・駐車場が遠く、歩く距離が長いとき ・駅や公共施設にベンチがない。 ・駐車場が少ない。または出入りがしにくい。 ・障害者用の駐車スペースが少ない、使われている。 ・車の免許を取ったが、ペーパードライバーなのでタクシーを利用している。市からタクシー券をいただけないのが残念です。 ・自動車の免許を取得したいが、うまく会話ができない。 ・金沢駅でも朝利用できるトイレが少ない。 ・人工骨のため飛行機に乗る際の金属探知機をどうにかしてほしい。証明書で簡易にしてほしい。 ・痛み ・介助者への負担

区分	内 容	
	体幹障害	<ul style="list-style-type: none"> ・寝たきりのため（2件） ・外出できない ・施設入居のため外出できない ・入所中につき不明 ・病院入院中 ・病院受診時、待つ時間が多変 ・看護者の時間のある時にしか外出できない。 ・妻の体調の都合により外出困難なことがある。 ・介護者同伴 ・身体が不自由なので介助が必要
身 体 障 害	内部障害	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルプマークをつけていても、席を譲ってもらえない（小学生に声をかけられたことがあった）。 ・ヘルプマークへの不信感が広まっている気がする。ヘルプマークで難病・精神すべてを含めるのではなく、身体障害の方がわかるようなヘルプマークがほしい。 ・車いす利用でないから、内部障害だと優先席を譲ってもらえない（ヘルプマークをつけていても）。 ・電車で、内部障害だと理解されにくい。元気に見えるので、座ったりしにくい。 ・優先シートに若者が座って自分が立たなければいけないこと。 ・若い子たちの意識が低い。 ・バスに乗りたいが、乗り換え、立って乗るのがつらい。 ・バスの便が悪い。運転免許が返納できない。 ・バスがない ・交通系ICを利用したい。 ・障害者用のスイカ的なカードがほしい。 ・病院へ公共乗物にしたいが、乗り換えなど不便。 ・冬透析へ通うのが大変。タクシーもつかまらず予約もできない。
		<ul style="list-style-type: none"> ・介護タクシーは前もって予約しておかないと、すぐ利用とはいかない。 ・運動のため近所を散歩する外出の他は、車での送迎によるデイケア、家の車で病院へ外出くらいです。連れ行ってもらおう。 ・気軽に銀行やコンビニに行けない（足がない）。 ・途中で転倒して起き上がれず、周りの方にSOS ・身体障害者駐車場に誰でも（妊婦、普通の高齢者含む）が停めている。車いす利用者は必ず利用するので制限してほしい。
		<ul style="list-style-type: none"> ・バスが少ないので、ついタクシーになる。 ・歩行が完全でなく、せいぜい1,000歩程度。したがってタクシー。 ・障害者用駐車場に健常者の自動車が増え、利用できない。 ・障害者駐車場に、妊娠の札をかけている人が多く、駐車できないことが多いため、妊娠されている方の駐車場は別につくってほしいです。札がない方も多いです。 ・障害者用駐車場の使用で、車いすではない障害者（心疾患など）の駐車場が足りないと感じる。車いす用の所に止めるのは気が引ける。 ・車の駐車場所、休憩場所 ・車のあるうちは特に困らないが、免許返納後には、困ることがあると思う。 ・歩道の段差が多い。点字ブロックなど、縦段差があるため、自転車の道路の陥没などが多く、安心して自転車に乗れない。タイヤが取られる。 ・何もない所で転ぶ？家電製品、日用品、衣料品を買う店が近くにない。私も両親も運転しないので。 ・トイレができる場所が多くあると良い。 ・女性トイレの数を増やしてほしいです。 ・家庭に収入が多いと、1円も助成されない。 ・自分の障害

第2部 障害のある人

区 分	内 容	
知的障害	<ul style="list-style-type: none"> ・一人で外出できない。(2件) ・一人で行動できない。 ・一人で外出することがほとんどなく、常に誰かと一緒です。 ・ほとんどは、家族の介助あり ・介助する人がいないと、外出できない。 ・介助する人の負担が大きい(日常生活も)。 ・もっと外出したいが、介助者が忙しく、外出の機会は限られてしまう。 ・移動支援を利用したいが目的に合った事業所がない。 ・行動援護がないと、外出できない。 ・いつでも外出したい時に外出できるように、介助者を増やしてほしい。知的障害のために、ひとり言が多くて、不審者扱いされて、通報されて、パトカー出動したり、ふらっとバスでは、運転手さんに降りろと言われた。 ・一人で電車・バスに乗れない。 ・バスの本数が少ない。 ・バス路線、本数が減った。 ・休日の場合、バスの本数が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バスの路線、時間が変更になった時、わかりにくい。 ・県立図書館をよく利用しますが、直通のバスがないので、周辺バス(30分に1本)で良いので、コースに入れてほしい。 ・I C a や、ポイントカード等、支払い時のサービスが、本人にとって難しく、なかなか利用できない。 ・自転車のルールが難しく、不安。 ・バリアフリーのトイレがない場所だと困ることがあります。 ・公衆電話がなくなり、困っています。携帯電話を使用する能力がないため、持っていない。 ・忘れ物をする。 ・病院への外出など ・外国人に話しかけられる時、言語がわからない。 ・今は母親と一緒になので困らないが親が入院とかになったら外出や買物に困る。 ・現在は、親が健在なので、外出できるが、今後は、外出ができなくなる年月が近くなっていることです。
精神障害	<ul style="list-style-type: none"> ・一人で外に出られない。 ・外出できない。 ・外出したい時にできない。 ・身体に応じて、出られる時と出られない時がある。 ・人との会話…しゃべれる人が限られている。しゃべれない人だと、代弁者が必要なケースもある。 ・シャトルバス(各自宅から目的地へ行く手段、直接、又は、バス停、駅まで) ・車を運転しないので、遠出の外出の時、不便を感じる。(北鉄)バスの本数が、減ったのが不便。 ・テレビ等のニュースを見ていると、事件が起こりそうで、バスとか電車に乗るのが怖くて、遠出ができない。 ・公共バス、電車、サービスの利用方法がわかりづらい。 ・不安になったりして、電車・バスなどに一人で乗れないので、一人になったら、外に出られない。高くタクシーにも乗れない。 ・タクシーの券が足りない。 ・公共の乗り物を利用するのが不安。 ・外出自体の困難、公共の乗り物の時間に合わせられない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チョイソコをもっと利用できやすいように ・自転車道が整備されていないので、道路交通法改正後の外出手段が減る。 ・街の中の道が細い。 ・ガソリンが高い。 ・目的地の住所や建物がナビで出てこない場合、検索にとっても時間がかかる。 ・目的地の行き方が理解できない。案内表示の意味がわからない。 ・免許 ・車を運転できず、持ってもいないので、仕事選びが限られる。 ・通院の際、大雪だと行けなくなる。 ・病院の診察時のみ ・車いすでの利用が不便。 ・洋式トイレしか使えない。 ・精神と身体に障害と疾患があるので、判断が難しい。 ・見た目、アルツハイマーとわからないため。 ・ストーリーカーにあっている。 ・今は親がいるので、助けてもらっている。 ・母親に希望の物を買って来てもらう。

区 分	内 容	
障 害 児	<ul style="list-style-type: none"> ・一人で外出できない。(3件) ・一人では外出しない。 ・一人で外出したことがないのでわからない。 ・今は親がいて外出できるが、一人では外出できないので、今後困ると思う。 ・介助する人がいない場合は、外出できない。 ・不潔恐怖のため、外出できない。 ・親がいないと不安。 ・必ず誰かいる。 ・一人で出かけることがない(できない、必ず大人が必要)。 ・一人では外出できない。交通機関の使い方がわからない。 ・自転車の交通ルールがわからない。 ・周りの理解が少ない。乗り物、公共のことでも、もう少し利用しやすくしてほしい。実際歩いてみればわかる。体験してほしい。車いす等、道路の使い勝手が悪く、自走も大変。 ・介助が大変 ・ユニバーサルシートがない。そして、あっても少ない。金沢駅にあったのに、小さいものになって、使いづらい。駅なら何か所かつけてほしい。 ・ミルクが1日4回で、200ml/h投与のため、あげる場所が車内になり、お湯の準備等が大変だったりする。嘔吐もしてしまうため、処理が大変。 	<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場が満車の時に、パニックになることがある。 ・障害児が気兼ねなく遊べる施設がほしい。 ・障害者限定の遊び場をつくってほしい。例えば、あめるんぱーくなどの子供が遊ぶ施設を、この日は障害者貸切とか、この時間帯は障害者貸切とか、日にちや時間指定でもいいので。いろんな市の施設県の施設バラバラな日だとありがたいです。あと、障害者なので年齢制限はなしで。 ・買い物の時不便。 ・雨(雪)の日が大変。荷物が重い。 ・可視化されていると、わかりやすい。 ・言葉が話せないため、行きたい場所を伝えられない。 ・今現在は、体重が軽いので、抱いたりしていますので、何とかなっていますが、大きくなると、不安はあり。 ・まだ5歳なので本人が困る事は言葉にできない ・まだ5歳なので、まだ、そこまで困ることはない。 ・おうちの人と一緒になので、困っていない。 ・大人と一緒になので、安全に気をつけている。 ・子どもなので、まだわからない。 ・わからない

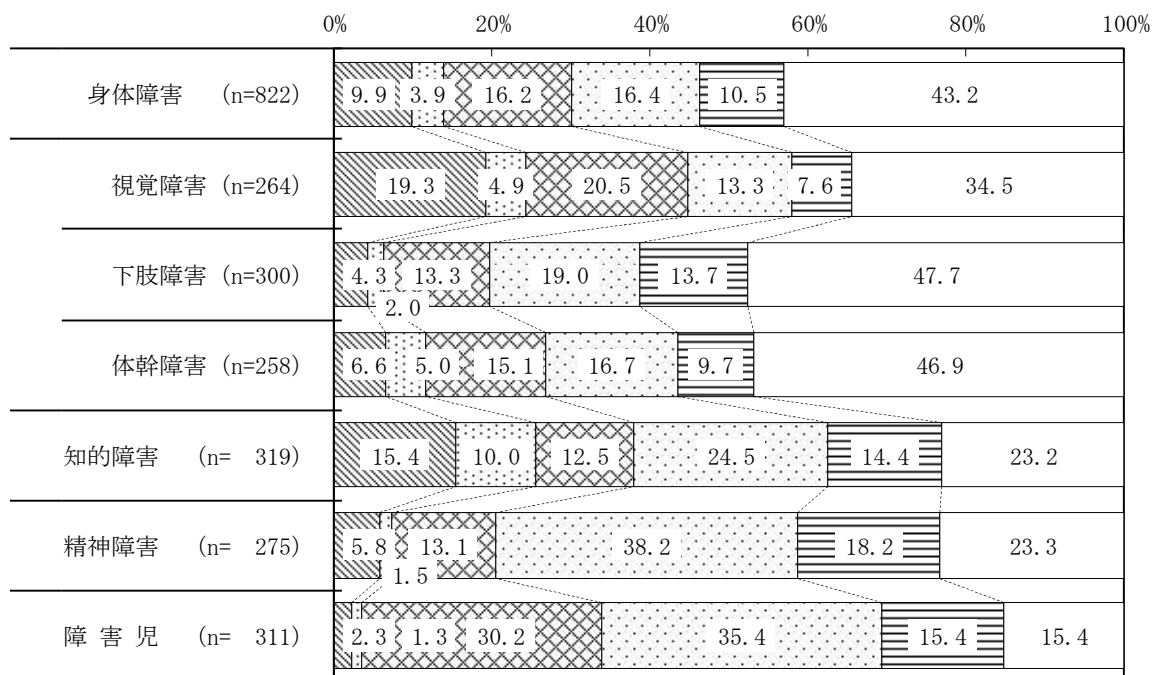
4 外出支援の利用

(1) 同行援護または移動支援事業

同行援護は視覚に障害のある人に限定されていますが、移動支援事業は屋外での移動が困難な障害のある人としています。この調査では、視覚に障害のある人に対しては同行援護と移動支援事業、下肢に障害のある人、体幹に障害のある人、知的障害のある人、精神に障害のある人および障害のある児童に対しては移動支援事業についてお聞きしています。

「利用している」は、視覚に障害のある人（19.3%）および知的障害のある人（15.4%）が高く、「利用したことはないが、今後利用したい」は、障害のある児童が30.2%、視覚に障害のある人が20.5%などとなっています。

図表2-126 同行援護または移動支援事業の利用状況と利用意向



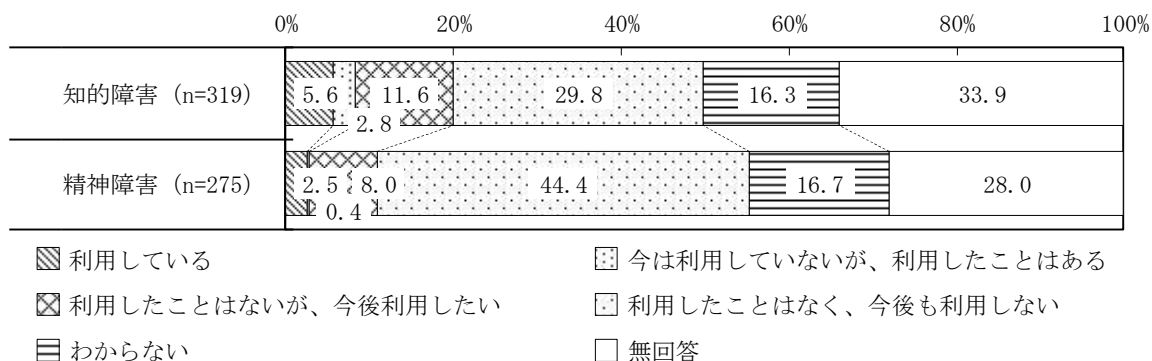
利用している
 今は利用していないが、利用したことはある
 利用したことはないが、今後利用したい
 利用したことはなく、今後も利用しない
 わからない
 無回答

(2) 行動援護

行動援護は、障害のある人が行動する際に生じる危険を回避するために必要な援護、外出時における移動中の介護、排せつおよび食事等の介護、その他行動する際に必要な援助を行うものです。サービス対象となるのは知的障害または精神障害により行動上著しい困難を有する常時介護を必要とする人で、障害支援区分3以上等の条件を満たす人です。

行動援護を「利用している」と答えたのは、知的障害のある人が5.6%、精神に障害のある人が2.5%です。「利用したことはないが、今後利用したい」が、知的障害のある人11.6%、精神に障害のある人8.0%となっていますが、上記サービス受給条件を満たしていない人も答えているものと推定されます。

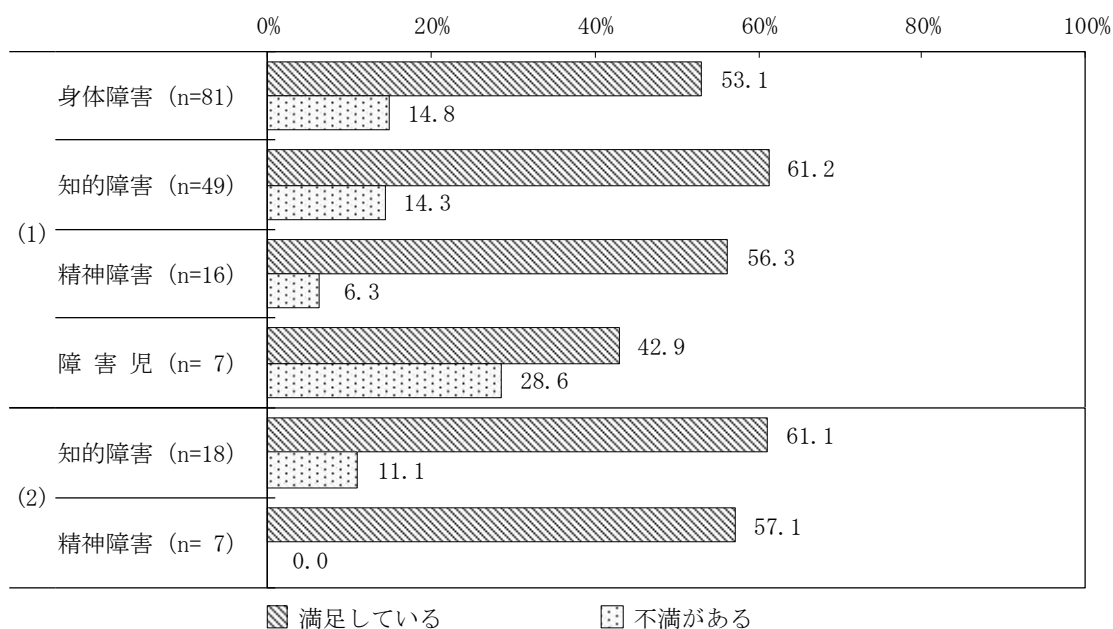
図表2-127 行動援護の利用状況と利用意向



(3) 外出支援の利用満足度

(1)および(2)のサービスを利用していると答えた人の利用満足度（「満足している」）は、移動支援の障害のある児童を除き、概ね50%以上と高くなっています。

図表2-128 外出支援の利用満足度



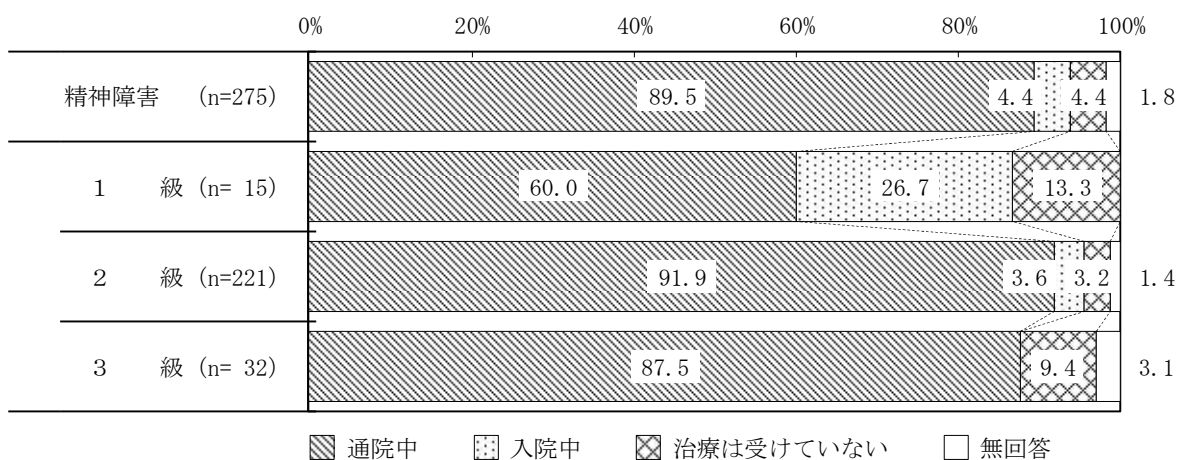
IX すこやかに暮らす

1 精神科での治療

(1) 精神科での治療状況

精神に障害のある人に対する「現在、精神科（神経科（神経内科）、心療内科）で治療を受けていますか」の回答は、「通院中」が89.5%を占めており、「入院中」が4.4%です。「通院中」は重度ほど低く、「入院中」はその逆の傾向がみられます。

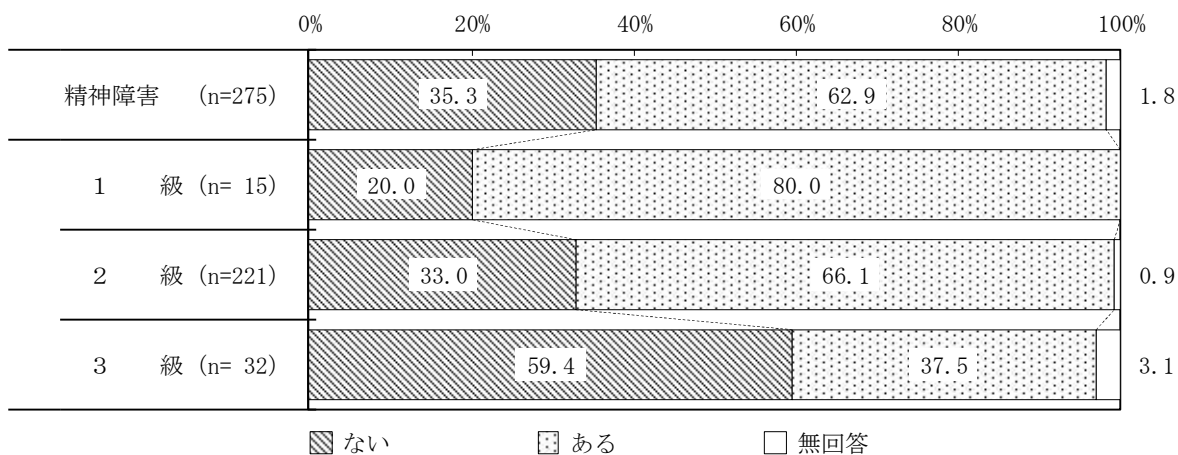
図表 2-129 精神科での治療状況（精神に障害のある人）



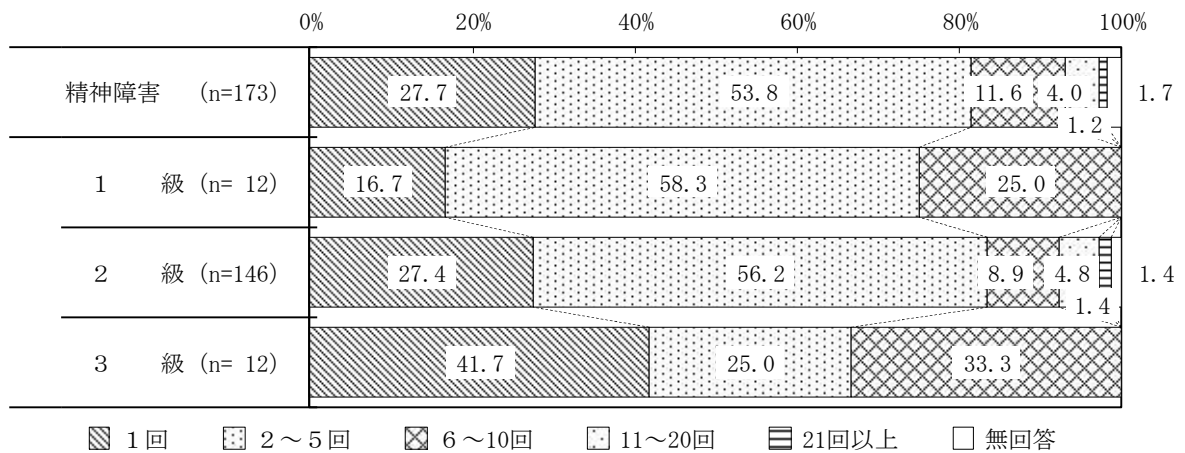
(2) 精神科への入院

精神科（神経科（神経内科）、心療内科）への入院は、「ある」が62.9%を占めています（図表 2-130）。入院回数は、「2～5回」（53.8%）と「1回」（27.7%）を合計した「5回以下」が81.5%になります（図表 2-131）。入院期間は、「1年未満」が63.0%、「1～5年未満」が25.4%、「5年以上」が9.2%になります（図表 2-132）。

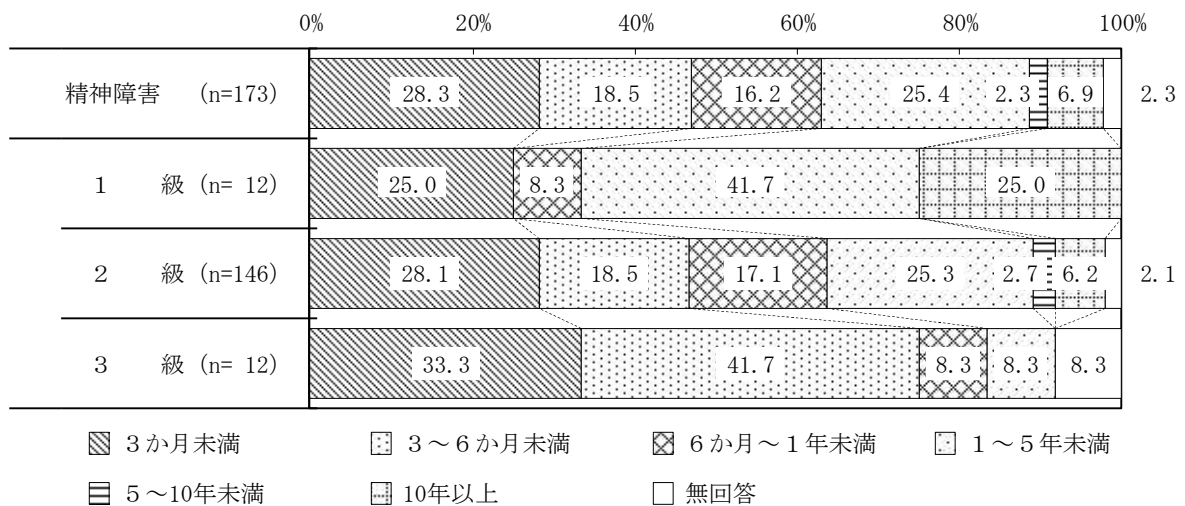
図表 2-130 精神科への入院（精神に障害のある人）



図表2-131 精神科への入院回数（精神に障害のある人）



図表2-132 精神科への入院期間（精神に障害のある人）

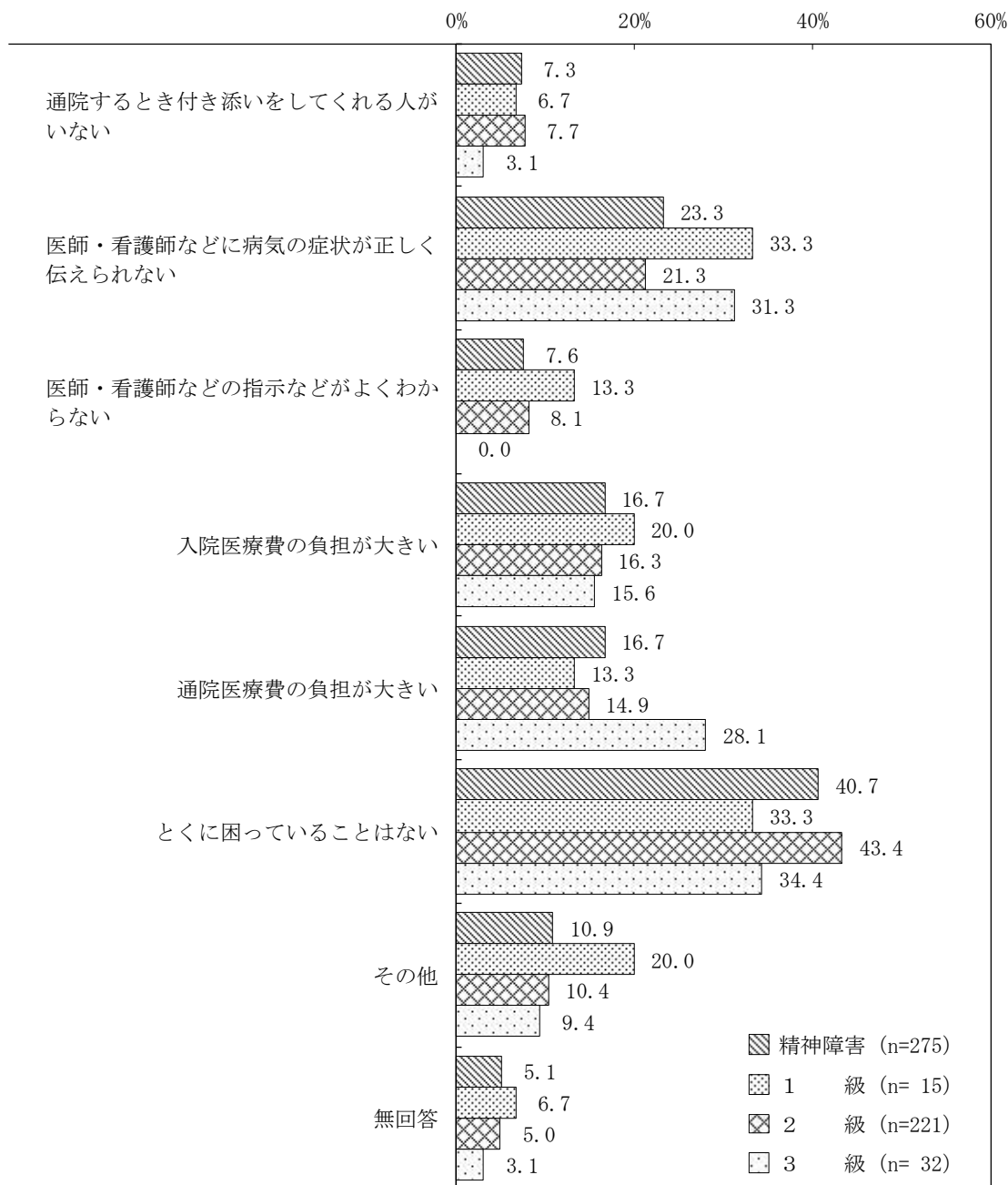


(3) 精神科医療で困っていること

精神科医療のことで困っていることとしては、「医師・看護師などに病気の症状が正しく伝えられない」が23.3%と最も高く、次いで「入院医療費の負担が大きい」と「通院医療費の負担が大きい」が16.7%などとなっています（図表2-133）。

「その他」として、図表2-134の記述がありました。

図表2-133 精神科医療で困っていること（精神に障害のある人、複数回答）



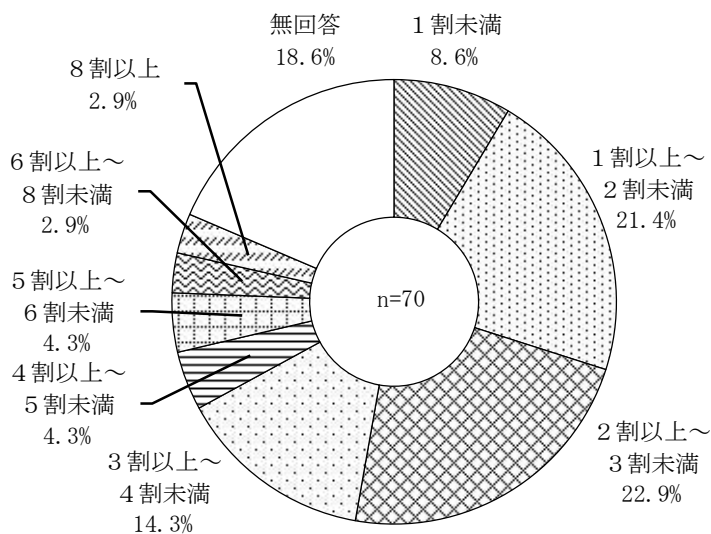
図表2-134 精神科医療で困っている「その他」のこと

内	容
<ul style="list-style-type: none"> ・症状が、改善しない状態が続いている。医師にも理解が得られない。 ・担当先生との相性。相談しにくい。 ・医師（主治医）がよく替わって、病状を把握しているのか疑問に感じる。真剣に相談に乗ってもらえない。 ・担当医との相性が合わない。 ・事務員の態度が悪い。診断書を提出しても、ちゃんと書いてくれない。 ・職員さんによって、冷たい職員さんがいらっしゃるので、それがいやです。 ・精神科は、誰もわからない病気なので、自分の気持ちは、わかってもらえないです。 ・自分自身が、未だに精神疾患を受け入れられていない。 ・病気は、ほとんど治った。今は、薬を飲んでいる程度。 ・行ける回数が少なすぎる。話せる人がいない。 ・病院に行くこと自体が、精神的に負担になる。 ・診察時間が短い ・一人ひとりの診察時間が5分で短く、話し足りない。もうちょっと長くていいかな。 ・薬の副作用、足がおかしくなる。 ・薬を処方されているが、以前のように生活できない。 ・入院中に自分のやりたいこと等がうまくいかない。 ・現在は入院していませんが、生命保険も入れず、入院費の負担が大きいと心配して、勧められても、拒否することがあります。1割負担になると、ありがたいです。 ・年1回、血液の健康診断、医師の往診で。 ・通院している病院が遠い ・通院先が遠い ・交通費が高い ・病院までの交通手段 ・交通手段 ・交通手段があまりない ・午後以降の時間帯が無料送迎バスがない ・今は、両親に手伝ってもらっているが、一人になったら、困ることがいっぱいあります。 ・必要かもわからない ・ないと思います 	

(4) 家計に占める医療費の割合

(3)で「入院医療費の負担が大きい」および「通院医療費の負担が大きい」と答えた人に、世帯の家計に占める医療費（精神科以外の医療費も含む）の割合をたずねた結果が図表2-135です。「2割以上～3割未満」が22.9、「1割以上～2割未満」が21.4%、「3割以上～4割未満」が14.3%となっています。なお、「医療費の負担が大きい」と答えているのは、275人中70人（25.5%）です。

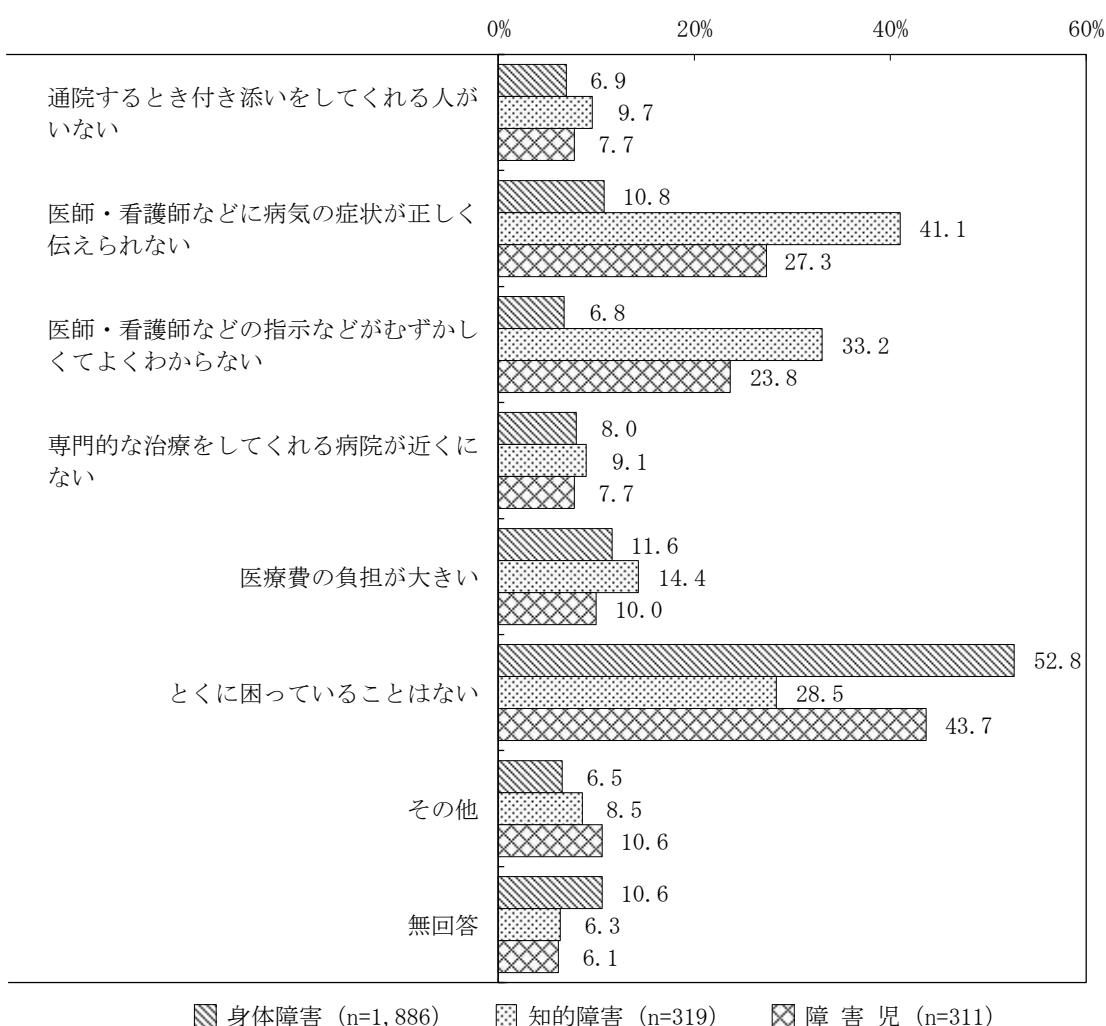
図表2-135 「医療費の負担が大きい」と答えた人の家計に占める医療費の割合（精神に障害のある人）



2 医療のことで困っていること

医療のことで困っていることとしては、身体に障害のある人は「医療費の負担が大きい」、知的障害のある人と障害のある児童は「医師・看護師などに病気の症状が正しく伝えられない」が、それぞれ最も高くなっています。また、知的障害のある人と障害のある児童の「医師・看護師などの指示などがむずかしくてよくわからない」も高い率を示しています。「とくに困っていることはない」は、身体に障害のある人が52.8%、知的障害のある人が28.5%、障害のある児童が43.7%です。

図表2-136 医療のことで困っていること（複数回答）



第2部 障害のある人

身体に障害のある人を障害の種類別にみると、言語障害のある人の「医師・看護師などに病気の症状が正しく伝えられない」が特に高くなっています（図表2-137）。

「その他」として、図表2-138の記述がありました。

図表2-137 医療のことで困っていること（身体に障害のある人、複数回答） 単位：回答数は人、他は%

区 分	回 答 数	通院するとき付き添いをしてくれる人がいない	医師・看護師などに病気の症状が正しく伝えられない	医師・看護師などの指示などがむずかしくてよくわからない	専門的な治療をしてくれる病院が近くにない	医療費の負担が大きい	とくに困っていることはない	その他	無回答
視覚障害	264	11.0	8.7	5.3	8.3	4.2	54.5	8.3	14.0
聴覚障害	265	6.0	18.9	18.1	7.2	10.9	46.4	7.9	6.8
言語障害	74	6.8	35.1	13.5	9.5	9.5	45.9	2.7	4.1
上肢障害	295	5.8	13.2	4.4	8.1	10.8	54.2	5.8	10.8
下肢障害	300	6.7	5.3	3.0	9.7	16.0	52.0	5.3	11.3
体幹障害	258	8.9	10.5	5.4	8.1	11.2	45.7	8.9	16.7
内部障害	430	4.9	5.3	4.7	6.7	14.4	60.5	4.9	7.4

図表2-138 医療のことで困っている「その他」のこと

区 分	内 容
身 体 障 害	<ul style="list-style-type: none"> ・通院のヘルパー確保が難しい。 ・通院時、夫が仕事を休まなくてはならず、負担をかけている。 ・通院付き添い、妻、妹など ・眼科に関しては付添人が必要で、今現在調整中。 ・今までは誰かがいてくれた。 ・通院までに時間がかかる。 ・とにかく待ち時間が長い。 ・医院など小規模な施設ならさほど移動に苦労はないが、大きな病院になると病院内での移動がわからない。 ・病院の設備 ・治療という治療がない。 ・専門医がない。 ・医師からの丁寧な説明がない。 ・緊急時（目のケガ等）、診てもらえる病院が少なかった。 ・治ることを望んでいる。 ・特別養護老人ホームの看護師さんをお願いしている。 ・市役所が受けさせてもくれない。目の都合が良くなるどころか悪くなる一方です。 ・ルーペ等が高く、補助制度があればよい。 ・あまりかからないので ・認知症なのでよくわからない

区 分	内 容	
身 体 障 害	聴覚障害	<ul style="list-style-type: none"> ・手話通訳がどの病院にも配置されているとは限らない。医師、看護師がみな手話ができるとは限らない。手話対応が可能な医療機関の情報がない。 ・手話通訳者がいないとコミュニケーションが取れないと思います。 ・難聴で医者の説明がわかりにくいけど、筆記説明ならある程度わかる。 ・筆談で対応してもらっている。 ・人工内耳を装着していても、聞き取れないことがある。 ・通院で順番に呼ばれるとき、聞こえないので耳になってくれる人がほしい。それか電気で番号が出るようにしてほしい。聞こえないので指示などわからない。 ・受付で呼ばれたときにわからないときがある。 ・呼び出しがわからない。 ・放送内容がわからない。 ・かかりつけ医は理解があるが、初診時にはとても大変である。 ・元々大学病院へ通院していた。40年前に初診、このときはいつでも行けた。普段治療することもないので、定期的に行く必要もないが、証明とかもらうときに大学病院でもらって下さいと言われる。わざわざ他院で紹介状を書いてもらったりしないと受信できないので不便である。お金も時間もかかる。 <ul style="list-style-type: none"> ・一般の患者と障害を持つ患者を診るところが分けられるところがあればいいなと思います。それだといかにも自分が障害者だと分かってしまうから嫌だという考えもあるかもしれませんが、病院は限られた時間内でたくさんのお客様を診ないといけませんので、どうしても次ぎ、次ぎ、という対応になりがちです。障害を持っていてゆっくりとしか話せない。ゆっくりとしか体を動かさない患者さんに対して感情的になるお医者さんや看護師さんを何人も見ているので、それならば一般の患者さんと障害を持っている患者さんの診察室を分かればよいと思います。診察室1、2、3があるなら、そのうちの一つだけでも障害者の患者さん専用の診察室にするのはどうかと思います。 ・通院費が高い。補聴器（EAS）が壊れたとき、自分の場合、長野まで行かないと修理が全部自腹になる。電話予約のため、予約も取りづらい。 ・補聴器購入に関する費用の負担が大きい。特に補聴器修理に関する費用の負担が大きい。北陸の湿気が多い気候のせいか、補聴器の故障頻度が高い。修理費の補助をもっと受けやすくしてほしい。子ども、成人にかかわらず。 ・補聴器が高価なこと ・病院が遠くにある。 ・セニアカーに乗ること
	言語障害	<ul style="list-style-type: none"> ・何に困っているかわかりません。
	上肢障害	<ul style="list-style-type: none"> ・通院時は付添人が必ず同行すること。（2件） ・近くの歯科へ行きたいが、予約制のため、家族との時間を合わせる事が難しい。車いすの対応がない。 ・全身の病気なので、いろいろな科にかかっている。連携してもらえらるようしてほしい。 ・近くの病院に変更したいが、きっかけがなくて、あと適した科があるかわからない。 ・自分の現状をうまく伝えられない <ul style="list-style-type: none"> ・病院に行くことが難しい。歯、皮膚、他いろいろ訪問医療を充実してほしい。・通院の交通 ・医院まで行くタクシー代が高騰 ・病院へ行くまでが大変（移動） ・車がないと通院が難しい。 ・車があればよい。 ・あるけど言わない。 ・そのときになってみなければわからない。 ・わからない

第2部 障害のある人

区分	内容
<p>身体</p>	<p>下肢障害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院が遠く、移動手段は車のみになる。 ・医療を受ける際にタクシーを利用するので費用がかかる。 ・通院するときのガソリン代金の負担が大きい。 ・通院、駐車場が不便 ・病院が広すぎることで、院内の移動がづらい。 ・今の病院でのご対応に満足しています。 ・緊急時に病院へ行けない。 ・避難のときの家族の負担（仕事を休まなくてはいけない）、看護タクシーの料金が高いので使えない。 ・唾液を吸い取る器具（バッテリー）を1.5ヶ月で購入しないとイケない。 ・マッサージ ・医療費が今はかからないので助かっているが、今後65歳になったらかかるようになるので、今までのように病院にかかれないうらというところが不安です。
<p>障害</p>	<p>体幹障害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院入院中（4件） ・現在は往診にて受診中 ・訪問診療を受けている。 ・訪問医、看護を受けている。 ・医師とのコミュニケーションがうまくとれないと感じる。 ・家族と一緒にいないとコミュニケーションがとれない。 ・施設内での伝達がうまくいってなく、困ることがある。 ・看護師、医師の態度が悪い。福祉の人間だと態度が一般の方と違う。困ってしまうことが度々ある、悲しいです。 ・病院の医師が車いすの私に割り込んだり、ぶつかっても謝らない。(●●病院)
<p>害</p>	<p>内部障害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・治療方法がなく、完治しない。 ・毎日の治療 ・医療費受給者証の所得制限を上げてほしい。 ・障害者等級が1級から4級となり、医療費の負担が大きい。 ・ストーマ用品の負担が大きい。 ・通院時に長い距離を歩くのが難しい。

区 分		内 容	
身 体 障 害	内部障害	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医師や看護師さんなどに、ゆっくり相談したいと思うことがある。 ・ パソコン（電子カルテ）だけ見るのではなく、病気や患者の診察をしてほしい。 ・ 石川県立中央病院に、週に3回（月・水・金）必ず治療を受けなくてはならない。 ・ リハビリを希望していますが、できない。 ・ 施設の負担が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今は主治医が近くにいるが、老齢なうえに後継者がいないようなので、数年で閉院になりそうなこと。その後どうすべきか思案中。・今は一人で通院できるが、今後は不安。 ・ 将来的な不安 ・ 救急車を呼んでくれる人がいない不安 ・ 災害時の透析治療の不安。交通手段等。 ・ 職場で休みを取るのが大変。 ・ 現在、配偶者がいるので、困っていない。
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 話すことができないので、自分が不快だと思っていることを伝えられない。例えば、頭痛、腹痛等どこが痛いと言えない。 ・ 医者や看護師が障害のことをまったく理解してくれない。 ・ 現在は、親が本人に代わって病気の内容の説明はできていますが、親ができなくなった時を考えて、きちんと状態を伝えておくことが大切だと思っている。・定期通院は親と行く。 ・ 定期的に通っている病院へ行くしかない。 ・ 家族が同道し、対応している。 ・ 親が連れて行くので、一人では行かない（行けない）。 ・ 一人で病院に行けない。伝えることも、一人ではできない。 ・ 一人で外出できない。 ・ 今は、父母に付き添いしてくれるので。今後はわからない。 ・ 今は家族がいるが、今後は多少不安。 ・ 母と同伴 ・ 病院へは怖くて行けない。 ・ 医師や看護師が差別する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ パニックを起こすため、対応してくれるか不安。 ・ 今後、総合病院の受診が心配で、サポートしてほしい。 ・ 精神科は、話を聞くだけだが、内科・皮膚科など、身体に触ると、拒否あり、対応難しい。 ・ 痛いことをされる時があり、院内にはいるのが嫌。 ・ すべて支援員、看護師が行ってくれる。 ・ お金がなくて、病院に行けないことがないように、無料にしてほしい。 ・ 県立病院で1週間入院予定でしたが、困難だと判断され自宅療養になり心配でした。 ・ 親がいなければ、1（通院するとき付き添いしてくれる人がいない）～5（医療費の負担が大きい）すべて当てはまる。 ・ 今は、親がいる。多分、一人になった時は1（将来はガイヘル）。 ・ 今は母がいるから、困っていない。 ・ 親と一緒にいるので、今は特に困っていない。
障 害 児		<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害を理解してくれる町医者が少ない。 ・ 障害のある人の行く医療・病院がわからない。 ・ 看護師の態度がひどい。いやな顔をする。 ・ たくさんの医療機関に関わってもらっているのですが、とりまとめがややこしくなっています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門的な小児科が見つからない。本人とても怖がる。説明してくれるような医師や歯科がいてくれたら助かる。 ・ 大号泣。大暴れで周りに迷惑がかかる。ちゃんと診察できない。 ・ 病院が怖くて受診できない。 ・ 病院を嫌がる、暴れる。 ・ 病院への立ち入りが難しい。

第2部 障害のある人

区 分	内 容	
障 害 児	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4年通っていますが、歯のフッ素を塗るのでも暴れます。恐怖が強く、慣れるまでに多くの時間がかかります。また、そのための準備やお金も多くかかります（視覚や筆談資料）。 ・ 病院は怖い、不安な気持ちがあるかと思えます。 ・ 落ち着いていられないので、診察待ちも会計待ちも薬待ちも、とっても大変。 ・ 場所見知りがあるため、はじめて行く医療機関だと、事前の対策が必要となる。 ・ 初めての医療施設、医療従事者は不安である。中に入れない。不安定になりやすい。 ・ 身体が大きくなってから、連れて行くのが大変。 ・ 理解できないため家族が付き添う。 ・ 父か母がいないと、病院へ行けない。 ・ 母が忙しく満足に通院できていない。 ・ 親が元気なうちは困らない。 ・ 病院が平日のみなので、付き添いの親が仕事を休みがちになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の療育に空きが少なく、療育してくれる回数が限られる。 ・ 小児医療の自己負担金がある。他県から引っ越してきたが、生まれてから今まで、医療費は負担がなかった。 ・ 症状に合う薬の調整が難しい。主治医が勧める別の薬に変えたら、症状が悪化して、薬を戻しても、元に戻らない。 ・ レントゲンを毎回撮らずに、ファイバースコープにしてほしい。 ・ 移植をしてもらう病院が名古屋になるため、交通費の負担が大きい。 ・ 移動が大変です。 ・ 交通費が大変。 ・ 発達障害のある子が目や歯など検査できる病院などの情報を殆どの医師や金沢市も知らないし教えてくれないので、自分で何度も病院に電話などして調べるのに大変苦労している。 ・ 現在は大丈夫です（父親、祖母）。 ・ 必要にならないとわからない。 ・ わからない

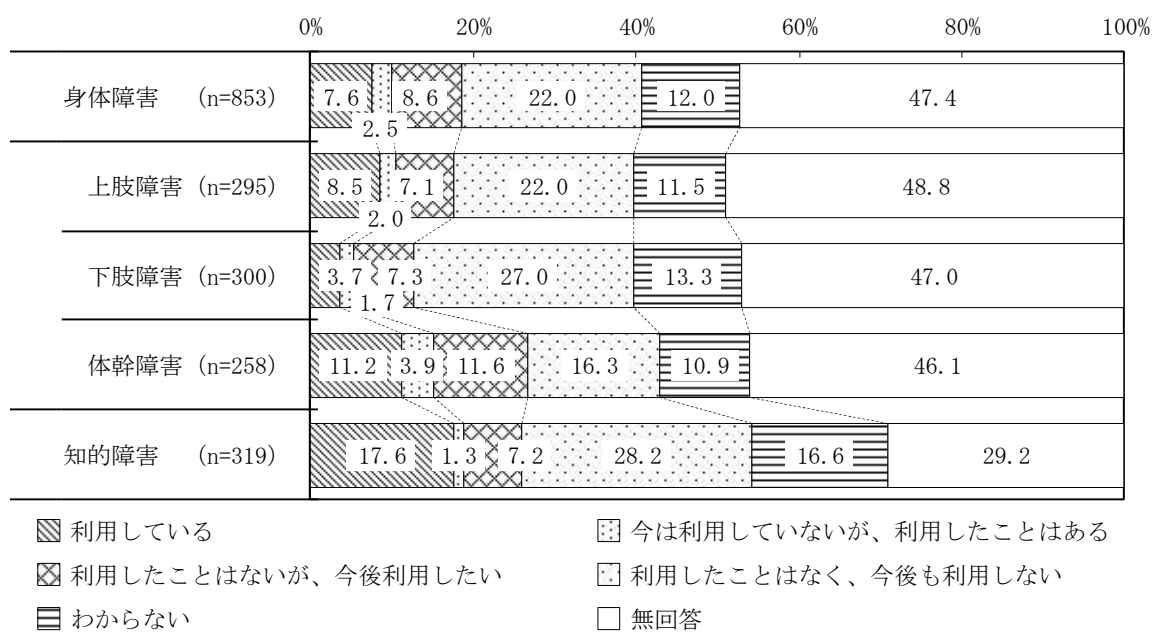
3 障害福祉サービス等の利用

(1) 生活介護

生活介護とは、常時介護を要する障害程度が一定以上の障害のある人が、主として昼間において、障害者支援施設やデイサービスセンターで、入浴、排せつ又は食事の介護、創作的活動又は生産活動の機会の提供等を受ける事業です。このサービスは、施設入所者も利用できます。生活介護は、肢体不自由と知的障害のある人を調査対象としています。なお、施設入所者のほとんどが利用するサービスですが、施設入所者を調査対象としていません。

生活介護を「利用している」は、肢体不自由が7.6%、知的障害のある人が17.6%です。「利用したことはないが、今後利用したい」は肢体不自由が8.6%、知的障害のある人が7.2%でした。

図表 2-139 生活介護の利用状況と利用意向

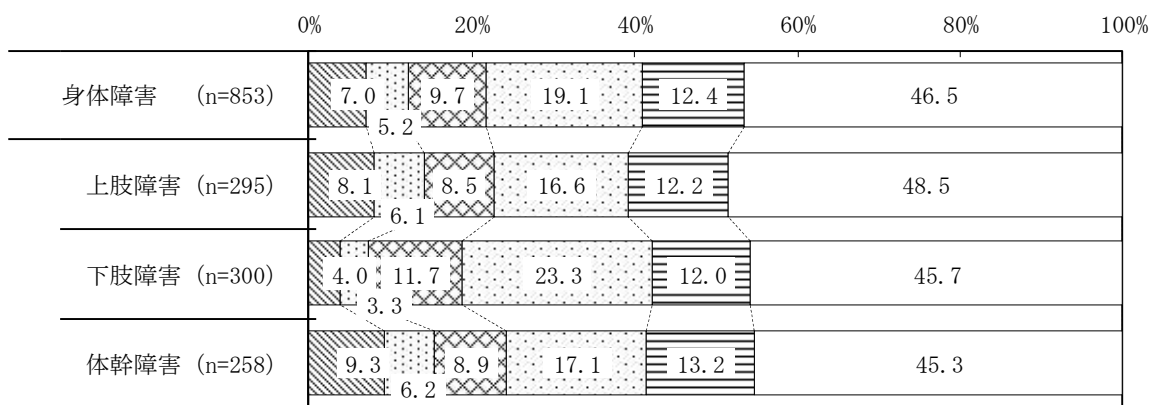


(2) 自立訓練（機能訓練）

自立訓練（機能訓練）とは、病院を退院した身体に障害のある人や特別支援学校を卒業した身体に障害のある人が、地域生活を営む上で必要な身体機能の維持・回復等のための訓練を受ける事業です。したがって、肢体不自由を調査対象としました。

自立訓練（機能訓練）を「利用している」の7.0%に対して、「今は利用していないが、利用したことはある」が5.2%あるのは、自立訓練（機能訓練）は利用期限が1年6か月と定められているためと考えられます。「利用したことはないが、今後利用したい」は9.7%でした。

図表2-140 自立訓練（機能訓練）の利用状況と利用意向



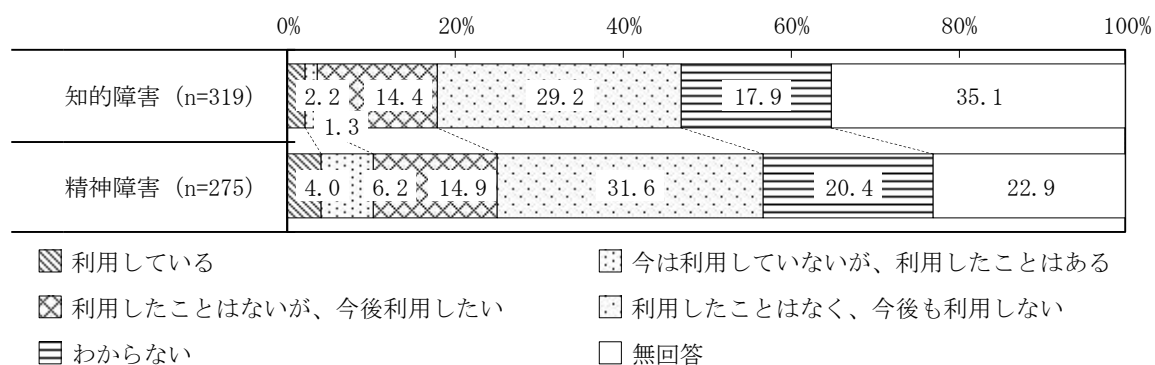
- ▨ 利用している
- ▩ 今は利用していないが、利用したことはある
- ▧ 利用したことはないが、今後利用したい
- ▦ 利用したことはなく、今後も利用しない
- ▤ わからない
- 無回答

(3) 自立訓練（生活訓練）

自立訓練（生活訓練）とは、病院や施設の退院・退所者や特別支援学校卒業者のうち、社会的リハビリテーションの実施が必要な知的障害のある人・精神に障害のある人が、地域生活を営む上で必要な生活能力の維持・向上等を図るための訓練です。

「利用している」は、知的障害のある人が2.2%、精神に障害のある人が4.0%です。これに対して、「今は利用していないが、利用したことはある」は、知的障害のある人が1.3%、精神に障害のある人が6.2%ありますが、自立訓練（生活訓練）は、利用期限が2年間（長期入院者等は3年間）と定められているので、「利用したことがある」人も多かったと考えられます。「利用したことはないが、今後利用したい」はともに15%程度でした。

図表2-141 自立訓練（生活訓練）の利用状況と利用意向

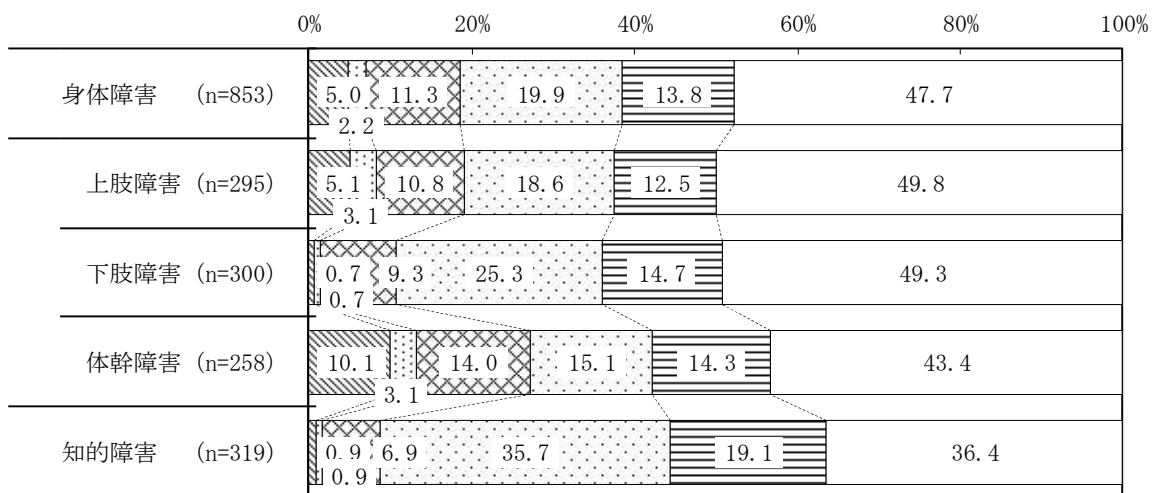


(4) 療養介護

療養介護とは、医療を要する障害のある人であって常時介護を要する人が、主として昼間において、機能訓練、療養上の管理、看護、医学的管理下における介護および日常生活の世話を医療機関併設の施設で受ける事業です。療養介護は、肢体不自由と知的障害のある人を調査対象としています。

療養介護を「利用している」のは、肢体不自由が5.0%、知的障害のある人が0.9%です。「利用したことはないが、今後利用したい」は肢体不自由が11.3%、知的障害のある人が6.9%でした。

図表2-142 療養介護の利用状況と利用意向

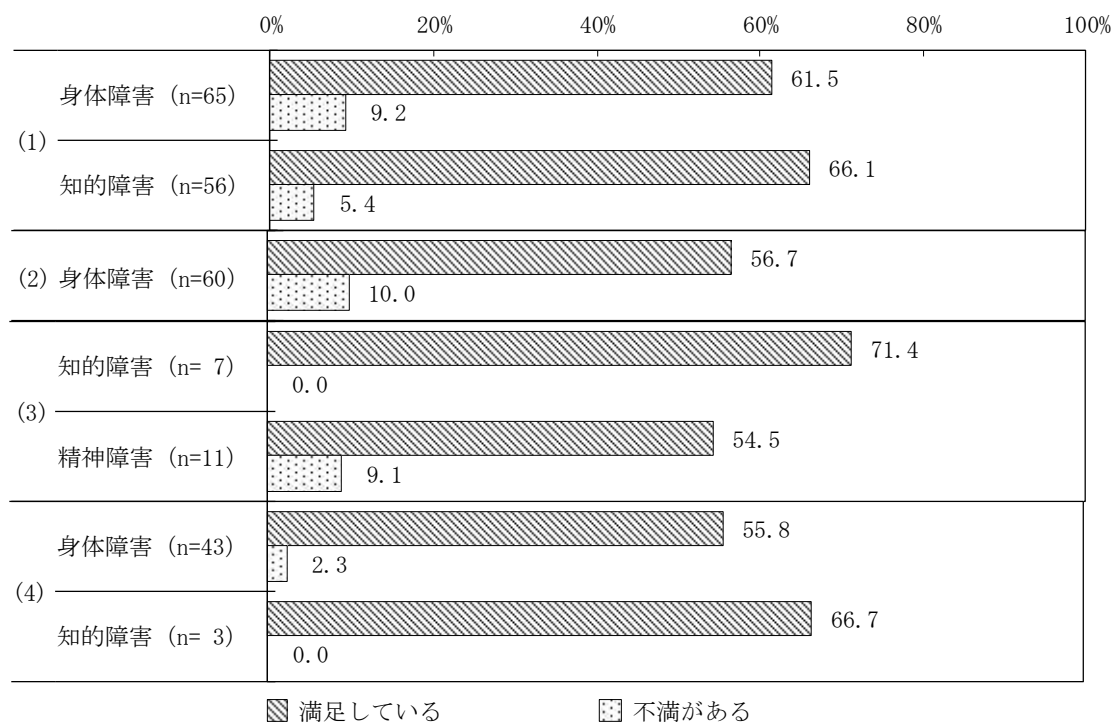


- ▨ 利用している
- ▩ 今は利用していないが、利用したことはある
- ▧ 利用したことはないが、今後利用したい
- ▦ 利用したことはなく、今後も利用しない
- ▤ わからない
- 無回答

(5) 障害福祉サービスの利用満足度

(1)～(4)のサービスを利用していると答えた人の利用満足度(「満足している」)は、いずれも50%以上と高くなっています。

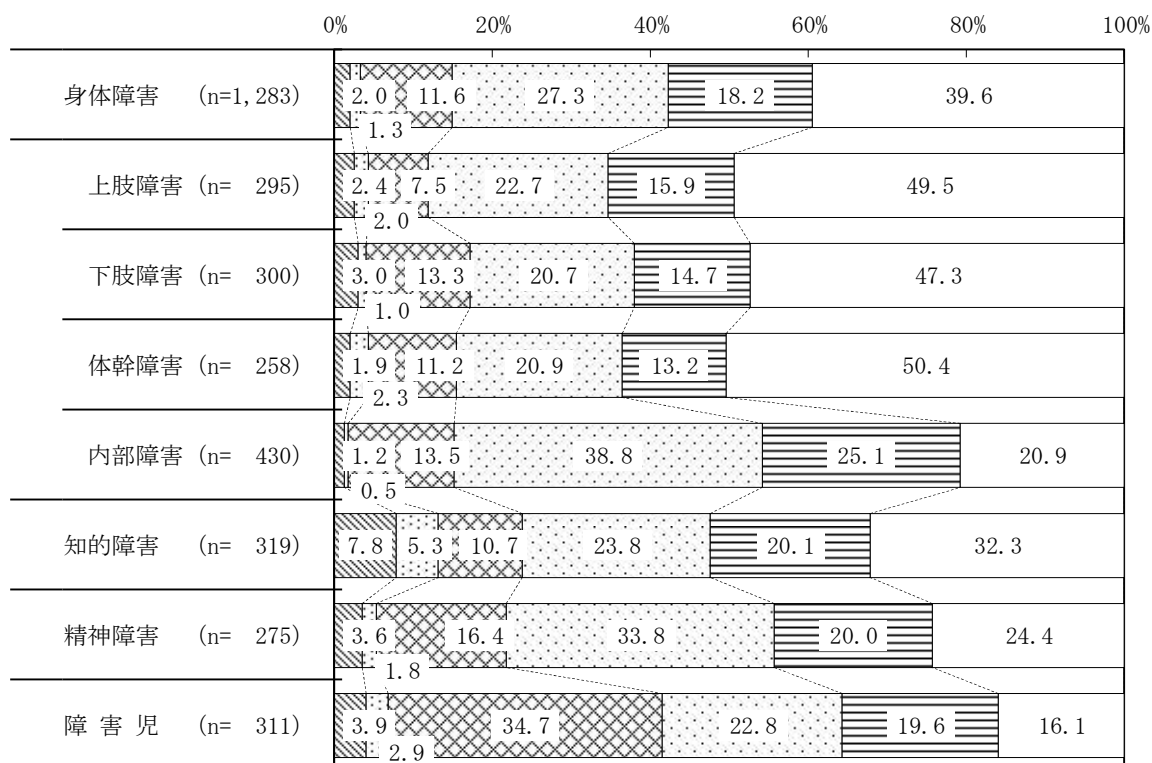
図表2-143 障害福祉サービスの利用満足度



(6) 地域活動支援センター

地域生活支援事業（必須事業）の1つである地域活動支援センターを「利用している」は、身体に障害のある人が2.0%と低く、知的障害のある人が7.8%あります。「利用したことはないが、今後利用したい」は、障害のある児童が34.7%と特に高くなっています。

図表2-144 地域活動支援センターの利用状況と利用意向



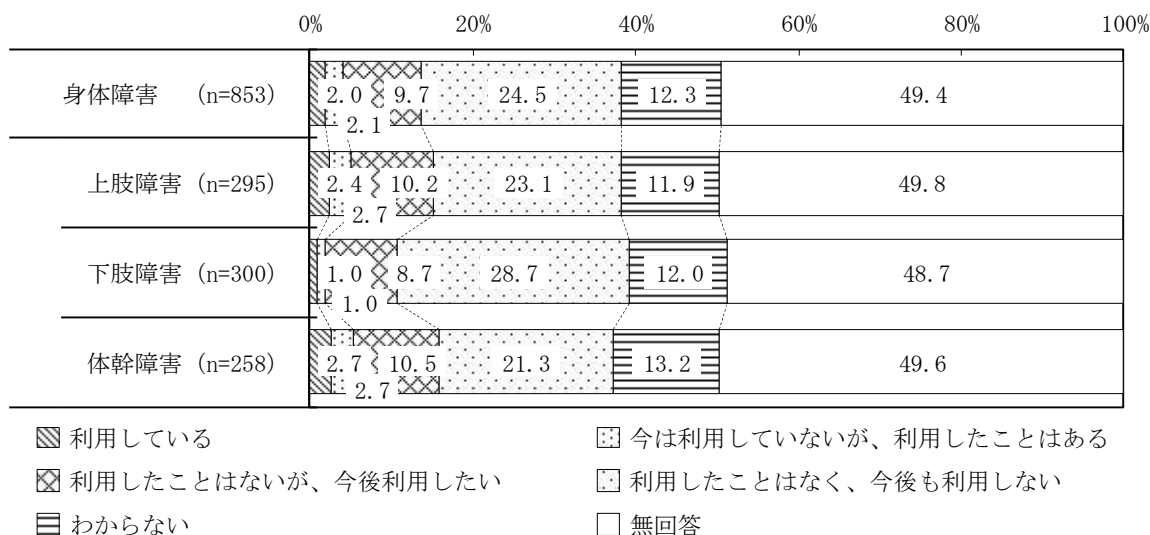
- ▨ 利用している
- ▩ 利用したことはないが、今後利用したい
- ▧ 利用したことはなく、今後も利用しない
- ▦ わからない
- 無回答

(7) 訪問入浴サービス

地域生活支援事業（任意事業）として実施している訪問入浴サービスは、肢体不自由を調査対象としています。

「利用している」（2.0%）、「今は利用していないが、利用したことはある」（2.1%）とも低くなっていますが、「利用したことはないが、今後利用したい」は9.7%あります。

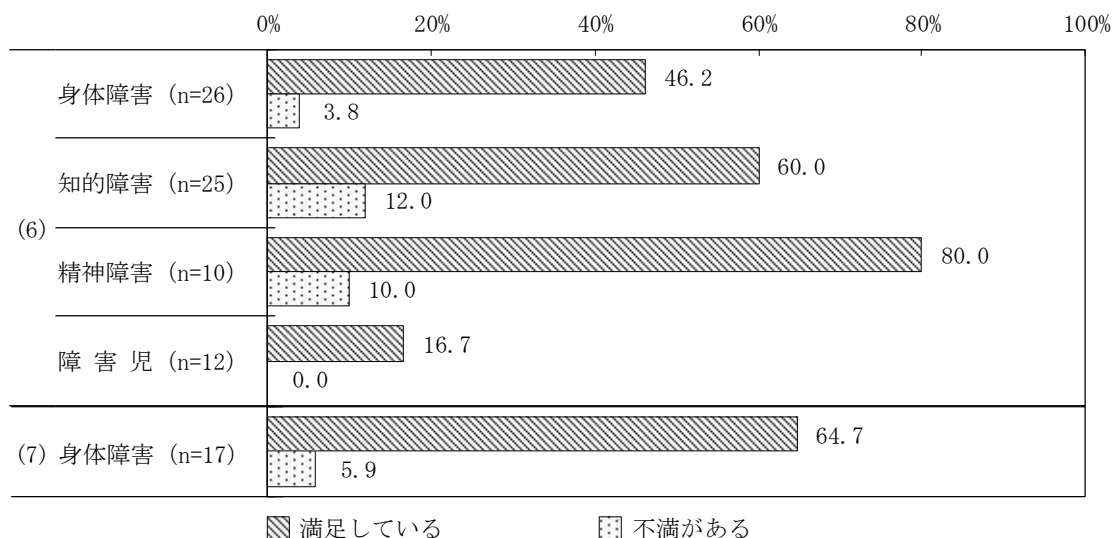
図表 2-145 訪問入浴サービスの利用状況と利用意向



(8) 地域生活支援事業の利用満足度

(6)および(7)のサービスを利用していると答えた人の利用満足度（「満足している」）は、(6)地域活動支援センターの身体に障害のある人と障害のある児童を除き、概ね50%以上と高くなっています。ただし、(6)地域活動支援センターに「不満がある」身体に障害のある人は3.8%で、障害のある児童で「不満がある」と回答した人はいませんでした。

図表 2-146 地域生活支援事業の利用満足度



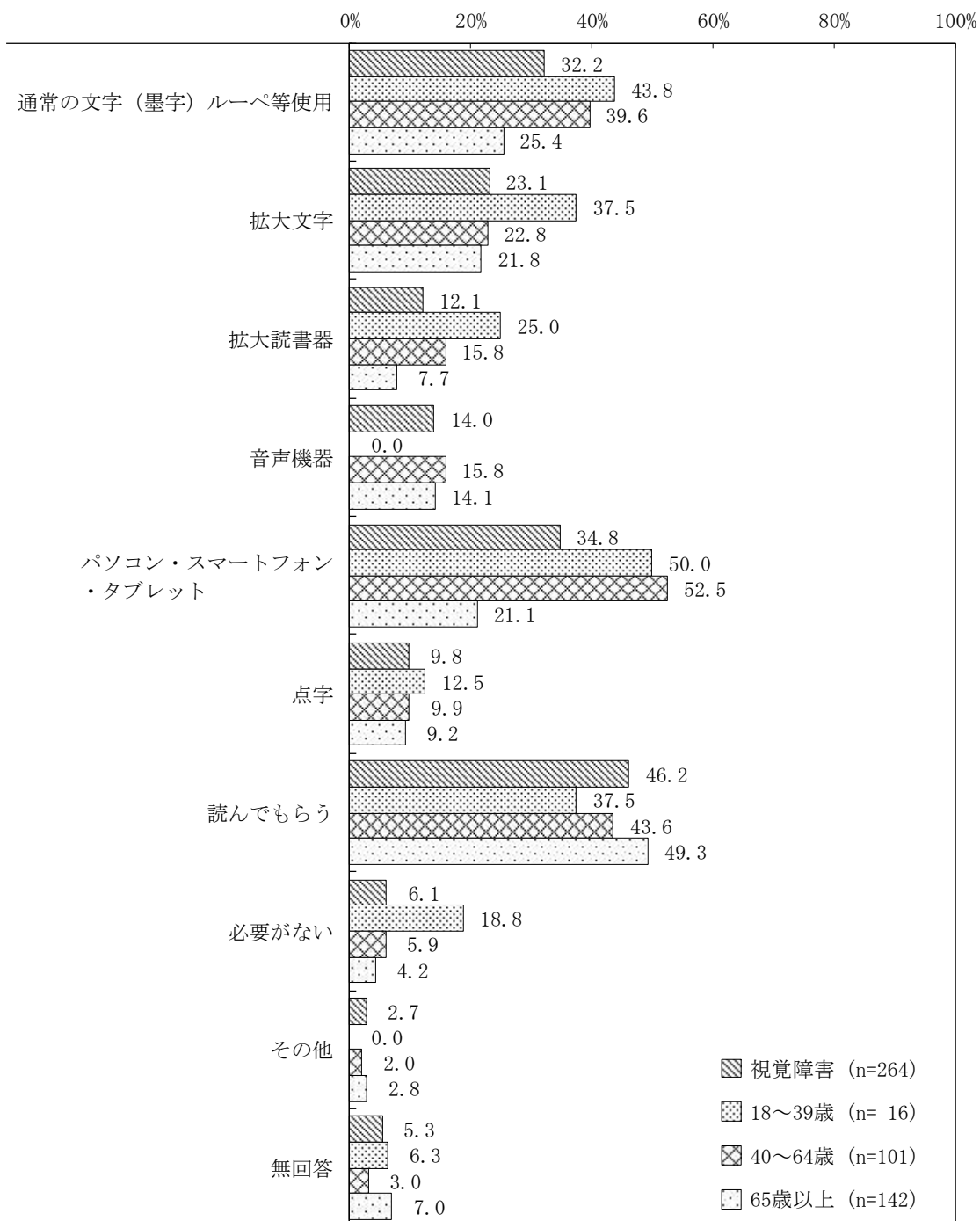
X 知 る

1 視覚に障害のある人の文字情報を得る手段

視覚に障害のある人が日常生活における文字情報を得るための手段としては、「読んでもらう」(46.2%)「パソコン・スマートフォン・タブレット」(34.8%)、「通常の文字(墨字)ルーペ等使用」(32.2%)が高くなっています。「必要がない」は6.1%です(図表2-147)。

「その他」として、「ラジオ」(3件)、「老眼鏡」などの記述がありました。

図表2-147 視覚に障害のある人の文字情報を得る手段(複数回答)



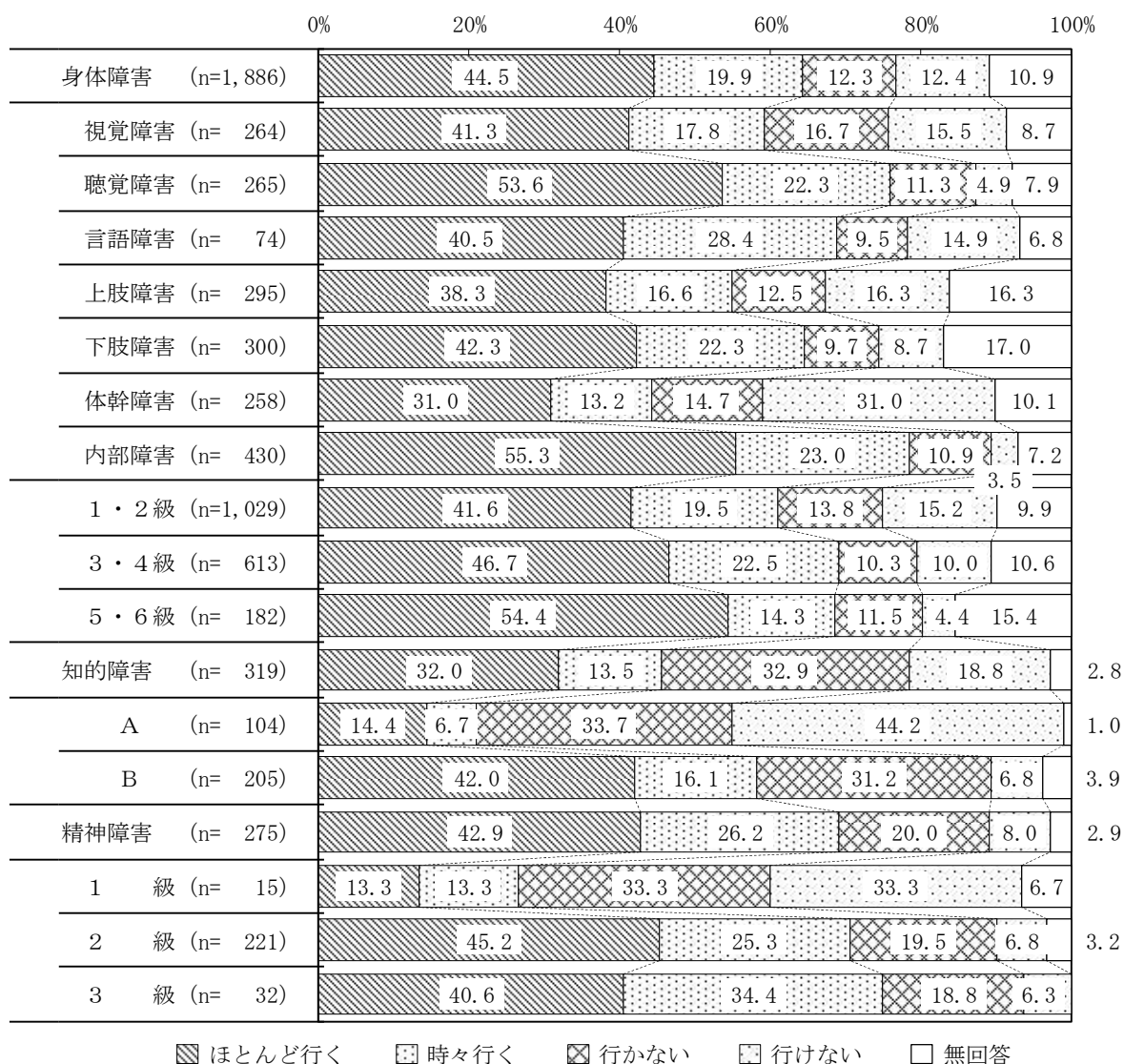
XI 参加する

1 選挙

(1) 選挙の投票

国・県・市の選挙に「ほとんど行く」と答えているのは、身体に障害のある人が44.5%、知的障害のある人が32.0%、精神に障害のある人が42.9%です。障害の程度別にみると、重度ほど「行かない」および「行けない」が高くなっています。

図表2-148 選挙の投票

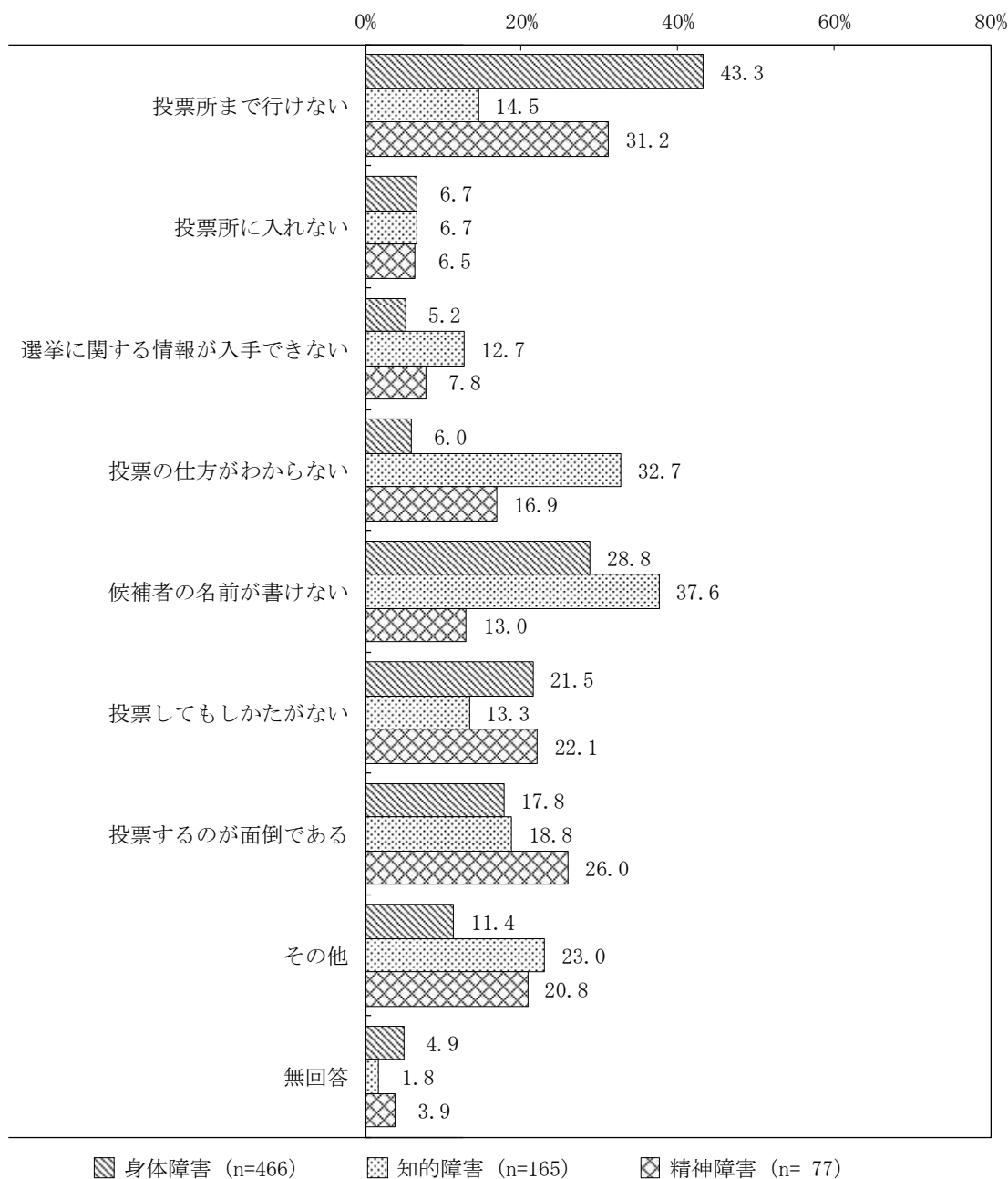


(2) 選挙に行かないまたは行けない理由

(1)で「行かない」「行けない」と答えた人に、行かないまたは行けない理由をたずねた結果が図表2-149です。身体に障害のある人と精神に障害のある人は「投票所まで行けない」(43.3%、31.2%)、知的障害のある人は「候補者の名前が書けない」(37.6%)が、それぞれ最も高くなっています。

「その他」として、図表2-150の記入がありました。

図表2-149 選挙に行かないまたは行けない理由(複数回答)



図表2-150 選挙に行かないまたは行けない「その他」の理由

区 分	内 容
身 体 障 害	視覚障害 <ul style="list-style-type: none"> ・段差があったりして怖い ・寝たきりです ・障害の関係 <ul style="list-style-type: none"> ・迷惑になる ・オンライン投票はしてほしい ・関心は高いが、支持したい政党がない
	聴覚障害 <ul style="list-style-type: none"> ・入院しているため ・ニュースが聞き取れないので、立候補者の公約などがわからず、投票になかなか行けない。 ・理解できない <ul style="list-style-type: none"> ・忘れることが多い ・歩行が困難 ・家族が拒否 ・誰がいいかわからない
	言語障害 <ul style="list-style-type: none"> ・入院中のため
	上肢障害 <ul style="list-style-type: none"> ・病院にいるため ・寝たきりであるから ・車いす ・判断できない ・知能障害もあるので理解できていない <ul style="list-style-type: none"> ・認知機能なし ・何もできない ・わからない ・バス代を出したくない
	下肢障害 <ul style="list-style-type: none"> ・だれに入れたらいいかわからない ・選挙に関する情報を理解できない ・地元での投票所は人目が気になる ・行けないので郵便投票している ・不在者投票している <ul style="list-style-type: none"> ・投票したい方ができたら、行ってみよう。連れて行ってもらおうと思っています。 ・車で行くので、お金がかかる ・外国人に権利はありません
	体幹障害 <ul style="list-style-type: none"> ・病院入院中（2件） ・寝たきりのため（2件） ・歩行困難 ・段差等を考える <ul style="list-style-type: none"> ・移動が面倒 ・金がかかる ・みらいのさと太陽
	内部障害 <ul style="list-style-type: none"> ・動けないことがある ・動けない <ul style="list-style-type: none"> ・郵便投票の手続きが煩雑 ・時間をうまくつけれない（母親のことが心配で）
精 神 障 害	<ul style="list-style-type: none"> ・関心がない（2件） ・人ごみに行くと、ひどくなる ・うつ病で、興味がわからない ・認知症 ・投票所まで行くのが大変 <ul style="list-style-type: none"> ・自己臭（悪臭）のため、投票所に迷惑がかかるといった点です。 ・誰が当選しても大差ないので ・外国人です ・選挙権なし

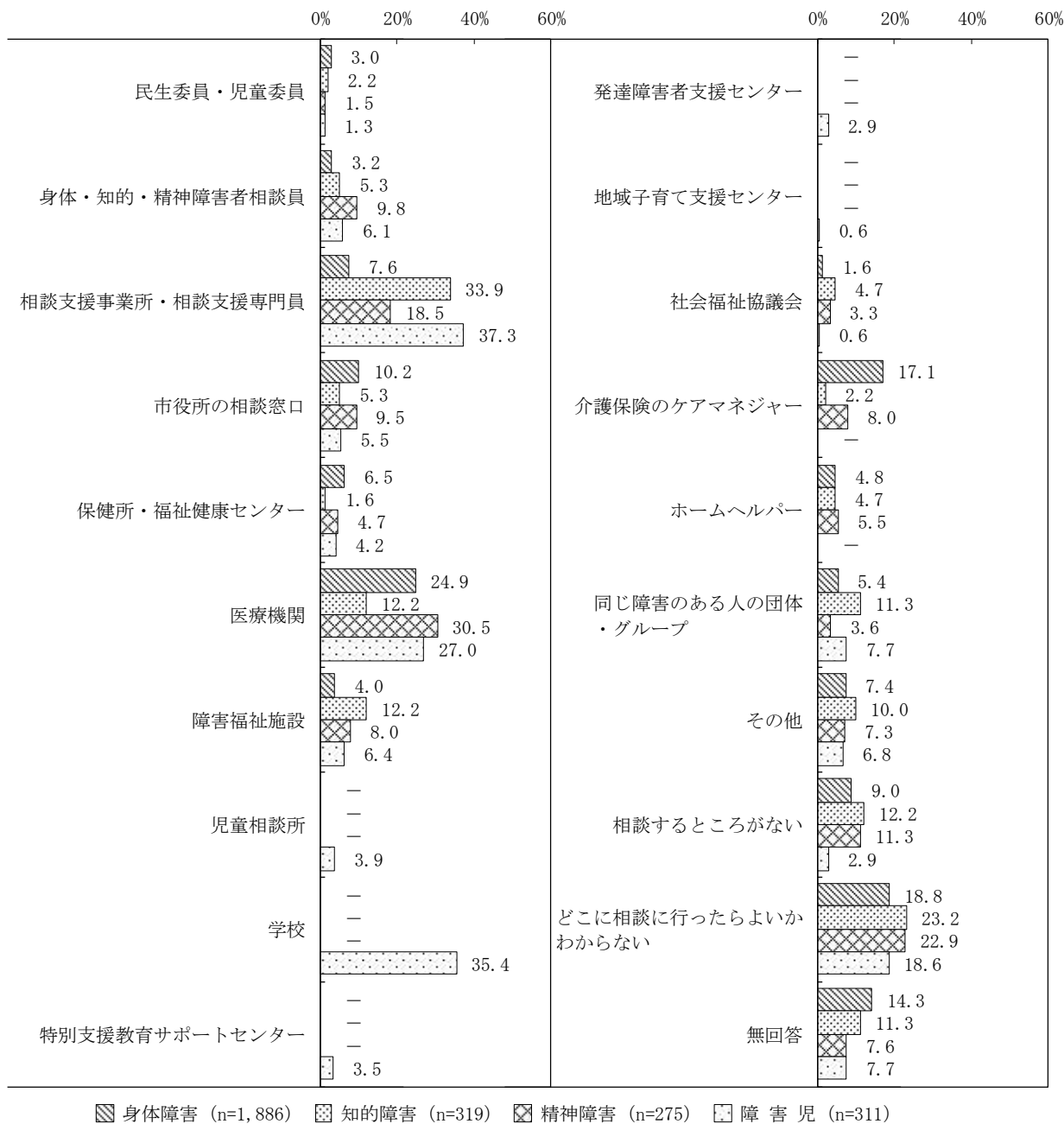
XII 使 う

1 相談相手

医療・福祉サービスなどについての相談先としては、身体に障害のある人と精神に障害のある人は「医療機関」、知的障害のある人と障害のある児童は「相談支援事業所・相談支援専門員」が最も高くなっています。また、「どこに相談に行ったらよいかわからない」が20%前後の高い率となっています（図表2-151）。

「その他」として、図表2-152の記述がありました。

図表2-151 相談相手（複数回答）



図表2-152 「その他」の相談相手

区分	内 容	
身 体 障 害	視覚障害	<ul style="list-style-type: none"> 相談していない（7件） 石川県視覚障害者情報文化センター（2件） 視覚障害者協会（2件） 訪問看護の担当者 <ul style="list-style-type: none"> 親戚 友人 ケアマネ 特別養護老人ホーム Googleや医学書
	聴覚障害	<ul style="list-style-type: none"> 相談していない、不要（6件） 施設職員（2件） 金沢市ろうあ事務所 障害福祉課の窓口 金沢市地域包括支援センター 補聴器屋 <ul style="list-style-type: none"> 訪問リハビリ、看護 訪問看護ステーション「デューン金沢」、就労移行支援事業所「ウェルビー金沢センター」 インターネット チャットGPT
	言語障害	<ul style="list-style-type: none"> 相談できない 相談することがいまのところない <ul style="list-style-type: none"> 現在、まだ必要としてない ネットで検索
	上肢障害	<ul style="list-style-type: none"> 相談しない、できない（7件） 同じ障害のある人 県リハ 後見人の弁護士 施設 レンタル器具の業者 かかりつけの病院と薬局 産業医 <ul style="list-style-type: none"> 包括支援センター 施設のケアマネジャー ケアマネ仲間 ソーシャルワーカー 入院中 AI ネット
	下肢障害	<ul style="list-style-type: none"> 相談していない（6件） 特に相談がない（3件） インターネットの検索（2件） 市のWebサイト等で情報を得て自分で判断 <ul style="list-style-type: none"> 訪問看護師（2件） リハビリの先生 病院の福祉課 勤務先の障害者雇用担当 友だち
	体幹障害	<ul style="list-style-type: none"> 施設職員（4件） 入院している病院（3件） 病院（2件） 訪問看護師（2件） かかりつけ医 地域包括支援センター 介護福祉士 施設のケアマネジャー、ドクター <ul style="list-style-type: none"> デイサービス、ショート職員の職員 老人ホーム 介護タクシーの方、知りたいことが記載されている物に書いてある。連絡先に電話する。（自分で調べる） 妻以外にはいない 友だち あきらめた コミュニケーションができない
	内部障害	<ul style="list-style-type: none"> 職場（2件） していない（2件） 特に相談していない 相談を必要としていない <ul style="list-style-type: none"> 特に必要なし 今は特に必要ない 今のところ必要ない 現在のところ、特にない

第2部 障害のある人

区 分		内 容	
身 体 障 害	内部障害	<ul style="list-style-type: none"> ・現時点で相談の必要がない ・今のところ、相談がない ・今は相談することがない ・相談することがない ・相談事がない ・相談したくない ・不要 ・必要ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・通院している他の患者さんと話すことがある ・デイケアセンターの職員さん ・病院のソーシャルワーカー ・職場（金沢市役所）の保健師 ・デイサービス ・訪問看護 ・ネット検索
		<ul style="list-style-type: none"> ・グループホームの職員（3件） ・グループホームのスタッフ ・グループホームの人 ・入居しているグループホーム職員、通所先 ・グループホーム ・職場 ・職場のジョブコーチ ・B型就業事業所の社員や仲間 ・施設職員 ・自分の通ってる事業所 ・放課後等デイサービスのスタッフの方 ・会社の上司に相談している ・難病相談支援センター ・保佐人（2件） ・後見人 ・同じ障害のある人のお母さん ・ネット等で情報収集する 	<ul style="list-style-type: none"> ・本人自身が相談することが難しい ・本人は相談することはできません ・一人での相談は難しいです。一緒に生活している人の助言が必要（親、施設の人）。 ・人と会話ができない ・何を相談するのか、相談が必要なことがわからないので、人に尋ねたことが基本的にない。 ・相談していない ・相談したことがない ・特に相談したことない ・今はしていない ・今は必要がない ・今のところ、相談する必要がない ・今のところ、80歳の母と一緒にです
精 神 障 害		<ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護（5件） ・訪問看護師（4件） ・訪問看護ステーション ・グループホームのスタッフ ・石川県発達障害支援センター ・ソーシャルワーカー 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケースワーカー ・自分自身、介護福祉士の資格があり、知識はある。 ・専門の弁護士などに相談したい ・相談はしない
		<ul style="list-style-type: none"> ・デイサービス（3件） ・訪問看護師（2件） ・ろう学校の先生（2件） ・放課後等デイサービス ・デイサービスの先生 ・友人やデイサービスのスタッフの方 ・生活支援課の未来子どもサポーターの方 	<ul style="list-style-type: none"> ・お母さん同士で情報交換 ・会話ができません ・相談するほど言葉でのコミュニケーションが取れない ・必要にならないとわからない ・相談したことがない ・特に相談しない
障 害 児			

XIII その他

1 暮らしやすくなるために

「あなたが、暮らしやすくなるために、とくにしてほしいことはどのようなことですか」という設問の回答は、「年金などの経済的な援助を増やしてほしい」、「福祉サービス制度をもっとわかりやすく紹介してほしい」、「障害のある人に対するまわりの人の理解を深めてほしい」「障害のある人が働ける一般企業を増やしてほしい」がどの障害も共通して高くなっています。「その他」として、図表2-154の記述がありました。

図表2-153 暮らしやすくなるために（複数回答）

単位：回答数は人、他は%

区 分	身 体 障 害	身 体 障 害							知 的 障 害	精 神 障 害	障 害 児
		視 覚 障 害	聴 覚 障 害	言 語 障 害	上 肢 障 害	下 肢 障 害	体 幹 障 害	内 部 障 害			
回答数	1,886	264	265	74	295	300	258	430	319	275	311
毎日の生活の手助けがもっとほしい	7.8	11.4	4.9	5.4	9.8	7.3	14.3	3.0	15.7	14.2	12.5
外出（買物、映画鑑賞など）の支援をしてほしい	13.3	25.8	6.0	9.5	12.2	14.7	14.3	9.8	21.3	19.3	17.7
障害のある人に対するまわりの人の理解を深めてほしい	24.0	28.8	33.6	21.6	20.3	25.7	18.2	20.5	43.9	41.8	55.9
障害のある人の働ける一般企業を増やしてほしい	20.7	20.1	26.0	12.2	18.3	25.0	15.1	21.4	32.9	40.4	58.5
一般企業で働くことが難しいので、就労支援施設などを増やしてほしい	7.3	10.6	8.3	6.8	9.2	5.7	5.0	6.0	21.0	21.1	41.5
リハビリ訓練の場所を増やしてほしい	10.9	10.2	6.8	9.5	18.6	13.7	14.3	4.9	6.9	9.1	40.5
障害に適した設備を持った住宅を用意してほしい	12.7	15.2	9.1	10.8	19.3	15.3	13.2	7.2	19.4	14.5	25.7
外出しやすい環境や交通機関の利便を図ってほしい	23.1	36.7	17.4	16.2	23.7	27.7	18.6	18.6	24.1	29.1	31.2
いつでも何でも相談できる窓口を用意してほしい	21.2	26.5	23.4	25.7	18.0	21.7	19.4	18.8	35.1	38.2	34.1
いつでも何でも話し合える相談相手や仲間がほしい	11.2	12.9	16.6	12.2	11.5	9.7	10.9	7.7	28.8	34.9	26.4
年金などの経済的な援助を増やしてほしい	37.5	43.9	29.8	36.5	36.9	41.0	34.5	38.4	40.1	55.3	44.1
スポーツ・レクリエーション・教育・文化活動に対する援助をしてほしい	6.0	8.0	9.4	5.4	4.4	7.7	4.3	4.0	13.8	12.0	22.2
パソコンなどの使い方や社会のデジタル化に対応できるような支援	14.7	23.5	18.1	10.8	10.8	17.0	10.5	11.4	13.8	21.5	21.5
福祉サービス制度をもっとわかりやすく紹介してほしい	28.3	32.6	29.8	24.3	30.5	29.3	24.0	25.6	35.1	37.1	45.7
とくにない	12.5	6.8	12.5	17.6	12.9	9.7	10.5	18.1	9.1	6.2	7.1
その他	4.1	4.5	10.9	1.4	1.7	2.0	4.7	3.0	6.0	6.2	2.9
無回答	14.3	10.6	11.3	10.8	18.6	19.7	17.8	10.2	9.1	5.8	3.2

図表2-154 暮らしやすくなるための「その他」

区分	内容
身	<p>視覚障害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・●●の職員が不足しているため、ボランティアに頼っているため、安定したサービスが受けられない。特に点字、パソコンなど教えられる全盲の職員がいないので、訓練できなくなった。●●がワンマン主義で意見を強く言ったら、いろんなことから無視されるので、監視するオンブズマンなど第三者組織があってほしい。 ・点字ブロックの改善（修理、交差点付近だけでなく距離を長く）。横断歩道のサウンドマークが少ない。住宅地域の狭い道で歩行時、電気自動車の音がなすぎて困る。アイフォンの音声認識能力（電話をかけたり、かかってきた電話の相手を登録名でアナウンスしてくれる、天気予報や温度を聞くことができる等、声で指示命令を出せる）機能がアンドロイドスマホにもあるとよい。手動でスマホ操作が難しい。アイフォンのホームボタン有りの購入時に補助や助成金があると良いと思う。中古でいいので。 <ul style="list-style-type: none"> ・点字ブロックを増やしてもらいたい。レイアウトを教えてくれる場所が増えてほしい。 ・街の中心部は横断歩道の歩行可の音があるが、無いところが多い。 ・歩道の整備 ・車などの運転のマナーアップ ・緊急に必要なときのサービス ・視覚障害者でも楽しめるプログラムのあるデイサービス ・日常生活用具、補助具の助成が物価高や障害者のニーズに合わせるようにしてほしい。 ・日常生活用具の給付対象品目を増やしてほしい。 ・スマホを日常生活用具の給付の対象に入れてほしい。八王子はすでに入っている。 ・トイレが増えてほしい。
体 障 害	<p>聴覚障害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映画やTV、DVDなどに字幕をつけてほしい。(10件) ・映画の字幕サービス、機器の貸し出しなど日頃からやっている映画館が石川・金沢にない。最近見たい映画があったが、そういうサービスを行っている系列の映画館がなく、隣県ならあったが、いろいろ面倒になって諦めた。余暇もストレスなく気楽に楽しめたらよいと思う。 ・観光名所のモニターなどに字幕をつけてほしい。 ・集合住宅（マンション）で火事や災害の緊急放送がわかるようにしてほしい。そして避難を手伝ってほしい。消防署などに私がいるということを認知してもらって、助けてほしい。いつも家族というわけではないから。 ・補聴器購入、修理における補助金の上限額を上げてほしい。物価上昇に伴い、補聴器具の価格は年々上昇しているのに補助金の金額はずっと変わらない。 ・人工内耳の外機（サウンドプロセッサー）の寿命は丸5年ほどで、交換には1個100万円、両耳では200万円かかります。現在1個当たり10万円の助成金が出ると聞きましたが、それでも両耳で180万円の負担です。他の都道府県では無料に近いくらいの補助金が出ると聞きました。せっかく手術をしたのですから、継続して使っていけるよう助成金を強化して頂ければ助かります。 <ul style="list-style-type: none"> ・会社内でも常に文字による情報保障があると助かります。 ・バスや電車を久しぶりに乗ろうとしても手順がわからないので、初めての人でもHPなど案内で利用しやすいと良い。電車のホームは分かりにくかった。 ・電話でしか対応できない場合の対処法を教えてください。 ・聴覚障害者の電話アプリを普及してほしい。 ・「デジタル機器や社会のデジタル化に対応できるよう支援してほしい」に期待はしていますが、そのような教育を受けていないので諦めています。 ・市役所が遠いのと対話に優しく。 ・医療機関の窓口での対応をもう少しわかりやすくしてほしい。マスクをつけたままで対応されるとわからない。 ・教員や公務員の採用をもっと増やしてほしい。特に聴覚障害者の正規採用を強く望みます。 ・すでに施設を利用しているので。施設に入所するまでは家族が少し大変でした。本人には全くわからないので。 ・話し相手、友だち ・医療のサービスを受けたい。+足りません。60なのでお金を払っています。 ・今でも充分暮らしやすいです。身体手帳が4級以下のときは金銭的に大変過ぎました。 ・期待しない

区 分	内 容	
身 体 障 害	言語障害	<ul style="list-style-type: none"> ・わからない
	上肢障害	<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケアが必要な者のデイサービス、ショートステイをする施設がないので困っている。 ・身体障害者等級4級でも障害年金をもらえるようにしてほしい
	下肢障害	<ul style="list-style-type: none"> ・医療費助成の所得制限をなくしてほしい ・お金をおろしに行ってほしい ・病院にいますから ・重度障害ではないのでまだわからない
	体幹障害	<ul style="list-style-type: none"> ・クリエイティブな場が広がるといいです。 ・雪すかし ・アンケートなどはネットでできるようにしてほしい。
障 害	内部障害	<ul style="list-style-type: none"> ・病院入院中（2件） ・意思表示ができない ・年金ではないが、サービスを受けるためにかなりお金がかかるため、リハビリ等をあきらめている。払えなくはないが。 ・年金から天引きされ過ぎて生活が大変。 ・マッサージ、鍼灸券を増やしてほしい。 ・とにかく働けるところを増やしてほしい。 ・在宅の仕事 ・自分がついていけない ・このアンケートも早く届けたかったのですが、外に出たくても出られなく、このように郵便物も遅れまして申し訳ないです。 ・不明
	内部障害	<ul style="list-style-type: none"> ・ストーマ装具他が、値段が高いため、給付金の値段を上げていただきたい。 ・障害認定はされないが不安な心身状態の方は多いと思う。障害に限らず、弱った人々への様々な支援が増えて欲しい。 ・マル障、身障者手帳、障害者サービス、健康保険介護保険、特定医療費受給者証、高額医療費など、多様な医療福祉サービスにどんなものがあり、どれを適用できるか、わかりやすく紹介してほしい。 ・障害年金を受給したい。 ・別県では、交通費補助やガソリン代、タクシー代などがあるが、金沢市はそのような支援が少ない。 ・障害者用の駐車スペースを増やしてほしい。 ・障害者用駐車場は、高齢者用と思って駐車する方が多すぎる。 ・公園などのトイレを障害者用にしてほしい。 ・病院の先生からは、ウォーキングがリハビリになると言われるが、散歩は飽きてくる。スポーツジムなどで、障害者用プログラムがあればいいのと思う。・自分で動ける間は、市役所に相談します。他は思いつかないので。 ・貴所をはじめ、関係機関に相談できるから。 ・JRなど、身体障害者割引の切符がオンラインや自動販売機で買えず、窓口にて長い列について購入しなければならないのが、身体的に負担になる。 ・今はありませんが、重度化したら7（障害に適した設備を持った住宅を用意してほしい）、11（年金などの経済的な援助を増やしてほしい）がうるおうとうれしいです。 ・11（年金などの経済的な援助を増やしてほしい）で増えると、税金が心配です。 ・現在、配偶者がいるので、困っていない。

第2部 障害のある人

区 分	内 容	
知 的 障 害	<ul style="list-style-type: none"> ・各サービスの事業所が少なく、利用したくても、利用できないのが現状です。もっと事業所が増えるような支援をしてほしいです。 ・グループホームを増やしてほしい。 ・入所施設が増えてほしいです。 ・就労支援の期限を延ばしてほしい。 ・老後の受け皿を、もっと増やしてほしいです（人材も！）。 ・日中一時支援を利用したいが送迎がない。人手不足もあるかもしれないが、事業所の送迎加算が増えれば送迎する事業所が増えるのではないかな？ ・総合病院を受診する時のサポート ・支援の現場に様々なテクノロジーが導入されてほしい。（例）文字の理解や言葉を使った意思疎通が難しい人のために、タブレットで絵や写真を示すPECS（ペクス）というツールコミュニケーション支援システム等。 ・障害サービスを受けるにあたり、毎年毎年更新手続きを要求されます。親の死後、どうすればいいのか、不安しかありません。ある年齢を過ぎたら、更新終了にしてほしいです。本当に！ ・申請するものや更新手続き等の負担を減らしてもらえたら、うれしい。障害の等級に関係なく、入院、通院ともに医療費（薬代含む）の負担を免除してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害がある人に対して、保険料の負担を軽減してほしい。 ・知的障害Bでも、タクシー券がもらえるようにしてほしいです。 ・子どもには学びの場が多いが、障害者の学びの場や集いの場は、その団体に加入しないと、情報が来ない。 ・障害者向けのスポーツ施設の整備をしてほしい。むつみ体育館は、冷暖房がなく、高齢者が優先のような気がする。他県には、とても立派な建物がある。 ・障害者同士の婚活目的のお見合いの場を設けてほしい。 ・小さい時から、自然と触れ合い、交流できるように、共育共生社会を進めてほしい。まずは、そこからです。社会には、いろいろな人がいると、道徳とか理念ではなく、身体で触れ合うことが何より。 ・マイナンバーカード取得に際し、証明写真の条件が、“一人で写る”“真正面を向く”であるが、これが難しい。誰かが頭や背を支えていないと、撮れない。よって、未だに通知カードなのだが、公的書類をコンビニ取得するなどができないのが不便。保険証とのひも付けもできない。誰かが顔を隠すなどしてサポートするようにはできないものかな？ ・本人の知的に對し、それぞれ教えて利用できるようにしたい。
精 神 障 害	<ul style="list-style-type: none"> ・B型事業所で働く方々が、大変賃金が安いので、最低賃金を保証すべきである。一生懸命働いても、大変遺憾である。 ・苦手な仕事の克服ができるような訓練の場所がほしい。 ・元々一般企業で働いていたので（ほぼ9割方）、障害者枠ではなく、一般枠で働かせてほしい。薬も内服は、一切ないので。 ・完全週休二日制の一般企業を増やしてほしい。 ・企業側の働き方の多様性拡充 ・賃金を上げてほしい。家族と暮らしていなければ、暮らしていけないのは困る。趣味や旅行できるくらいになってほしい。 ・今の病状で、障害年金受給が可能なのか、簡易的な判定の相談窓口がほしい。受給不可ならば、診断書を書いてもらう出費をしなくて済むので。 ・親身に相談に乗ってくれる専門スタッフ、窓口があれば良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・給付金を増やしてほしい。 ・遺伝性の高い発達障害の家庭で、父・母・妹もある。DV、離婚、貧困、父からのストーカー、いやがらせ、妹や母との衝突、支援、家庭内での争いが絶えなかった。頼れる祖父母や親戚もなく、つらい日々だったため、障害の背景や未診断の機能不全家庭にも注目してほしい。障害、診断の有無での線引きがやさしくなってほしい。 ・啓発不足を感じる。 ・公共交通機関（歩道、自転車道を含む）の整備拡充 ・入院した時、自宅が心配。 ・コロナもあり、家族とのコミュニケーションが後回しになっている。ゆっくり家族とも交流したい（入院中なので、無理もあります）。 ・すぐにではないが、一人になった時に、すぐにしてほしいと思われることも〇つけました。 ・わからない

区 分	内 容	
障 害 児	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上記に理解力がない。 ・ すべて対応して、使用しやすく便利にしてほしい。サービスが活用できないことが多いのが現状。 ・ 就労支援施設の利用時間が短く、親が介護離職をしないといけない。収入が減って、他の兄弟の学費や、自動車の購入費、自宅のメンテナンスなど、大きなお金が工面できず、生活が困窮する。経済も回せなくなる。親はまだまだ働けるのに、今までのキャリア、学歴がもったいない。 ・ 相談員さんとデイサービスの連絡が取れていないことがある（支援計画のやりとり？）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 親亡き後の支援をもっと紹介してほしい。基本的にこちらが必死に情報を集めないと、何も知らされない現実を変えてほしい。親亡き後、子どもを助けてくれる情報がちゃんと届くのが不安。 ・ 療育Bでもオムツの補助してもらえると助かる。 ・ 特児の所得制限をなくしてほしい。 ・ 外出先でトイレに行く時、サポートが必要なので、二人で入れる広さのトイレが多いと助かります。多目的トイレほど広くなくても良いのです。 ・ 日時限定でもいいので、障害がある人だけが遊べる公園や遊び場、障害がある人だけが通える病院、医者がほしい。 ・ 安楽死させてほしい。

第3章 記述回答および意見・要望等

金沢市では、障害者計画および障害福祉計画・障害児福祉計画の策定にあたっては当事者参加を重視し、策定過程をできるだけ公開するように努めていきます。今回のアンケートも、その結果について広く公表し、障害者計画および障害福祉計画・障害児福祉計画に対する市民の皆さんの議論や要望の参考にしていただきたいと思いますと考えております。

1 差別を受けたり、いやな思いをしたこと

「あなたは、これまでに障害があるために差別を受けたり、いやな思いをしたことがありますか」という設問に「ある」と答えた人に、「さしつかえなければ、それはいつ頃、どんなことかご記入ください」と聞いたところ、多くの方が記述されていました。障害のない人の無意識な言動が障害のある人の心を傷つけることもあります。障害があるために日常生活に苦勞するだけでなく、その上に差別やいやな思いまでしなければならぬ社会は、ノーマライゼーション社会とは言えません。記述内容は、障害のある人およびそれぞれの障害の理解につながる資料と考え、ほぼ全文を収載しました。なお、「差別を受けたり、いやな思いをしたこと」の記述は、ほとんどが「I ともに生きる」に該当しますが、内容により、差別を受けたり、いやな思いをした場所、施設等により区分し、掲載しています。

2 理解や心づかいがあり、よかったと感じたこと

「日常生活において、障害について理解や配慮があり、よかったと感じたことはありますか」という設問に対して、「ある」と答えた人に「さしつかえなければ、それはいつ頃、どんなことかご記入ください」と聞いたところ、多くの方が記述されていました。ノーマライゼーション社会を構築するために最も必要なことは、社会を構成するすべての人が、障害のある人および障害に対して十分な理解をし、配慮していくことです。ここに記入していただいたことは、ノーマライゼーション社会の具体的事例と考え、ほぼ全文を収載しました。なお、「理解や心づかいがあり、よかったと感じたこと」の記述は、ほとんどが「I ともに生きる」に該当しますが、内容により、理解や心づかいがあり、よかったと感じた場所、施設等により区分し、掲載しています。

3 意見・要望等

アンケートの質問事項の最後にありました自由記載欄には、いろいろなご希望やお叱り、励ましなどをいただきました。その一つひとつに障害のある人たちの暮らしぶりや人生がうかがわれ、統計資料に勝るとも劣らない貴重な資料となりました。ただ、意見・要望の一部に、回答された方が制度やサービスなどについてよくご存じでなかったり、理解されていないことにより、すでに改善されていることに関する要望などがありました。また、市および市の職員に対するもの以外に、他の行政機関や関係機関・団体に対する意見・要望もありました。しかし、これらの生の意見・要望を内容によって選別することは、このアンケートの趣旨からすべきではないと考え、記載された意見・要望はほぼそのままの形で掲載しました。

各記述の末尾の（ ）は、記述者の障害の種類等を略記したものです。

略号	障害の種類等	略号	障害の種類等
視覚	視覚障害	体幹	肢体不自由（体幹障害）
聴覚	聴覚障害、平衡機能障害	内部	内部障害
言語	音声・言語・そしゃく機能障害	知的	知的障害
上肢	肢体不自由（上肢障害）	精神	精神障害
下肢	肢体不自由（下肢障害）	児童	障害児

第1 差別を受けたり、いやな思いをしたこと

I ともに生きる

1 住まい

- グループホームでいやがらせを受けた。 (言語)
- 住宅が賃貸になるが、中々家が見つからない。 (下肢)
- グループホームの責任者に不満がある。 (知的)
- 数年間、グループホームから単独で外出するが、自分自身の障害特性が理解されてもらえないと感じている。 (知的)
- アパートをかわる時、精神障害者だとわかると、入居を断られた (2年前)。 (精神)

2 家族等

- 家族でも両親の老化によりサービス使用を勧めるが、プライドで中々サービス利用に結びつかなかった。本人も人に慣れず、中々やりにくい人間になってしまい、若いのに老化が進んでしまった。周囲、家族からも疎まれる人間になっていたことが残念だった。 (視覚)
- 家族に理解を得られない毎日。聴力低下で聞き取れないことに対して嫌な顔をされる。家外での話を聞きとれていないことに対し、全否定される。そういう場に出たくないと感じている。 (聴覚)
- 他人より同居する (していた) 家族の方が障害に対する理解がなく、情報保障など全く支援がなかった。一人暮らしの方が逆にストレスも少なく、連絡も今の時代はスマホなどでスムーズ。 (聴覚)
- 家族とのコミュニケーションがとれない。 (言語)
- 家族と思われていない。夫を亡くして私は障害者なので、孫たちや嫁もそんなところありません。 (体幹)
- 会話が難しく、聞き取れないと姉にイライラされているのを見てちょっとムカつく。差別ではないのですが、家族であるためいろいろなこと…。 (体幹)
- 動きや話し方がおかしいので、変な目で見られる (いつも)。身内の結婚式に呼んでももらえないので、悲しかった (20歳ぐらいの頃)。本人は、自閉症、知的障害あります。 (知的)

- 親族の結婚式には、とても気遣いがあったり、出席したくても、できない時がありました。
(知的)
- 家族や、以前働いていた職場での理解力の欠如で困っている。親に仕事しろとか言われたり、自分の思いを受け入れてくれない。
(精神)
- 母親から嫌味を言われること。きちがいや、バカや、などの暴言あり。月1回の通院日には、必ずと言っていいほど、言われてしまう。母親の方がきちがいじみてるなど思う。(精神)
- 子どもが生まれた時、精神薬(夜)を飲んでいたため、配偶者の家族から「母乳はあげずに、粉ミルクにして」と言われて、とても傷ついた。
(精神)
- 親族からの差別。
(精神)
- 変な目で、障害者として見ている(親戚)。地域の家では、長く入院していることを言っていない。
(精神)
- 身内から差別な言葉を言われ続けて悲しかった。
(児童)

3 在宅生活支援サービス

- ヘルパーの交代等、また一から説明が必要。ヘルパー等の退職サービスの停止等、自分で介助者等を探す。訪問入浴等、人員削減にて自分の住所には回れない。他の事業者のサービスは時短で内容も悪い。入浴時間が30~40分で全てできない。服を脱がす、身体を洗う等。
(上肢)
- 障害による区別や受け入れ拒否のような対応を受けたことがある。
(下肢)
- 自分の希望するタイミングで協力してくれる人がいない場合が多く、相手の都合のよいタイミングを待ってなくてはならない。
(体幹)
- 2024年4月頃、訪問看護事業所から差別解消法の対象でないことをいいことに障害者の弱みに対して傲慢な対応をされ。訪問看護サービス(24H緊急対応)が1か月ほど受けられず強い不安定状態だった。
(精神)
- 昔、高齢者ヘルパーさんの時に、買い物中にいやな思いをして、私の家の物などをほしがり、品物や花の球根ごと持っていかれたことがあった。やや満足だけど、もう少し、生活支援を手伝いをしていただきたい。
(精神)

4 偏見等

(1) 注視・見られる

- 人の多い所へ行ったとき、足こぎ車いすに乗っていると、邪魔そうな顔をされた。(上肢)
- 車いすに乗っているので、常にジロジロ見られる。(下肢)
- 車いすで生活していたとき(約2年前)ですが、人が多い場所へ行くと、周りの人に見られることが多く、不安を感じた。(下肢)
- 外出時、やはりジロジロ見られたりってことはあったので、いやな気持ちになる。(下肢)
- 杖を突いてゆっくりしか歩けないことで、子どもにじろじろ見られること。子どもなので仕方がないとはわかっていますが。(下肢)
- 杖で歩いていると小学生がじっと見ていく。すごく嫌な気分でした。おばあちゃんじゃないのに杖をついて歩くのが、物珍しいのでしょうか。17年前に杖を突いて歩き始めたのですが、その頃からずっとです。(下肢)
- 歩行器を使って歩くとジロジロ見られたりするのが嫌、足が悪いからすぐ歩けないのに横断歩道で車にクラクションを鳴らされたり、文句を言われる。(下肢)
- ジロジロ見られる。(体幹)
- 車いすというだけで周りからジロジロ見られることが多々あります。最近ではだいぶ慣れましたが、当初は恐怖感さえ覚えました。車から降りる際に人間恐怖症になりました。特に小さい子どもから指差しされるのは今でもすごくストレスを感じます。残りの人生、この恐怖に耐え抜いて生きていかなければならないと思うと早く逝きたい気持ちにもかられます。(体幹)
- 周りの目、手助けがほしい。(体幹)
- ジロジロ見られる。複数人数でおられる人たちに、ジロジロ見られ、コソコソ話をされる(特に小学生)。「あっち行け」と言われることもある。(知的)
- ひとり言や大きな声を出すことがあり、周りの視線が気になる。また、買い物等、お金を出すことができないため、あからさまにいやな態度をとる人がいる。(知的)
- 外出をしていると、振り返られたり、子どもなどじーっと見られたりすること。(知的)
- 自閉症がありますが、骨の病気もあり、斜視も強くありました(手術後も残ります)。小さい頃は、声を出していなくても、ただ歩いているだけで、子どもからは目の前まで来ていろいろ言われたり(この子、人間なの～(一番残っている言葉))、ジロジロ見られたり、平気で思うままの行動に出られていました。大人の方は、子どもと歩いていても、何も言わなくても、目つきで伝わってきていました。(知的)

- 指さされたり、ヒソヒソされたり、ずっと見られたり、避けられたり（公共の場）、ほとんど毎日でした。昔よりは良くなりましたが…。自分たちが気にしなくなっただけかもしれません。（知的）
- 小学校の頃、近所の子どもにじーっと見られ、こちょこちょ話をしている場面があった。（知的）
- 奇声を発するため、人中でいやな目で見られる。（知的）
- 大声を出した時は、周りの人から変な目で見られる。いつでも。（知的）
- 近所の人を見る目。（精神）
- いつも子どもはもちろん、大人にもじろじろ見られます。（児童）
- 同じくらいの子どもによくジロジロと見られたりする。（児童）
- お出かけ先でじろじろみられて、かわいそうにといわれた。（児童）
- ジロジロ見られる。ヒソヒソと何か言われる。（児童）
- 外出すれば必ず、奇異の目で見られること。（児童）
- 人から変な目で見られる。（児童）
- 人の目。（児童）
- 常に見つめられている。言葉が変だったりすると、とても冷たい目で見られる。知り合いの所に行っても、相手にされない。（児童）
- 変な目で見られる。視線が痛い。バカ、気持ち悪いと言われる。（児童）
- 発声はできないけれど、自分なりに口から音を出して、家族とコミュニケーションを取ろうとしているけど、変だと思われるのか、外出先では注目されてしまう。痰の吸引をしている時も、ジロジロ見られて、いやな気持ちになる。特に子どもにはよく見られるが、その子の親に「見ちゃダメ」と注意されて…その言葉が傷つきます。（児童）

(2) 無視

- 障害があるとわかると、話をしてくれなくなった人がいる。（視覚）
- あいさつがない。（聴覚）
- 言語障害のため電話がとれない。吃音のため笑われる。吃音者の話はだれも聞かない。（言語）
- 以前から今日までも、私の目、耳が悪いので無視される。他にもいろいろあり。（体幹）
- 学生時代、無視される。（体幹）
- 小さな子どもからの視線（他とは違うから不思議なんだろうけど）。（体幹）

- 話の内容が幼く、昔あった出来事を何度も言って不快に思われると、無視されてしまう。(知的)
- あいさつをしても、無視された。(精神)
- 無視、陰口。(精神)

(3) 軽視

- あからさまにバカにしたような態度を取られる。(視覚)
- 公務員でありながら軽率に扱われた。(視覚)
- 犯罪者扱い。(視覚)
- 体型を見てコロナだと言われた。(聴覚)
- 見下され、少し冷たく態度で接されて、悲しくなるときがある。何度も聞き直すと面倒臭
　　そうな態度で対応されるときもある。(聴覚)
- ばかにされた。(言語)
- 言葉ではないが、目つきや態度で嫌な思いをしたことがある。(上肢)
- 子ども扱いされました。(下肢)
- 最近、自転車の爺さんがすれ違いざまに「なんや障害者かよ」と吐き捨てるように言って
　　通り過ぎた。(体幹)
- 顔を見て笑われる。(知的)
- 最近、返事をしても、見下すような言い方をされた。(精神)
- 精神病があることで近所で何か悪いことが起こると犯人扱いされた。(精神)
- たまにバカにされる。(児童)

(4) 同情

- 杖を使用していることで過度な対応を取られたことがある。知的発達障害もある前提での
　　声かけ、そうでないことを伝えても対応が変わらなかった。(下肢)
- 不自然、何かしてあげようと押し付けようとする。(下肢)

5 いじめ・暴力等

(1) いじめ・仲間はずれ

- イジメ。(上肢)

- いじめ。 (知的)
- 中学生の頃、他の小学生にいじめられた。 (知的)
- 小学生の頃、皆と違うことで仲間はずれにされた。大人になってから集団で話すと聞き取れないことが多く、何回も人に聞くと嫌な顔をされた。補聴器をつけて見えるようにしていても気づかれない。 (聴覚)
- 本人が10歳前後の頃、スーパーにいた10歳位の子の洋服のキャラクターが気になり近づいたところ母親に怒鳴られたことがあります。 (知的)
- とにかく、どこへ行ってもいじめられる。いやがらせがある。障害者手帳を持っているだけで、偏見の目で見られる。公共交通機関で使いにくい (使わない)。 (精神)
- 仲間外れにされる。 (児童)
- 避けられる。陰口。 (児童)

(2) 悪口・侮辱・いやがらせ

- 斜視をからかわれる。 (視覚)
- 10代～40代頃まで「つんぼ」って言われてつらかった。 (聴覚)
- つんぼと言われた。 (聴覚)
- 見た目そんな風に見えない。小学校のときに「つんぼ」と言われた。 (聴覚)
- 私は聴覚障害だけでなく、知的な理解力も小学生の頃から充分でないのでバカにされた。 (聴覚)
- 聞き間違いのときにバカ笑いされました。 (聴覚)
- 補聴器をつけていなかった頃、受け答えがトンチンカンになり、頭がおかしいと噂になった。 (聴覚)
- リウマチで指の変形のことを何度も皆のいる前で聞かれたこと。 (上肢)
- 子どもから頭の手術後の傷を指さされ、「頭われとる」と言われた。休憩所で他の人の視線が集まり、不快に思った。 (上肢)
- 障害を持った奴が悪いとののしられた。 (上肢)
- じろじろ見られる。わざわざ指摘される。陰口を言われる。親から障害を隠せと言われる。(隠す必要はない。) (下肢)
- 「障害年金か生活保護を受けているやろ」と言われた。 (下肢)
- 26歳から今まで根拠のない噂やデマを受けた。 (下肢)
- 真似をされた。 (下肢)

- 小さい子どもに歩き方をまねされた、笑われた。(下肢)
- 動作やししゃべり方をまねされる。(学生時代)(下肢)
- 去年の冬頃、買物しに歩いていたら、びっこを引いて歩いていたのを高校生に真似されて笑われた。(下肢)
- 言語のことで「何を言っているのか？」と大きい声でわめかれた。(体幹)
- 子どものときに「歩けんやろ」と言われたり、心ない言葉をかけられた。(体幹)
- 歩き真似、仲間内で隠語のあだ名をつけて、すれ違いざまにバカにする(例、「あだ名」って汚いよね)。指導者には察知されないようにしている。(体幹)
- 真似をされたり、陰口、押されたり。(体幹)
- まちに出ると見られて笑われたり、質問しても無視されています。脳性マヒの言語障害のため。(体幹)
- 歩くのが遅いと、ヤジが聞こえる。(内部)
- 20代、統合失調症発症時、周りの人々から、いやがらせを受けた。(精神)
- 郵便局などの窓口や、路上、職場ですれ違いざまに「気ちがい」などと、侮蔑の言葉を言われることがある。(精神)
- お酒が入った場面で、笑い者にされたこと。(精神)
- ショッピングセンターなどに行った時、順番が並べなかったり、静かにできなかった時、他の保護者の方から聞こえるような大ききさの声で「あんなんだメやね」と、子に言い聞かせてるのが聞こえた時。(児童)
- 気持ち悪がられる。(児童)
- 高齢の方に頭がおかしいと言われ、小学生からは気持ち悪いと言われた。(児童)
- 友達や知らない大人から、本人のできないことについて心ないことを言われる。まだオムツが取れないのかなど。(児童)
- 本人は気づいていないが、3歳くらいの頃、喃語を話しながら歩く様子に、高校生男子が気持ち悪いとあざ笑った。一生懸命話していて、何もおかしくないのに、悲しくなった。放デイの車を見てヒソヒソ噂話。(児童)
- 特に痲癩が酷い時の周りの言葉、行動。(児童)

(3) 暴力・言葉の暴力

- パワハラ。(視覚)
- 障害者に対する差別的言動、ハラスメント行為。(聴覚)

- 20年位前ですが、越してきて、小さな子に「変な足」ってはっきり言われたのは今も傷に
なっています。家庭内で常日頃、差別的な言動を聞いているから、子どもが言うてしまう
のだと思います。 (上肢)
- 靴屋の主人から、足首の関節に障害があるため、「あんた歩き方変やね」と言われた。同
様に近所の人から「足悪いんやね」と言われた。 (上肢)
- 歩いているときに何度も振り向かれたこと。すれ違いざまに「障害者」と大きな声で言わ
れたこと。 (上肢)
- 動けないことを知っていて身体に害を加える。動けないことを知っていて物を盗む。 (上肢)
- たいしたことないじゃないと言われた。そう思うことは自由だが、自身の状況や心情を否
定されたようで悲しくなった。 (上肢)
- 子ども、学生の頃、言葉によるもの。 (下肢)
- 高校時代にカツアゲされそうになった。 (下肢)
- 60歳頃、障害にはなりたくないと言ったと暴言を受けたことがあります。 (体幹)
- 言葉。 (内部)
- お金をとられた。ぞうきんをなめさせられた。 (知的)
- パワハラ。 (精神)
- カツアゲされたり、電車に乗ろうと思って買った切符を奪われて、壊された。 (児童)

6 障害への理解の不足

(1) 障害・障害のある人への理解不足

- 持病のため、ガスマスクを付けることがあります。生活している上で他人から指摘を受
けたり、資格試験などが受けられなかったことがあった。 (聴覚)
- サインをするとき、ハンコがなく右人差し指で捺印をするように言われたが、指が曲
がっていてできないのに強制された。見せて説明しても強制された。 (上肢)
- 身体障害者は必ず知的障害者でもあるとして扱われること。 (上肢)
- 30歳の時、混合性結合組織病を発病し、2016年、くも膜下出血、左下肢切断と、複数の疾
患があるにも関わらず、仕事ができないのではなく、しないだけだと思われている。 (上肢)
- 事故の受傷を知らない者に理解はできない。 (下肢)

- 大声で歩き方が変だと言われ、あれこれ聞かれた。見た目が普通に見えるので辛くても席を譲ってもらえなかったり、物を運べないとサボっているかのように思われたりした。
(下肢)
- 言語障害があるため、ボケているのではないかと思われたことがある。
(下肢)
- 杖を使用中、周囲からげんなりした視線を向けられることがしょっちゅうあり、「普通」以外の身体状況にある人への理解が社会に全くないと感じています。
(体幹)
- 身体の変形の私的。障害により体調不良があっても、なかなか理解してもらえない。
(体幹)
- 独身時交際相手の親に幼少期からずっと服薬治療をしていたことを話した際にあり得ないことを言われた。先方は差別とは思っていないだろうが。
(内部)
- しつけがなっていないと叱られたことがある。
(児童)
- 場所を気にせずに病名を尋ねられて困った。
(児童)

(2) 表面的にわからない障害

- 外見からは見えないことがわからないので、「なぜ？できないのか」と思われている。
(視覚)
- 見えないことで何もできない人と思われる。
(視覚)
- 耳が聞こえないので、後ろの人に「どいてください」と言われてもそのままいるので、いやな顔をされる。
(聴覚)
- 時々難聴への無理解。
(聴覚)
- 平衡障害なので健常者と思われがち。手すりがないところでよろめく。バス等ではよろめいたりするので乗れない。タクシー等割引がほしい。障害者手帳で無料にしてほしい。
(聴覚)
- 見た目ではわからない障害に対して、先入観や独自の価値観で決めつけるように接する人がいること。
(下肢)
- 健康な人にとって、具体的な理解がされていない。
(内部)
- 健康な方に比べ体力がなく、休んでいると、怠けていると感じられてしまうことがあります。
(内部)
- エレベーター利用、タクシー（近距離）利用、障害者用駐車場の利用など、内部障害で普通に歩いていると、心不全などがあっても、理解されにくいと感じる時がある。
(内部)
- うまく自分の思いを言葉に出せないで、女子高校生に話しかけられず、本人は触りもせ

ず、声もかけられずだったので、相手の女の子も特に騒ぐこともしなかったが、周りの大人から何かするのではないかと先回りされて誤解を受けたことがある。本人は話したい手をつなぎたいだけなのに…。 (知的)

○親も障害に気づかず、普通学校に通って、つらい思いをした。結果、高校で不登校になり、転校して、就職につまづいて、ようやくハローワークで相談した後、石川県発達障害者支援センターに行って、初めてわかった。 (知的)

○結婚を考える相手に、自分の障害を話した時。 (精神)

○周りにわかりにくいため、本当に悪い時でも、平気そう、大丈夫そうと言われたこと。 (精神)

○周りの人に白い目で見られた。手帳を見せても、理解されなかった。 (精神)

○精神は、見た目では障害がわかりづらく、いまいち何が不便なのか、わかってももらえない。うつ状態の時は外出できないけど、躁状態の時は外出できたりするので、その辺がウソなんじゃないの？と言われることもある。 (精神)

○見た目が、障害があるように見えないため、できないことが、人を無視している、言うことを聞かない人と認識されることが多い (幼少期から、現在まで)。 (精神)

○言動のひとつひとつが「うつの人が情緒不安定」とひとくくりにされがち。 (精神)

○2022年に、こころの元気+に思い込み投稿された。ただ話しに行っただけなのに、ストーリーしてる呼ばわりされた。内容→結果、人が怖くなる。多数派が少数派の病気を決めつけられる。先入観思い込みは怖い。 (精神)

7 記述不能

(1) 言えない・書けない

○幼少期から様々なことがあったので書きたくない。書こうとすると気分が悪くなる。 (上肢)

○これは記入しにくいので、直接会って話をしたい。 (内部)

○本人からの話では、小さい時からいやな思いはしてきたようですが、具体的な話は思い出せないようです。 (知的)

○本人は、差別がわからない。 (知的)

(2) 多すぎる

- 昔は差別がありすぎて、大変な人生でした。(視覚)
- 人に謝ってばかりしなければならなかった。(視覚)
- 非常にたくさんあるため書ききれない。多いのはグループから除外される、暴言、陰口。筆談をお願いしても頑なに口頭での対応で、筆談に応じてくれない等。金沢マラソンボランティアにおける手話ボランティアの軽視もありました。(聴覚)
- 病院の受付で「聞こえにくい」と伝えたのにも関わらず、対応が不十分でいやな思いをしたなど、日常生活を過ごしている中で思うことが多いので書ききれません。(聴覚)
- 多すぎてわからない。(体幹)
- いつも。(内部)
- たくさん。(知的)
- 気にしていたら、きりがない。(知的)
- 小学校の頃からずっと。(知的)
- 諸々。(精神)

8 その他

- 5年前に他人と接触したとき、舌打ちされた。(視覚)
- 子どもの頃はあった、現在は無い。(視覚)
- の●●に嫌われているので、受けられないサービスがあった。嫌われている人は他にもいて、その人たちはサービスや対応の差別を感じている。(視覚)
- 受けたことはあるが、あまり気にしない。(聴覚)
- ないことはないですが、あまり気にしていません。(聴覚)
- 他の人が差別を受けたのを見た。(聴覚)
- 2年前の4月頃…。(言語)
- 多少はあり、理由は障害者だから。
- 相手が差別と気づいていないことも多い。最近減りました、ないに等しい。(下肢)
- 特に気にしない。(下肢)
- 子どもの頃、今は気にしない。(体幹)
- 施設入所していたとき。(体幹)
- 小さいとき。(体幹)

- 人に遠慮している。(体幹)
- 見た目でわからない障害を持っているので、わざわざ説明しないし、行き違いはある。(内部)
- 学校に通っている頃、よくパニックになり、大声や生活音がうるさいと下の階の人から苦情が来た。(知的)
- 成人してから大きな声で泣いていて「うるさいから向こうに行って」と言われた。(知的)
- 疎外感。一時的な対応が多い。人の感情は、読みやすい。(知的)
- 変な人。パニック。(知的)
- 2024年6月、自分の障害を知っている親友と慣れない場所へ行った時、緊張している自分に「不安時の頓服は飲んだか？」と聞かれ、まだ服用していないと言うと、「パニックの発作を起こされたら、何にもできないし、迷惑だから服用してよ」と冷たく言われたこと。(精神)
- 自分自身が、一番障害を差別している気がする。(精神)
- 精神障害があることを周囲に明かしてないため。(精神)
- 精神障害(虐待による)なので、見た目も会話も普通にできるので、一般のような扱いを受けて、配慮されていないと思う。差別を受けたり、いやな思いをしたことはなく、目に見える疾患じゃないので、我慢して仕事をして、体を壊すことが多かった。(精神)
- 離婚調停中に、元夫が私の個人情報を地域に言いふらした。(精神)
- 4年前、奇声をあげて怒鳴られた(うるさい)。(児童)
- 小さい時うるさいと言われたことがあります。(児童)
- 外出時に、気管から痰が出た時に不潔そうな目で見られた。(児童)
- 警察の前で土下座をさせられた。(児童)
- 差別を受けたり、いやな思いをしないで済むように、あえてオープンにしていない。そのため、理解を得にくい。(児童)

Ⅱ 働 く

1 一般就労等

- 職場で多いです。採用面接のとき、周りの人と同じ(社員と同じ)ことができないなら社員

- として雇用はできないと言われました。拡大読書器など働く環境について相談したが、障害者に対しての社則はないと断られました。一番傷ついたのは「障害者を雇ってやっている」と面と向かって言われたことです。(視覚)
- 病院勤務の頃、障害を理由にバカにしたり、物を盗られた。ケガをするかもしれない状況をつくられた。一般校はなじめなかった。(視覚)
- 2025年4月から10月まで病棟看護師として働きました。看護師としては新人である同期から厳しく指導されたり、学生時代は大きめな声で話しかけてくれたが、現場に出たからは小さめな声で話しかけてきたこと。私から挨拶しても無視されたこと。リーダーに申し送りしている時は目を合わせてくれなかったり、頷きがなかったこと、態度が変わりやすかったこと。師長や部長に退職したいことを伝えると「今月末(10月末)は難しい。年末から3月まで頑張っ、それでも厳しかったら辞めても良いよ」と自分の都合だけを考えた発言を言われ続けてきたこと。(聴覚)
- 20年ほど前、夜勤(二交代)明けに聴力が低下するので、障害を理由に夜勤免除を上司に訴えたが、仕事上の都合で丸一年間実行されず、その間に聴力が低下した。その後、夜勤免除されたが、同僚から「たかが6級のくせに夜勤から逃げた」と言われた。その当時は6級でした、現在は2級。(聴覚)
- 一般就労していた30代後半、職場の人にいじめられたこと。(聴覚)
- 会社で差別的な言葉を言われたことがしばしばある。耳が聞こえないことに対して笑える、うけるなどと言われた。聞こえないことが問題になっている。言っている人は気にしていないと言われる本人は傷つく。(聴覚)
- 仕事内容を説明するが、面倒くさいと目の前で何度もいやな顔をされ、しまいには仕事をくれなくなりました。上司や同期のストレス発散によく八つ当たりされていました。何年かは我慢していましたが、耐えられなくなり退職しました。耳が聞こえないので、声かけたのに無視されたと思われ、それについて何度も説明して誤解が解けた場合もあれば、それが解決できなくてもっとひどくなった場合もあります。(聴覚)
- 事務系の仕事をしていますが、電話対応は全くできません。周りの人たちの理解はありますが、忙しいときは気後れします。(聴覚)
- 仕事をしているとき、電話の対応ができないため内容がわからない(教えてくれない)。わざと聞こえないように話をする。聞き返したときの言い方がひどい言い方をする。障害を理解してほしくて自分の取り扱い説明書を見てもらったとき、応えられないと言われたこと。(聴覚)

- 職場で重要な情報を伝えてもらえなかったときがあり、つらかったことがある。自分の性格的な問題もあり、中々障害の詳細をわかってもらうこと、そして意思の疎通が難しいなど感じている。障害者雇用で就労しています。(聴覚)
- 心ない言葉を言われる。日に日に悪くなっている足が痛く、歩けなくて休んだ次の日に上司に言われた。障害者より自分が大変だという。和式トイレ→洋式トイレに変わったとき、聞こえるように「お尻合わせは嫌だ」と言われた。私ができないことを代わって仕事をしていた人から「二人分の仕事をしたら腰を痛めた」と耳元で言われた。(聴覚)
- 昔仕事をしていて、耳が聞こえないからわからないでしょうとバカにされた。(聴覚)
- 職場の中でわざとらしく「あの人、聞こえないから」とあからさまに言われたことがある。(聴覚)
- 上司の指示が聞こえないため、コミュニケーションができなかったため。嫌な顔をされた。(聴覚)
- 工作中、気を使われる。(聴覚)
- 会社のランクアップ、資格の限界がある。主語言語法の認識が薄い。(聴覚)
- 前職において嫌がらせ(8～9年前のことです)。
- 2011年頃、昇格試験を落とされた。面接で「話がかみ合っていない」、「全く聞こえなくなったら解雇する」と言われた。(聴覚)
- 2～3年前、ある大学の掃除の仕事の募集があったので、電話をしてみたところ、耳が悪いと採用できないと言って断られた。(聴覚)
- 3年程前に障害を理由に職務内容の変更をお願いしたら「次年度の雇用更新ができるかわからないよ。」と言われました。(聴覚)
- 障害があることで採用されない、されにくいことがある。障害があることは一般企業での就労に不利。(聴覚)
- 元気に働いていた時は全然ありませんでした。2年前より特に多くなりました。弱いものは負ける。(聴覚)
- 聞き返すことが多いと、相手が嫌な顔をするときがある。障害者雇用枠以外で仕事を探すとき。(聴覚)
- 郵便局のバイトで、コミュニケーションによりカスタマーハラスメント、無視を健常者から受ける。耳鼻科で。(聴覚)
- 仕事の内容を理解しているものとか、理解難しいものとか多くて、やりすぎるものも。今は安定しています。(聴覚)

- 派遣社員を解雇された。 (聴覚)
- 仕事場 (しゃべれないため)。 (言語)
- 会社からこの状態であれば障害者と言われて申請しました。障害者になってからしばらくは給料もボーナスも支給されていたのですが、ここ2年くらい減額されています。この身体で他に再就職できるとは思えなく仕事量はふえたのに減額され、言葉には出さない思いをしています。 (上肢)
- 社会人になってある男性の上司から「能力がなくても大企業に就職できるなら、自分の子どもも障害者に産んでおけばよかった」と言われたことがある。30年以上前のことです。 (上肢)
- 障害者雇用にて、過去に勤めた職場 (20~30代) にて言われたこと。「若いのに何でそんな病気になるの?」「なにその病気、こわい」「私はそんな病気になりたくない」「仮病使っていない?」「いつになったら治るの?」→現在では治療薬がないので一生治りませんと説明している。結婚していることを伝えると「相手も障害者なの?」というニュアンスで聞いてくる人がたまにいる。配偶者は健常者です。 (上肢)
- 障害者特別枠の国家公務員試験第1号として合格し、6年半勤めてきましたが、北陸には希望する部署がなく、それでも安定した収入に魅力を感じ勤めてきましたが、汚い、きつい仕事ばかり任せられる割に昇格昇給がない。女子職員から何度も無視されることがある。 (上肢)
- 職場で「障害者だから」等、差別的な言動をされる。 (上肢)
- 以前に勤めていた会社で、障害に応じた職務へ移動できたが、管理者が替わったことで、その管理者の私利私欲のため、車の駐車位置や勤務時間の短縮を強制的に強いられたため、最終的に自主退社させられた。 (下肢)
- 仕事をしている上で、気が弱くなり言いなりになってしまうところがある。そのため、人が嫌がるそうじ等の仕事がまわってきたりする。障害があることに気づかれ辞めさせられることもあった。 (下肢)
- 仕事を解雇された。 (下肢)
- 障害者で雇用されても偏った見方で昇進する機会もなく、自ら提案するか、そうでなければ辞める等の言葉でしか響かない。見極める上司がいない。 (下肢)
- 学生時代、職場見学 (実習) に行ったら、そこのスタッフの一人に「あなたみたいな身体ではここでは働けないよ」と冷たく言われた。現在はこの職種で20年働いている。やってもいないのに頭ごなしに言うのはどうかと思う。とても失礼な人間。 (下肢)

- 給与を減らされた。 (下肢)
- 上司の許可をもらって車通勤をしていたところ、他の人、数人から毎日「アンタだけ車で来る？ある人はバス通勤しているのに、ズルい」とか。一人になるとき、朝から夕方まで、トイレ、お昼ご飯中、コピー中にも順番に文句を言われ続けていた。今現在の会社では部長からは、〇〇さんのために工事費用は出さない（トイレ、休憩場所）、他の会社に借りている。毎日着替えて、外履き、内履きと履き替えて外へ出る。 (下肢)
- 35年前、企業就職の際、直接的な表現ではないが、採用を断られた経験がある。 (体幹)
- 健全者よりも仕事のスピードが遅く、2回解雇された。いつ頃か忘れた、パワハラを受けた。 (体幹)
- 仕事に対する障害者の扱い。仕事のレベル、給料などの差別。 (体幹)
- 毎日、仕事で。 (体幹)
- 仕事で。 (内部)
- 障害がある人は一般の会社には勤務できなと決めつけてくること。障害のない人と同じ条件で働けないと働く資格がないと決めつけてくること。治療が必要であることを受け入れないこと。 (内部)
- 入社時、チームの人に「障害者にはできない」と面と向かって言われた。その後も、ずっといじめられている。 (内部)
- 仕事場の先輩から、「障害があるのに（職場の）昇任試験受けるんだ？」と言われた。身体の負担が少ない部署にしてもらっていたので、何も言えなくなりました。言った方は、医療従事者だったので、余計にいやでした。 (内部)
- 障害者は、昇任できないと言われた。 (内部)
- 障害を理解されず、健全者と同じノルマを与えられるが、できないので、なぜハンデをつけてくれないのか、わからない。 (内部)
- 仕事をさぼっているように見えている。健全者と同じように仕事をするように言われる。 (内部)
- 40年ほど前の30歳の頃に事故にあい、足に障害が残った。障害を理由に会社を退職させられた。 (内部)
- 以前働いていた職場で病気を理由に旅行に誘ってもらえなかった。 (内部)
- 過去の職場での不適切発言。 (内部)
- 会社に「障害者はいるだけでいい」と言われた。雇用率が上がるため。 (内部)
- 業務の差別化。給料が安い。 (内部)

- 障害年金をもらってるなら、働く必要ない。元気な人を求めている。人造人間（ペースメーカーが入っているため）。休んでばかり（通院のため）。（内部）
- 雪すかしができないのに、仕事に行っていること。税金が安いのではないか（車など）。（内部）
- 前職の社長から、6～7年前に言われたことです。心臓弁置換術を受ける前、手術を受けたら、障害者になることを社長に告げた時、「うちは障害者を雇わない！」と言われ、いやな思いをしました。（内部）
- 差別かはわからないが、入院休養後、他部署に異動させられた。（内部）
- 期日：本日（令和7年10月23日（木））。内容：聴覚障害のため、職場の上司に合理的配慮の提供（①小声で話すのはやめてほしい、②同僚職員にも状況を伝えてほしい）と依頼したが、相変わらずマスク越しに小声で話しかけられ、要望が無視されている。また、自分自身が難聴ということもあり、気づかないうちに大声で話しかけているようであるが、「うるさい。こっちを向いてしゃべるな。壁に向かってしゃべろ」と言葉の暴力を受けた。明らかに聴覚障害者への差別です。私は、金沢市の職員です。このようなことが放置されていいのでしょうか？障害者雇用に関する研修を行っていますが、まったく生かされていません。（内部）
- ハローワークにて、障害窓口の方に「一般募集で求人を探したら…」と言われたことがあります。市役所に勤務した際に（税関係）、感染も危ないので、確定申告窓口は無理だとお願いしていたのに、当番だと言われ、配慮してもらえず、私が退職するしかなかった。（内部）
- ハローワークで求人に応募したが、断られた会社があった。障害者に理解のない会社で、非常に残念でなりませんでした。（内部）
- 求職先で、障害者雇用を使い求職したが（ハローワークの紹介）、人手が足りないとその事業所に言われて、就職できると思ったが、不採用となった。差別されていると感じた。（内部）
- 就活中に面接を受けた際に、障害年金を受給していないため、面接を拒否された。（内部）
- 昭和57年に入社した頃には、障害者扱いにされて、外に連れ出されて、蹴られたり、殴られたりして、けがをしたこともありました。口もきいてもらえず、いやなことを言われたり、バカにされることが多かったです。（知的）
- 2017年頃、国体の選手に選ばれていたのですが、どうしても行きたいなら辞めるしかないねと言われたことがあります。現在、別の会社で、僕にだけ当たりが強い人がいます。（知的）
- 青年期、ビル清掃の仕事をしたが、障害者に対する理解がなく、なかなか長く勤務できなかった。（知的）

- 縫製会社に5年間お世話になったが、母親に勤務状況が伝わらず、最後には「退職してほしい」と突然言われたことが、今になると、つらい思いを感じた。(知的)
- 20年以上前、暴言を受けた。やったことない仕事をやれと言われた。(知的)
- 前の会社で。(知的)
- 職場である。(知的)
- ジョブコーチが本来なら、企業と障害者との橋渡しの役割で、障害者に寄り添ってくれると思っていたが、全然そうではなかった。障害者側のできないことばかりを言われて、とても苦痛です。面談では、会社からとジョブコーチからといろいろ言われて、すごくストレスになりました。そんな感じなら、ジョブコーチはいらないと思います。(知的)
- しゃべることができないから、一般の仕事をしたいのに、できない。自分では、障害者だと思っていない。何を考えているかわからないから、どの仕事も面接で落とされる。(知的)
- 仕事場によって、いじめがあった。(知的)
- 仕事場のおばさんの態度が悪い。(知的)
- 仕事場で、道具を盗まれた。(知的)
- 障害があるだけで、仕事で面接受けても、毎回落ちる。職場で働いていた時、「何でこんなこともできないの?」とか、陰口も散々言われた。ドラッグストア(2023年10月)人に笑われる。(知的)
- 2025年10月末に1か月休職になった際に、「数日でも出てこれないのか」「すぐに休職させることは難しい」と、休職に対する理解と重大さが伝わっておらず、いやな気持ちになったこと(うつ病による休職)。(精神)
- 一般企業で働いていた時(5、6年前)、いじめ、いやがらせを受け、会社を辞めた。(精神)
- 以前、障害者雇用で働いたことがあり、障害を会社に伝えてあったのを働いている人が知っていたらしく、私が入社してすぐの時に、陰口のような行動をしているのを見かけたり、態度が違うことがよくあったので、障害をオープンにして働いても、デメリットにしかならないと感じて、すぐに辞めてしまいました。(精神)
- 以前、働いていた職場で、健常者と比べられたり、ADHDとわかるといやな顔をされた(2015年ぐらいだと思う)。(精神)
- 以前、働いていた職場で、「何に反応して体調を崩すかわからないので、仕事をさせられない」と言われ、仕事を与えられない時期があった。(精神)
- 仕事を探しても、めっちゃめっちゃにするのではないかと言われ、断られた。(精神)
- 今年、職場の人にあいさつをしても、返ってこなかった。(精神)

- 仕事に就く前に、双極性障害を持ってると伝えてから採用されているが、症状が出てもフォローしてくれず、毎月高い診断書の提出と、休憩なしの一日フルで仕事させられたこと。病気の症状が、ただの怠けだと思われて、指摘されること。(精神)
- 去年、職場で新しく入った人もADHDの障害のある人から、私が障害年金もらっていることを話すと、別の日にキレられたら「だから障害なんだよ」と言われたことがある。(精神)
- 仕事、職場で仲間はずれ、いやがらせ。(精神)
- 職場でのいじめやパワハラを受ける。(精神)
- 職場で冷たくされた。きつく当たられた。(精神)
- 自覚していない時に、職場で無視やいやがらせが多かった(1、2年前)。好き嫌いの問題だと思っていたら、仕事内容についていけない部分が多く、障害者用の仕事内容を割り振られていた。そういった職場(介護、調理補助)が二度続いたため、理解するようになった。(精神)
- 体調に波があり、仕事をしていても、どうしてもその日に具合が悪くなったり、メンタル的に復活できず、連続で欠勤してしまうことがあり、最初にメンタルに病気があると告知をしてあったのですが、遠回しにそれが原因で解雇になりました。あと、求人時点で不採用になります。(精神)
- 親や仕事の先輩などから、なぜできないのか、できないのは変だ、仮病ではないのかと、たくさん責められたこと。当たり前を押し付けられたこと。(精神)
- 仕事の配置換え。契約更新が短期となり、以後更新なしになり、無職になる。いじめがあった。(精神)
- 障害者雇用でオープンに就労したが、職場で先輩にわざわざ知らない同僚に障害者であることを話された。(精神)
- 病院から出ている所を会社の人に見られて、退職を迫られた。障害者就労でしかうまく働けないため、親戚から差別を受けている。(精神)
- 病気で仕事を辞めた。会社では、相談する人がいなかったなので、辞めるしかなかった。本当なら、働きたかった。(精神)
- 障害があることがわかると、仕事をクビになった(20年ほど前)。(精神)
- 令和7年5月、障害を理由に雇い止めにあった。(精神)
- 心療内科に通院していることを話した時に、「頭がおかしい人が通う病院に行ってるの」と言われた。パワハラ(いじめもあった)を受けて、精神疾患になり、休職をし、その後、復帰しようと思いましたが、上司から「あなたが戻ると、周りが仕事をしづらいつまうので、出てこ

- ないでほしい」と言われ、退職を余儀なくされた。復帰の話が出た際に、「頭のおかしい病院に通っている人は来ないでほしい」と言われた（異動の話があった時に）。 (精神)
- 通院の休みをもらえなかった。 (精神)
- 派遣会社全般、断られた。月1回の通院も許されず、仕事が見つからない。 (精神)
- 職業能力開発校の職員からいやがらせを受けた。 (精神)

2 福祉的就労

- 就労の際に、障害等級で門前払いされることがある。 (視覚)
- A型(●●●●)で、足の悪い私に対し、「草むしりもできない人は使えない、いらぬ、貴方が会社にいると他の人を入れることができないから迷惑」「他の人と同じく歩けないから迷惑」とどうにもならないことを責め立てられていました。 (下肢)
- 以前のA型の就労先で朝の仕事割のとき「はい〇〇さん、今日は丸カンね。」と勝手に決められワゴン車に乗せられるのが嫌でした。 (下肢)
- 足がないため、就労Aの見学を断られ、ケアマネともめて、交渉してもらった。お金にならないから見学さえダメでした。質問自体がケアマネに契約解除の時、雑であった。 (下肢)
- 就学B型(ちょっと前)、生活介護(数年前)、サービスなど。 (下肢)
- 以前、A型就労で、職員から内職で折った箱がいっぱいたまったのに、私の分だけいつも山のようにになっているのに、持って行ってもらえないどころか、利用者呼び出して、私と関わらないように言ったりしていて、心が折れて、自殺未遂してしまいました。朝、仕事に行っても、箱はそのまま、作業するのに邪魔だったので、ずらすと、朝礼で誰か犯人探しされて、すごく不愉快でした。 (知的)
- A型作業所で障害者全員を全くしない人と同等に接しられ、認められていないと感じた。 (精神)
- A型作業所に通っていた時に、なかなか一般就労に結びつかなかったため、やはり自分は障害者だと自分で強く思うようになりました。 (精神)
- A型施設で、職員に調子悪いなら〇〇いってと言われた。いすなどをけられた。無視などを受けた。 (精神)

Ⅲ 得 る

- 生活保護と同等の支給をお願いしたい。 (知的)
- 障害年金を受給していることに対して「働かずに収入が得られていい身分だ。」とか「安易に受給できて甘えているとしか思えない。」ということをも主人、町内の知人に言われたことがあります。 (精神)

Ⅳ 豊かに育つ

- 地域の小学校は兄弟姉妹と同じ所へ行きたかったが、すんなりと入学できなかった。他の親の反対があり、学童へも入れず、夏休み、冬休みに行く場がなかった。今は放課後児童デイサービスがあり良いですね。社会人になると受けられるサービスが少なく、親が仕事を続けることが難しくなった。 (上肢)
- 小学校へ入学する際、民間の学童保育に入る希望を持っていたが、保護者から少なからず反対された。保護者会で本人の状況の説明をし、入所のお願いを母がすることで何とか入所できた。近所の書道教室で書道を習おうとお願いに行ったが、「足が悪い人がケガをすると大変だから」と理由をつけて断られた。 (下肢)
- 子育て中、子どもママから、うつるからと言って、娘と遊ばないようにしたり、親子の輪に入れないことがあった。小学校は、幼稚園の子がいない所に引っ越し。それから、病気のことは隠すようになった(実際うつる病気ではない)。今は、ちょっと悪い程度にしてある。手帳を持っているのも周りに言っていないし、近所ではヘルプマークもつけていない。駅でつけている。場合によってはつけない。 (内部)
- 「そんなこともできないのか！」と学校や親に言われた。他者と比べられた。 (知的)
- 5年以上前になりますが、以前利用していた施設で、親からすれば、“そういう障害”だと思えることについて、「できるようにならないとダメだ」と言われたり、特定の利用者として「しゃべるな」と言われました。別の利用者に対して、「帰れ」と怒鳴る職員がいると子どもが言うので、施設に聞いても、まったく相手にされませんでした。送迎バスで言うことを聞かない利用者に対して「ここで降りろ」と怒鳴った人は、現在、施設長をしています。 (知的)

- 放課後等デイサービスで傷跡が残るケガをさせられとき相手が誰か教えてもらえませんでした。幼稚園児なら園が教えてくれなくても本人から聞くことはできますが、喋ることができないので不安ばかり募ります。強く抗議をしたいのですが、今後もお世話にならないといけないので黙るしかありません。(児童)

V 学 ぶ

1 保育所・幼稚園・こども園

- 生後6か月時、保育園入園に向けて、いくつか連絡した際、●●保育園の職員に「そういう子は現在受け入れできない」と言われた。公立の●●保育園でも、加配職員の勤務時間の都合で、保育時間の制限を求められた。(精神)
- 2021年2月頃、保育園を探す時、ダウン症だが受け入れてもらえるか？事前に電話をかけてヒアリングしたところ、あらかじめやそんな反応をされ、数園電話をしたうちの一つの園では、折り返すと言われたが、折り返しの電話が来なかった。(児童)
- こども園入園のとき、こども園からの入園通知書が来た翌日に市から委員会で決まったため入園はできないと言われた。具体的にどの点が問題なのかを聞いてもはっきり答えていただけなかった。(児童)
- 保活の段階で、本人も見てもいない問い合わせの段階で、入園を断られた(医療行為も必要ないです)。(児童)
- 年少から年中に上がると、保育士が一人でクラスを受けるため、面倒を見られないと退園させられた(加配も保育士が足りないため、断られた)。年中から入園で、こども園1号で探し、発達障害があることを伝えたら、断られること多々あり。中には、いやなことを言うてくる失礼な方もいました。(児童)
- 保育園で健常者の子どもにばかにされた。(児童)
- 年少になり保育所についていけなくなり、赤ちゃん扱いされていたこと。(児童)
- 保育園の時、学校でできないことをバカにされる。(児童)
- 保育所でロボットと言われた(ペースメーカーが入っている)。(児童)
- 保育園のころ。(児童)
- 地域の保育園に通っていた頃、加配申請をしたにもかかわらず、人員不足により、先生につ

- いてもらえなかった。遊びのルールが理解できず、友達からはルールを破る子とされ、仲間はずれにされた。間に入る先生の介助があれば、防げたことだと思う。 (児童)
- 僕と一緒に遊んじゃいけないと幼稚園の時に言われました。お母さんも悲しんでいました。 (児童)

2 学校・教育

- 小・中学校の頃。 (視覚)
- 小学生の頃、同級生からバカにされた。 (視覚)
- 小学生の頃、内容は覚えていないが、いやな思いをした。 (視覚)
- 小学生の頃、友だちに眼の障害について言われたこと。 (視覚)
- 幼稚園から中学生、今でも学校（小・中学）の先生方に相談してもどうすることもできないようなことを言われた。私自身が悪いと言われ、淋しい思いで過ごした。 (視覚)
- 大人になってからはない。学校、特に中学・高校。 (視覚)
- 盲学校で同級生からイジメを受けた。県内での採用が年齢制限があるからという理由で、盲学校の担任に教員になる進路を絶たれた。 (視覚)
- 3歳頃から、ろう学校の先生が差別をしました。町内の中学生からお金を持って来いとか脅されて持って行き、校長先生が謝りに来たことあり。自転車を取られたり、いじめられたことがよくありました。 (聴覚)
- 学生時代（小学生）、発音が悪く、言葉、声の真似をされて、不愉快な思いをした。 (聴覚)
- 小学生のとき、担任の教師から「つんぼ」等、差別用語で罵倒された。 (聴覚)
- 小学生の頃、先生に聞こえないことを理解してもらえなかった。 (聴覚)
- 小・中学校の頃、教師、生徒からの差別、いじめ。 (聴覚)
- 小学校の頃、自分でできることまでクラスメイトに「障害者だから手伝ってあげなきゃ」と思われ自分でさせてもらえなかった。しばらくすると飽きたのか「何もできない」と後ろからけられるなど、いじめにあうようになった。聴覚障害の私に対し「けっていいかと聞いてからけった」と言われた。誰も助けてくれる人がいなかったため、特別支援学校に転校した。それにより地域のつながりがなくなった。成人式も行きづらい。 (聴覚)
- 高校時代は聴覚障害に対する理解のない生徒が多かったように思う。 (聴覚)
- 小・中学生の頃はからかわられイジメられた。主に同級生の男子から。 (上肢)
- 小中学校でのいじめ。 (上肢)

- 小学校、大学でいじめを受けた。 (上肢)
- 中学生の頃、学校の教師から、人と同じことができないことで注意されたり、できるように努力を求められる。障害があるから何事にも控えめにするようにと母より言われて育ちました。 (上肢)
- 小学生の頃、足に装具をつけているのでからかわれた。 (下肢)
- 小学校の頃、よくいじめられた。 (下肢)
- 小学校の時に事故に合い、こんな体になり、その時にいじめとか差別がありました。 (下肢)
- 学生時代のいじめ。 (下肢)
- 小学校時代は障害を理由に身体的・心理的な嫌がらせを受けたことがたくさんあった。また先生方からも、もう少しできるのではと身体的に負荷のかかることを強いられた。(遠足、体育等) 就職してからは、先生が上司に置き換わっただけで同様のことがあった。 (下肢)
- 学校行事等。 (下肢)
- 足が悪いことでクラスになじめなかった。 (下肢)
- 普通の学校の特別支援学級にいたとき、担任の先生は講師で、専門性のない素人の方だったため、自立活動は本来の教育内容でなく、遊びの時間になっていた。また「転校生が来たから障害児の番号と名前は交流学級の名簿から外します」と言われ悲しい思いをした。 (下肢)
- 小学生の頃、体育の授業でバスケットボールのチームに入れてもらえなかった。私が入れば負けると思われ、嫌がられた。学校の先生から、字が汚いと言われた。 (体幹)
- 子どもの学校の役員を決める時、治療や体への負担が多いので、できないことがあるのだが、見た目が元気そうだから理解してもらえず、何でできないの？みたいな思いを毎回する。 (内部)
- 小学生の頃、いつも体育の授業を見学していたことから、ずるいとなり、からかわれ、いじめに。大人になってからは、外見からは障害があると思われず、手帳を提示しても信じてもらえず、疑いの目を向けられ、いやなことを言われたり、多々ありました。 (内部)
- 小さい子どもの時、同じようにできないので、のけ者にされたり、周りに合わせられるようになるまでいじめにあいました。 (内部)
- (33年前)小学校に入る時。地域の、兄姉と同じ学校に入ろうとしたら、とても大変だった。 (知的)
- 小学校入学時、なかなか入学を許されなかった。 (知的)
- 小学校入学時、普通学級に在籍していた時、他の保護者から支援級に行くように言われた。 (知的)

- 当時、特別支援教育制度がスタートしてから6年も経っていた。だか、教育の現場はまったく何も進展していなかった。校長は、長年教員生活をしてきた中で何を身に付けてきたのだろうか。理屈ばかり並べて何より自分の肩書、名声の方が大事なようである。社会的弱者の生徒も一人の生徒なのだと寄り添った大人の視点をもっと身に付けしっかり管理職として全力を尽くしてほしい。校長こそ道徳をより深く学んでほしい。(知的)
- 学校(小・中・高)で、いじめを受けました。(知的)
- 子どもの頃、仲間はずれに。いじめにあう。(知的)
- 小学校でのいじめ。(知的)
- 小学校の時にイジメ。(知的)
- 小学生の頃、よく同級生からいじめられた(普通学校に行っていたので)。(知的)
- 同級生にいじめられた。(知的)
- 学生時代にいじめられた。それが今でも思い出が残っている。保護者からも、スーパーで会っても、遠ざけられた。(知的)
- 小・中学校の時、いじめられたり、暴力を受けた。親や先生に伝えても、「仕方ない」と助けてくれなかった。(知的)
- 学生時代、バカにされたり、いじめにあった。(知的)
- 小学生の頃、よく笑われた。(知的)
- 小・中・高、バカにされる。(知的)
- 小・中バス通学時、体を押されたり、意味不明の言葉を吐かれたりした。(知的)
- 話のマネをされた(吃音)。小学校、中学校。(知的)
- 暴言(犬にも劣る…etc)。小学生の頃。(知的)
- 本人に対してというわけではないが、私が中学の頃、「身障者～」って言っている同級生を見た。(知的)
- 特別学級(小学校)の普通学級での時間、帽子を何かされたと思います。(知的)
- 学生時代に財布からお金を抜き取られたことがある。今はそのようなことはありません。(知的)
- 学校時代(小中)、からかいなどはありましたが、早くにオープンにしてきたので、あたたかい人たちに支えられてきましたが、中には、社会活動の指導をされている方(BS)でも、優劣によって無視されたり、残念で悲しかったです。大人でも、間違った「決めつけ」があると、いやな思いにつながります。(知的)
- 学生の時、仕事場で何回やってもできない時。(知的)

- 小学生。 (知的)
- 小学生の時。 (知的)
- 小学校高学年頃。 (知的)
- 小学校の頃から、いじめられたり、無視された。 (精神)
- 小学校、中学校まで、いじめにあっていた。特に多かったのが、仲間はずれにされること。その次が、避けられることや暴力をふるわれたこと。 (精神)
- 学校で、自分の特性を他の生徒にも公表しようとした。しかし、私の特性を話すと、他の生徒が不安になるから、公表しないでほしいと学校の校長に言われた。障害者であるために、バイトに受からなかった。 (精神)
- 自主的に大学で研究室で勉強させてほしいとお願いしたら、障害を理由に断られた(他の人は勉強させてもらっている)。また、障害を知った別の先生からメールを無視されるようになった。 (精神)
- 幼稚園、小学校の時、よだれが出たり食べこぼしたりするのを汚いと他の子ども達に言われた。 (児童)
- 地域の小学校へ進学希望だが、学校側から遠回しに特別支援学校を検討してほしいと言われた。 (児童)
- 学校入学などの時、その他にも細かくいろいろ。 (児童)
- 学校の教員の理解がない(これまでずっと)。学校の施設設備が不十分である(これまでずっと)。 (児童)
- 学校の先生にも、生活圧カプレッシャーで生徒に当たる感じします。 (児童)
- 小1で不登校になった時、小学校の相談担当(?)の先生から「お母さんが家にいるから、仕事していないからだ」といったようなことを言われ、私(母)がとても落ち込んだ(年長で通えなくなり、小学校は支援学級)。親戚や子どもの同級生の親から「〇〇したらいいのに。うちの子は〇〇したから友達できたよ」「小学校通えるわけないよね」など言われ、理解してもらうことは難しいと思った。 (児童)
- 小学一年の時、学校の近くの公園で、「耳の悪いやつが普通の小学校に来るな」と上級生(4年)に言われた。当時の担任、校長に相談した。上級生が言ってないと言い張り、上級生の担任も難聴だから聞き間違えたのではないかと。一生許しません。 (児童)
- 小学校3年の担任(支援級の)。
- 小学校低学年の時、歩き方、走り方のマネをされた。今は高学年になり、相手も子ども落ち着いてきている。高学年になると、お互いの関わりもなくなってくる。 (児童)

- 小学4年生の時（普通級）、先生、クラスのお友達からの無視、差別。 (児童)
- 小学校高学年で、お友達から「できない」と決めつけられ、仲間に入って行事を行えなかった（本人は気がついていないと思うが、そばで見ていた親は感じた部分です）。 (児童)
- 通常学級の子と同じことをしたかったが、自分だけ仲間に入れてもらえなかった。交流学級の思い出づくりに参加させてもらえなかった。交流学級に名前を貼ってもらえなかった。 (児童)
- 特別支援級のくせにと言われた。 (児童)
- 小学校、デイサービス、悪口を言われた、暴力を受けた。 (児童)
- 学校でいじめられた。 (児童)
- 学校でいじられる。授業中、交流クラスでは座ってるだけで、参加してない感じを感じることがある。 (児童)
- 今年の春から夏にかけて、クラスの仲間からバイキン扱いされた。 (児童)
- 小学生の頃から、メールのやり取りで、意味のわからない返信をしてしまい、その後の返事でよく傷ついていた。 (児童)
- 中学の時、学校でめちゃくちゃバカにされた。 (児童)
- 同級生にばかにされたりした。 (児童)
- 同学年くらいの子どもから「何で○○出来ないの、病気なん？」など言われた。 (児童)
- 「なんで勉強できないの」とバカにされる。 (児童)
- 1年前、もっと勉強しろと言われた。 (児童)
- 同級生にだまされて、ゲームソフトを取られそうになったことがある。 (児童)

VI 遊 ぶ

- 別の都道府県で暮らしていた頃、スポーツジムに通っていたが、スポーツジムの会員が増加して、スタッフに危険なため、うちでは視覚障害者は受け入れできませんと断られたことがある。 (視覚)
- 芸術、アートのイベントで作品についての説明に音声ガイドの貸し出しはあるが、聴覚障害者用がないのが悲しい。 (聴覚)
- 弓道の差別です。 (聴覚)

- 踊り教室に行っていたが、途中で先生が障害者にはうまく教えられないから教室を断られた。
(上肢)
- 幼少期、足の障害のため、プールへ入りづらかった。(外見の違いによる。)
(下肢)
- スポーツチームでのいじめ。父親とおばあちゃんによる。精神的に追い詰められた。(内部)
- 大阪関西万博に行った時、障害者手帳を持っている人が優先的に並ぶことができる障害者優先レーンが、外国のパビリオンにはほぼ設置してあるのに対し、企業パビリオンには一部を除いてほとんどありませんでした。文化の違いもあるかもしれませんが障害者に対する理解が日本はまだ進んでいないと感じる出来事でした。
(精神)
- 動けないのに、運動しろと言われる。甘えと言われる。
(精神)
- 旅館の予約を断られた。
(児童)

VII つきあう

1 地域活動・人づきあい

- 町内会の班長をやっている。電話に出られないこと、来客にうまく会話ができず、出て行って(帰って)しまった。町内会費を集めるのに苦労した。家のインターホンからのスピーカーが聞こえず、こちらから言っても発音が下手すぎて伝わらなかった。町内会の役員(会計など)をずっと断っている。そのせいで肩身の狭い生活をしている。
(聴覚)
- 異性にしつこくされて、とてもいやだった。それが原因で、高校を辞めた。以前、就労移行(●●の前。●●ではない)でも、しつこくしてきた男がいて、いやだった。
(精神)
- 加害してくる人のせいで、息ができなくなることがあり、気分転換にと連れ出されて帰宅したら、加害してくる人に「遊びには行けるんだ」と言われ、モヤモヤした。
(精神)
- 近所の集まりの中で重度の障害があることを勝手にたくさんの人に伝えていた。その後、近所の人を訪ねてきたりして本当に困った。
(児童)

2 コミュニケーション

- コミュニケーション。
(聴覚)

- カード紛失時の電話において、コミができていなかった。 (聴覚)
- 飲み会、会議など大人数のときは誰が話しているのかわからないので、内容がほぼ理解できず、苦痛の長時間となっています。 (聴覚)
- 何回も聞きなおすことがつらい。 (聴覚)
- 会話がかみ合わないとき、バカにされたときがある。社会人→電話対応がうまくできない。コミュニケーションが不足する 때가 あった。 (聴覚)
- 障害者として気を使っていたことに非常に申し訳なく思うこともあり、意思を伝える前に自然と意見を述べるより先に意味を理解しきれなくてもニコニコして、ありがとうとだけ答える習慣が付き、疲れることの方が多い。 (聴覚)
- 事業所、手話ができる職員がいない。 (聴覚)
- 他の人の話が聞こえず、いろんな気を使う。 (聴覚)
- 電話は相手の情報を聞けないので、取り次ぎができなかった。補聴器なしで出かけると、店の人とコミュニケーションに困ることも。 (聴覚)
- 電話や会話中、内容がよく聞き取れなくて聞き返し、それでも聞き取れず相手に不快な思いをさせて、自分も辛い思いをすることが多くあった。聞き取れていないが適当な返事をしたこともよくあった。聞き取りにくいことで対人恐怖症になっていた時期もあった。 (聴覚)
- 聞こえにくいので筆談してほしいとお願いしたら、いやそうな顔で断られた。 (聴覚)
- 何回も「なぜ」と聞かれる。 (言語)
- 話しかけられてもすぐに答えられなくて、いやな顔をされた。 (言語)
- 言語が普通にわかってももらえない。言った意味が違う (左側が右側、イエスがノー)。全然逆のことを言われる。 (言語)
- 周りの人との会話がなくなった。 (言語)
- 言葉が不自由なため、コミュニケーションが取れなかった。 (上肢)
- 失語症なので会話ができない。 (上肢)
- 電話で何を言っているのかわからないと罵声を浴びた。 (上肢)
- 言葉を発することはできるが、適切なコミュニケーションを行えるわけではなく、その場に
応じた会話ができるわけではないので、相手側が怒ったり、理解してもらえずに、心に思っ
ていることが伝わらない。 (知的)
- 相手との話が伝わらない時がある。 (知的)
- 相手に思いが伝わらず、しっかりした対応がしてもらえない。 (知的)

VIII 出かける

1 交通機関・交通施設

- バスに乗ったとき、バスの運転手さんの対応が悪かった。 (視覚)
- タクシーで近場乗りを頼んだときに舌打ちされた。バスの運転手に見えないのでバス代を聞いたときに嫌な対応をされた。ジロジロ見られる。 (視覚)
- 目が見えにくく、白い杖を突いて駅まで歩いて電車に乗ろうとしたら、若い子たちに杖を突いてまで電車に乗るなどと言われ、電車に乗るのもいやだし、白い杖を突くのもいやです。 (視覚)
- 旅行に行きたいと思うが、電車、バスの乗り物が不便でできない。 (視覚)
- 交通機関の問題があります。あいまい、JR会社と新幹線の会社は一緒の同じ会社だと思った。初めて知ったので不満があります。節約したいので安い乗車券を買いたい。新幹線専用スタッフがわかってくれないので、仕方がなく高い乗車券を買った理由はわかりません。後で知りました。JRスタッフに説明してもらったので知りました。 (聴覚)
- 市バスを降車する際に赤手帳を運転手さんに指示するも、現金で払うときに、大人〇〇円で払えという指示で違和感がある。毎日アイカード（特別障害）を利用している。不足分の場合は現金で〇〇円（小人）を用意して入れる。 (聴覚)
- 9年前くらい、バスで優先席に座っていたところ、「あなたここなんて書いてあるか読める？」と優先席マークを示されて言われた。障害者手帳を見せたら「あらそうなの」と返された。非常に嫌な思いをした。 (上肢)
- バス、電車での席の譲り合いがない。学校近くの路線に乗ったら最悪です。 (上肢)
- 友人と外出した際、タクシーの運転手に「障害者だ。」と言ったところ、運転手が降りてくるのかと思いきや車体に手をついて待つていたところ急に発車してびっくりして転んでしまいました。 (上肢)
- 通勤時、麻痺の腕が人につかえ、叱られたこと。 (上肢)
- JR・北鉄バスで、手帳での割引のため提示した時、嫌そうな顔をされた。 (下肢)
- JRのえきねっと/e5489の仕様が障害者割引になっていない区間がある。バスで優先席になかなか座れない。健常者が座っている。 (下肢)
- バスに乗れないと言われた。 (下肢)
- 数年前バスの乗車を拒否された。 (下肢)
- 公共機関のバスを利用しようとして、座っている椅子から立ち上がり、バス停へ向かおうと

- しているのに、バスの運転手は停車もせず通過していく。北鉄バス、金沢駅西口にて。
(下肢)
- 先日乗ったタクシーで手帳を出したら、「障害者か」と言われた。(体幹)
- 若い頃、バス、電車で、優先席に座っていると、視線が痛かった。ヘルプマークをつけるようになって、安心できる。(内部)
- 数年前、ヘルプマークをつけて北鉄バスの優先席に座っていると、運転手から席を譲るようにアナウンスされたことがある。年齢だけで判断しないよう、北鉄バス運転手に教育してほしい。(内部)
- 都会とは違って、石川県では、ヘルプカードの周知徹底が少なく感じる。冷たい目で見られることがある。もっと普及を。(内部)
- JRで割引を受けようとする、手続きや購入がとても面倒なこと。健常者向けの割引は利便性が高いのに障害者向けだと制約が多いのか不満に思う。IR石川や私鉄ではそんなことはない。行政指導が必要だと考えるが複数の府県等をまたぐ上に日本に数社あるために国も含めて誰も指導できないのか？と感じる。(内部)
- (5年ほど前)最近では、バスの中で、ヘルパーも一緒だったのに、警察に通報されて、降りた所でお巡りさんに職質された(通報者は、途中で降りていなくなった(怒))。昨年のこと。ふらっとバス(長町ルート)で、本人がひとり言をしゃべり続けて、うるさかったようで、「静かにできないなら、降りてください」とアナウンスで言われたこと。ショックだった。他に乗っている人もいたが、他の人もいやな気持ちになったと思う。赤ちゃんが泣いていたら、降りろとは言えないはず。(知的)
- バス、電車等の切符を買う、料金を支払う際に、手帳を見せると、スタッフの態度が変わった(不快に感じる)。(知的)
- バスで手帳を見せて、クレジット支払い等をする時に、運転手さんへ割引の有無をお伝えするのがいやで、現金支払いか、専用ICaで支払いをするようにしている。(知的)
- バス停で、小学高学年(女の子)に触られたと言われた!毎日、近くで親が離れて見ていたのに、「女の子が親に嘘をついて」ショックを受けたことがあった。もちろん、父親が訴えたが…。(知的)
- 公共交通機関で、周りの人にいやな顔をされた。(知的)
- いつ頃とは言えないが、精神障害は外見上わからないので、混雑した交通機関や人ごみなどで、不快感を覚えても、逃げ道がない。(精神)
- たくさんありますが、障害者である私が、IR鉄道に乗って、疲れ果てて座っていると、後

- から横の席に座った方が、もっとつめてくれと言ってきたので、つめると、半分より出ていると言って怒りました。半分よりほんの少し出ただけだった。荷物が多く、棚に置けと言って、棚に置くと落ちてくる物だったが、障害者だと言うと、障害者が偉いのかと言っていた。I R鉄道などに言ったが、対応してもらえず、話の途中でTELを切られた。(精神)
- J Rバスで割引にならなかった。(精神)
- バス、タクシーに乗った時に、アイカの特別割引やタクシー券で、態度が変わることがある。気になるが、仕方がないので、とにかく大人しくしています。(精神)
- ヘルプマークをつけて、公共交通機関を利用した際に、「ただ座りたいだけ、印籠をつけて」と言われた。「ヘルプマーク持ちは地雷だから」と言われた。ヘルプマークを見て、何の病気か関係ない人に聞かれた。(精神)
- 他県では、ヘルプマークをつけて、電車や新幹線自由席で、座席を譲ってもらえる(いずれも体調不良時)。(精神)
- 5年ほど前、福祉タクシー券を使おうとしたら、ややこしくないだろうねと言われ、なかなかタクシーに乗れなかった。(精神)
- タクシー等の移動の時に、不便や断られる。車いすだと、特に扱いや対応が悪い。(児童)

2 駐車場

- 足の具合が悪いとき、車いすマークの駐車スペースに車を停めたら、あからさまにジロジロ見られ、聞こえるように連れの人と話していた。ヘルプマークを見つけた連れの人がたしなめたが、納得していない顔をされた。バスの優先席でも同じようなことがあった。下肢も認定は受けていないが障害がある。(上肢)
- 駐車場などでは障害者マークをつけていますが、若いから降りるまでずっと見られている。脚が不自由なのを見て去っていく。(上肢)
- 障害者駐車場を利用すると、白い目で見られる。障がい者→障害者と書かれる、自分は害なのかと思う。(下肢)
- 障害者用の駐車スペースに一般の車が平気で停めてあり、車いすでの移乗の場所が取れないようなショッピングセンターなどが多い。(下肢)
- 障害者に対する認識が一般の人には理解されていない。障害者用の駐車スペースに平気で一般の方が駐車している。(体幹)
- 障害者パーキングでの口論。(児童)

○身体障害者用の駐車場スペースで、あなたは車を止めてはいけないと声をかけられた。

(児童)

3 公共的施設等

○外出先の車いす用トイレの設備がまだまだ整っていない、不便。 (下肢)

○外のトイレのベッドは、もう小さくて使えない。何とかしてほしい。ベッドがない所もある。

みんな車いすでトイレ使えるわけじゃない。 (児童)

○公園、児童館、子育て支援センターなどの施設でルールを守れない変わった遊び方をしていたら注意された。常に付き添い、スタッフの方にも特性を伝えたが「ルールなので…」と言われ遊べなかった。 (児童)

○公園で遊んでいて、順番が守れず、他の親の方に、障害があつて順番が理解できないと伝えたのですが、「障害があつたら、順番を守らなくてもいいんですか？」と言われました。

(児童)

○公園などで遊んでいるとあからさまに避けられる。 (児童)

○多動があり、子どもの遊び場でも他の親御さんにも嫌な顔をされたりはします。 (児童)

○子どもの頃、地域の公園で暴言やいじめをされたことがあった。 (児童)

4 道路・歩道

○青信号中に歩道を渡り切れず、赤信号になってしまったとき、しびれを切らした車がわざとアクセルを踏み、すぐそばまで発信してきて、思いっきり急ブレーキを目の前で踏んで威嚇してきたことがあり、それから1人で外出できなくなった。 (上肢)

○路上で。 (下肢)

○8月頃、若い子の乗る車が横断中に前に入ってきて、にらんで走り去った。 (内部)

5 白杖・車いす等

○点字ブロック上に障害物および人がいて歩行困難。 (視覚)

○白杖を使って歩いていると、「その杖が人にぶつかる危険だろう」と叱られる。一人で

- 歩いていると「案内するから」と言って、過剰な接触をされる。(抱きつかれたり、胸を触られたりする。) (視覚)
- 石川県だけ白杖の理解がなく、ぶつかる人が多い。他県はとても親切。 (視覚)
- いっぱいありすぎる。車いすに乗っていると、子どもが勝手に触ってくる。親の注意の仕方、気の遣われ方に傷つく。 (下肢)
- やっと歩いて手押し車を引いているのに、早くどけ、じゃまと言われたりしたことが何度かある。 (下肢)
- の住宅展示場にて、床板が車いす対応ではないから入れないと言われ、他の住宅会社にも断られた。車いす対応の床板などはない。結局どの住宅も見られなかった。●●住宅展示場は大丈夫だった。 (下肢)
- 松葉杖をついて公園を散歩していたら、高齢者の方々がグランドゴルフをしていて「早くどいて」と言われ悔しい思いをしました。 (下肢)
- 電動車いすは子どもや高齢者にぶつかっていく危険物だと思われている。電動車いすを見ただけですぐに子どもに「危ないよ。」と言われる。子どもを見かけた時点でこちらが気を付けて止まっています。危ないのは走って飛び出してくる子どもの方です。 (下肢)
- 車いすを蹴られた。舌打ちされた。本当に障害があるのか疑われた。 (内部)
- バギーへの認識が薄く、ベビーカーを畳めと罵声を浴びたことがある。 (児童)

6 買い物等

- 買い物時にサポート制度がなく困った。バスの乗車時、アナウンスが不十分で乗れない。一つの停留所に連続して来るとバスに乗れない。 (視覚)
- 20年ほど前、飲食店でオーダーの際に店員が「ビールは先にお持ちしますか？」と尋ねたものの、よく聞き取れず3回聞き直したことで、3回目にため息まじりで対応され嫌な顔をされた。 (聴覚)
- コンビニなどお店で聞こえないことを言っても、書くとかはしてくれない。変な目で見ると。 (聴覚)
- 耳が聞こえないため、自転車は購入できないと自転車屋さんに言われたこと。コンビニで店員に話しかけられ、耳が聞こえないと伝えたのに、レジ袋を2枚勝手にレジ打ちされたこと。ずっと話していて、こっちも同意していない。 (聴覚)
- レジで聴覚障害のサポートカード(店が用意しているもの)をレジかごに入れていたが、見

- た目に障害があるように見えないからか、首をかしげられ、何の対応もしてもらえなかった。
耳が聞こえないと言っても普通に話されることが多い。こちらが書くものを用意したり、文字起こしアプリを使わなければ会話できない。(聴覚)
- 一部のコンビニ店でコミュニケーションカードがあるが、店員に伝わらなくて、ちょっと差別だなと思った。(聴覚)
- 店員に障害者と理解されず、コミュニケーションが取りづらい。(聴覚)
- 介助犬の同伴拒否。(上肢)
- スーパーのレジで押されて倒れた。(下肢)
- デパートで車いすに乗ってスーツを見ていたら店員に「そちらではなく、こちらがお安いですよ。」と言われ、高級スーツを見ることができなかった。(下肢)
- 車いすでは外食や買い物をする店舗、バスはスペースがない。(下肢)
- 遠回しにイベントに来ないでほしいと言われた。車いすを邪魔扱いされた。(体幹)
- コンビニで動作が遅いと、店員に叱られる。一見、障害者であることがわからないためと諦めている。(内部)
- 一人一個の商品なのに、一人扱いにしてもらえなかった。本当にショックでした。(知的)
- レジを遅くされたり、レジへ向かおうとすると、札をかけられたことがある。(精神)
- 奇行や奇声が出ることを周囲に伝えるために、ヘルプマークをつけていますが、大型商業施設等ですれ違いざまに「障害者のくせに、邪魔なんだよ」と声をかけられたりする。(児童)

7 その他

- 車の当て逃げ、自転車の当て逃げ、急にぶつかってきた人に杖を折られたなど。盲導犬が一緒だと来店拒否される。(視覚)
- タクシーで遠回りや釣銭の改ざん。飲食店で客から嫌がらせ。歩行時に邪魔と言われる。当てこすりされ、転びそうになる。外見上、障害があるとすぐに判別できないためにおきる。障害者と関わりたくないため、遠巻きにされる。(視覚)
- 日々、外出先で介助を願い出たとき、困った様子が見受けられる。(視覚)
- 8年位前、用水路に転落(深さ2m)。(視覚)
- 店の中に偏見が多い。耳が聞こえないと言っても反応がない、特に店。障害に関する法律、店、交通機関、公共などあまり周知していない、特に警察。(聴覚)
- すぐに移動ができないため、後ろにいる方に「はあー」とため息をつかれることがすごくつ

- らく怖い。それなら外出しない方がいいのかという考えになってしまう。(上肢)
- 高速道路の料金所で事前に手すりを用意しとけと言われた。有料駐車場でわざわざ遠いところに止めさせられた。空港でしつこくプライマリーカードを解約するように迫ってきた。(上肢)
- 私は杖を突いて歩いていますが、バス、商業施設内で気にしてくれない人もいる。(上肢)
- 歩くのが遅い。(下肢)
- 障害者ヘルプマークをかばんに付けて、高速道路のサービスエリア休憩場で座っていたら、突然20代前半くらいの男の人に、「よしよし」と言いながら頭をポンポンとなでられた。心臓疾患だが、知的障害だとでも思われたのか？(内部)
- 差別やいやなことはないのですが、ストーマになって、温泉旅行がグッと少なくなった。スーパー銭湯はもちろん×、部屋風呂付きの温泉になりました。高価で大変。(内部)
- 公衆浴場の脱衣所で、いやな目で見られた時がある。(内部)
- 移動支援を利用したことがあるのですが、支援員の方の障害者に対する理解が感じられませんでした。(知的)
- 出先で気分が悪くなった際、横になれる場所の提供に難色を示されることが多い。(精神)
- どんな障害を持っているかも確認せずに、イベント参加させてもらえなかった。(児童)

IX すこやかに暮らす

1 健康

- デイサービスに入り、風呂に入ったとき、身体にできもの(老人の老廃物)があるため、うつと思われたことで洗う介助を拒まれたこと。説明しても「そんなこと言われてもね」とはねつけられた。自分でどうしたらよいか考えて、証明書を取りに行くことに決めた。タクシー代と証明書代で1万円近くかかったが、それで何とか解除できた。老人性老廃物は皮膚科で納得してもらった。70歳くらいからいっぱい老廃物ができものようにできているので悩みの種です。(聴覚)
- 右半身マヒになり4人部屋に入院してすぐのころ、同室の患者が家族と話していた際に、「私は右マヒじゃなくてよかった。いろんな人がいるから」と話しているのが聞こえた。前日に私と話していたので私のことだと思われた。29歳で若くして脳梗塞になったが、入院先の他

の患者に「マヒが軽そうに見える」という旨のことを言われることが多かった。リハビリをがんばって良かったのに。この先働かないような年齢の方に働き盛りの私を同じと思わないでほしかった。 (四肢)

○ストーマなため、Hができない。 (内部)

2 保健・医療

○市立病院で嫌な対応をされた。その後行っていない。 (視覚)

○聴力検査の際、ボリュームを急に上げられて耳が痛くなったが、誤作動の謝りもなく、そのまま聴力障害アップと出てしまい、困った状態でした。 (聴覚)

○看護師による嫌がらせ (入院中)。 (下肢)

○4、5年前、病院の食堂で大きな声が出て、周りの人が嫌がった。 (体幹)

○困っているが伝わらない、わがままととらえられる。医療機関2021-2024、病院を変えてからはなくなりました。 (体幹)

○病院の先生に対して、初日の日はいいですが、日が経ってくると何も言わなく見ようともしない。不安がたびたび募るばかりです。 (体幹)

○病院の看護師に嫌なことを言われた。 (体幹)

○保健センターですこやか検診 (集団検診) を受ける時、カードを見せたが警備員に少し離れたパーキングから歩いてと言われた。ムリです。受付の順番待ちに並べず (椅子の間隔が狭くて通れない) 困っていたが、係の人に助けてもらえなかった。声をかけてくれる係の人がいなかった。 (体幹)

○コロナの前だと思うのですが、行きつけの眼科で医院長先生の診察を受けた時、障害者は薬が無料だからといって、たくさん薬をもらおうとするのはダメだと言われたが、「たくさんくれ」とは言ってないのに、決めつけたように言われて、ショックでした。 (内部)

○県中へ入院時、●●大学の学生が現場実習に来ていて、入院状態、疾病状態の見学をしたいとのことで許可したが、病気による食事、着替え、トイレの実態も見学したいとの心ない要望があった。なぜ病気で苦しんでいる私の様子を見たいのか聞いたが答えず、また、普通の人と同じ生活する上での所作をなぜ見たいのか聞いても答えず、泣き出した。引率の教官に、なぜこのようなことを学生に教育していないのか聞いたが、答えられなかった。病気している私も人間であることの欠如が、教育機関である最上級の大学、それも●●にある●●大学の学生が軽い気持ちで言ったことと、教官の配慮不足と後処理のまずさにびっくりした。そ

- の後の謝罪も明確でなく、学生本人からも謝罪がなく、リハビリ室でも顔合わせしてもそれもなく、大変いやな思いをした。障害を持っていても、同じ人間なのだ。(内部)
- 医療費削減の声、テレビで障害の医療費が多くなるため、死ねばいいと言っていた。(内部)
- 15年ほど前のことです。ダウン症なので、顔に特徴があるため、幼い時から健常者の子どもや大人からジロジロ見られていました。現在、甲状腺機能亢進症を罹患しており、金沢市立病院の内科に通院しておりますが、皮膚搔痒症もあるので、市立病院の皮膚科を受診したところ、皮膚科の●●医師が明らかにいやな顔をされて、診てくれませんでした。カサカサな上に血がにじんでいるのにです。私が診察室を出ようとしたら、後ろの方で「俺は障害者が嫌いなんだよ」と看護師と話しているのが聞こえました。親として、とても悲しくなりました。(知的)
- 4年前、県立中央病院にて、停留睾丸と診断されて、手術を希望しましたが、障害(ダウン症)に対してまったく理解が得られず、結局、手術を受けることはできませんでした。病院と医者に対して、大きな不信感を抱いています。(内部)
- 小学生の頃、総合病院へ行った時、大声で悪口を言われた。(知的)
- 診察拒否→「こんなしゃべれん子、診れへんわ〜！」(知的)
- 病院での受付。(知的)
- 病院の待合スペースでパニックを起こして、周りの人に迷惑をかけてしまった。大声を出したり、服を脱いだり、他の人に暴力をふるってしまった。待ち時間の見通しや、個室で待てるなどの配慮がほしい。(知的)
- 10年ほど前、ある大学病院に入院した時、病状があまりにもひどかったためか、看護師の方や教授から、いやがらせを受けた(診断書を書いてもらえない等)。(精神)
- 日常的にある。障害者に見られず(?)、変な人扱いで、注意される。一番悔しいのは、医者で相手にされない時。そのため、障害者は早く死ななければならないのだなと実感する。(精神)
- 看護婦の虐待、患者のいじめ。(精神)
- 病院の看護師の態度が、障害者をバカにして、からかっているようだった。薬の副作用で、ひどい目にあった。健康な人がうらやましかった。30年ほど前。(精神)
- 精神科の男性看護師が、患者に暴力をふるっていた。精神科医は、見て見ないふりだった。言葉でのハラスメントは、常にある。(精神)
- 入院中の看護師さんと態度がいやだった。(精神)
- 院内で露骨に。(精神)

- 眠れなくて苦しく風邪が酷い時、無視された。周りの看護師もわざと治療しなかった。陰口を聞いた。 (精神)
- 理解のない医療従事者に冷たい言葉を浴びせられます。 (児童)
- 行きつけの小児科で、子どもを連れて行くと、いやな顔をして感じが悪い。本当は行きたくない。 (児童)
- 病院で通院中、落ち着きがないため注意されることが多い。 (児童)

X 知 る

- 社会的差別。中途で見えなくなり、つながるところがわからなく、必要な情報が得られなく、仕事をやめなければならなかった。タッチパネル普及により、今までやれたことができなくなった。 (視覚)

XI 参加する

- 選挙投票のとき、字を書くのが遅いのでせかさされた。 (体幹)

XII 使 う

- 手帳を持っていないときからも、金沢市役所職員から目に関することも指摘も強く、公務的職員から強要や理解は全く得られなく、支援にも全く結ばれないです。 (視覚)
- 障害認定を受ける前だが、電話や面談での聞き返しや確認をあまりよく思っていない態度の方がいて、精神的に苦労が多かった。(障害認定は2024年9月なので、その前、特に2018年～2024年の認定前) (聴覚)
- 障害手帳相談等、昔(10年ほど前?)病名が付かないから交付ができないと言われたときに、

役所の方に「精神患えば手帳でますよー」と言われたときはただ笑うしかありませんでした。でもそんなところにしがみついても身体はよくなりませんので「あきらめる」、悪い言葉でなく、次に進むということで好きな言葉です。 (上肢)

○数年前、金沢市元町市民センターの医療費の窓口で、右足に障害があり、立ったまま窓口で対応することが難しいのに、立ったまま対応させられたこと。あと面倒くさそうに「コンビニでできますよ」と言われたこと。あまり外出でいろいろなところを移動できないのに言われました。 (下肢)

○何よりも、金沢市役所に障害者を連れていったときに歩くのもやっとの障害者に対して、用件を聞きにも来ないで知らん顔だった。障害福祉課の職員対応こそ差別や偏見を感じる。 (体幹)

○3年前、ヘルパーを利用したいと思い、介護保険課では「そのような制度はない」と言われ、障害福祉課では「生活保護受給中だと、生活支援課へ」と言われ、生活支援課では「介護や障害のことを生活支援課に持ち込むな」と言われ、たらい回しの上、申請もできないまま3年たった今では、食事もとれず、服薬がやっどできる日が多くなっている。ベッドで横になって寝ることもできない。 (内部)

○行政の窓口を一本化していただきたい。子どもの障害がわかった後、親は絶望の淵に立っています。この子を連れて死にたいと思うくらいです。その際、窓口の方によって理解度が異なり違うことを話されたり (必要書類や対応の窓口、できないことをできるといわれたりした)、それぞれ担当窓口が異なり、障害のある子どもを連れて産後の絶望した母親が移動するのは本当に負担しかありません。事前に連絡するなどし、その日に必要な書類の説明や、担当者が全員集まり、子どもと親が移動する苦労を減らしていただきたい。行政に出向くのは一日ですむようにコーディネートしていただけると助かります。 (児童)

Ⅷ その他

○10代、20代の若い頃に差別、偏見があった。嫌な思いというよりは不便なことはある。このような行政のアンケートも最初からフォームなどで答えられると良いと思うが、電子データを電話で取り寄せるといって手間がかかる。Wordデータだとこの項目のように枠内に書くのがスクリーンリーダーで操作すると難しい場合がある。そのようなアクセシビリティも向上し

- ていただければうれしい。 (視覚)
- わかりません。周りの声が聞こえないので、もし差別的な言葉をかけられていても気付いていないだけかもしれません。 (聴覚)
- 言わない。 (上肢)
- 障害の程度が軽いからわからない。 (上肢)
- あると思うが覚えていない。 (上肢)
- わからないことばかりなので困りました。 (上肢)
- 35年以上仕事をしてきましたが、54歳のとき両足（ひざ）の手術を受けました。ひざを曲げる
ことだけできないので、会社に伝えてできることだけやってきました。会社も理解してもらえ
ました。75歳になり、足もきつくなり、通勤もつらくなってきたので退職しました。 (下肢)
- このアンケートも自分が障害者だと再確認させられ、下等とレッテルを貼られていると感じる。
また、そんな出来事をいくつも思い出す。アンケートの設問がわかりにくく配慮が感じられな
い。 (下肢)
- 記入するのではなく、行政（県・市）が直接話をできる機会をつくるべきではないかと思う。
(体幹)
- 家のエアコンを修理に来た人に話を聞いてもらえず、一年しかたっていないエアコンをそのま
まに、新しいエアコンをつけることになった。家族が詳細を聞き、キャンセルした。 (体幹)
- 順番待ち中に、自分の番が来たら、即時に行けなく困っている。 (体幹)
- わからないです。本人が理解しているか不明。 (知的)
- わからない。 (知的)
- 不明。 (精神)
- お友達とケンカしたりする。 (児童)
- ない：内部（心臓）なので、わかりにくく、5歳なので、まだ差別的なことは言われていませ
ん。 (児童)

第2 理解や心づかいがあり、よかったと感じたこと

I とともに生きる

1 住まい・家庭

- 車の運転ができない私のために、日常的に理解と配慮のある家族を持てたこと。 (視覚)
- 家族中で雪かきを手伝ってくれた。 (視覚)
- 家族の協力。 (聴覚)
- 家族がサポートしてくれる。 (聴覚)
- 家族、親族の自然な対応。対処。 (聴覚)
- 家族です。厳しくもあり、つらさもあるからこそ資格なくても思いがあるのはうれしいです。 (上肢)
- 障害者が一人で自活できる物件やマンション（障害者用使用）、タクシー代援助。 (下肢)
- 家族の優しさ。 (体幹)
- 現在、夫や娘たち、孫が近くにいるため、お互いに協力し合って生活できること。 (体幹)
- グループホームで食事会の際、テイクアウトなどをしてくださり、外出しなくても、おいしい物を食べることができている。 (知的)
- 家族がいつも協力しながら、仲良くいられているかもしれません。障害の子がいるだけで…。 (知的)
- 父親が死亡した時、姉兄が将来的に面倒見ると言ってくれたこと（8～9年前）。 (知的)
- 2018年くらいに、良いグループホームを紹介されて、楽しく使わせてもらっている。 (精神)
- グループホームの責任者や世話人さんたちが優しい。 (精神)
- に来て、職員さんが替わって、心あたたまると優しい人ばかりになった。前の管理者の人は冷たかったが、今の人は、何でもいやがらずに話を聞いてくれて、良かった。食事の時に音楽が流れて、気分が良くなった。 (精神)
- の相談支援専門員●●氏と、現在利用しているグループホームの●●社長と、正社員の方とパート社員の方に、良くしていただいていることです。グループホームに住まわせてもらっていることです。グループホームでも、いやがらせや差別を受けたことは、一度もありません。それが良かったことです。 (精神)
- 今現在、家主の方やご家族に良くしていただいていること。睡眠をしっかり取るよう、生活指導もしてくださる。 (精神)

- 最近は、皆様、話や生活支援については、やや満足していますが、布団のシーツなどがあまりしてもらえなくています。(精神)
- 家内は仕事も忙しいのに、毎日おいしい食事をつくってくれること。(精神)
- 夫婦とも心が豊かになりました。(児童)

2 在宅生活支援サービス

- お金がなくてメガネを買えなかったとき、市役所の健康福祉課に相談に行きました。メガネ(片眼左)をつくっていただきありがとうございました。(視覚)
- 音声拡大読書器を補助してもらった。(視覚)
- よくわからないが、手帳があることで受けられるサービスがあるのは助かります。(視覚)
- 行き届いたサービスを受けられている。(視覚)
- ホームヘルパーが使えること。(視覚)
- ヘルパーがよくしてくれる。(視覚)
- 日常的にホームでお世話をしていただいています。(視覚)
- 転んだ時、訪問看護師さんがかけつけてくれた。(上肢)
- ケアマネジャーさんやホームヘルパーさんがよくしてくれる。(下肢)
- 居宅介護支援●●、ホームヘルパー様方にお世話になっております。いつも良くしていただいております、満足しています。(下肢)
- 訪問看護師が掃除を軽くしてくれました。(体幹)
- ストーマ装具の給付金が出るので、助かります。ですが、100%じゃないので、自分で払う金額の負担は大きいです。(内部)
- 掃除の家事援助の時、責任者は、一緒に掃除しないとダメだと言っていた。でも、当日体調を崩し、キャンセルできずに、ヘルパーさんが来てしまい、「休んでいていいよ」と言ってくれて、代わりに掃除を一人でしてくれた。とても助かった。(精神)
- お金の管理を手伝ってもらった。(精神)

3 手助け

- 援助の声かけをしてくれる人が増えた。(視覚)

- 時々声をかけてくださる方がいる。 (視覚)
- 周りの人の声かけが増えた。 (視覚)
- 声をかけてもらえること、対象となるイベントがあること。 (視覚)
- 周りの方が手を貸してくれる。 (視覚)
- 2年前、大阪や東京では立ち止まっていたら助けてくれる人がいて、目的地まで案内してくれた。電車の乗り換え時に大阪のヘルパーさんと待ち合わせ場所がわからなくなった。 (視覚)
- 信号待ちなどで声かけなどサポートしてくれる方は都会では多い。金沢では人が少ないけど協力はあります。 (視覚)
- 周囲の方は優しく親切です。時に触れお願いすれば皆さん協力してくださいます。 (聴覚)
- 書いてくれる人がいるのがありがたい。講演でよく知らない人が書いてくれた。 (聴覚)
- 助けてもらえる。 (言語)
- 障害があることを知っている家族、友人、職場の同僚などからは必要なサポートを受けている。 (上肢)
- いつかは忘れましたが、ちょっとしたことですが、荷物を持ってくれたり、ドアを開けてくれたりしてくれた時はうれしいです。 (上肢)
- ドアを開けてくれる。 (上肢)
- 車から降りるとき雨が降っていて、傘をさしてくれた。 (上肢)
- 人によって、手助けの声をかけてくれる。 (上肢)
- 通りすがりに助けてもらえる。 (上肢)
- 段差で手伝ってもらったことがある。 (上肢)
- ドアを開けてくれる。 (下肢)
- ゆっくりでいいよ、と言ってもらえた。とてもうれしかったです。 (下肢)
- 私にできることはありますか？と声かけをよくしてもらっています。感謝しています。 (下肢)
- 福祉以外の方は助けてくれることが多い。 (下肢)
- よくお声かけをしていただける。 (体幹)
- ヘルプカードのおかげでまちなかで声かけをされました。 (体幹)
- ヘルプマークに反応してくれた。声をかけてくれる方がいた。「困っていたら言ってくださいね」と。 (体幹)
- 声かけ、倒れたときに手を差し伸べてくれた。 (体幹)

- 手すりのない階段の上り下りの時、手を貸してもらった。友人だったから安心して頼めた。
(体幹)
- 重いものを持つとき手伝っていただいた。椅子を提供していただいた。席を譲っていただいた。
(体幹)
- 理解してくれる友人が、困った時にすぐに手を差し伸べてくれた時。
(内部)
- かばんに付けてある「ヘルプマーク」を見つけて、救急車を呼んでくれた。逆に、マークを知らない人が多い。
(知的)
- ヘルプマークを身に付けていた際、それに気づいた人に声をかけてもらったことがある。
(児童)
- 身近な人がさりげなくフォローしてくれたこと。
(児童)

4 障害への理解

- 周りの人が理解してくれているので困ることはない。
(視覚)
- テレビなどで病名が取り上げられたことが多々あったため、病気自体の理解が広まっているように感じる。
(聴覚)
- 理解と配慮があっても間違った対応が多い。例えば、だからって「声かけない、関わらない」といった対応がまだ多くある。
(聴覚)
- 障害があるとわかっても何でも話し合える友だちができた。
(上肢)
- 理解や配慮がある方と接したとき。
(上肢)
- 私の知人の皆さんは理解も配慮もお持ちの方ばかりなので大変ありがたいです。感謝の一言に尽きます。
(下肢)
- 世間に浸透していると思う。
(下肢)
- 子どもの知的障害や発達障害について、理解してくれている感じで、寛容な対応をしても良かったこと。態度や行動について、昔よりも皆の受け入れが優しくなったと思う。否定的なこともあまり言われないう。
(内部)
- 理解してくれる友人、近所の人がいって優しく接してくれる。普通に接してくれる。(知的)
- 幼少期～現在まで、障害に理解のある方々は、本人の行動に対し優しい声をかけていただきうれしく思います。
(知的)
- 地域のおじいさん、おばあさん、友達が保育園や小学校時代先生たちが、一生懸命学んでいた(自然に)。ポケモンのDMで仲良くしていた。
(知的)

- 話したいことをわかってもらえた。(知的)
- 障害について嫌なことを言われたことがない。(知的)
- 10年くらい前から、精神発達障害に関する知識が急に社会に普及したと感じる。(精神)
- あいさつをしてくれる。(精神)
- 嫌な顔をしないでくれた。(精神)
- どんなことかよくわからないけど、障害のことを打ち明けても、それがどうしたのと、関係ないよと言ってきて、友達ができた時。(精神)
- 友人や知人に、自分の状態をオープンに話すことができる。周りの反応は、ネガティブではない。繊細さを私の個性だと言ってくれる。(精神)
- たまに、私の話したことを大部分受け入れる姿勢を持たれてる人がいらっしやると、良かったと思います。(精神)
- ヘルプマークをつけていて、同年代の子がヘルプマークについて関心を持ってくれたことです。「病気の子」と思われがちですが、「いろんな人がいる」というふうに受け取ってくれたのが、良かったと思いました。(児童)
- 障害に対して心を向けてくれる人は、許容してくれる心があり、ひと言ひと言が優しい。近所の方。(児童)
- 子育て経験のある女性など、理解があり優しくしてくれる方も多い。(児童)

5 配慮

- 見た目に健常者に見えるので一般対応されるが、障害があることで心配りされることもある。(視覚)
- 聞こえませんというバッチを自分で購入して付けていると、気づいた人がゆっくり大きな声で話しかけてくれた。1年ほど前から付けています。そのようなバッチを配布してもらえると助かります。(聴覚)
- 必要だと言えば筆談で対応してもらえる。(聴覚)
- 筆談に応じてくれる。(聴覚)
- 深く聞いてこないこと。(上肢)
- 最近は優しい人が多いので、気遣いがある。(下肢)
- 日常の行動範囲内において、何ら障害と無縁と思われる人たちがちょっとした気遣いにて、対応なり、フォローしてくれた時など本当にありがたく感じ得る。(下肢)

- 常に配慮していただいている。人対人なので、こちらもいい表情、態度だと対応は良いと感じる。 (下肢)
- どんな場面でも不自由者と知れば譲ってくれる、援助してくれる。 (体幹)
- 階段があれば手を差し伸べてくれる。重いものを持ってくれる。 (体幹)
- 杖をついていると、荷物やボストンバッグ等がぶつからないように持ちかえてくださったり、少々動作が遅くても、待ってくださいます（お礼は必ず言うようにしている）。 (内部)
- 今までも、本人を知ってもらった方（友人でも、近所の方でも）、外に出た時に、あいさつ（手を振ってもらったり、〇〇ちゃん！と声をかけてもらったり）、普通のことがうれしいことです。 (知的)
- 大体の方が、聞きづらい様子があれば確認してくれたり、再度息子にだけ説明してくれたりする。 (児童)
- 普通に接してもらえること。あいさつをしてもらえたり、話しかけたとき、返事してもらえたりすること。 (児童)
- 学校の先生や病院の方は普通の子と同じように接してくれる。 (児童)
- 仕事やPTA役員をしている時など、夜遅くに行う作業を配慮していただいた。胸が手術で突起しているが、ケガがないよう気をつけていただいていた。 (児童)
- 胃管を鼻から入れているが、病気があるとわかって、変わらない態度を取ってもらえている時。 (児童)
- わかりやすく説明してくれた。どんな時でも、自分の味方になってくれた。 (児童)
- 友達がゆっくり話してくれる。 (児童)

6 その他

- デイサービスに行った際に、周りの方（利用者）が場所を取ってくれたり、配慮してくれる。 (視覚)
- いろいろあるので書ききれません。 (視覚)
- 親切な人が増えたと思う。 (視覚)
- やさしい。 (聴覚)
- 接する相手によって異なる。 (聴覚)
- 福祉サークルで種々のサービスを受けているので大変ありがたいです。 (聴覚)
- 時と場合で良かったり悪かったりで、どういったら良いかわからない。 (言語)

- 施設の職員がやさしく対応してくれる。 (言語)
- みんな金沢の人は優しい。都会は冷たいイメージがある。 (上肢)
- 福祉サービスなどの利用。 (上肢)
- デイサービスのスタッフがトイレに行くときやトレーニングのとき、いつもシルバーカーを持ってついてきてくれる。 (上肢)
- 私は今デイサービスに通っています。皆とても親切に接してくださっています。週2回毎日感謝の日々です。 (上肢)
- 今年の8月15日、全国戦没者追悼式「日本武道館」に妻と参拝しました。石川県の団体で一泊二日の旅行でしたが、皆さんにとっても親切にいただき、安全に安心して無事に参加できました。 (上肢)
- デイサービスにて外出時には車いすを用意してくれるので助かりました。 (下肢)
- 家族や仕事場の皆さん、支えになってくれて、みんな優しいです。 (下肢)
- 住まいの管理、草むしり等。 (体幹)
- 介護の人や店員さんなど親切だけれど、日常親切な人もいれば、そうでない人もいる。 (体幹)
- ほとんど方から優しく扱っていただいている。その都度心から感謝を伝えるようにしている。 (内部)
- 親切な人が多い。 (内部)
- 明るく対応していただくことがある。 (内部)
- 具体的にはないが、配慮や気遣いは感じる。 (内部)
- 手帳の提示により、サービス（割引等）が受けられる機会が多い。 (内部)
- 障害者手帳を提示した時に、いやな対応を感じる事がなくなったと思っています。(内部)
- いろいろなところで無料や半額等のサービスがある。 (内部)
- 10年くらい前、警察の方に良くしてもらっている。 (内部)
- たくさんあります。その反対も。 (知的)
- 優しく気持ちを包んでくださいます。 (知的)
- 知的障害による、物事の理解が及ばず、失敗したり、理解しがたい行動に出ることが、これまでにも時々あるが、学校や、仕事させてもらっている場や、近所において、長い目で見てくれたり、何かそれをするには原因があったのだろう…など、考えてくれるようになっていく。長い時間、共に過ごしたからこそかと思う。 (知的)
- サービスを利用している時。 (知的)

- とにかくお金の管理が苦手なため、事業所の方でみてもらっています。親の言うことは聞かないので、親として助かっています。(知的)
- 通所先から帰ってきた時に、職員から好みの缶コーヒーやお菓子が食べられるようになっていくこと。(知的)
- 数年前、暴力事件に巻き込まれた時の西署・警察官の対応。大徳自動車学校で、免許が取れなかった時の対応。(知的)
- 家族や●●の人は優しいが、それ以外はない。(精神)
- 周りの人が優しくなったと思います。(精神)
- 時々、優しくしていただくことがある。(精神)
- 面接の時に、配慮すべきことはありますかと聞いてくれたこと。令和7年7月頃。(精神)
- 個人情報を守ってくれている。(精神)
- 様々なサービスに助かっている。(精神)
- 障害者に障害者福祉サービスがあることを感謝しています。(精神)
- 先生に不安なことを丁寧に親切に聞いてもらって、ありがたいです。昔来てくれていた訪問看護の人にも、親切にしてくれました。(精神)
- 視覚優位な環境がある時。(児童)
- 具体的に覚えてない。(児童)

Ⅱ 働 く

1 一般就労等

- 技術職で、生産設備の設計調整を行っているのですが、2年ほど前に視野に不安を覚えて現場が難しくなり、退職しようと思ったのですが、設計のデスクワークのみで、今後も働いてほしいと言われたこと。(視覚)
- 正社員で働けること。(視覚)
- 転職のとき、障害を理解してくれる企業に出会えた。(視覚)
- 障害者枠で入社し、入社した企業が障害者に理解があり、業務への配慮があること。(聴覚)
- 今の職場で難聴であることを理解して、僕に対応してくれている。老人が増えて難聴者も普通の人として対応してくれる社会になっているように感じられる。(聴覚)

- 現職は障害に対しての理解があり、社員全員に毎年多様性、ダイバーシティに関する研修を実施するほどで、配慮もかなり多い。特に電話対応が難しいことへの理解をしてくださっていることがとても良いと感じている。補聴器と固定電話（古いタイプ）が近いとハウリングが発生し、聞き取りづらくなるなどの問題が起きる。スマートフォンではあまりないが、騒音が大きい場所は聞こえづらくなるので、相手方にも場合によりテキストで連絡してもらいなどお願いすることがある。 (聴覚)
- 職場では電話対応の免除はしてもらっている。 (聴覚)
- 仕事をしているとき、耳が聞こえないので、ボードやメモ用紙に書いてもらえた。 (聴覚)
- 最近職場で、こちらが理解できないと判断されたとき、筆談してくれること。 (聴覚)
- 職場では筆記やゆっくり話してくれるのでありがたい。 (聴覚)
- 毎回職場では、マスクを外して会話をしてもらえるので助かります。 (聴覚)
- 定年後再雇用の際、障害者枠があり就業できたこと。 (聴覚)
- ハローワークで障害者雇用というものを知って応募したところ、ありがたいことに採用してもらい、現在働いています。障害に対して配慮していただけるのでとても助かっています。 (上肢)
- 仕事をしていて、常に周りの人の配慮に感謝している。 (上肢)
- 仕事復帰したとき、「何ができて、何ができないの？」と聞かれた。できないことを否定されずに受け入れてくれたときほっとした。 (上肢)
- 職場での理解が深い。 (上肢)
- 会社の上司は優しい。 (体幹)
- 就職での間口が広がった。 (内部)
- 就労に関しては障害者手帳を交付されていると就労の幅が広がる。 (内部)
- 障害者雇用求人で採用され、職場の皆さんが障害について理解し、仕事をやりやすいように配慮してくださっていること。 (内部)
- 職場では理解してもらっている。 (内部)
- 就労にあたり、現在の職場ではないが、前の職場で「無理をしないでください」と常に体調を気づかせてくれた上司がいた。 (内部)
- 仕事先の人たちから身体的な配慮をもらい、肉体的に負担のかからない作業を指示されている。 (内部)
- 障害が発覚した9年くらい前から、あまり負担のかからない部署へ異動してくれた。 (内部)
- 会社で年1度ヒアリングがある。 (内部)

- フレックスタイムの活用。 (内部)
- 職場で、病気休暇制度があったほか、再任用期間の延長に応じてくれた（結局は復帰できなかった）。休職制度を適用してくれた。 (内部)
- 通院で休まなければいけない時は、休ませてもらえたこと。 (内部)
- 通院は必ず必要なので、仕事についての配慮はしてくれている。 (内部)
- 日頃、会社の理解がある。 (知的)
- 仕事の時、周りの人が気にかけてくれる。 (知的)
- 仕事の中で、何ができそうかを考えてくださっていること、職場（担当）―総務―家族との連携が取れている所は、ありがたいです。 (知的)
- 仕事を続けられていること。社会に出て、会社の皆さんの理解だと思えます。皆さんが優しい方だと感じます。 (知的)
- 会社の人優しい。 (知的)
- 障害者も給金がもらえたこと。能力に応じて対応してもらえること。 (知的)
- 現在、働けていること。 (精神)
- 障害者雇用で働けていること。 (精神)
- 仕事がしやすい（2年前から）。 (精神)
- 今年、仕事のことをわかりやすく教えてもらった。会社に病気のことを話したら、受け入れてくれて、相談に乗ってくれた。一般の会社だったので、うれしかった。 (精神)
- 仕事で周囲の方に相談できていると感じた（困ったり、迷ったりしたら）。 (精神)
- 勤務地を通勤しやすい場所にしてもらえました。 (精神)

2 福祉的就労

- 2年前に耳が全く聞こえなくなり、どこも就職口がなく、就労継続支援A型事業所にお世話になり、仕事やコミュニケーションに筆談や翻訳ソフトで対応していただき感謝しております。今年6月に人工内耳の手術を受け、就職活動ができるまで支援していただきました。 (聴覚)
- 今のB型は歩くのが遅いことを責め立てないし、「ゆっくりでよいですよ」と言ってくださるのでありがたいです。 (下肢)
- 作業所の支援員が、自分のことをよくわかってくれて、サポートしてくれる。 (知的)
- 今の仕事場は、とても心づかいがあります。●●のおかげです。 (知的)

- 就労継続支援（A型）事業所があつて、お世話になれたことが良かった。（知的）
- A型就労による日々の生活にて。（精神）
- 就労継続支援A型（今の職場）で働いていて、できることが増えて、自信が持てるようになった。向き不向きを相談して、不安を解消しやすい。それぞれの作業方法を尊重してくれる。（精神）
- 精神障害があつても、職場のスタッフの方々がサポートしてくれて、こんな私でも就労継続支援A型作業所で働くことができ、良かったです。日常生活の相談も乗ってくれて、本当に感謝しています。（精神）
- 就労継続支援B型でのスタッフの対応全体。（精神）
- B型作業所に通っていた時に1時間ごとに10分の休憩があつたり水分補給を促されたりとても助かった。（精神）
- B型の支援員さんで、病気に興味を持って、精神障害者のそれぞれの病気や特徴のパンフレットなどを見てくれた時。ひとくくりで精神障害者と見られることが多いので。（精神）
- 発達障害に伴う感覚過敏の視覚過敏や聴覚過敏を持っているのですが、作業所で電気を少し消して暗くしてくださって、配慮してくれたこと。（精神）

Ⅲ 得 る

- 障害年金を受けられたこと。病院から「もう治らない」と言われている。（精神）

Ⅳ 豊かに育つ

- 学校のバスに乗り降りにたくさんの人に助けってもらえる。学校の先生の丁寧なご指導、放課後デイサービスさんの送迎や本人にあつた優しい支援、児童発達支援員さんの支援資料作成、病院の主治医の先生方からの治療の支えがあります。たくさんの方々にいつも感謝しております。（児童）
- 学校、デイサービス、支援センターの方々にかわいがっていただき、笑顔で生活できています。（児童）

- 小中学校の先生方が親切なこと。放課後等デイサービスに個別支援があるので、通えている。
不登校だと、ほぼ自宅で親子で過ごすので、デイサービスがあつて助かった。 (児童)
- 障害があつても特別支援学校や放課後デイサービスに通えることはありがたい。と思う反面、そこへ行かざるを得なかった状況もあるので、支援学校やデイサービスの方々はもちろん理解や心遣いはあるが、世間一般がそうかと言われるとわからない。 (児童)
- 放課後デイのスタッフの方が、本当に優しくしてくれる。 (児童)
- 今、行っている学童の先生。 (児童)

V 学 ぶ

1 保育所・幼稚園・こども園

- 保育園は、普通の子どもと同じ所に通っていて、先生にはとても良くしてもらいました。同じクラスで、優しくしてくれる子もいました。 (知的)
- 現在通う野町保育園で。加配の職員の勤務にかかわらず、早朝・延長土曜日を希望した際に、柔軟に対応してもらえる。裸足保育・指定靴のある園だが、インソールや靴を希望すると、了解してくれる。保育所等訪問事業に、積極的に受け入れてくれる。 (精神)
- 幼稚園に子どもを送る時、連絡（アプリ）しておけば、遅刻していても、怒られない。 (精神)
- 保育園での対応。 (児童)
- 保育園で、他の園児が優しくしてくれる話を聞くと、素敵だなと思う。 (児童)
- 保育園の加配制度、児童発達支援には、いつも助けられる。園では、加配の先生以外で発達障害に詳しい先生や、詳しくなくても勉強してくださる先生もいて、園全体が子どもの成長を見守っているような雰囲気があり、うれしい。子どもの特性を理解し、イベントごとへの負担やストレスに感じそうなこと、困難なことには、あらかじめどう対応するかを考えてくださり、必ず私へ連絡くださる。他の園児とコミュニケーションが取れない子どもですが、先生たちの子どもへの対応、接し方のおかげもあり、他の園児が子どものことを優しく見守ってくれたり、手助けしてくれたり、一人の人間として見てくれているので、それがとてもうれしいし、ありがたい。 (児童)
- 今年の4月から、幼稚園に入園。姉たちも通っていたので、つながりもあるのも事実ですが、

- 先生たちは皆優しいし、とても理解してくれています。周りの保護者の方にも、恵まれているなど感じます。「みんないっしょ」が常を感じることができ、うれしいです。 (児童)
- みどりかわい幼稚園で、園外活動(イベント)で親が参加できなくても、子どもの成長のためにぜひ参加してほしいと、子どもの面倒を先生方で見てくださって、子どものためにいろいろ考えてくれていた。 (児童)
- 今のこども園に通っていますが、発達障害であることの相談がきっかけではないが、担任が変わっても話かけに来てくれたり、積極的に関わりに来てくれる先生がいます。言葉も増えましたねと声かけいただいたり、背もおっきくなったことも褒めていただいたり、気にかけてくださって、ありがたく私もいつも感謝しています。 (児童)
- 現在通っている園では、普段から娘に合わせて対応していただいている。身体が小さいので、制服や上履き、体操着などサイズがなかった時、園指定の物を購入勧めるのではなく、普段使用している物で対応していただいたり、園の物を貸していただいた。食事も行事も、娘に合わせて対応してくださった。 (児童)
- 去年、年長の時に、多くの同じクラスのお子様の理解のもと、生活を送ることができました。表現会、運動会など足並みが揃えられない本人への対応が保護者の方ともども温かかったです。 (児童)

2 学校・教育

- 大学での資料等を拡大印刷してもらえた。 (視覚)
- 高校の先生方は授業やテストにおいて、聞こえに対する配慮を手厚くしてくださった。 (聴覚)
- 子どもの学校行事等へ参加するときの情報保障へ学校側からの配慮が進んだと感じる。市の障害への理解度も進んでいる。 (聴覚)
- 今、●●大学に行っています。失語症でうまく会話をすることができませんが、皆さんやさしく接してくださいます。 (言語)
- 学校等もエレベーターの設置が増えてきたので、上部階へ行くのも簡単になってきた。子に障害がなくても、親が障害者の場合もあるから。 (体幹)
- 中・高校生になると、皆が授業などで障害について学ぶ場があり、理解してもらおうことが多くなった(皆が優しくなったように感じた)。 (内部)
- 友人がいろいろ手助けしてくれる。大学において、講義室の席の配慮。 (内部)

- 就学時、公立小学校の校長、担任の先生より、「よければご自身の口で、クラスメイトや保護者の皆さんに、この子の障害についてお話ししてみませんか」とお声かけをいただいた。お言葉に甘え、入学式の日ホームルームで、障害名やその特性について説明した。その後の小学校生活を送る上で、大いに意義があった。多くの健常者は、「障害について知識がない」「どの程度関わって良いのかが判断できない」ということが多いので、こちらから発信したり、“何でも聞いてください”というアプローチも大切と感じた。 (知的)
- 小・中・高、先生が優しくしてくれた。 (知的)
- 外国に住んでいた方のワークショップに参加した。合理的配慮を求めたら、すぐに対応してくれたこと。私立の高校では、合理的配慮（テスト用紙の拡大等）をすぐにやってくれた。 (精神)
- 入院を繰り返していた時に、大学や先生が配慮してくれた。試験が受けられなかった時に、追試やレポートで対応してくれたり、出欠についても配慮してくれて、ほとんどの先生は優しかった。 (精神)
- 学校やデイサービスの方が、話を聞いて、寄り添ってくれる。 (児童)
- 学校。 (児童)
- 居住地の小学校の同じ学年の子どもたちと一緒に授業を受けられたこと（2025年9月）。 (児童)
- 学校が手厚い。 (児童)
- 学校生活での周囲の配慮や理解を得られたこと。 (児童)
- 先生等が受け入れてくれているので、理解してもらえているんじゃないかと思います。 (児童)
- 学校で先生方が自分が活動しやすいように考えてくれる。 (児童)
- 支援学校の先生方の対応（フォロー）。 (児童)
- 特別支援教育に従事している方々には、いつも助けていただいて、感謝の気持ちでいっぱいです。 (児童)
- 小学校にて、とても理解していただき、本人が楽しく通うことができ、学習も意欲的に取り組むようになりました。また、支援員さんと行く交流学級も、しっかりと受け入れてくださり、とても感謝しております。支援学級の先生にも、とても良くしていただいており、手厚い支援に感謝しております。 (児童)
- 学校の先生やクラスメイトが優しいなどです。 (児童)
- 学校でいつも友達が助けてくれる。 (児童)

- 学校で、先生がいない時に、お友達が車いすを押してくれたこと。 (児童)
- 学校で支援級のお友達とのトラブルがあり、行けなくなって、通学級で配慮して過ごしている。お友達も先生も優しい。 (児童)
- アレルギーでアイスが食べれないと自主プラン中に同班の子に言ったら謝ってくれたり、いろいろな先生が席替えの時、自分の片耳難聴を配慮してくれたりしたから。 (児童)
- 友人が支えてくれている（教師も）。手術で入院中、修学旅行の班など、一緒にしてくれました。学校の先生も、とても良くしてくれます。 (児童)
- 学校のプール授業での筆談。 (児童)
- マラソン大会ゴール担当だった。保護者が多すぎて、パニックになり、やりたかったのにやれなくて、悔しくて無理になった時に、理解してもらえた。 (児童)

VI 遊 ぶ

- 金沢マラソン（日常かわからないけど）は、配慮されていると思う。 (内部)
- オリンピックなどに、各種の参加が極めて多くなっている。ex. テニス、グランドボール、サッカー、デフリンピック等々。 (内部)
- 障害者のスポーツの団体に入り（スペシャルオリンピックス）、運動できること。 (知的)
- 2025年8月、好きな歌手のコンサートへ行った時、開演前で、たくさんの人が休憩所で待っていて、座る席がなく立っていたら、ヘルプマークをつけている自分に気づいた人から、席を譲ってもらえたこと。普段の生活で、声をかけてもらえたり、席を譲ってもらえたことがなかったので、とてもうれしかった。 (精神)

VII つきあう

1 地域活動・人づきあい

- 町の人（近所の人）が毎月一緒に町内掃除してくれること。 (聴覚)
- ご近所さんがやさしい。 (聴覚)

- 同じ障害がある者同士がいるところで、気持ちを同じくすることで心が安らぐ。 (聴覚)
- 近所の方の助け。 (下肢)
- 自治会の人たちに理解、配慮をしてもらっています。 (体幹)
- 町内会の方がいつも声をかけてくれる。 (体幹)
- 町会行事の運動会参加が免除されたこと。 (内部)
- 2025年9月以降、所属する町会（横川新町会）で、障害者向け緊急避難所として、ラウン
ドワンカラオケルームが設定されたこと。 (知的)
- ご近所の方が、障害者の息子に優しく話しかけていただいています。 (知的)
- 近所の方が、本人にいつてらっしゃい等の声かけをしてくださることは、うれしいと感じま
す。 (知的)
- 近所の人たちは、放っておいてくれて、気が楽（見て見ぬふりをしてくれる）。 (知的)

2 コミュニケーション

- 「聞こえない」と伝えると、すぐスマホの音声文字変換アプリで文字化して情報を伝えよう
としてくれたり、今の若い世代の方が柔軟に対応してくれる。様々な機関の窓口で筆談対応
などがスタンダードになってきた。ヘルプカードなどがまちなかで普通に見られるようにな
り、認知が進んだと感じる。 (聴覚)
- サービスカウンターや窓口での筆談等、企業によるが臨機応変に対応してくれる。 (聴覚)
- ほとんどの接客で筆談対応してくれる。 (聴覚)
- UDトークなど、声認識アプリを利用。 (聴覚)
- 周りがアプリを使うのに理解がある。 (聴覚)
- 店や公共の場で、最初から筆談や手話で対応してもらえるととてもうれしいです、障害への
理解や配慮を感じられて安心してやり取りできます。 (聴覚)
- 病院、店等で手話を使い話してもらえたとき、少しでも安心して安心します。 (聴覚)
- 補聴器をつけていても聞きづらい人がいます。筆談をしてくれて助かります。 (聴覚)
- 補聴器をしていてよかったと思います。 (聴覚)
- 補聴器とブルートゥースの多様性。 (聴覚)
- 話し相手。 (下肢)
- 周囲の方の理解もあり、コミュニケーションを取ってもらっている。 (知的)
- にこにこ笑って話に付き合ってもらう。 (知的)
- 他人と必要のないコミュニケーションを取らなくても良いこと。 (精神)

VIII 出かける

1 交通機関・交通施設

- バスのバリアフリー化が進んできている。(視覚)
- 金沢ふらっとバスは段差がなくて良かった。(視覚)
- J R西日本、J R東日本の職員皆様の理解や配慮がありがたい(利用時10~15年間)。近鉄
タクシー運転手さんも同様。(視覚)
- 公共交通機関の人は丁寧で優しい。(視覚)
- バスの中で席を譲ってもらった。タクシー乗り場を探しているときに、声をかけてくださり、
手引きで乗り場まで連れて行ってくださった。(視覚)
- バスや乗り物の料金の割引制度。(視覚)
- バス代の割引。(視覚)
- バス代、タクシー料金の割引がよい。(視覚)
- ヘルプマークに気づいた人がバスなどで席を譲ってくれた。(視覚)
- ヘルプマークをつけていたら、バスで席を譲ってくれた。(視覚)
- ヘルプマークを付けていると、電車、バスで席を譲ってくれる。また、シルバーシートに座
りやすくなった。(視覚)
- 白杖を持ってバスに乗車時、席を譲ってもらえた。(視覚)
- 電車、バスで座席を譲ってもらった。道案内をしてもらった。(視覚)
- 新幹線等(J R)、次は〇〇駅、どちらかの扉が開くなど流れてくれるので助かります。バ
ス、乗降口が傾けていたり、手すりがあるので助かります。そのバスを増やしてほしい。
(聴覚)
- 障害者割引の適用(J R、施設など)。(聴覚)
- 今年、いつも利用している北鉄バスに乗車しようとしたら、バス定期が期限切れになってい
て、運転手さんに止められたが、お金を持っていなかったので困ったところ、年配の男の人が
お金を出してきてバスに乗ることができた。(聴覚)
- 本年度秋頃(9月頃)、金沢駅のみどりの窓口に音声認識文字表示器があったこと。(聴覚)
- 他県に行ったとき、駅員さんで聴覚障害者に対応できる名札を付けた駅員さんがおられて、
わかりやすく対応してくれたこと。もっと増えてほしい。病院とかにて聴覚対応できる介助
の人がいてほしい。(聴覚)

第2部 障害のある人

- バスから降りるとき、障害者手帳を見せたからなのか、運転手さんが「お気をつけて」と言ってくださって、扉もバスから離れてから、ゆっくりと閉めてくださいました。うれしかったです。(上肢)
- バスの利用が多く、赤い白十字の札をつけているため、座席を譲ってくれる。障害者利用の料金が半額になり行動しやすい。(上肢)
- バスの運転手を呼んで、スロープを出してくれた。イスをどかしてくれた。商品を持ってきてくれた。容器を持ちやすいのにするか聞いてくれた。映画館の坂道で押してくれた。(上肢)
- バス、歩行中に配慮してもらえる。(上肢)
- 通勤時、席を譲っていただけること。(上肢)
- 都市部で電車に乗るとき、係員がよい対応をしてくれた。(上肢)
- 旅行での駅員の対応。(上肢)
- 学校の先生や地域の人々の中にも理解ある人はいると思いますが、飛行機の搭乗や中でのサービスの質が高く教育されているなど感じた。一般人にも教育が大切だと思う。(上肢)
- 空港の事前改札。(上肢)
- ハートマークで、バスなどが優しく配慮していただける、感謝しています。(下肢)
- バスなどで基本的に優先席でも譲ってくれることはないのですが、率先して席を譲ってくださる方が少しずつ増えてきています。(下肢)
- バスで席を譲ってもらえた。(下肢)
- バスに乗車したときに、特に男子学生が席を譲ってくれた。(下肢)
- 電車やバスに乗ったとき、若い人たちが進んで席を譲ってくるときはありがたいとうれしくなります。(下肢)
- ごくまれにバスの中で席を譲ってくれる。(下肢)
- バスに乗車した際、席を譲っていただけたり、乗車や降車の際に「ゆっくりでいいですよ」と声をかけてもらえたとき。(下肢)
- 今年の夏、満員電車の中で、優先シートが空いていた、助かりました。(下肢)
- 乗り物等、即席を譲ってくださる。(下肢)
- J R割引。(下肢)
- バスの割引、高速道路の割引。(下肢)
- J Rに乗り降りする際、駅員さんが常に車いすで移動を助けてくれたこと(令和6年1月)。(体幹)

- タクシーの運転手さんやJRの職員さんは非常に親切丁寧に対応して下さる。 (体幹)
- タクシーの運転者の乗降の際の介助。 (体幹)
- 病院の通院に使う介護タクシーの運転手さんが、冷たい風を避けて乗降してくれた。(体幹)
- 通院とき、タクシーの乗務員さんが病院の玄関まで車いすを押してくれる人が多くなった、
助かります。 (体幹)
- 駅から電車に乗る際のサービス。 (体幹)
- 公共交通機関の方々。 (内部)
- ヘルプマークのおかげで公共機関で優しくされた。 (内部)
- ヘルプマークをかばんに付けて行動している時、電車内で席を譲ってくれる方がいました。
(内部)
- ヘルプマークをつけているが、バスで席を譲られたことがある。半年4回程度。 (内部)
- ヘルプマークをつけていることによって、配慮してもらえることが増えた。座席、案内など。
(内部)
- 電車、バス等では、ヘルプマークを付けているので、混雑していても、席を譲って下さる。
(内部)
- 電車、バスで席を譲ってくれたこと。 (内部)
- タクシー乗車時、荷物を〇〇まで運んでくれた。テレビでマークのことを知ったとのこと。
(内部)
- タクシーの割引、駐車。 (内部)
- 公共施設や交通機関の割引等。 (内部)
- 交通費が安くなる。 (内部)
- いやな思いもしたが、それ以上にあたたかい交流もいっぱいあります。北鉄バスの運転手さん
と親しくなって、あたたかい声かけもいっぱいもらっています。4～5年前、その頃の運
転手さん何人も。「たかがバス運転手、されど運転手さん」と思っています。他の乗客には
厳しくても、息子には本当に優しくしてくれた運転手さん、2～3年前に異動されたようで、
もう会えません。車内アナウンスで、「座席をお譲りください」と呼びかけてくれたことも。
(知的)
- バスの運転手さんが優しい。 (知的)
- バスで席を譲ってくれる方がいる。 (知的)
- ヘルプカードを持っていて、自分から言わなくても、バスの優先席を譲ってもらえた時等(知
らない人に声をかけられないから)。 (知的)

- 障害者割引でバスに安く乗ったり、施設の入場料が半額になること。 (知的)
- ヘルプマークで席を譲ってもらうことがある。 (精神)
- ヘルプマークをつけていて、公共交通機関で座席を譲ってもらったことがある。 (精神)
- ヘルプマークをつけていたら、気づいた紳士の方に席を譲っていただけました。中には、理解ある方がいらっしゃるんだなと気づきました。 (精神)
- バスが半額で利用できる。 (精神)
- タクシーの初乗り乗車券など、福祉的なこと。 (精神)
- タクシーのサービスは良い。 (精神)
- 割引制度があること。障害者を持つ家庭は、収入源が少ないケースがあるし、思いがけない出費もある。反面、外に出して楽しさを与えたいという思いがある。その時、割引制度が利用できると、ありがたいと思う。 (精神)
- 交通機関の半額化がとてもいい！北陸鉄道バスや、I R鉄道の半額があります。精神障害者3級ですが、もっといろいろな交通機関を半額化してほしい。※自家用自動車がないため！ (精神)
- 交通費や施設入場の時、手帳を提示したら、無料、割引になること。 (精神)
- 席を譲ってくれた。ベビーカーを引っ張ってくれた。笑顔で対応してくれた。 (児童)

2 駐車場

- 営業所にて、障害者の優先駐車場を設置いただいたこと。 (上肢)
- 障害者パーキング、電車の割引。 (上肢)
- 障害者駐車場の設置されている(4件) (下肢)
- 車の乗り降りの際、時間がかかるので、雨の日は濡れてしまうのですが、屋根付きの駐車場へ止めさせていただきました。(7年前) (下肢)
- 14年前頃、住宅改装に手すり、段差解消のために補助金を少し使った。2020年、いしかわ支え合い駐車場利用証、病院に10時過ぎに行くと遠い所へ行かされていたが、近くに誘導してもらえた。 (体幹)
- パーキング優先など。 (体幹)
- の専用駐車場で登録できたことで、食事や買い物等(車いす移動)で楽しむことができました。 (体幹)
- 駐車場が止めやすい。 (内部)

- 現在、ペースメーカー挿入中。心房細動もあり、体調の良くない時もある。買い物へ行った時に、たすけあい駐車場に止めることができるのは、ありがたいです。(内部)
- 駐車場の交付(いしかわ支え合い駐車場利用証)があるおかげで、スーパーなどの駐車場近くに止められる。(内部)
- 駐車場で、車いすに移乗する時に、近くにいた方から「手伝えることはありますか」と声をかけていただいたこと。(児童)

3 公共的施設等

- ヘルプマークをバッグに付けていると、エレベーターなどで先を譲ってもらえることが多く、ありがたいと感じる。(聴覚)
- 美術館等で、優先的に入場させてもらえたことがある。(上肢)
- トイレ、駐車場。(上肢)
- トイレ(2件)(下肢)
- お手洗いがほぼ洋式になっている。(下肢)
- 車いす利用者にて、エレベーター利用時など気遣ってくれる方がいてありがたい。(下肢)
- エレベーターの移動で出入口から入りやすいように周りの方が対応してくださったこと。(下肢)
- エレベーター等では延長ボタンを押してくださったり扉を開けて待っていてくださったり大変ありがたいです。(下肢)
- 周りの方々と同じ速さで歩けないため、エレベーターで長い間待ってもらったことがあります。(下肢)
- 公共施設の手すり、スロープ、エレベーターの設置など、外出して移動する場合はかなり良くなっていると思います。席を譲ってくれることもよくありますので、理解は進んでいると思います。(下肢)
- エレベーターに乗り降りする時、ドアの開閉時、見届けてもらえる。(体幹)
- エレベーターやスーパーの狭い通路での「お先にどうぞ」。(体幹)
- バリアフリーの施設等。(内部)
- 障害者トイレが前より増えた。(内部)
- 障害者割引で美術館に入る際に、丁寧に対応してもらえる。付き添いの人も介助割引してもらえる。(内部)

- トイレが我慢できない時、順番を代わってくれた（出先で）。 (知的)
- 松本城見学の際、急な階段の昇り降りの時は、上下階で連絡し合っていていただき、ゆっくりと歩けるように、他の人の制限をかけていただいた。 (知的)
- 美術館（県立など）が無料で見られること。 (精神)
- 美術館や交通の割引はありがたい。 (児童)
- スロープのある入り口が増えて、助かっている。 (児童)

4 道路・歩道

- 通勤中、工事中などで通りづらく道に迷っているときに、通りがかりの方が誘導してくれた。 (視覚)
- 道の誘導、店内の案内。 (視覚)
- 横断歩道で止まってくれる。 (上肢)
- 道路に注意を促す表示があったり、至る所に手すりが設置してある。 (内部)

5 白杖・車いす等

- 間違っ て車道や交差点に出たとき、白杖のおかげで歩道へ上げてもらったことが何回もあった。 (視覚)
- 白杖を持って外出した時、視覚障がいがあることをわかって、配慮していただいた時があった。 (視覚)
- 白杖を持っていると優しく接してくれる。 (視覚)
- 点字ブロックの敷設が増えた。 (視覚)
- NPO法人●●に出会えたことで、足こぎ車いすCOGYを知ることができ、イベントなどにも関わることができるようになった。(竹灯籠祭りなど) (上肢)
- デパートにある車いす。 (上肢)
- いろいろなところに車いすを用意されているのでありがたいです。 (下肢)
- ドアの開閉、車いすを押してもらおう。 (下肢)
- 車いすに乗っているとドアの開閉を手伝ってくださる方が多い。 (下肢)
- 杖を突いて買物をしていたら、「駐車場の所まで荷物を持って行くよ」と知らない方が運んでくれました。 (下肢)

- 車いすに乗っていると、譲ってくださったり、助けてくださることが多いです。 (体幹)
- 車いすのまま道路で横に転んだとき、起こして親切にしてくれました。 (体幹)
- 椅子の幅が狭い受付の順番待ちで、待っている女性に「私の前に入ったらいよいよ」と声をかけられた。駅(大阪)のスロープのない階段で立ち往生。手押し車を持って運んでくれる若い女性がいた。 (体幹)
- 散歩途中で気軽に声をかけてくれた。四十万谷さんに入ったとき、変わらずに接してくれる。車いすを押すのを手伝ってくれる。 (体幹)
- 歩行器を利用して、森本駅から乗ろうとしたら、車内が混みあっていたが、高校生の女の子が席を譲ってくれた。距離の長い横断歩道を渡ろうとしたら、途中時間がかかり、信号機が点滅しだした。その時、数人の若い人が、交通整理と歩行器の私を安全にエスコートしてくれた。 (内部)
- 車いすで通行中、道をあけてくれる。 (知的)
- 車いすを利用しているので、店のドアの開け閉めを近くの人が手伝ってくれるなど。(知的)
- 車いす移動の時など、道をあけてもらったりした。 (児童)
- 車いすでの外出時、段差などで困っていると、たいてい誰か助けてくれる。 (児童)

6 買い物等

- ショッピングモールへ行き、身体障害者用のトイレへ入ったとき、音声でトイレ内のレイアウトを教えてもらったこと。 (視覚)
- スーパーでレジの袋入れをしてくれる。 (視覚)
- 近くのスーパーの人が物を配達してくれる。 (視覚)
- 気配りをして下さる店員さんがいる。 (視覚)
- 白杖を持って買い物していると、店員さんが気配りをしてくれます。外食のときも配慮してもらえます。 (視覚)
- 買い物のとき、みんな優しく対応してくれる。 (視覚)
- 民間の施設の中での誘導や配慮。 (視覚)
- お店などどこに行っても「ありがとう」と手話をしてれる人が増えていること。 (聴覚)
- 「ありがとう」と銀行やレンタカーの窓口の人が手話を使って話してくれてうれしかったです。簡単な手話を使ってくれととてもうれしいです。 (聴覚)

- 店にありがとうのみ手話を使うことが多いが、ほぼUDトークや筆談に対応している。(聴覚)
- お店、病院、美容院で、難聴であると伝えると筆談に応じてくれる。(聴覚)
- 銀行や病院などでは聴覚障害があるとわかると積極的に筆談してくれるようになった。筆談を嫌がる人が少なくなった。(聴覚)
- コンビニのレジが自動になったので、聞こえなくてもわかりやすくなった。(聴覚)
- アルビスなどのスーパーやコンビニのローソンで耳の聞こえない人のマークがあり、それを指さすとパネルで「袋はいりますか？お会計は厳禁ですか？」など店員の方がわかりやすくコミュニケーションが取れるようにと考えてくださっていることがありがたいです。病気で話せなくなった方でも、この方法でコミュニケーションが取れるので、本当にありがたい仕組みをつくっていただいたなと思います。(聴覚)
- 銀行の窓口には耳マークのカードが置いてあると安心する。この頃はスーパーのレジでも耳の聞こえにくい方用のカードが設置されているところもあり、実際使わないが、その配慮はうれしいと感じます。(聴覚)
- 食店へ行くとき、レジで筆談してくれる店員が増えたと感じた。(聴覚)
- 電気屋で説明がわからないとき、音声文字変換アプリをすぐ用意してくれてわかりやすかったです。(聴覚)
- コンビニの扉の開け閉めをしてくださる方が多くなったと感じる。(上肢)
- ヘルプマークをつけて買い物（10kgの米袋）をしようとしたが、片腕が使えないことを伝えると店員さんが運んでくれた。(上肢)
- 店員さんがヘルプマークを付けていると親切にしてもらえた。（重い荷物を運ぶ）(上肢)
- 飲食店などで店員さんがフォローしてくれることが多くなった。(上肢)
- スーパーで買物は車いすを利用しているのですが、高い棚にある品物を周りの人がよく取ってくれます。(下肢)
- スーパーマーケットやドラッグストアで、よかったら袋におつめしますよってもらえる。3、4年くらい前からだと思う。(下肢)
- 買い物をしているとき、店員さんがさりげなく手を差し伸べてくださった。(下肢)
- 買い物などで、重いマイバッグを車まで持ってもらったこと、多数あります。ありがたいことです。(下肢)
- ほぼ飲食店には入れたら断られない。(下肢)
- 飲食店で座りやすい席、近い席に案内してくれた。(下肢)

- 以前より気にかけてくれる人が多くなった気がする。(特に商業施設) (下肢)
- 散髪屋で車いすでも快く迎えてくれたこと(今年10月)。 (体幹)
- 買い物へ行ったとき、ヘルパーさんにではなく、私に対して金額を言ったり、クーポンはお持ちですか?と声かけされるようになった。 (体幹)
- 2年位前から週1回ペースでコンビニを利用しているが店員さんに理解がある。 (知的)
- スーパーなどで、知らない方から声をかけていただいたことがある。 (知的)
- 床屋さんが、障害に対する理解があり、散髪を理容師にしてもらえる。 (知的)
- 買い物をしていた時に、レジの店員さんが気をきかせて、ショッピングバッグに商品を入れてくれた。 (精神)
- スーパーやドラッグストアの店員さんに顔を覚えてもらい、優しく接してもらえる。(児童)
- スタバの店員さんが、普通に対応してくれたのがうれしかった。 (児童)
- レジで少し時間がかかっても、優しく待っていてくれることが多い。 (児童)
- 小学生の時、スーパーのセルフレジをやりがり、時間がかかってしまうので、やめさせようとしたところ、店員さんが「大丈夫だから、やっていいよ」と子どもに言ってくれた。そのおかげで、今はスムーズにセルフレジができるようになった。見守っていただいたなど感じています。 (児童)

7 その他

- 北鉄バス、JR等運賃。美術展や公共施設の入館料。ぴあけポートで、AI、ITサポートを受けられたこと(サピエ図書館等)、音声読み上げアプリ。 (視覚)
- 道行く人に歩行の手助けをしてもらえた。建物からタクシー乗場まで案内、段差を教えてくださいなど。買い物中、商品探しを手伝ってもらえた。 (視覚)
- 外出支援が使えること。 (視覚)
- 外出支援、ホームヘルパーが入ってくれて助かっています。 (視覚)
- セニアカーに乗ること、試乗できた。 (聴覚)
- 障害者のために行政が配布してくださっているヘルプマークのタグがすごくありがたい。ご存じの方もいらっしゃるのですが、席を譲ってくださる方や買い物の際、レジの方で袋に入れてくださる店員さんもいたのでうれしかったです。 (上肢)
- 障害者手帳の支援のおかげで運賃や入場料の割引が受けられた。障害があると外出が億劫になるが、そういった制度があると外出する気になれてうれしかった。 (上肢)

- 大阪万博で入場やパビリオンの並びなど障害者に優しかった。 (上肢)
- 外出したとき、知らない人でも気を遣ってくれてありがたいです。 (下肢)
- 外出時に扉を開けてくれる方や、転倒時に手を差し伸べてくれる親切な方(特に若い女の人)がいてくれて助かっています。 (下肢)
- 階段が苦手なため、エスカレーター、エレベーターがあれば便利。 (下肢)
- 旅館エレベーター内にイスがあったこと。 (下肢)
- リフトが設置されているお風呂。 (下肢)
- 万博での障害者ファストパス制度。日本館になかったことが国の理解の遅れを感じた。 (下肢)
- 雪が積もっているとき、どうしても外出せねばならず、横断歩道を歩いているときに手を貸してくれ、一緒に歩いてくれる方がいた。本当に助かってうれしかった。 (下肢)
- 自動車購入時の減免制度。 (下肢)
- 車を買うときに消費税がかからない。 (下肢)
- 外出時に何度か助けていただいたことがある。 (体幹)
- 旅館の仲居さんが、それとなく、手厚いサポートをしてくれた。やりすぎ気味な人もいるが、この仲居さんは、それとないのがうれしかった。 (知的)
- 気分転換に連れ出してくれる人がいること。 (精神)
- 映画を見る時、手帳で割引があると教えてもらった。 (精神)
- 障害者割引が使えること。 (精神)
- 優しい言葉かけや、道を譲ってくださる方がいる。旅行に行った時は、駅員さんたちがサポートしてくださり、とても助けていただきました。 (児童)
- 今年の夏、大阪万博に行った時に有線レーンで案内してもらえました。他にもいろいろな施設で割引してもらえるのでありがたいです。 (児童)
- 商業施設が独自に取り組んでいる、優先エレベーター。テーマパークの優先サービス。 (児童)
- 療育手帳取得後、小松市のカブッキーランドに遊びに行った際、受付で手帳を見せると割引になり、後で優しく声をかけてくださり、人が多いトランポリンが空いたときも教えてくれて、上手にできなくても注意することなく見守ってくださった。 (児童)
- に行った時に、アトラクションの待ち時間なく入れるパスがあった。待つことが難しいので大変ありがたかった。 (児童)

IX すこやかに暮らす

- 医療機関の対応。 (視覚)
- 日頃通院している医院の方々の対応が親切でありがたい。 (視覚)
- 通院の援助を受けている。 (視覚)
- 医療費の負担がないので助かっています。 (聴覚)
- 医療の補助はありがたいです。 (聴覚)
- 接骨院の先生方に助けられています。嫌なことがあっても、その方々に話をして仲介されます。 (聴覚)
- 病院で先生がパソコンで文字を打って画面で説明してくれた。 (聴覚)
- 病院受診時、医師が筆談を添えて説明してくれる。 (聴覚)
- 病院とかの先生の説明、筆談してくれたり。理解があるところは親切です。 (聴覚)
- 病院へ診察に行ったとき、周囲の方々がいろいろサポートしていただき助かりました。(病院スタッフの方々) (上肢)
- 障害の原因となる病気の治療費が高額であるが、医療費受給者証を交付してもらっているので、とても助かる。 (上肢)
- 医療費の負担がゼロのこと。 (上肢)
- 医療費が軽減されている。 (下肢)
- 難病についての医療費補助、しかし1年に1回の申請が大変。 (体幹)
- 医療費の負担がない。 (内部)
- 医療費がほぼかからない。 (内部)
- 医療費や薬代を援助してもらっていて、助かっている。 (内部)
- 特定医療受給者証等による医療費自己負担の軽減。 (内部)
- 福祉タクシー乗車券をいただいているので、病院へ行く時、助かっている。 (内部)
- 通院先のお医者様や医療センター脳内の先生から温かい言葉で労をねぎらっていただいたこと。涙が出るくらいうれしかった。 (内部)
- 病院で、車いすを普通の人に押しってもらうことがある。助かります。 (内部)
- 病院などは、障害者に対して、とても親切だと思います。 (知的)
- かないわ病院に入院（現在は、通院中）した時、僕の病気を理解してくれて、いやがらせや差別を受けたことは、一度もなかったことです。 (精神)
- 職員さんは、優しい人が多い。主治医の先生とも、うまくいっている。 (精神)

- かかりつけの病院の診察代の免除。手続きをサポートとしてもらえるソーシャルワーカーさんに忙しいなか、更新時に書類の手続きと日常生活の状況等話を聞いてもらえること。(精神)
- 精神病院の通院が、1割負担で済んでいる。(精神)
- 病院など待ち時間を配慮してもらえている。(児童)
- 病院に行った際、待合室で待っている時点で大号泣で大暴れしていたら、スタッフの方が声をかけてくれて、特性を伝えたら別室を用意してくれて、おもちゃなどで落ち着かせようと一緒に頑張ってくれた。(児童)
- 眼科や耳鼻科などの医療機関では、こどもの障害を理解してくれ、言葉かけや、お手伝いなど、安全に医療を受けられるようサポートしてくれる。医療機関以外ではあまり感じない。(児童)
- ヘルプマークをつけると、病院受診の際などに話がわかりづらくても配慮してもらえた。(児童)

X 知る

- Web制作者からアクセシビリティの質問をいただく機会が増えた。(視覚)
- パソコン等の設定、変更を教えていただいたとき。(視覚)
- ヘルパーがよくしてくれる。(視覚)
- スマートフォンの普及、テレビなどの字幕。(聴覚)
- テレビの配信サイトで字幕が付くようになったこと。(聴覚)

XI 参加する

- 2025の夏の選挙の投票の時、とてもわかりやすく、かつ、スピーディーに支援していただけた。落ち着いて投票することができ、本人の自信にもつながったと思う(「投票支援カード」を金沢市のHPから印刷して持参しました)。(知的)

XII 使 用

1 相談等

- 支援を相談できる。 (視覚)
- 声が出せず、人生最悪と思っていましたが、相談窓口の人等の声がけにうれしく思います。 (聴覚)
- 障害者を支援していただける方々に、自分の思いや仕事の不安を取り除いていただけた。 (知的)
- 支援・相談できる場があること。 (精神)
- 相談員がいてくれて良かった。 (児童)

2 窓口の対応等

- 金沢市役所には耳のプラカードを見かけて、他のところでもいろんな窓口にも設置してあるのかと思ったら、銀行とかには設置がなくて残念でした。他の市町村にも耳マークを置いてほしい。震災で実家がある役所の手続き等で大変わかりづらく、1回、1回説明してゆっくり話してくださいと毎回お願いしていたから。窓口に座ったので金沢市役所は親切だなあと思いました。 (聴覚)
- 市役所市民センター、福祉健康センターの職員さんの対応が親身に接して下さり、ありがたかった。(障害に関する手続きのとき) (下肢)
- 市役所の窓口の方が親切だった。 (精神)
- 離れて住んでいる2人の子ども(中学1・3年生)の児童相談所の担当女性との面談の際、身体や精神面、経済的負担を気にかけてもらっている。 (精神)

XIII その他

- あるけど思い出せない。 (視覚)
- 私自身からの働きかけにより、一つ一つを提言し、解決に導いております。 (視覚)
- できるだけ迷惑をかけないように自粛しています。はらはらドキドキの日暮らしです。 (視覚)

第2部 障害のある人

- 特に金沢市の独自感が見えない。他の行政もやっていることで、少数の意見を反映しているように思えない。石川県内でもかなり温度差がある。 (視覚)
- ATM故障時など連絡手段が電話なので使用するのが難しい。 (聴覚)
- 過去に老人会から誘いがあったが、難聴で会話がうまくできないのでお断りした。役員を通じて難聴者と少しは知れたのではないか。 (聴覚)
- やめていた人たちはたまに食事会をします。 (聴覚)
- 聴き方の内容を事前に勉強していただくための資料が相手にあるといいと思う。例、大きな声を出すことだけが伝わるとは限らない。側に寄りすぎて圧をかけてはいけないなど。 (聴覚)
- 認定を受ける前は履歴書に難聴と書けなかったが、認定されてからは書類の段階で記入でき、面接でも受け入れやすく感じました。ハローワークでも障害者窓口を利用できること。 (聴覚)
- 民生委員の方が四季折々にお弁当を配ってくださるのにはいつもありがたく頭が下がります。 (聴覚)
- 言語機能の著しい障害。 (言語)
- 2011年の脳梗塞発症後、見た目ではわからないので、どうすればいいかわからない。「障害」の意味がわかってもらえず困っている。 (言語)
- 毎日ある玄関スロープ等の段差、1cmの段差でも進めない、介助が必要。 (上肢)
- もっと外出できるようになればよい。気分転換できる。 (下肢)
- 4級の認定を受けた後、「障害がある方の便利帳」をもらい、各種割引、減免の制度があり、助かりました。(平成14年交付) (下肢)
- ゴミの収集日に家の前まで収集してくれることは大変ありがたいです。 (下肢)
- 経済的な面。 (下肢)
- お正月に野菜が配られたこと。 (下肢)
- 1年に1回の敬老会などに行っても、民生委員の人が助けてくれる。 (体幹)
- たとえば、障害者は自分の年金や障害手帳の発行の年月日を忘れる。だから障害者なのだが、そういった仕組みは健常者と全く同じで、自分で申請しないともらえない仕組みで、非常に冷たい理解のない仕組みであると思われる。たとえば、私の母は92歳で寝たきりだが、私がいなければ障害者手帳や介護保険や医療保険など申請することもできない。 (体幹)
- オムツをつけてタクシーに乗車したが、途中で尿がもれて、タクシーのシートを汚してしまったことを今でも忘れない。 (体幹)
- 金沢市は福祉について遅れていると思います。 (体幹)

- 石川はまだそこまででもありませんが、大阪へ行ったときなど関西のノリ、おせっかいもあるかもしれませんが、皆親切にしてくれました。子どもとかにもジロジロ見られたことが一度もありません。皆すごく親切にいただきました。石川とは全く違います。やはり都会と田舎の違いでしょうか。今後は石川でもそういった人が増えればと思います。(体幹)
- 買い物のスーパー等で駐車スペースが確保しにくいときもある。(体幹)
- 市(県)から手当をいただき感謝しています。そのほかの具体的なことは覚えがない。(体幹)
- 駐車場などに、障害でない人が駐車する。(内部)
- 歩行者道路の段差をなくしてほしい。(内部)
- 能登地震前、富来で障害者協会に入っていた(誘いあり、入る)。グランドゴルフ、ポッチャ、カラオケ参加していた(送り迎えあり)。金沢に来て、何もなし。町会のマージャン大会、健診見学した。(内部)
- 見た目は元気そうに見えるだけで、実際は障害である。そのため、一般人と同じ扱いになる。(内部)
- わからない。(2件)(知的)
- 生活保護と同等の支給をお願いしたい。(知的)
- わからない。(2件)(精神)
- 障害年金がもらえたら、仕事もパートで済むであろう。(精神)
- わからない。(児童)
- 知っている方は、素直に対応ありますが、知らない方の対応がすごく悪いし、平気でいやな対応されることが多い。非常識な対応と感じる。(児童)
- 療育手帳で割引サービスが受けられたこと。(児童)

第3 意見・要望等

I とともに生きる

1 住宅・施設支援

- ろうあ者の介護施設、老人ホームがあればいいと思います。 (聴覚)
- 県住の部屋の修理を自費ですることは本当につらいです。 (聴覚)
- バリアフリーの住宅に住居したい。築40年あまりの住宅にいますので、段差が多く、先日も転倒して頭部を損傷しました。 (言語)
- 脳出血で救急車でもう8年になります。今は福祉ホームでお世話になっています。右半身まひで言葉も出ない車いす生活です。私は母親で90歳です。福祉ホームでよくしてくれます。 (上肢)
- 四肢麻痺で胃ろう、気管切開で話せず、意識もあやふやなため療養病院入院中です。 (上肢)
- 市営か県営住宅に入りたいが、引越し費用もないため、保証人も用意できず、更新が厳しくなってきた。スマホでアンケートできるようにしてほしい。 (上肢)
- 皆さんの助けを借りて今のまま自宅で暮らしたいです。 (下肢)
- ヘルパーさんなど皆さんの手を借りながらもできるだけ自宅で長く暮らしたいと思っています。 (体幹)
- 現在膀胱にカテーテルを入れ、排尿しているが、排便のとき2名の介護人が必要であるが、夫1名では難しく、現在病院にいるが、自宅に帰りたい希望があるが、自宅に行けない。その時の介護を頼める人が必要。 (体幹)
- 入所(●●)していて、満足しています。 (体幹)
- 書類の提出物が多くて、1年が早く、親(高齢)として、負担になります。これから、親子で入所できる施設が金沢市内にできればと、いつも思っております。 (知的)
- 現在難病で入院しています。発病して10年になります。 (体幹)
- グループホームを増やしていただくよう希望します。 (知的)
- ケアホーム(グループホーム)設立に支援をしてほしい。重度知的障害の方も入れるようなケアホームをつくってほしい。 (知的)
- 親も年を取ってしまい、車もないので、本人をグループホームに入れたいのですが、どこも順番待ちということで、非常に困っています。 (知的)

- 障害者の人がグループホーム、入所できる所がとても少なく、家庭の事情、親の体調、いろいろ大変な家庭があるので、特に入所施設がまだまだ少なく、順番待ち、待機している人も多いため、市・県・国でもっとつくってほしいです。これからも、生まれてくる子が必ず健常児ではなく、ある程度障害者は必ずいるので、老人ホームは多いですが、障害者の入所施設を増やしてほしいです。願っています。(知的)
- 自傷・他害などの問題行動があっても、安心して落ち着いて過ごせる入所施設や職員を確保してほしい。(知的)
- 強度行動障害がある場合、グループホームで過ごすには夜間対応できることが必要だと思いますが、現在、金沢市には対応できるグループホームはほぼありません。入所を考えたとしても緊急性がないとすぐには入れません。他害がある場合、受け入れがなかなか難しいと思います。自宅で過ごしていくとしても、親も高齢になると体力的にも限界があります。先が見えず将来に不安しかありません。強度行動障害を持つ方々のためにも対策の強化を願っています。(知的)
- 年金が少なくて、将来施設入所を考えた時、家族の負担が大きい。(知的)
- 障害者が、安心して定住できる住まいがほしい。同居者が高齢のため、一人では生活が難しい。母親が死亡しているため、困難なことがいっぱいあります。(精神)
- 現在、市営住宅に住んでいて、家賃の金額を決定する際の収入申告書を市役所の住宅政策課に提出しますが、主人の給与分と私の精神障害年金の受給開始によって、家賃が年金受給前のパート収入時にさかのぼると、生活保護解除当時より2～3倍以上に負担が大きくなっています。受給によって家賃が高くなり、精神的に生活の苦痛を強く受けています。役所との取り決め、連携を早急に対応お願いします。(精神)
- 障害者差別解消法があるとのことでしたが、今でも精神障害者だとわかると、家賃保証会社に断られます。今のアパートは、障害があることを伏せて入居しました。ちっとも差別はなくなっていないと思います。生きづらい世の中だと思います。(精神)
- グループホームの●●に入る予定です。速やかに進むよう、手続きをお願いします。(精神)
- 身寄りのない高齢者支援はありますか(病院や施設に入る際の身元保証)。(精神)
- 障害者や家族が優先的に入居できて、騒音トラブルなどにならないように配慮された環境の地区や集合住宅等の整備を希望します。騒音で近隣トラブルや、警察への通報、悪意からではない、心ない言葉かけなど、本人が理解できないいやな思いが重なり、二次障害が出ないようにと、家族は気が休まりません。(児童)

○グループホーム（成人近く）で入る所が、いっぱい入れないと聞きます。心配です。

（児童）

2 生活・通所支援

○ごみ捨てが大変。 （視覚）

○上肢に障害があるため、ゴミ出して苦勞することが多い。スプレー缶の穴あけが満足に、と
いうかほぼできない。今は同居家族がいるため頼ることができるが、一人になったら缶の処
理もできなくなり、ゴミ屋敷化としてしまうのではないかと心配している。缶の穴あけを必
須としない（中身があることを明示させる）形でのゴミ捨てができるようにしてほしい。他
にも古紙、古布回収を自治体が主導する形にしてほしい。周囲に知り合いがいないし、P T
Aの回収は子のいない私には出しづらい。障害者福祉に関する手続きを市役所本庁舎以外
（市民センター）でも全ての手続きが行えるようにしてほしい。内容によって市民センター
でできないものがあり、郊外から中心部まで出るのが難しい身には厳しい。 （上肢）

○せっかくつくられた障害者支援の制度（法律）が、ただの人道的支援という建前のもの（形
骸化）にならないよう、市民に広く周知され、きちんと機能されますよう願っています。

（上肢）

○来年5月にリハビリ訓練の期限が来るので、延長できるようにしてほしい。 （上肢）

○訪問入浴サービス事業について、サービスがなくなった（●●）。大変困っている。何年も
入浴していない、清拭のみ。福祉タクシーが予約が取りにくい。台数が少ない。3ヶ月前に
予約している。 （上肢）

○施設（デイ）でケガをした。させられた時の対応が悪いし遅い。家に帰ってから家族に、病院
へ連れて行ってください、原因がわからない、そんなことばかり言われる。家に帰ってからだ
と手遅れになる。介護タクシーを頼まなくてはいけない、救急車を呼んでほしい。 （上肢）

○このアンケートで少しでも前に進めたらうれしいなと思います。障害者に関わる仕事をして
いる方々のお給料をUPしてあげてください。どの施設も職員不足で利用者が困っておりま
す。 （上肢）

○本人介護3のため家族（主介護者）が書きました。能登地震のときは孫が近くにいたので、
小学校までは行けましたが、トイレに行きたくなり大変困ったそうです。本人40代からの片
麻痺、現在80代になり、認知が進んできて麻痺を忘れたような行動が出てきて危険。常に見
守りが要ります。40代の頃にいろいろサービスが使えたら認知もそんなに進まなかったかも

- と思います。 (上肢)
- 私は介護保険を持っていますが、主人と二人なので、居宅介護が使えません。掃除など一人では難しいところがあるのですが、今は体調が良くなったので、どうにか一人でなんとかしているのですが、今後悪くなり、日常の家事が難しい場合は保険が使えるようにしてほしい。主人も障害者で、私の助けがなければ日常の家事は難しいです。 (下肢)
- 行政がもっと中に入って見てほしい、理解してほしいです。サービスの単価とかを見直してほしい。それによってサービスが受けにくい。 (下肢)
- 福祉制度はもっとシンプルであった方がよい。相談ばかり多すぎる。相談より現場で働くヘルパー等を充実させるべき。 (下肢)
- 発達障害は生きにくさがあると言われていています。ですが本人が自立して生きるためにサポートが充実してくれることを望んでいます。IQは問題なく、コミュ障になりがちです。やがて引きこもり→反社会的になる、これを心配しています。下肢に障害があり、バリアフリーのないバスは困難となっています。(母より) (下肢)
- 違う市の良い支援を取り入れてほしい。 (体幹)
- 障害者支援をお願いしたいのですが、5月に移住(埼玉)してきたので、何か受けられるサービス(移住者向け)はありますか。 (内部)
- 20年ほど前に、前立腺肥大で泌尿器科へ通院しておりましたが、尿漏れがひどく、7～8年前からオムツをするようになり、軽い認知症も。ここ3か月前に突然尿が出なくなり、手術は無理ですと言われ、施設に入りました。私は何とかして、高齢のお父さんですが、手術して、管が抜けて、余生を家で送れればと毎日祈っています。 (内部)
- 一人でも生活できるような基盤をつくってほしい。支援をする人に対して、正当な報酬と支援を行ってほしい。 (知的)
- 障害があっても、高齢になって一人で生活できる環境整備の充実をお願いします。(知的)
- 障害者が自立して生活できるよう、取り組んでほしい。親の支援がないと、生活できない。(知的)
- ショートステイを8日/月利用しています。内容にはまったく不満はないのですが、日数をもっと増やしていただけないでしょうか(せめて10～12日/月)?月によっては、利用できない週末ができることがあるので、お願いします。ちなみに、今は、金・土の週末利用していますが、8日だと使えない日ができてしまうことがあるためです(2025年10月とか)。早めに改善、どうかよろしくお願いします! (知的)
- グループホームのショートステイを希望しても、職員の手が足りていないと、断られる。もっ

- と気軽に利用できるようにしてほしい。作業所での延長、預かりができれば、介助者が助かると思う（急な用事の時に、預け先がなく、困っている）。（知的）
- 作業所が休日の時に利用できる事業所が増えるように。20歳以上の日中一時、移動支援、ショートステイ（短期入所）事業所が少ないため、利用したくてもできない。家族が、特に母親が常に一緒にいなくてはならないので、大変になっている。困っている人が多い。（知的）
- 作業所の介護士さんの重労働に頭が下がります。もっともっと人員を増やしてほしいです。なかなか増えないのは、低賃金と「3K」です。特に、男性職員は貴重なのに、「家庭を持つには、低賃金で生活できない！」と辞めていかれます。こんなに大変で重要な仕事に、もっと賃金を増やしてあげてください。医者の高賃金を回してあげてほしい。（知的）
- ADHDのため、ゴミ屋敷になる。業者を呼ぶと、高額になり、支払いできない。補助金を出してほしい。見積もりを出してもらって、結局諦めて、ゴミの中で生活している。（精神）
- 様より、夕食の配食を利用していますが、最近の原材料の値上がりのため、配食のおいしさ、レベルが明らかに低下しています。利用者として、いくらか自己負担をしてでも、配食の質を上げることを検討していただければ幸いです。なお、市としての利用援助は、1%でもアップがあれば幸いです。（精神）
- 私の場合は、まったくやる気がなく、身体のどこが痛く、それが移動します。私は、ひとり暮らしなので、たまにヘルパーさんが来てほしいです。ひとり暮らしなので、死んだ時が心配です。（精神）
- 共生サービスを延長してほしい。（精神）
- もうすぐ高校卒業で、生活介護相当とのことです。施設の朝、帰りの時間の都合で、親である私の仕事にも影響が出ると思われれます。せつかく障害児の親でも働ける所が見つかり、やりがいも見つけたのに、働くことが難しくなるのが不安であり、もどかしいです。ぜひ、生活介護の施設の受け入れ時間の見直しをお願いいたします。親子ともども、日々充実した毎日を過ごせるよう、応援をお願いします。（児童）
- 高校卒業してから、日中一時以外で預けられる場所が少ないことに困っています。介護する人が仕事を辞めなくてはいけなくなります。（児童）
- 肢体不自由の支援のされ方が不平等すぎて、納得できない。肢体不自由の方でも、勉強や言葉も話せる方はいっぱいいるのに、知的で日常介助が必要（言葉も話せない、オムツもとれないなど）なのに、利用できる支援が全然違う。どう判断しているのか。違いつて何？障害者差別なのかと思いますが。全然理解されていないと思います。高等部卒業後、事業所に入

れるかもわからない不安もあります。空きが出るまで仕事できないと、生活できません。

(児童)

○居宅介護、移動支援、日中一時支援等、いろいろなサービスがあるのはわかるが、それぞれのサービスを受けるために、それぞれの申請が必要だが、分類が細かすぎてわかりにくい。分類せずに、すべてのサービスを全員が受けられるようにしてほしい。

(児童)

○子どものショートステイを見学に行きました。目的は、家族に何かあった時に、安定した生活ができない時に利用したいと思ったからです。しかし、現実、利用している子どもは、帰ることのできない子ども（ネグレクトなので、保護された子）たちでした。スタッフの方々は、とても素敵なお人たちでした。しかし、そこへ自分の子を預けるのは、とても抵抗があります。自立を目指せるショートステイを増やしてほしいです。

(児童)

○ショートステイを安心して利用できる場所が少ない。そのショートステイも使える日が限定的で困っている。利用できているのが年に合計5泊程度。

(児童)

○施設があっても、そこで働いている人の理解が浅い。給料が安いから数年で辞めてしまって、長く働く若者がいない。いくら法律を整備してもちゃんとした働き手がいなければ施設はまともに運営できない。障害者支援で一番必要なのは、支援してくれてる人への支援(給料等)だと思う。

(児童)

3 親なき後・緊急時の対応

○困ったことがあったときに対応してもらえる連絡先一覧がほしい。

(上肢)

○一緒に住む人（今は親）がいなくなった時が不安。

(上肢)

○親が亡くなったときとか、将来の不安が大きいです。安心して暮らせるようにお願いします。

(下肢)

○老々介護に不安がある。

(内部)

○重度ですが、親亡き後も、楽しく、理解のある場所で生活して行ってほしいと願っています。

大きな施設は、やはり最終的な判断になると思いますが、切なる希望ですが、金沢の廃校等利用して、グループホーム（ケアホーム）の設立を、市長さんに声を届けていただけたらと願っています。

(知的)

○今のところ、親の支援で行動していますが、今後一人になったら、何一つ行動できないと思います（手続きのこと、病院の受け付け、銀行の出し入れ、カード利用）。今から教えていきます。

(知的)

- 一人っ子なので、特に、親の死後が不安です。(知的)
- 親が亡き後の支援について知りたい。(知的)
- 親亡き後のことを考え、グループホームをいくつも見学に行きましたが、強度行動障害があり、パニックを起こすため、グループホームで生活するのは難しいと感じます。地域での受け皿がないのに、この先どうやって生活していけば良いのかわかりません。施設はかわいそう、という方もいるかと思いますが、今の現状では、受け入れ先があって、施設に入れていいなという思いの方が大きいです。先が見えず、心配ばかりです。いつも関わってくださる福祉の方々には、大変感謝しています。ありがとうございます。(知的)
- 親が元気な時は良いが、親が病気になった時や、事故にあった時、本人が困ると思うと、つらい。(知的)
- 母が高齢なので、一人になった時のことを考えたい。(知的)
- 親も80代なので、今からどうしたら良いのか困っている。(知的)
- 市長へ 親亡き後、一人で生きていけない。24時間相談員がいて、何でも相談できる人のいるグループホームはほとんどなく、グループホームに行っても、入所できないと断られる。早く安心安全なグループホームを金沢市で数多く増やしてほしい。このままでは、自宅で孤独死となり、近所の人に迷惑になります。大至急安心なグループホームをつくって、入れてほしいです。相談員のいる安心なグループホーム（要望のNo. 1）が一番の問題で、今死んでしまうので、早くつくってほしい。(精神)
- 今回、このような形で障害を持つ者、家族に対し、アンケートという形で目を向けてくださり、ありがとうございます。本人、家族、親亡き後の生活を安心して暮らせるような制度設計を望みます。(児童)
- 保護者である自分がいなくなった後、障害を持つ子は、どうやって生きていくのか不安。(児童)
- 子どもに障害があります。親が亡くなった後、もしくは、親が老いて面倒を見られなくなった後の心配がずっとあります。住む場所だったり、支援の方法だったり、安心して子どもをまかせられるような環境や制度を整えていてもらいたいです。地域の学校では、支援員さんの数がまったく足りていないので、人員、時間数をもっと増やしてほしい（人が足りてなくて、現実的には合理的配慮をしてもらえない）。(児童)
- 障害のある方が親が亡き後でも自立して暮らせるような制度があると、家族も本人も心が軽くなるかなと思います。(児童)

4 福祉用具

- 玄関前の手すりの取り付け費用の補助をお願いしたい。(視覚)
- 補聴器屋さんから聞いた情報ですが、社会人になると補聴器購入の際、助成が受けられないと聞きました。私は日常生活を送るうえで補聴器は必要不可欠です。補聴器はかなり高額なもので、全額実費になると補聴器の購入が難しくなります。ぜひとも社会人になっても助成していただきたくお願い申し上げます。(聴覚)
- 補聴器は高額で、一部補助はいただいているが、現行では耳の聞こえに合った補聴器は負担が多く、購入することができず不自由です。(聴覚)
- 補聴器の上限があり、負担が増えてもよいので、もう少し選べるといいなと思います。(聴覚)
- 等級が6級であっても補聴器は必要だし、電池も常に必要なのに支援が少ないと感じる。(聴覚)
- 補聴器の修理申請をしたが、申請認可の有無に1ヶ月以上かかっている、その間補聴器が使用できなかったため、車の接近に気づかなくて、自転車転倒事故を起こし、救急車で運ばれて治療したので、修理申請の認可の有無を早くしてもらえるとよいです。補聴器が使用できないのは公私ともに影響がありすぎ不便です。(聴覚)
- 私は現在90歳ですが、以前交通費、高速代金等、大変お世話になりありがとうございました。補聴器の購入も補助していただき、感謝しております。私も年で先は短いですが、テレビの音が聴き取りにくいので、手元でも聞こえる装置を支給していただけたらと思います。(聴覚)
- 手話ができるとういのですが難しい。内耳の相談をいつか金大病院でしてみたいです。等級は6級ですが、補聴器なしではほとんど聞こえません。4級くらい？災害時、緊急時等、不安がいっぱいあります。でも今の時代、聞こえにくい人々に対する対策も、公共の場、医療機関等でできつつあります。(聴覚)
- 現在は補聴器のおかげで生活できていますが、その先を考えると不安です。(聴覚)
- 足こぎ車いすCOGYを購入するにあたり、補助が出ることを知らず実費で購入した。介護保険のケアマネジャーも知らなかったのか教えてもらえなかった。介護保険でレンタルを検討するも、持っている業者がいなかった。今後必要な福祉用具を気軽に利用できるように周知してほしい。(上肢)
- 最近家での生活が困難になり、病院を紹介され入院したところ、リハビリ用の車いす(車いすでしか移動できない)が、本人の体重では使用不可能とのことで購入しました。高額なた

め補助金申請を障害福祉課にお願いしましたが、すでに買ったものについては補助できない、査定基準をクリアしなければ補助は下りないとの回答でした。すぐにリハビリをする必要があり、車いすを探すのも困難を極めた上に、せめて初めに、買う前に、周知徹底すべきではないでしょうか。ホームページを見てくれの一点張りでした。本人のために、すぐにもリハビリを開始したい方にとってもあまりにも不親切です。高齢化が進み、ホームページを開くということすら困難を極めている方もおられるはずですよ。今後見直しを希望いたします。ちなみに車いすの素材や形状など、こと細かな条件が読みにくい上に理解できません。誰でもわかりやすい文章で、難病も抱えた人たちの生活を少しでも楽に過ごせますようお願いできません、ご再考を希望します。 (下肢)

- オムツの支給についてですが、支給を受けられる人の幅が狭いと感じます。「小学生で歩けない、オムツを使用している」という状況でも、対象外でした。また、現物支給ではなく、本人に合ったメーカーさんの物を選べると良いと思うので、例えば、「1か月に使ったオムツ代のいくらかを補助していただく」ことができると、より便利だなと思います。(児童)
- 中等度難聴でも補聴器を利用しており、障害者手帳と同じように補助を受けられるようにしてほしい。また、補助の申請受付時、わからないようで対応が遅かったり、間違ったりもあったので、スムーズに行えるようにしてほしい。(児童)

5 家族の負担軽減

- 家族の負担（心身・経済）が大きい昨今の事件でも、加害者の気持ちがわかる。もっと家族に援助があればよいと思う。(体幹)
- 障害者の家族が孤独になりがちなので、気楽に相談できる場所があったらよいと思う。(体幹)
- 介助している私たち（親）が学べる機会があると良いです。仕組みについて学んでいきたいです。(知的)
- 介助の父母も、年々、年を取るので、本人に対してしていたことが、親にとって負担になる。障害は良くなることはないのに、3年ごとの判定の手続きも、とても大変です。医者に連れて行くのも大変！(知的)
- 障害児の親が、子の将来のために働く環境がもっと整えば良いと思う。デイサービス、支援学級のバス送迎など、フルタイムで働くことが不可能な時間しか利用できない。助成金などの支援にすがりたいのではなく、自分で稼ぐ時間をもらえないので、パートや時短の選択を

することになっています。子の将来、自分の老後資金を稼ぐためにも、家族が働けるようなサービス利用を選択できるようになればいいなと思っています。(児童)

○障害児1人を両親でケアするのも大変だが、きょうだい児がいるとなおさら、子どもたちに向き合うことが難しいと感じています。障害児かきょうだい児かどちらかを優先しなければならない場面がたびたび出てくるので、家族の誰かが我慢する(負担を負う)ことになり、親としてはそれが悩みというか、結構つらいです。(児童)

○親ですが、こんな生活が死ぬまであと数十年続くかと思うと、絶望しかありません。上の健常の子の人生もおしまいになりました。ちょっとした外出も大変です。旅行も不可能で上の子がかわいそうです。災害時も周囲の迷惑になるので避難所には行けません。(児童)

6 障害者への理解と配慮

○このアンケートを作成、郵送し、それに回答し、様々な労力が費やされているので、お互いにより良い未来に向かっていただけたらうれしいですが、残念ながら前例を変えることができない公務員には期待していないのが事実です。なぜならあなた方公務員の口癖は前例がありませんだからです。障害者差別解消法という法律があるのをこのアンケートで初めて知りました。ほとんどの国民はこの法律を全く認識していないと思います。福祉を重視するのであれば、行政、メディアを通して障害福祉に対する法律への発信を強化するべきだと思います。(視覚)

○土地柄なのか職業柄なのかかわからないが、不快な言葉をかけられることが度々あります。(体幹)

○私は障害者になって十数年経っております。健常者目線と障害者目線とでは見える景色が違います。社会はもっと障害者に関心を持つべき。市民の義務として、働いて納税をしている人も多くいます。障害者自身もいつまでも感動ポルノの主人公になってはいけません。できる範囲で努力すべき。社会の共生とはそのようなものなのかもしれません。(上肢)

○車いすや白杖を持った人とかいても、手助けを申し出る人をほとんど見かけることがない。もっと自然と多くの人々がそうできるような社会になってほしい。(下肢)

○家族でもなかなか理解してもらえないのに、他の方々に理解してもらうのはとても大変だと思います。それでも暮らしやすく嫌な思いをしなくても良くなるならとてもうれしいです。(下肢)

○障害者は「害」なのではないでしょうか。最低賃金で働き、賞与もなし、健常者からは「楽をしてい

- る」と思われる。好きで障害を負っているわけではない。どうすれば皆さんにこの気持ちを理解してもらえるのでしょうか。 (下肢)
- 障害の理解を深めてほしい、いじめをなくしてほしい。 (体幹)
- その立場にならないと理解は難しい。でも寄り添うことはできるはず。そんな温かい社会になればいいなと思っています。 (体幹)
- 支援が得られないと無視された気分になり、心細くて泣きそうになる。支援が受けられる(親切にされる)と泣きそうになるくらいうれしい。好きで障害者になった訳じゃない、お前がなってみろ。障害者は少数なので、健常者は対応の仕方がわからない(知らない)のだと思う、怖くないよ。 (体幹)
- 障害に配慮していただける社会は、とてもありがたいのですが、過度に行き過ぎたことは望みません(例えば、名古屋城にエレベーターを設置しろ等)。 (内部)
- 障害のない人→ある人への理解も、もちろん必要だが、障害のある人→別の障害のある人への理解も、あってほしい。どうしても、目に見える障害の人(車いすなど)は、目に見えない障害の人(内蔵機能など)より優先されやすいせいか、そういう人から、いやなことを言われることがある(相手は私が障害のある人だと思っていない)。 (内部)
- 私の実姉から、長い透析のため顔色が…黒くなっている私に、「顔色悪っ!」と言われたことがあり、障害者に対する配慮のなさに愕然としたことがあります。人には、言って良いことと悪いことがあるのを、世間の方には知ってほしい!と思います。 (内部)
- 小学生、中学生の方に、障害のある人の立場をもっと理解していただけるよう、支援がほしいです。ジロジロ見られるのは、親と一緒にいる時、親はつらいです。本人も、時には興奮することもあります。まだまだ障害者とはどんなふうなのか、理解がなされていないように思います。 (知的)
- 要望だけではなく、自分からまちへ出かけて、少しでも自分のことを知ってもらうこと。知的障害の人は、何よりソフト面での理解が必要なんです。それから、福祉施設の処遇改善をしてほしい。職員不足が深刻です。シルバー人材とか、来てくれないかな…?いくら障害者差別解消法があっても、結局は一人ひとりですよ。まずは、小さい時から、小学校に上がる時も、分離教育ではなく、一緒に育ててほしい。つい先日、息子が小学校(地域の)の1~2年生の時に担任してくれた先生に、偶然ばったりお会いしたのです(もう30数年も前のこと)。(息子がいなかったのですが、それでもお互いにわかったのが、すごい!)その頃のこと、立ち話でお話ししたり、別れる時、手を取り合って、互いに「元気で!」と別れました。うれしかったです。こんな出逢いがあるのです。 (知的)

- 障害者（知的・身体）の理解がまったくありません。「金沢」という土地柄のせいでしょうか？自分たち（健常者）が障害者になったら、障害者の気持ちがわかるでしょう（笑）。
(知的)
- あれだけ特別支援学校に何百人とたくさんの生徒たちがいたのにも関わらず、商業施設や飲食店で見かけることが非常に少ない。横柄でナイフのように鋭く冷たい視線を浴びることがないよう、買物を楽しんだり、おいしい物を食べたりと健常者と同じように当たり前人間らしい生活を味わわせてほしい。仕事について、軽作業といった単調で変化にとんだ業務内容があるのにも関わらず、いつも提供されるのは清掃。労力・体力を非常に求められる職種です。本人には合いません。
(知的)
- 障害者は、死ぬまで続きます。本人は、それほど気にはしていなくても、周囲の目は、ただごとではありません。明るく、前進するしかありません。
(知的)
- 良い意味での差別・理解が進むと良いなと思います。みんながオープンで純粋な心でないと難しいそうだなと思います。障害があってもやっていいことと悪いことはあるし、特別守られるのも違うけど、みんな過ごしやすくまず安全であることを願います。
(精神)
- 学校や職場の障害に対する認知が、とても低いと思った。なので、市などで障害に対する理解が進むように、学校や職場に働きかけをしてほしい。
(精神)
- 病気と相手をちゃんと理解しなければ、思い込みが先行されて、良くない。
(精神)
- 障害のある子との外出は、特に大変で、周りの目も気になります。もっと理解のある社会になってほしいです。
(児童)
- 「共生社会を推進する金沢共同宣言」の市民への浸透と実現を切に願います。
(児童)
- 障害のある人（子）の育ては、綱渡りです。できたからと、その上に積み上げることはできません。すごく本人がもがいて、苦しんだ中で疲弊して成り立って、やっとできているのです。一部の地域や個の関わりにより成り立っているだけで、無関心な人が多数です。西金沢近辺、保育園含め、障害ウエルカムなものを挙げていても、実情は違い、子に対して差別的な言い方、関わりをしています。統合保育などの取り組みがもっと機能してほしいなと思いました。閉鎖的な環境・考えで育ち、その後、障害児（者）とふれ合っても、異質な目を向けるだけだと思います。建前のインクルーシブも危ないですが…。よろしく願います。
(児童)
- 障害者のイベントや交流を増やしてほしい。また、障害者だからといって悪いことはないし、障害者でもできることはいっぱいあるんだと伝えてほしいし、障害とはどんなものかちゃんとわかってほしい。
(児童)

7 権利擁護

○本人わからないため、どうしても親からの捉え方の返答となってしまいますが、すみません。デジタル化が進む中、障害のある人たちの生活にどう響くのか、心配です。デジタル化になることで、それを悪用する詐欺行為もある中、個人がどれだけ身を守れるか。健常者でも生きづらい世の中にあって、ハンディがある人たちは、なおさらだなど。その背景にある親族の不安や負担も、一層大変になってきた気がします。親は先に亡くなるもので、いずれは成年後見を頼むことになるわけですが、制度や背景がよく見えないだけに、リスクも高く、一度成年後見人を立てると、変更もきかないと耳にしたことがあり、利用に躊躇せざるを得ないというのが本音です。私が勝手に不便なイメージを抱いているものだけで、違っていたら申し訳ありません。あまり周りで利用している話を聞かないもので、また、その評価というか、それに対しても良いも悪いもわからないもので、制度について詳しく知りたいです。

(知的)

○誰にでも子をつくる権利を与えている以上、自分のようなのが出てくるのは当然。弱者は、先に死んだ者勝ちな現状を鑑みると、安楽死制度は必要。

(精神)

8 防 災

○災害（地震・台風・土砂・浸水）→大きなホワイトボードに避難に関すること、生活に関することを書いてほしい。震災救援所まで誘導してほしい。書いてあれば誰かに質問しなくても自分で情報を見ることができる。

(聴覚)

○休日以外の緊急時の避難が心配です（代筆 妻）。

(言語)

○災害時に備え、あらかじめ専門のスタッフによるチームを結成してほしい。

(知的)

○震災があった時に、障害のある人は、避難場所での対応が本当に周りの人に気を使うことになるので、部屋を分けたりの対応を素早く実施してほしいです。

(児童)

9 その他・全般

○夫が全盲で88歳のため、夫の介護が大変です。長女は仕事が忙しく、次女は子どもが小さいために、子どもたちが手伝いにあまり来てくれません。スーパーも歩いて30分かけて行っています。バスは1時間に1本です。視覚障害のためタッチパネルの操作ができず、飲食店で

- のタッチパネルでの注文、コンビニでの支払いが困ります。ATMの操作もできず、銀行の窓口でお金を下ろしています。銀行へはタクシーで行っています。交通の不便、生活の不便を感じます。(視覚)
- 1. ペットボトルのフタが開けられない。ゴム手袋をしてやっと開けられる。2. ゴミに捨てるとき、醤油などの口のところの輪がペンチで取ろうとしてもなかなか取れないものもあり。すべてそのまま捨てられるようにしてほしい(手や腕の力がなくなった)。3. 医療機関の人たちはマスクをしている人がすべてで、マスクの声は難聴者にはなおさら聞きづらい。(聴覚)
- 聴覚障害になり1年経ちました。以前は、仕事、車、ジムなどいろんなことをしてきました。今はそれができない。一人になった時、不安です。(聴覚)
- 81歳で元気に農業の手伝いをしています。これから先が心配ですが…。(言語)
- 当たり前と思うのではなく、感謝など、障害者への教育が必要。(上肢)
- 身寄りがないのでもう少し同情してほしい。(下肢)
- ゴミの回収について。10m先にゴミ回収される場所があります。しかし、町会が違うため、200m先まで行かなくてなりません。都合よくできませんか？冬場は7:30より一方通行になります。車も不便です。(下肢)
- 振込と郵便を出すことが何ともなりません。そればかり考えています。介護の人はこの2つのことはしてくれません。家で歩行器を使っています。(体幹)
- 人手不足が問題、地域のつながりの希薄さ。(体幹)
- 身体障害者手帳を持っていても、内部障害で、見た目が健常者と変わらない場合、障害者と理解されない。ヘルプマークは、様々な疾患が含まれるため、身体的に優先してほしい場合でも、理解されないことがある。そこに目を向けた対策が、何かあればうれしい。また、障害があっても、就労を広めるのはいいが(生きるためにも)、そこをがんばることで日常生活に支障が出たり、援助が必要な時もある。そういった時に利用できるサービスがあればと思う。(内部)
- 障害認定はされないが不安な心身状態の方は多いと思います。障害に限らず、弱った人々への様々な支援が増えてほしいです。障害があつてのこれまでの生活も大変なことはありましたが、人は必ず老いて弱っていくものなので老後の方が心配です。(内部)
- 利用を希望しても、入居可能なグループホームがない。ガイドヘルプやホームヘルプを使用したいが、利用可能な事業所がない。(知的)
- 知的障害、てんかん、療育A、区分5 だんだん、認知能力も低下してきています。グルー

プホームにお世話になっています。とても助かっています。就労継続支援B型と共同生活援助（グループホーム）を利用しています。障害者福祉がより良いものになりますよう願っています。 (知的)

○障害福祉に携わる方々の質の向上を期待します。障害者だということで、見下す感じをよく受けます。長いアンケート、少々疲れました。 (精神)

○デイケアなどや、友人たちのことなどで、少し困っていることがある。親の介護が負担などで、困っている。 (精神)

Ⅱ 働 く

1 一般就労

○会社の中で、社長、人事部、総務とかの障害に対する理解はあったとしても、直々の上司に当たる主任、係長、課長、部長の理解がないと相談やお願いごとが伝わらない。ヘルプカードがあっても人として優先してくれることはない。人として助けてくれる人もいる。目の不自由な方の歩行時のブロックでつまずくので、道幅が広がったらいと思う。草むしり、雪かきができなくて困る。踏ん張ること、高いところでの作業が難しい。 (聴覚)

○会社にも、産業医にも相談しても何も解決にならなく、支給されればよいのではないかと
言われるだけで、今後の生活も不安で働けるときにがんばって働いているのに、ちゃんと仕事内容を把握して支給される額を考えたいです。 (上肢)

○僕は障害があるが、仕事は障害のないところでしています。がんばればいつかは報われると思いがんばっています。この仕事をして2年半になります。 (上肢)

○職場にも障害があることは言わずにこれまでいろいろ仕事をしてきた。しかし、仕事をしているうちに雇い主や事務・同僚も私に障害があることが、わかっているのかもと思ってしまう。公的に知らせがいくのですか？ (下肢)

○多くの企業は、国の障害者雇用率を上げることは難しいと考えているのではないかと今の雇用者が障害になった時に、率が上がることをしか考えていない。外部からの雇用には消極的。 (内部)

○もっと障害がある人が働ける仕事を増やしてほしいです。障害専門で、仕事する時間も短時間がいいです。 (知的)

- もうすぐ定年になります。でも、子どもも中学生だし、妻も体が丈夫でないので、あまり働けません。障害があっても、体は丈夫なので、まだ働きたいです。障害者のシルバー雇用が少ない、ないかもと言われました。今の職場は、ジョブコーチをつけてくれました。定年後の再雇用先も、そのような職場が増えてほしいです。妻がいなくなったら、子どもに頼むしかありませんが、未成年が自分の助けになる、ヤングケアラーになった場合、子どもたちを守ってくれるように、助けてくれるように、福祉の人とつながっていきたいです。(知的)
- 障害者の職場において、健常者たちが、優しく接する場所があれば良い。社内で相談を聞いてもらえない方々のための相談センターを24時間対応するようになってほしい。公平な職場をつくってほしい。(精神)
- 企業にもっと理解し、賃金を安定させるよう、働きかけてほしい。(精神)
- 障害のある方の働く場（障害者雇用）が限られていると感じたことがあります。そういった場が増えれば、より多くの方が快適に過ごせると思います。(精神)
- 障害者ということを話さず、仕事をしているので、知られないよう、働いていきたいです。(精神)

2 福祉的就労

- 家族によって、障害の具合によって、いろいろな形のサポートの仕方があると思う。家族によって何を大切にしたいか。サービスがあるのもありがたい。ともに過ごす日々を大切にしたいくて、本人のやりたいことを大切にしたいくて、家族がサポートしたいというパターンもあるので、そんな場合は経済的な支援が充実してくれるとありがたいなと思います。障害のある方たちは純粋にひたむきに仕事をされていると感じます。タオルをたたむとかでも。その純粋さやひたむきさのすばらしさで賃金を決めるような世の中になるといいなと思ったりします。(下肢)
- 前にいたA型はお金のことしか考えていないところでした。「A型とは何ぞや」を各事業所の代表を集めて説明してほしいです。A型は私たち利用者のことをもっと考えた事業所であるべきだと思います。(下肢)
- 家の近くのA型に働きに行きましたが、法改正で仕事重視になってしまい、自閉でこだわりの強い本人には対応できず、辞めることになりました。A型事業所も減っており、近くに就労も少なく、精神的援助が必要な本人には、行く所がありません。地域的なものかもしれませんが、今はB型も定員がいっぱいなようでした。(知的)

- 当事者の母ですが、同じ障害者同士のお見合いの機会が、石川県にはなく、就労継続支援A型事業所で働かせていただいているが、同様なA型事業所の方々との出会いの場もあれば、ありがたいです。当の事業所では、恋愛禁止と聞いて、驚きました。通常会社では、職場恋愛結婚も多い中、これは差別ではないかと思えます。長崎県では、障害者向けサービス&支援組織の結婚推進室「ぶ〜け」がありますが、石川県は遅れていると思うし、障害者への理解が少ないと思えます。生産性の低い者には、真の協力が届いていないと感じます。 (知的)
- B型就労で働いています。休日が少なく、賃金が安く、改善を望みます。 (精神)
- A型事業所に通っていますが、労働環境が日々厳しくなっているように感じます。サービス管理責任者は、上司から数字(金銭)を上げるようにプレッシャーを受けており、それが現場で働く私たち障害者に降りかかっています。事業所内の作業では、とてもではありませんが稼げず、外の仕事に出る(最低賃金の)仲間が多いのですが、体力的にも精神的にも皆疲れ果てているのが現状です。 (精神)
- 支援学校が少ないと感じる。中卒からでも働ける就労支援施設などを増やしてほしい(18歳以上が基本になっているので)。今は、制度が少し変わったようですが、審査や許可が必要とのことで、中学卒業後、就職希望をしている人が行く所がまったくなく、困っている。 (障害児)

3 その他・全般

- 石川県の視覚障害のジョブコーチがいないそうなので、今後身近に増えてほしいと思う。中途で見えにくくなって不安を感じているので、将来の不安がとても大きい。相談を気軽にできる場所があると助かります。 (視覚)
- このアンケートの回答(本人)の母の記載です。親からの思いを勝手ながらこの機会に書かせていただきたく存じます。今回のアンケートを実施していただいたお陰で、本人がいろいろ悩んでいることやわからないことを知るきっかけとなりました。たまたま勤務上、精神的に疲れているときでしたので、自分を見つめ直す段階として答えられたかもしれません。親としましても、子が何についてわからないのか明確になり、今後の更なるサポートが必要な点を考えるチャンスで助かりました。感謝いたします。学校生活を卒業しても、その先の自立支援の大変さを実感しています。社会性の経験不足や言葉の発達不足のために、自分の本心を上司になかなか上手く説明できずに、結果としては様々な思いを我慢して周りに合わせて行動するしかないという面もあり、きつともどかしかったと思います。アンケート記入後

は心身ともに疲れ果て、欠勤し、気力も低下し、元気もなく笑顔もなくという日がありましたので、受診の上、退職へと移行しました。とても残念な結果ですが、この先、元気を取り戻して、本人らしく仕事にやりがいを持って、自立していけるようお願いばかりです。親といたしましてもハローワーク（障害者専用窓口）、石川障害者職業センターの存在を知り、相談できる窓口があることを学べております。必要に応じて活用させていただき、より明るい生活を送れ、一人前の成人への過程を見守り続けていく所存です。長文になりましたが、調査の一材になれば幸いです。 (聴覚)

- 今は仕事をしていませんが、体調が良くなったら考えてみたいです。 (上肢)
- まだ82歳で自分では仕事をしていたい思いで、足が悪くて歩けない自分。でも何か仕事をしたい。80歳で自動車免許を返納して、歩くことができずに、実家が自動車販売の修理店で「自動車と一緒に」生きてきて、どこにも行けない自分が悲しい日々です。 (体幹)
- 私は一つも仕事をしていません。自営業ですので、子どもが会社を辞めてしてくれています。でも収入は私になっています、不思議です。 (体幹)
- 低収入の人に対して、今まで若いとき働いてきたのだから。 (体幹)
- 私は内部障害で、見た目と脳機能は普通ですが、一般の人と比べると、体が弱く、体力がありません。1日ががんばって働いて、4時間程度が限度です。一度、障害者年金の申請をしましたが、認定されず、現在、親の貯金を切り崩して国民年金の支払いをしています。ハローワークにも何度か行きましたが、内部障害での働き方はなく、一般の人と同じ働き方かかないと言われて、途方に暮れています。 (内部)
- 自分の障害に適した職場があれば、がんばりたい。賃金はまかせる (いただけるだけ)。週に3回 (火・木・土) 働ける。 (内部)
- 不景気でも、働いてお金 (給料) がほしいです。 (知的)
- 障害の程度は、人によってバラつきがあります。軽度で、手帳取得が見込めなさそうな場合の就労についての不安があります。より詳しい情報がほしいと思うのですが。 (知的)
- 現在、A型の事業所内で、指導員として働いています。働いていて思うのですが、障害のある方の就労受け入れ先が、肉体労働系 (掃除とか工場とか) に偏っているのが、とてもつらいです。もっと障害のある方の仕事の窓口の種類を増やしてほしいです。現状、指導員も障害者も、仕事がきつくて、続けられない事実も発生しています。ユニバーサルデザインみたいな感じで、ユニバーサルジョブみたいなのができたらいいのになと思ったりします。 (精神)
- 高校卒業後、就労先が変わった後など、相談でき、支援してくれる事業所があるとうれしいです。自分で情報を得るには、限界があります。 (児童)

Ⅲ 得 る

1 年金・手当・生活保護

- 年金などの経済的援助を増やして。 (聴覚)
- もう体があちこち痛くなり始めているので、年金だけでやっていけたらいいと思います。 (聴覚)
- 身体障害者1、2級以外の所得税控除額を現行の275万円から増やしてほしい。(年金等の経済的援助とあわせて) (聴覚)
- 現在、二人とも国民年金だけの収入なので、私の場合、補足的年金も含まれていますが、万単位でなく、千単位なので、毎日の生活に困窮しています。年4回ある固定資産税の支払いに四苦八苦している状態です。恥を忍んで、今までの預貯金も底が見える状態で、でも固定資産税だけでも支払わなければ申し訳ないと思っています。地域包括支援センターへ相談しても持家があると相談はそこでストップとなり、相談が前に進まないのです。また建物が古く基礎がボロボロになっているのがとても気になります。「医療・福祉サービスの相談相手」のどこに相談すれば、できれば個別に案内いただければありがたいです。今のところ二人ともこれといった病気もなく元気です。 (聴覚)
- 生活保護で生活していますが、支援が少なく毎月ぎりぎりで、生きていくだけでしんどいです。弱者にもう少し気配りをしてほしいです。電気料金がだいぶかかり、食料費の負担が大きい。 (言語)
- この物価高に見合った障害者への年金を増やしてほしい。政治家の給料多すぎ、無駄な議員が多すぎる。1/3に下げるべき。●●は許せないことばかりやってきている。当たり前の結果だ。そんなバラマキをするなら、他にもっとお金をかけるべき。仕事をしたいけどできないパパがかわいそう。●●も●●もダメ政党、小学生でもわかる。 (上肢)
- 障害年金をもらいたい、生活できない、税金、保険料など安い、要らないようにしてほしい。 (下肢)
- 障害年金だけでは生活ができないため、足腰を壊しても仕事をしなくてはならないことがとてもつらいです。 (下肢)
- 私は外国人妻で子どもの頃から障害を持っています。母国では障害年金をもらっていましたが、夫と結婚して来日してからもらえなくなりました。夫も年金生活のため生活はとても苦しいです。わずかでも障害年金がほしいです。 (下肢)

- もらえる年金がない。もっともらえるお金を増やしてほしい。(下肢)
- 医療費や移動費でお金がかかりすぎるので、障害手当や資金的援助がなんで出ないのでしょ
うか。右足膝が手術の失敗2回で痛み、30～50m以上は休み休みしか歩けず、膝が半分しか
曲がらないため、イスしか座れず、ベッドとイスでの生活しかできません。(下肢)
- 障害年金の受給要件をもう少し広くしてほしい。(体幹)
- 物価高で決められた生活保護費で、毎月光熱費など支払っているが、食費には余った費用で
の買い物でお米を買うけど、他の物を買うお金が少なくなるのには困ります。日本国民や生
活保護者などが安心して暮らせる生活ができればよいと思います。私たちは毎日毎日つらい
と思います。(体幹)
- 物価高騰しているのに、年金は上がらない。他の県や市では、独自に〇万円支給とかあるの
に、毎回金沢はない！(内部)
- 障害の等級に関係なく、最低限度の支援はほしい。仕事を辞めても、次の職場が理解あると
は限らない。10社、20社、普通に落とされる。障害を伝えず、働くこともあったが、いつか
はバレて、辞めさせられる。障害者＝障害年金をもらってると認識してる人がいる。(内部)
- 10年以上、年金は支給停止されています。現在、心臓の手術をして入院中です。親が元気な
間はいいですが、年金を支給してほしい。(内部)
- 現在の年金額では将来生活できないので、受給額すべて預金しているため、母(母子家庭)
の収入のみで生活しているが時間が、限られているのでフルタイムで働けず収入が少ない。
生活介護で通所、夕方、日中一時支援を利用しているが送迎がない。母が迎えに行くことは
本人の特性上難しいので日中一時は利用しないで、16:00過ぎに自宅に送迎してもらって
いる。母が働けるのは朝のお迎え9:00～帰ってくる16:00までの間になっている。経済的にと
ても苦しい。生活保護を受けた方がいいのではないか。本人が18歳までは放課後デイを18:00
まで利用し送迎もあったので、フルタイムで働くことができた。プラス特別児童扶養手当も
あったので何とか生活できた。日中一時利用の送迎、年金増額を希望。成人しても母が1人
で扶養していることはかわらず、何か手当があればよい。(知的)
- 現在の日本社会のように、経済成長が低迷していると、弱者への支援に対し、過度な優遇と
不満に思う人が増える傾向にある。社会保険料の減額などと合わせてであれば、バランスが
取りやすいように思うので、財源の再考も含め、社会福祉とのあり方を見直してほしい(高
齢者への高度医療支援を自己負担率を上げるなど)。(知的)
- 障害年金等の受給を受けながら、仕事に就きたい。パート収入のみでは、生活が苦しい。現
在無職、就活中、障害年金受給なし、面接落ちるたび、将来への不安が強くなる。(精神)

- 障害年金審査が本当に厳しくなり、私の病気も内容的には受給可能だったのに、不安神経症という病名だけで不支給を受け、これからどう生活していこうかとパニックになり、自殺未遂しました。他の方でも、本当は障害年金が必要な方に給付されていないのが現状で多く、条件を更新してほしいと思います。本当に必要な方に届くように。死人が出ますよ。私も次はないと思っています（命）。（精神）
- 初診の証明以外は大丈夫だったのに、それが用意できないことで、年金が受け取れず、生活が大変。カルテはもう残っていないと言われてしまい、初診証明に必要だと知らず、ずいぶん昔に診察券もなくした。2件目からは、すべてそろっていたのに、私のせいで家族が過労死しないか怖い。（精神）
- 今のところ、ないかもしれませんが、が、強いて言えば、生活保護費を少しだけ増加してほしい。（精神）
- 社会福祉協議会を、もっと理解ある場所にしてほしい。生活総合支援資金の相談をしたのに、相手にしてもらえなくて、残念でした。（精神）
- 障害者に対してもらえるはずの手当（お金）が、所得制限のためにももらえないのはおかしいと思う。障害を持つ家族は、皆同じ苦労や出費があるはずなのに、年間で100万近く差が出るのはおかしいです。がんばって稼いでる人（家族）がもらえないなんて、納得いかないです。本当に所得制限をなくしてください。医療費（障害）も同じです。（児童）
- 特別児童手当の所得制限をなくしてほしい。（児童）
- 特別児童支援手当の所得制限をもっと上げてほしい。もしくは、撤廃してほしい。（児童）

2 負担の軽減

- 補聴器をつけていても健常者と同じ音域がカバーできるわけではなく、聞こえないことが多い。何度も自死を考えることがある。せめて経済的な支援があればと思う。（聴覚）
- 生活保護、障害者等、社会的弱者と呼ばれる方は様々な補助を受けていますが、それが当然の権利だと、さらに良くしろと言いますが、自分たちがどれほど優遇されているか気づいていないのが残念です。おごり高ぶった障害者がいると、障害者全員が悪く思われ不快です。4級以下の通院費等も安くなるとありがたいです。補聴器は、補助範囲で買えるものはレベルが低すぎて使用できません。追い銭が必要で20万くらい自腹で出していました。（聴覚）
- 聴覚障害者の補聴器購入費の医療費控除が不明確なので、障害者手帳所有者の医療費控除を明確にしてほしい。（聴覚）

- 生活していく上で、お金がないと暮らせない。無利子の支出は、一年後等のことがないと共同宣言ではないと思う。平衡障害なので一般的に認知が低い。見た目にもわかりにくい障害なので、他人から見てもわからないのがつらい。会社でも同じようなことが起こると思う。一番はお金のこと。 (聴覚)
- 月に払う金額が増えた。給料が上がっても生活がいっぱいいっぱい。 (下肢)
- 経済的な支援をもっと増やしてほしい。 (下肢)
- 膀胱がんで手術をしてから3年がたち、ストーマ装具にストレスを感じながら生活しています。1年後に乳がんの手術もして、いつまで生きていられるのかなと思う時がありますが、家族の愛で、前向きに生きていられます。私の心配は、お金です。CT検査も高いです。ストーマ装具も高いです。それ以外にも、テープや薬やいろいろと買わないといけないです。給付金オーバーして、自己負担しています。助けてほしいです。 (内部)
- 金銭面でとても苦しい。国、県、市がとても悪いように見える。 (内部)
- 県・市民税を軽くしてほしい。 (内部)
- 健康保険・介護保険料、市の税金が年々増えていき、生活しにくい。自動車税等の減額免除等も広げてほしい。 (精神)
- 昨今の急激な物価上昇に不安を感じます。国は、物価水準を上回る賃金の向上を掲げていますが、介護を抱えている障害者世帯は、働けないので、何の解決にもなりません。将来が不安です。財政が厳しいことは承知していますが、私は、今まで相互援助の考え方で、できることをしてきたつもりです。その辺（障害者を持つ世帯への対応）を考えていただきたく願います。 (精神)
- 孫に発達・知的障害があるため、母親は働けず父親の収入のみで、家のローンもありますが何とか暮らしています。父親の所得がほんの少し多いといろいろな助成が受けられず大変な思いをしています。いろいろなことで、所得制限はあると思いますが収入と支出も考慮してほしいです。自分たちも年金のみで介護費用を捻出しているため、とても助けてあげられません。弱者に優しい社会を望みます。 (精神)

IV 豊かに育つ

1 障害児支援等

- 児童のショートステイの利用をしたいのに断れてできない。兄弟が旅行を望んでいるが、多動の息子と一緒にはいけないからショートステイを利用したいのにうまくいかない。兄弟バランス良く子育てしたいが、なかなかできない。旅行は一度もできてない。何とかならないかな…とずーっと思っている。日曜日・祝日のデイサービスも少ない。多動の子を持つ家族にとっては一緒に外出はすごくエネルギーがいる。外食も30分で切り上げないと、ソワソワして落ち着かない。多動の子との外出はやはり難しいので第三者の力が必要です。(児童)
- 親不在時に、一人で行動できる支援をもっと増やしてほしいです。ショートステイ、移動支援をもっと増やしてほしいです。施設の方はとても頑張ってくださいている中、そこにもっと援助を増やしてほしいです。(児童)
- 質問や選択肢がわかりづらい。身体的な障害以外にも、発達障害の人に対しての支援も、もっとやってほしいです。受けたい支援が、等級などによって受けられないとかを、もっとなくしてほしいです。(児童)

2 医療的ケア等

- 吸引で使用しているカテーテルをもっと出してほしい。カテーテルに限らず、医療的ケアに使用する消耗品のもらえる量を増やしてほしい。家でも受けられるリハビリ時間を増やしてほしい。熱が出たりして、当日学校を休む時や、親が体調不良の時、みていてくれる人や、預かってくれる(当日急遽でも)所があると良い。このようなアンケートを出してくださり、ありがとうございます！よろしくお願いします！(児童)
- 現在高1、卒業後、医療的ケア児を通わせる施設がほとんどなく、困っています。(児童)
- 生活介護の事業所と、医療的ケアの必要な障害者の短期入所施設が少ないので、増やしてほしいです。(児童)
- 訪問入浴、医療的ケア児が利用できるショートステイやデイサービスが少なく利用するための順番待ちです。(児童)

3 その他・全般

- ずっとリハビリを受けさせたい。障害用のトイレの大きいベッドをもっと増やしてほしい（座ったりできないので、トイレ使えない）。ベビー用のベッドも小さくて使えない。→オムツが替えられないので。 (児童)
- 本人が少しでも自立できるような居場所を見つけてあげたい。お友達と一緒にいて楽しいか思ってもらえる集団生活（小規模がいい）の場が、もっとあったらいいと思う。よろしくをお願いします。 (児童)
- どんなことでも、安全、安心して使用できるよう対応してほしい。使いたくても、使えないことが多く、生活に不便を感じて、外出もできなくなる。サービスの対応に応じて、ちゃんと理解を持ったサポーターやヘルパーがいると良いが、対応の悪い人が多く、すごく対応に困る。使いづらくなるため、知識の学習や学びの場所をサポートする側にも徹底してほしい。 (児童)
- 石川県内もしくは金沢市内に、障害のある児童が行ける遊び場（施設）をつくってほしい。名前を挙げて申し訳ないのですが、市内にある「あめるんパーク」で、言葉のわからない息子を連れて行き、何回も注意されて、いやな思いを何回もしています。毎回です。スタッフの対応が厳しすぎます。どうかお願いいたします。もう少し障害児へ優しい対応をお願いいたします。 (児童)
- （母記述）子どものうちはたくさん体を動かしたいですが、公園や室内の遊び場は他の子どもたくさんいてなかなか遊びにくいですね。最近、うちの子も滑り台などの順番が守れるようになってきましたが、たまに他の子を押ししたりしてしまうので、ずっと張り付いて見ていなければならない、「障害のある子だけが利用できる時間帯」などがあればいいなと思います。なかなか難しい要望だとは思いますが…。また、市民プールなどを利用する際、子ども一人でウォータースライダーをさせることができないので、一緒に滑りたいのですが、それは規則でできないと断られました。仕方ないと諦めてますが、できたらいいなと思います。放課後等デイサービスでは利用したい施設が満員で予約待ちばかりで不便です…。施設で働いてくれる方が不足していると思うので、今働いてくれている方々には頭が下がります。これ以上職員さんが減りませんように…。 (児童)
- 子どもの余暇をつくりたいのですが、習いごとを受け入れてくれるところがあるのか…。最初から諦めています。親の会の水泳教室などもある程度しっかりしたお子さんしか入れない現状です。公園も周りの目が気になり、大きくなったら連れていきにくいです。自分も高齢になり、いつまで子どもの世話ができるか心配です。兄弟に負担をかけたくない思いがある

ため、子どもと一緒に入所できる施設があれば有り難いです。喋ることができないため、いじめられていないか、身近な人に虐待されないか不安が募ります。(児童)

○児童発達支援の利用日数は23日までという制限をなくしてほしいです。もっと療育を受けさせてあげたいです。土日は遊びに連れて行く場所がなく困っています。公園や子育て広場は健常のこどもたちも利用しています。障害児は遊具の順番を守るのが難しく、また人のおもちゃに手を出したり、暴れたり、大きな声を出したりと、ひと時も目を離せません。日曜日に子育てひろばを障害児向けに開放してほしいです。(児童)

V 学 ぶ

1 保育所・幼稚園・こども園

○第1希望の保育所に入れず、焦ってしまい、市役所にクレームのような電話をしてしまい、申し訳ございませんでした。その後、空きがある(出た)と連絡をいただき、市立の保育所に入所しました。所長先生、保育士さんのおかげで、他の子どもたちと同じ対応をしていただき、現在中3ですが、クラブチームでスポーツができるくらい成長しました。保育所・小学校・学童・中学校、たくさんの友人と大人に支えられています。障害のある子どもが、息子のように成長できることを希望します。(児童)

2 学校・教育

- 学校選びに関して個人の意思が尊重されるべきだと思います。(児童)
- 小・中学校の特別支援学級は、意味がなかった。支援を理解、教育を受けた教員が担任ではない。周りから見ると、問題のある子を集めた教室という印象でした。今、高校が一番楽しめていると話してくれて、安心していますが、支援学級に在籍していたことを隠したがる背景に、金沢の教育の場に疑問を感じ、ここまで成長してくれました。このようなアンケート初めてです。当人の思い、現実を何も把握されていません。(児童)
- 学校に合理的配慮の要望をしても、受け入れられないことが多い。理解がないのもあるが、人手や経済的なものも大きいと思う。特別支援学級なのになぜ?と思うことも多い。つい昨

日も、気持ちが落ち着かない時に、すぐ迎えを要請され、パーテーション活用や別室等、落ち着ける空間の確保を願い出してみたが、却けられた。パーテーションがないとか、仕切りがないとか、人が少ないとか、保健室は感染症が増えているから使えない等の理由であった。他にもある。あまり叶えられない。保護者の仕事にも支障が出る。早急に改善してほしい。

(児童)

- 現在、スクールバスで中央小学校芳齋分校に通っています。大変ありがたいことで感謝しておりますが、同じ校舎の長町中学校芳齋分校に進学するとスクールバスはなくなり、自分で登校になるそうです。将来の社会的な自立のためだそうです。そのため、保護者が自家用車で送ったり、民間のバスに同乗して登校しているそうです。民間バスの乗り継ぎが難しい生徒は諦めて、スクールバスがある支援学校や地域の中学の支援級を考える人もいるそうです。大変難しいとは思いますが、中学校にもスクールバスを要望します。問12-2-2の不満なサービスは現在ないのですが、特になし等の選択肢がないので、チェックは今利用しているサービスにつけています。

(児童)

3 その他・全般

- ヘルプマークを付け替えるのが手間なので希望する人には複数個配布してもらえると助かります。ヘルプマークがあることで大目に見てもらえる場面もたくさんあるのかと思います。芳齋分校の小学校、中学校の実態の乖離について協議是正してもらえたらと思います。せっかくの全国でも珍しい独立型の分校なのだから小学校・中学校連携して継続的な学習ができるようになるといいなと思います。また、この乖離は受験を目指す知的障害のない生徒さんが中学で増えることに起因すると思うので、そのような地域の学級になじめない一般受験を目指す生徒さん+そだちの教室などに通う不登校生徒さんに向けた、個の学びに寄り添える不登校特例校を新設することで芳齋中学校の学習レベルを芳齋小学校に近付けることが可能なのではないかと考えます。(12-2-1は選択肢を一つも選ばずに進むことができなかったため、デイサービスを次の質問と重複して選択しました。)

(児童)

VI 遊 ぶ

1 文化芸術活動

○美術館等での手帳の割引を、もう少し増やしていただけますと、外出の機会も増えて、助かると思っています。ぜひお願いいたします。(精神)

2 スポーツ・レクリエーション

○金沢市は、文化とインバウンドばかりに力を入れて、公園ばかりつくっている(本多町しかり…県ですが)。障害者向けの施設は、非常にお粗末！城北の運動施設は、プール、サッカー、野球。むつみに代わる体育館があるべきでは。親が高齢になって、作業のない日に、土・日でも自由に使える場所がほしい。(知的)

○自閉症や知的障害の子は、圧倒的に男性・男児が多く、それを介助するのは女親であるのが多いというのが現状です。公共の場で、トイレは共用トイレなどがありますが、プールやレクリエーション施設では、男児と母親と一緒に使えるスペースや更衣室がほとんどありません。介助を必要とする子であれば、そのようなスペースがなければ、利用することができないということであり、ますます外出の機会は失われていきます。少しずつでもいいので、こういった配慮を進めていただけたらと思います。(児童)

3 その他・全般

○障害者が年齢に関係なく、いろいろなイベントやレクリエーション。金沢市としていろいろな集まりがほしい。移動は市がバスなどを用意。(視覚)

○引っ越して1年になります。7月までは仕事をしていたけど、もっと周りの様子がわからないし、近くにコミュニケーションの場所があるとうれしい。集会所はあるけど、何もやっていない。歩ける場所で、運動、趣味的な場所で、話し合いができる場所がほしい。(下肢)

○私は、能登大震災まで志賀町の障害者協会に入っていました(お誘いあり)。グランドゴルフ、ポッチャ(毎月)、カラオケ参加、年2回の旅行もあり、十分楽しみ満足していました。感謝しています。今年9月、金沢市に移籍しましたが、金沢市で何のお誘いもなく、どうす

れば良いか？残念です。何となくテレビ、マンションのベランダで小鉢の植木を楽しんでいます。 (内部)

○高齢で身障者1級の祖母と暮らし、将来自活できるように練習をしているが、助け合ったり、相談したり、遊んだりできる友達がほしい。集まったり、企画してくれる活動があったら…。 (知的)

○保護者なしでも、スポーツクラブやTボールとフットベースの新しいスポーツクラブや、映画館、カラオケ、ボーリング、旅行、バーベキュー、新年会、忘年会、新人歓迎会、電車やバスに乗って散策に行ったり、鉄道博物館に行ったりする新しいクラブをつくってほしいです。他にも、金沢市に新しく知的と肢不自由の小学部と中学部と高等部の新しい金沢支援学校をつくってほしいです。 (知的)

○障害者が安く泊まれる旅館をつくってほしい。動物とふれ合えるカフェをつくってほしい。 (精神)

○趣味を充実させたい。 (精神)

VII つきあう

1 地域・交流活動

○私たちのようにすでに入所してしまうと安心ですが、年寄りだけでとか、一人で暮らすときは家族の負担がとても大きいです。特に、若い人や、今後のことがある人、家族がいない人などは地域みんなで見守れる社会になるといいなと思います。 (聴覚)

○65歳を超えて、民生委員の方が留守中に訪問されて、連絡先の電話番号のみメモを置いて行かれたが、私は通話ができない。民生委員の方の住所もわからず、その後、何の連絡もない。こちらからは連絡しようもなく（通話が無理）、メモ1枚置くだけでずっと再訪もないというのはどうなんだろうとちょっと疑問がある。 (聴覚)

○脳卒中当事者の会があったらうれしいです。 (上肢)

○医療的ケアが必要な者です。生活介護でお世話になっていますが、利用できる施設が少ないので心細く感じています。外出していろんな方とのコミュニケーション、文化体験をしてみたいのですが、何しろ行くところ、居場所がないのが現状です。家に閉じこもっているしかないのでしょうか。安全な居場所がほしいです。 (上肢)

- 雪かきや地域の体育大会に協力ができない等、地域で誰に事情を伝えたら良いのかわからない時があるなあと感じます。 (内部)
- 地区の清掃作業が困難なのに、障害程度を知らないためか、欠席すると、「腰が曲がった方も出ているのに」と言われる。出不足金を払ってもいいので、公に欠席できるように金沢市で考えてほしい。 (内部)
- もっと皆と仲良くなりたい。 (精神)

2 コミュニケーション手段

- 手話通訳者を増やしてほしい。手話通訳者の育成、確保してほしい。場所によって手話通訳者を配置してほしい。 (聴覚)
- 手話通訳者を増やしてほしい。様々な場所に手話通訳者を配置してほしい。コミュニケーションの取れる手話通訳者の育成、確保。 (聴覚)
- 手話通訳者を増やしてほしい。様々な場所に手話通訳者を配置してほしい。コミュニケーションの取れる手話通訳者の育成、確保。コミュニケーションの取れる環境整備をしてほしい。 (聴覚)
- 手話通訳者を増やしてほしい。様々な場所に手話通訳者を配してほしい。 (聴覚)
- 若い手話通訳者を増やしてほしい。 (聴覚)
- 市役所に手話通訳者の正規職員を増やしてほしい。市立病院に手話通訳者の正規職員を採用してほしい。忍者寺の見学ツアーに手話通訳の動画を発信してほしい。手話通訳者の育成に予算をかけてほしい。 (聴覚)
- 聴覚障害者が手話をできるとは限らない。 (聴覚)
- 手話速記者設置を拡大したい。 (聴覚)
- 夫が緑内障で目が見えなくなりました。お知らせ、申請などの手続きとか、見えないから読んでくれと頼まれたことが何回もありました。話すのが苦痛で(下手な発音のため)苦勞しています。夫と会話が難しくなってきました。初めは筆談でできていたのですが、字が見えず、字がうまく書けないためできなくなりました。音声文字変換アプリがあっても時間がかかるためやっていません。お勧めのアプリがあったら教えてほしいです。 (聴覚)
- 人との関わりが、自分が思っている以上に精神を削られているので、もし、人とのコミュニケーションをあまり取らなくても、働ける職業や職場があればいいと思う。 (精神)

VIII 出かける

1 外出支援

- 同行支援の時間をもっと増やしてほしい。 (視覚)
- 一人での外出はできない、または危険なので、通院などの介助は受けていますが、急な場合は対応が難しい。買い物も一人ではできないので介助を必要としています。移動支援のヘルパーさんが身近にいと安心できると思います。 (視覚)
- バスの空白地域が多数あり、タクシー利用か歩きになる。初めての場所は一人で歩けないため、タクシーの補助金額を上げてほしい。 (視覚)
- タクシーの助成額がほぼ迎車で使ってしまう。増額を検討してほしい。 (視覚)
- 外出支援をお手軽に利用できるようにしてほしい (e x. 距離に応じて日当〇〇円等)。そういう人材、ボランティアの確保。 (上肢)
- 車いす、ストレッチャーごと乗れるワゴン車が少なく、すぐ予約が埋まる。 (下肢)
- 介護タクシーの台数を増やしてほしい。 (体幹)
- 少しでも良くなることを願っています。タクシー券の枚数を増やしてほしい (36→48枚)。割引をもっと増やしてほしい。 (体幹)
- 足が悪く、タクシーでしか通院できないが、金沢市から提供されているタクシー券の枚数が少ないため、通院にかかる交通費がかなりの経済的負担になっている。もう少し枚数を増やしてほしい。 (内部)
- 病院の方たちには、本当に良くしてもらっています。タクシーチケットの枚数を、もう少し増やしてほしいです。 (内部)
- 家族的にマイカーのない生活のため、通院は、近所は車いすで、遠方はタクシーを利用します。タクシーチケットの枚数が足りず、何らかの条件を満たした時は、36枚以上の配布があるなど、そんなシステムができれば、とても助かり、うれしいです。今でも、タクシーチケットはありがたく、助かっているんですが、通院箇所や回数が増えると、足りません。ありがとうございました。よろしくお願いします。 (内部)

2 公共交通

- 路線バスについて意見があります。いつもありがとうございます。障害によりバス代半額、タクシーチケットにいつも助けられており、とても感謝しております。私のような視覚障害者には公共交通機関はなくてはならないものです。ところが、先日NHKの番組で路線バスの運行が毎日綱渡り状態で、ある運転手さんは前月の休日はたったの3日で、休日出勤が常態化しているとのことでした。そして、年収も平均よりかなり低いとか。例えば、自治体の支援でバス運転手さんの待遇を改善し、若い人に魅力のある業界にするとか、何らかの手段が必要ではないでしょうか。ぜひご検討くださるようお願いします。(視覚)
- バス乗客のマナーが悪く、乗ることができない。障害者や高齢者は邪魔者にされる。つらいです。(体幹)
- バスの運賃を無料にしてほしい(介助者1名も)。(知的)
- 北鉄のバスは、I C a 支払いで障害者割引を受けられますが、石川線浅ノ川線の電車は、今でも療育手帳を毎回提示、支払いは現金のみとなっていて、不便です。(知的)
- 交通機関は、減らさないでほしい。(精神)
- バスの便や路線が減ることが心配です。(精神)

3 駐車場・トイレ

- 駐車場の障害者専用を充実してほしい。健康な方も利用している。雨の日、私は走れないので、そこに停車できず、ずぶ濡れになり困っています。(上肢)
- 金沢市内のほとんどの施設に車いす用駐車場があり、大変助かっていますが、本多の森ホールにはありませんよね。コンサートがあっても向かいの石引駐車場に停めるしかなく、駐車場の予約もできず不便です。多数の方が集まる場所は移動するだけでも大変で、駐車場の心配せずに出かけられたらと思います。(下肢)
- 障害がない方が、最近車にどこでも買えるクローバーマークのステッカー(車いすマーク)を貼り付け、障害のある方の駐車スペースに停められるので、大変不快に思うときがありますので、どうかならないものでしょうか。(下肢)
- いつもご支援ありがとうございます。車いす専用の駐車場についてですが、雨や雪が降っていると車いすの出し入れがすごく大変なので、屋根がついていたら助かります。県中の駐車場のように、上に屋根があると雨に濡れず楽なので、屋根付きの車いす専用駐車場がもっと増えると車いすユーザーはとても助かると思います。(下肢)

- 公共施設で障害者用の駐車場に健常者の方々が平気で止められるのは非常に困ります。健常者の方々が止められないように工夫してほしい。 (下肢)
- 病院など、身体障害者用の駐車スペースが少ない。 (下肢)
- 公共施設内のトイレが低くて使いづらい。座るところが低いと立ち上がれず、人の助けが必要となる。もう少し座面が高いトイレを設置してほしい。特に車いす用のトイレをお願いします。 (下肢)
- 障害（オストメイト）用トイレの不備が、金沢市は特に悪い。商業施設にはあるが、行政施設（古い物件）等には、ほぼない。非常に障害者に対して何もしていない市だと思う。 (内部)
- 障害者マークのある駐車場に元気な人が駐車する。取り締まってください。 (内部)

4 道路・歩道

- 視覚障害者なので、融雪装置の組み上げ装置が歩道に設置されており、危ない。 (視覚)
- 歩道がでこぼこで歩きにくいので、もう少しきれいに、平らで歩きやすくしてほしい。 (視覚)
- 信号の音響ですが、19時以降、音が小さくなり、21時には音がしなくなります。仕事終わりが遅くなったときや雨のとき、音が聞きづらかったり、聞こえないととても不安です。まちなかだけなのかわかりませんが、何とかならないかと思います。 (視覚)
- 今の時代、当たり前になったスマホを手にとって歩く人や、いわゆるながらスマホの人たちが多く、歩道を歩いていても、とっさの動きができない者にとって、外出は危険と感じますが、外の空気や、人とのコミュニケーションは大事です。当たり前が当たり前になる頃が来ますように。 (上肢)
- 地方自治が共社会を推進する宣言をする前に、車いすに乗る人がガタガタするタイルの道を通る時にどれだけ身体に負担がかかっているのか、道路のほんの少しの段差を車いすで越えるのが難しいかを考えてほしい。 (下肢)
- 学生の自転車の運転が怖いので、もう少し注意していただきたい。呼び鈴を鳴らしてほしい。何回もぶつかりそうになりました。 (内部)

5 障害者マーク

- ヘルプマークをつけていても、気がついてもらえることが少なく、商業施設などへ行っても人とぶつかることが多いため、出かけることが嫌になる。役所などの窓口に行っても、そっけない感じなので「障害のある人もない人も共に生活できる社会づくり」を進めているのは本当なのか？ってなる。それは一部の偉い人たちだけがそう言っているだけじゃないのか。
(視覚)
- 聴覚障害は見た目では全くわかってもらえない障害なので、ヘルプマークのように耳マークのグッズ（バッジなど）と一緒に配ってもらえたらいいなと思います。
(聴覚)
- 聴覚障害と認定されたとき、聴覚障害があるというマークを配布してほしい。白山市はキーホルダーを配っている、免許センターには販売されている。
(聴覚)
- ヘルプマークのタグ配布を一人一つだけでなく二つほしいです。また、これを理解して下さる方がもっとたくさん増えることを願います。とにかく外出したい、できると思えるまちづくりを。金沢市の取り組みはとて素晴らしいです。
(上肢)
- ヘルプマークをかばんに付けていますが、バスで席を譲ってもらったことがありません。学生にも理解してほしいです。
(下肢)
- 車いすマークなど、100均などで売らず、手続きして出してほしい。
(下肢)
- ヘルプマークを紛失したので再提供をお願いしたいのですが、対応可能でしょうか。(下肢)
- ヘルプマークの乱用（健常者）も増えたりするので、何のためのマークなのか、障害の理解はとても大切だと思います。
(体幹)
- ヘルプカードの意味がわかるポスターの小学校への掲示は無理ですか。この年代の偏りが一番つらく、心が折れます。理解ができていない状態です。
(体幹)
- 少しの段差でも車いすではとてもつらい。外食店で車いすで入店できるのかの表記をしてほしい。
(体幹)
- 普段、リュックにヘルプマークを付けてバスや電車に乗るのですが、金沢市で席を譲られたり、聞かれたりしたことはありません。ヘルプマークのことをもっと広めてほしいと思います。
(内部)
- ヘルプマークの支給は難しいでしょうか。かばんに付けていると、何かあった時に安心です。
(知的)

6 その他・全般

- 生活の生業から運転だけでも普通にできて、条件など制限されずに、差のない社会や手帳の効力があって、制限されずに普通につながると希望しています。現況に合った支援に人によってではなく、公平な対応になると良いのになあとと思います。(視覚)
- 福祉タクシーの金額700円だと少ない。地震でボコボコになった道を早く直ししてほしい。(視覚)
- 受信機を持参していて信号機に近づいたら、赤信号ですとか教えてくれるものがあると便利だと思いました。バスのアナウンスなどが聞きづらく、聞いていたら発車してしまうことがあります。(視覚)
- 近所の交差点に横断歩道をつくってほしい。暗いので明るくしてほしい。温泉療養利用助成券を市役所だけでなく、金沢市民センターで交付できるようにしてほしい。県に対して金沢南警察署を設置してもらえるよう要望してほしい。(視覚)
- 見えにくい点字ブロックが多い。今回のアンケートだけでなく、公的書類も拡大文字で送付してほしい。金沢市の東口が夜だと暗い。バス停の配置を考えた方がいいと思う。駐車場の前とか囲いのないバス停は危ない。(視覚)
- 無電柱の理解はありますが、暗すぎてメニエール病を患っている私はやばいかも。また、暗すぎると防犯等に危険が高まるのでは。JR乗り継ぎの時間が短いと、乗り遅れが生じやすい。現に乗り遅れたことがありますので、すべて10分以上の時間を設定してほしい。(聴覚)
- ガイドヘルパーや介護タクシーの台数がほしい。前もって予約しないと乗れないので困る。(上肢)
- 交通機関について、北陸新幹線で金沢から長野駅乗り換えで高崎熊谷へ行く場合に、スムーズに向かいに乗れるが、あさま号からはくたか号に乗り換える場合、5～6分では乗り換えられなく、次のはくたか号に乗ることになる。不便ですので、金沢市からJR東日本にもご意見をお願いします。昔からの慣習で金石方面行きのバスは中橋しか停車しないですが、やはり金沢駅(西でも東でも)に停車してほしい。スーパー等で、障害者マークの付いている駐車場に健常な方が停車していることが多く、また、お年寄りが障害者マークともみじマークを混同しているようなので、お年寄りでも身体に不自由のない方への指導をしてほしい。(上肢)
- 車いすで外出の際、ほんの少しの段差でも登れないときがあります。特に外出用の軽い小さな車いすを使っているのです。段差にはスロープなど置いていただければと思います。(下肢)
- 運転免許更新が不便(金沢市)。(精神)

IX すこやかに暮らす

1 保健・医療

- 病院の業務は忙しいと思いますが、行政としても「無駄を出さないように」と積極的に病院に指導してほしいと思います。それにより家族も対応できるようになるし、名前を書かなくても参加できるよこびが感じられると思います。最初から「意味がない」や「行けないでしょ」は納得いきません。 (視覚)
- 遺伝だと言われる病気で、全盲になることを考えると子孫に申し訳なく悲しい。医学が進んでいくことを日々願っています。 (視覚)
- 病院でマイナンバーカードの提示の時の操作ができない。●●病院の受付で操作を言われた。視覚障害なのに、そういう言い方はあり得ない。視覚障害者のマイナンバー提示の機械操作の件を考えてほしい。 (視覚)
- 医療において看護師さんや受付の方は難聴への理解があるが、医師の方が筆談してくれないことがある。 (聴覚)
- 病院に行く回数が増え、タクシーを利用する回数が増えた。送迎してくれる人がほしいです。 (上肢)
- お願いします。予防接種等で医者に行く時は誰かに連れて行ってもらわなければなりません。そして一緒に長く待ってもらわなければなりません。何かよい方法はないですか。 (下肢)
- 病院の診察待ちで、自分の番号が呼ばれて腰を立て歩く体勢を取るが「早く来て」の声に困っている。 (体幹)
- 現在入院中ですが、リハビリ、マッサージを増やしてほしい。 (体幹)
- 障害者手帳等受給できることを、病院で教えたりしてほしいと思います。私は、先天性疾患ですが、私の母は、50年前に誰も教えてくれず、5年後（術後）申請したと聞いています。交通費等の割引も受けられず、大変でした。 (内部)
- 高齢のため、あちこち悪くなりますが、なかなか近くの医院へ行きにくい。つつい痛くても、我慢することが多くなってしまふ。良い方法はないもののでしょうか。 (内部)
- 障害のある子どもへの集団健診への配慮をお願いしたいです。一律に健診の通知がされますが、定期的に専門病院で受診している子どもがほとんどで、健診でスクリーニングする必要があるのか？と疑問です。内容によっては、できない検査もあり、母子手帳は、発達について「できない」と記載するしかなく、親の気持ちは沈むだけです。もちろん、集団で受けた

い方もいらっしゃるかと思いますが、受診は親の義務ではないこと、個別対応もできることをお知らせ願いたいです（個別対応は、合理的配慮です）。重ねて、保健師さんへの要望ですが、おそらく保健師業務は、疾病の予防やスクリーニングだと思うので、障害のある子どもや家族への支援は、難しいのだと思います。対応できうる範疇を超えるのであれば、障害福祉課や金沢市のさくらんぼすまいる、石川県のこのこのなど、主たる専門団体をご紹介いただきたいと思います。就園、助成金、障害手帳取得についてなど、何ひとつ有益な情報をいただかず、時間ばかりかかったので、初めから自分で問い合わせれば良かったと感じています。その後も、虐待のスクリーニングなのか、生活状況の問い合わせばかりあり、不必要に個人情報を提供したという否定的な思いしかありません。保健師さんも、お忙しいと存じますので、専門外であれば、すみやかにご対応のご辞退を願いたいところです。この要望が、該当外の課であれば、申し訳ありません。できれば、該当部署？課？と共有をお願いします。（母）

(精神)

○車いすのまま入れる医院があまりなく、探す時、困っています。（児童）

○退院時は医療機関と福祉が連携をとってくれたが、退院後は病院は受診して終わり、福祉は手続きのみなので、退院後も医療機関と福祉が連携を取り、親と一緒に子どもの将来を考えてほしい。子どもの可能性をより広げるためにリハビリを強化したいので、今の病院が最適なのか、別の病院があれば教えてほしい。目的に合った病院選びをしたい。親の情報収集の手助けをしてほしい。（児童）

2 医療費負担・助成

○医療費を安くしてください。（視覚）

○医療費の補助の申請の審査がきびしい。年収の制限など。（視覚）

○医療をタダにしてほしいです。（聴覚）

○薬代が無料なので助かっています。ありがとう。（言語）

○たくさん病気があります。高額医療費が病気ごとなので安くしてほしい。（上肢）

○今年度より、医療費の免除がなくなった。所得が多いという理由だが、免除の収入枠をもう少し高く設定していただけると、うれしい。通院が長く続いており、保険も入れないので、困っている。（内部）

○収入が減ったのに、医療費が加算されるようになった。医療費を考えると、病院に行きづらくなった。（内部）

- 医療費無料にしてください。 (知的)
- 他の自治体では、医療費の自己負担が障害者手帳2級でも、なしであったり、公共交通機関の料金もただになったりする所もある。金沢市は田舎で、障害者雇用の求人も少ないのだから、少しでも障害者の金銭的負担をなくしてほしい。 (精神)

3 その他・全般

- 医療と福祉の関係について。障害を持つ本人が情報を求めるとき、まず医療が先で福祉は後になる。福祉側は医療の情報を提供することは法律の壁があることで難しいと聞いたが、医療側から福祉へつなげることは可能なのか？例えば、人工内耳手術を受けた後、石川県聴覚障害センターへつなげるように誘導するとか。 (聴覚)
- 難聴の現状は、TVはおおむね字幕や映像で放送内容がわかるので、医療関係は「0」です。 (聴覚)
- 糖尿病、高血圧、緑内障があり、いつ失明するか不安。その時どう暮らしていけばいいかわからない。 (精神)

X 知 る

1 行政情報

- 庶民に寄り添う市政を行ってください。特に、弱者に目を向けて人の内側に則した政策を行ってください。災害では特にインフラの整備を進めてください。産学協同で学術部門に力を入れてください。身体障害者の広報面が少ないです。工夫して広報等を拡充してください。 (聴覚)
- 障害者が受けられるサービスなどが詳しく載っている本が新しくなる時、送るとか内容を知らせてほしい。 (聴覚)
- 個人に、その人の使える手当、施設、優遇されることを教えてほしい。まだ知らないことがあると思う。 (上肢)
- 車いす利用者にお得な情報がまめられたサイト(石川県版)があるのか気になった。(下肢)

- 家族から。家族（弟）が難病を患って、年齢的にもまだ年金の受給までには時間がありすぎて、福祉のことを全く知識がなかったのですが、周りの方々から障害者手帳のことや障害者のことを教えていただきました。金沢市役所の職員の方々もとても親切に対応していただき、感謝しております。皆様から支えていただいて私も家族（弟）に優しく接していこうと思います。（体幹）
- 代筆で本人の意思で書いたけど、本人は寝たきりで体が動かない。アンケートの質問が体が動く人の質問がほとんどだった。本人は今施設に入っている。介護施設の料金の安いところやリハビリのたくさんできる場所など教えてほしい。市のパンフレットか何かで。（体幹）
- 文字だけでは、どのようなサービスか理解できず、アンケートの回答に時間を要した。新たな制度が導入されるなど、重要な情報はチラシやパンフレットを使うなどして、制度の評価ができるきっかけがほしい。まったく知らなかったので、周知の努力をしてほしい。（精神）
- 受けられる支援がどのようなものがあるのか、わかりづらいことが多いので、診断が下りた時点で、診断別などで受けられる支援制度にどのようなものがあるのか、ぱっとわかるようなサイトを紹介した紙や、冊子などがあると良いと思う。また、進路についても見通しが持ちにくく、どのようなものがあるのか、自分で調べて調べて、ようやくたどり着くような感じであり、金沢市のものが学校に置いてあり、手に取ってすぐに見られるようにしていただけるとありがたいです。就職先についても、本などで全国的なものもわかって、金沢にどのような制度があり、どのようにっていくのかわかりづらい。見通しが持てるものや、モデルなどがあると、イメージが持ちやすく、本人も家族も安心して過ごせると思う。ノーマライゼーションプラン金沢、とてもうれしいです。皆が自分らしく過ごせる金沢を期待しています！（児童）
- 障害福祉に関する行政のサービスについては、こちら（本人・家族）が自ら積極的に情報を取りに行かないと得られない状況です。したがって、知らない、得られていない情報、サービスもあると思います。情報を必要としている人に届くよう、改善していただけたらうれしいです。（児童）
- 娘が生まれてから今日まで、ほとんど手探りできたように思います。娘の将来がどうなるのか常に不安です。例えば、こんな道があるよというような手引きのようなものがあればありがたいです。障害のある人がどんな将来を選ぶのか困った時は誰に相談するのか等そういった冊子をつくってください。（児童）

2 情報のバリアフリー

- 公的な書類の文字が小さくて薄いので読みにくいです。書くスペースも小さくて困ります。
(視覚)
- スマートフォン（iPhoneに変えて1年）のサポートをルキーナのぴあけポートで受けています。県の情文センターには、ロービジョン者の私はお世話になっておりますが、気後れしてしまいます。市（松ヶ枝）等、情報がほしいです。贅沢ですが、美術展のスタッフの方にシーイングAIで文字を聞く弱視者がいることを理解してほしいです。このようなアンケートを企画してくださりありがとうございました。文字が小さく、たくさんあって少し困りました。
(視覚)
- テレビを手話、字幕を入れたい。
(聴覚)
- 字幕がないテレビ（映画）がわからないから増えてほしい。言語障害（失語症）の話す、聞いて理解する、読む、書くのつらさを知ってほしい。
(言語)

XI 参加する

1 政治・行政・社会参加の保障

- 選挙投票所で視覚障害者への対応がわからないため、ひどい対応をされてしまいます。配慮がない。介助者は投票時、付き添えないため、立会人にお任せするしかありません。期日前投票、森本市民センター参院選、選管は立会人に障害者への対応のレクチャーはないのですか。もう選挙に行きたくないです。
(視覚)
- 金沢駅のバス停付近はラインが引かれてとても歩きやすくなりました。ありがとうございます。選挙広報が家に届くのが遅く、いつも期日前に投票に行くのに間に合わない。金沢市の場合はどうだったか覚えてないのですが、この前県の選挙ではネットで読もうとしたらPDFがうまく読めなかったので、金沢市でも正確な情報を届けていただけるようにしてほしいです。紙での回答でなく、スマホやPCでの記入の方がしやすいです。
(視覚)
- 投票に関して。投票に行ったことはあるが、投票箱に入れるとき、介助者が投票箱に紙を入れようとしたときにダメと言われ、不快な思いを介助者がした。目の見えない人に入れろという方がどうかしている。市役所の関連の人たちならもっともっと理解すべきではないかと

- 思う。投票に行くのが嫌になった。一人で動ける人もそうでない人でも、障害の程度にかかわらず、規則に囚われない人と人の関わりを大切にしてもらいたい。選挙管理委員会にはクレームを入れました。だけど、変わらないなと感じている。やりたいけど＝できない、行きたいけど＝行きたくなくなる。気持ちをくんでほしいと私は思います。 (視覚)
- 料理を得意としています。そういう家庭内の援助、掃除や片付け、買物、調理などを必要としている方がいましたら、お力になりたいと思います。 (聴覚)
- 不在者投票する障がい者に、候補者の名前の練習をさせていたから変だと思った。(言語)
- 障害当事者も加えた参加型のまちづくりを願っております。形式的ではなく、本質的なものとして。 (下肢)
- 選挙権を持ってから、選挙がまだないが、行くつもり。 (知的)
- マイナンバーカード→選挙に投票。 (知的)
- 近い将来、障害年金の一部を生かして尽力してくれた方々や、今後、協力活動してくださる方に使いたいので、そんな活動をしてくださる方を求めます。 (知的)
- 障害者施策推進協議会、自立支援協議会の精神障害担当を当事者による公募制にしてほしい。現在は、家族会から選出されており、当事者の意見が反映されにくい。家族会は保護的であり、あくまでも、家族の利益のために動く団体と認識している。 (精神)
- 障害手帳の更新の案内を入れてほしい。家族会以外に一人暮らしの障害者の意見も理解して配慮してください。 (精神)
- 助けてもらって、今生きていけてます。自分が普通に生活できるように、社会の一員として、何か役に立ちたいです。今も、何もできてませんが、いつか恩返しできたらと。いつも感謝しています。あなたのおかげで生きれます。 (精神)

2 アンケート・意見聴取

- アンケート結果は私たちにもわかるようにしてほしい。同じ障害者がどう回答しているのか気になる。 (視覚)
- 「1年間にしたこと、今後したいこと」の答え方がよくわからなかった。「今後もしようと思わない」という選択肢がほしかった。 (視覚)
- アンケートの言葉がよくわからない。もっとわかりやすい文章にしてほしいです。(問8-3、問8-4等) (視覚)
- 回答するにあたり、質問をわかりやすくしてほしい。市役所へ相談しに行った。 (視覚)

- 質問がわかりづらい。 (視覚)
- 質問が多い。 (視覚)
- このアンケートで、いくつでも○をつけていいのなら、全部に○をつけたくなくなってしまいました。それだとアンケートの意味がなくなってしまうので、悩んでしまいます。 (視覚)
- 代筆しました。ちゃんと本人の意見どおりです。 (視覚)
- 視覚障害者、公的支援施設の機能を強化してほしい。パソコンでのアンケート回答方法を取ってほしい。私の場合、拡大文字での郵送は必要ないです。 (視覚)
- 合理的配慮とわがままの境界が難しく、職場で意見が言いづらい。北金沢バスのアナウンスが小さく、耳を澄ませながらバスのアナウンスを聞いているとバスの扉が閉まり行ってしまふ。アンケートに毎回同じことを記入しているのだから、国、県、市として改善に努めてほしい。アンケートを書くことも大変なのに、改善を期待して回答している意味がないし、アンケートの意味そのものもないと感じる。 (視覚)
- 今回のアンケートも間に意味がわからない箇所がいくつかあった。もう少し工夫し、わかりやすく問があれば幸いです。 (聴覚)
- 印刷物があまり読めないため、次回からはインターネットでの回答でもできるようになってくださるとありがたいです。 (聴覚)
- この調査の結果をぜひ今後の施策に反映してほしい。 (聴覚)
- 問6―1の障害支援区分とは何のことかわからないので書いてないです。 (言語)
- このアンケートで得た情報で何をしたいのですか。アンケートに答えた方へのフィードバックはあるのですか。ただのアンケートだけならもう送らないでください。 (上肢)
- 上肢のみの障害ではなく、体幹・四肢の障害のため、記入しきれないところがありました。 (上肢)
- 病気のため脳障害になった人には質問が理解できない。 (上肢)
- 脳出血で平成30年に金沢脳神経外科病院に入院しておりまして、現在1級、1種。何もわからない状態で、顔を見に行くだけの日々が続いております。申し訳ないですが、アンケートはほとんどできないことばかりです。 (上肢)
- 障害者には様々なレベルの障害を有している人がいます。今回のご質問は就労できるレベルの方が対象のように思われ、我が家のケースとは少し違う気がします。障害のレベルが違っていると参考にならない場合が多いので、認知能力がなく、寝たきりの人間に合う質問をしていたきたいです。 (上肢)
- 本人の意思確認が難しいため、家族が書きましたが、ところどころ本人ではなく私の思いで

書いてしまっているところがあります。ご了承ください。入院をしている者としての返答が難しい項目がいくつかありました。在宅介護の方のアンケートでしょうか。医療行為が必要になったときに、障害者施設から病院へ変わりました。在宅はかなり難しい状況です。

(上肢)

○反映されている？

(上肢)

○このようなアンケートは良い。福祉の前進になります。

(下肢)

○私たちの声が届き、実現されていくとうれしいです。

(下肢)

○こういった調査もネット化してもらえると助かります。

(下肢)

○このようなアンケートの機会を設けてくださりありがとうございます。障害の有無を問わず、真剣に学んだり、仕事に励む人がさらに住みやすい金沢市になることを願っています。

(下肢)

○障害に関するアンケートを集計いただきありがとうございます。

(下肢)

○今の家族には、障害があることを秘密にしてあるので、大きな封筒で送られてきては困る。

(下肢)

○今の父親は、介護施設に入所しており、96歳の高齢でもあり、認知症も進んでいて、以前のように判断が難しくなりました。このアンケートは娘の私が代筆しました。車いす生活であり、歩行できません。立ち上がると転んで大けがをします。以前の元気だった父親の気持ちを代筆しましたので、よろしく願います。

(下肢)

○重度の障害のため答えられない質問が多く申し訳ありません。

(体幹)

○まず、長期入院している私の母のところに、これが来た理由がわからない。まったく配慮のないことだよ。というのはその故を金沢市役所には要避難支援者の確認が来たときに知らせるべきである。

(体幹)

○県や市が障害者に対してどのように対応しているのか、どのように対応していくのかわからない。行政としてそのような話し合いの場をつくるべきではないか。アンケートを取るのでは直接の対応がわからない。本当に障害福祉に取り組むのであれば、目を見て話し合いをするべきではないか。

(体幹)

○今後も、市の推進活動に期待します。アンケートを送っていただいて、ありがとうございます。

(内部)

○心臓の機能障害であり、外見上、一般の人とは区別がつかない。現在は、症状も落ち着いており、生活に支障はない。このため、今後のことを考え、継続的にアンケートをお願いします。

(内部)

- 障害の種別により、質問項目は変わるべきと考える。一律同一の質問では、的確な傾向は見えてこない。(内部)
- 金沢市は、障害者に対して、本気になって支援しようと思っっているとは思わない。まず、上の方から真面目に取り組んでいただきたい。アンケートをとって、集計して、やってます様と見せているだけと思います。(内部)
- アンケートをとるだけで、具体的な対策がとれますか？ 万一、対策及び改善された事業に連絡情報はありますか？ 行政は何をするにも遅い！ 対策改善いつからするのですか？(内部)
- あくまで現状で、体が動かなくなったりしたら、またいろいろと意見は変わるかもしれない。(内部)
- 調査票は、ネットで行ってほしい。現在の調査票を長封筒に入れるのは、困難である。(内部)
- 今回のようなアンケートは紙のものでもいいのですが、インターネットでも答えられるような感じにしてもらえれば、個人的にはスムーズでした。(内部)
- 丁寧なアンケートを作成していただき、ありがとうございました。障害福祉の更なる向上を目指し、がんばってください。(内部)
- 封筒の差出人が『障害福祉課』となっているので、障害者とわからないよう配慮してほしい。(内部)
- 郵便物に障害者手帳を持っていることがわかるような封筒は控えてほしい。(内部)
- こういう思いを聞いてもらいたい…と普段思っいても、いざ書くとなると。通所のスタッフの方も、ガイヘルの方も、良く接してもらっっていると思っいます。今は、まだ保護者の父母が、運転も、いろいろな病院へも連れて行けるので、10年後のこのアンケートとは、考え方が違っと思っています。選挙案内が来るたび、文字は書けるのに、候補者の方の人となり、考え方を伝えることが難っしい…もったいないと毎回思っっています。今回、アンケートに参加でき、聞いていただき、ありがとうございました。(知的)
- 文章が難っしく、本人が理解できない。もう少しわかりやすくしていただきたいです。問の多さもあり、読み上げ、わかりやすく説明し、記入しました。(知的)
- 本人は知的障害があり、アンケートに対して理解することが難っしい状況です。アンケート内容の文面では、理解できない状況です。アンケート方法を再考してもらえないでしょうか。(知的)
- 知的障害者にとって意味のわからない用語があって答えるのが困難だった。(知的)

- アンケートの内容が難しい。ふりがなをふれば良いというわけではない。答えやすいような工夫をしてほしい。 (知的)
- 代筆の場合、本人の意思を尊重してとありますが、本人には、何と答えてよいかわからない質問がありました。また、親の元気な現在のことを答えればよいのか、親の介助がなくなっからのことを答えればよいのか、迷う質問もありました。 (知的)
- 全部親の代筆です。本人はできません。 (知的)
- アンケートできて、楽しかったです。 (知的)
- こういった調査で、少しでも良くなるよう願います。ありがとうございます。 (精神)
- 精神障害者のために、こんな調査された市役所障害福祉課の皆様へ感謝します。 (精神)
- 文が長く、読むことが難しい。 (精神)
- アンケートが長すぎる。「〇はいくつでも」ということは、0個でも構わないと判断しましたが、問題ないですか？ (精神)
- 長すぎる。 (精神)
- アンケートがわかりにくい。 (精神)
- このアンケートの作成者は、ベテランの方でしょうか？よく練られていない気がします…。 (精神)
- 金沢市の障害福祉に関するアンケートについて (お願い) (精神)

・問21-5 回答：6に○

「精神」の場合、そのことが不用意に周囲に知られないことが不可欠だが、平時から、関連情報に一般人が触れる機会を増やすべきだろう。一方、医師等の高齢で指導的立場にある人達の中には新しい情報にやや疎い場合もあるので、研修の更なる充実が望まれる。

・問24-5 回答：7に○

担当者には満足しているが、状態悪化の際、他院か他科の医師等に、特に精神的な情報が十分に伝わるかについての懸念が若干ある。

・問29-1

①1988～2003年の京都市や大阪府吹田市での結婚生活において、元妻と両親が結託して極めて強力なDVが厚顔無恥にも行われ続け、特に父なき後の2001年の発症直前の2～3年は最悪だったし、自殺を2回してしまった。連中には相談にのるふりをしてスパイのように「諜報活動」して「人質籠城事件」に大いに役立てていた。そのため遠隔地の上にお人よし、なおかつ「長い物には巻かれろ」の金沢の実家（父なき後、母と姉）は、やむを得ない面もあったが、結果的に「不戦完敗／敵前逃亡」の上、「敗戦処理」をその20年後に私

に絶縁を叫ばれ、当時海外にいた兄が納めてやって解決した。

- ②「精神」の場合、そのことが周囲に知られないことが不可欠だが、住宅を探す際に、金沢市では、業者側が知ったと同時に門前払いとなったケースが数件あった。他方主たる要因の一つに自身が健常者で障害者の事情に極めて疎い兄が交渉の前面に立ったこともあるのだろう。実際には自室の当時の管理会社には、そのことを隠して誤魔化してようやく入ったという状態だった。つまり、ここでは精神障害者が住宅難民となる可能性が相当高いことだけは確かであると言える。他方、医療機関等にかからず、一般人に紛れて極度に酷い言動に走る者も少なくないことを思うと、そうした「野に放たれた虎」の方が危険な場合も多いのではないかという思いもある。だから、精神障害や障害者について 広報するだけでなく、交流や「ごちゃまぜ」の場を増やし、健常者との垣根を下げるような、更なる取り組みが必要と思われる。

・問29-3

- ①私を支援してくれる「相談の輪」がうまく機能しているので、安心感が強く感謝している。その一方で、介護ヘルパーはまさにピン〜キリで、理由は想像つくが、一年半前に一方的に撤退された。実際、良心的な対応をしてくれたヘルパーも数人いた。業務を手際よく片付けてくれた上に、精神的に私を確りと支えてくれた。彼女は、私の自殺に対する体験談を受けとめてくれ、更に4年の前の母の逝去の際も類稀な受容をしてくれた。反面、そうした真摯な姿勢が事業所の方針と相いれなかったのか、大方後のヘルパー程レベルが低くなっていったのは誠に惜しいことだと思う。
- ②きょうだい(兄と姉)は、生来病弱で情緒不安定な私を実に60年超にわたり支えてくれた。実質的に子どもに見放されている私には正に「命綱」である。
- ③先祖から信仰してきた「浄土真宗」により、何かあっても、以前よりもずっと深く、冷静に対処できるようになってきた。近頃は「報恩知徳」が更に響くようになってきた。
- 以上、冗長になりましたが、よろしく願いいたします。
- 未成年の時は、本人へのアンケートであっても、保護者宛てにしていただけますでしょうか。子どもに障害のことを伝えていないので、アンケートを私が持っていたが、子どもが見てしまい、「〇〇(自分の名前)に来ているから見ていい?障害者だって(封筒に書いてあったため)」と言いました。「お母さんが書くものだったし、見なくていいよ」と伝え、話は終わりました。夫婦で相談し、不安定な年だし、まだ受け入れられないかもしれないので、今は障害のことは伝えないことにしています。下の子ども同じ障害ですが、まだ障害のことを本人に伝えていません。下の子は、郵便物をポストに取りに行くのが習慣なので、今後同じよう

- なことがあると思うと、少し不安です。よろしく願いいたします。(児童)
- アンケートの中で気持ちを伝えました。(児童)
- 12-2-2は不満はないのに、「なし」の選択肢がないため、回答が完了しない。便宜的にチェックを入れたので、あとから差し引いてください。(児童)
- 問12-2-2は質問がおかしいと思います。選択しましたが利用してないもので、不満はありません。(児童)
- 問12-2-2について、どこにも不満はないのですが一つ以上チェックしないとエラーになってしまうようなので、チェックを入れました。(児童)
- 問12-2-2の質問ですが、不満がないという選択がありません。チェックを入れないと次に進めないためチェックを入れました。(児童)
- 進められなかったので12-2-2のご質問の回答は不満はありません。子どもは会話ができないため母が回答しました。(児童)
- 問12-2 不満はありません。(児童)

XII 使 用

1 相 談

- 金沢市聴力障害者協会に働いているろう者が男性1人のみのため、相談しに行きにくくなってきています(ろう者相談員)。働いているろう者の人数を増やしてほしいし、女性もいてくれば相談しに行きやすくなるだろう。このままだとストレスもたまってしまうこともあります。(聴覚)
- 介護福祉、介護保険の相談または受けたいがどうしたらよいかわからない。(聴覚)
- いつも金沢市の聴覚福祉センター松ヶ枝(高岡町)でお世話になりまして感謝いたしています。(聴覚)
- 相談窓口やアンケートなどをネットでできるようにしてほしい。(下肢)
- ケアマネの方が親身になって相談できるので助かっております。(下肢)
- 地域で生活している障害者、特に一人暮らしの障害者宅には少なくとも月に一度ぐらいは訪問して、困りごとや相談ごと等を聞いてほしい。(体幹)
- 本当は、今すぐ助けてほしい。どこに相談をしていいか、わからない。(精神)

- 金沢市児童相談所に発達検査のことで電話したら、あいまいな答えで、保留も長く、結局、医療機関に相談しろと言われた。ことばの専門の人に相談したいと言っても、3歳では早いと言われ、幼児相談室は、土日はいっぱいと言われる。0～3歳が不安なのに、どこに相談してあいまいな返事で腹が立った。3歳児検診も健常児向けで、障害児に対する配慮はない。何のためにあるのか疑問です。 (児童)
- 複数の相談支援事業所で相談したいです。事業所によっては、得意とする所が介護のことだったり、違うので。親亡き後のこと、将来のこと、相談したいので。相談支援事業所はたくさんあるのに、一つしか選べなかったり、どこが良いとかわからずに決めていた所もあるので、情報が知りたいです。 (児童)
- 発達グレーの子どもの進学先（高校）、就職先について、具体的に相談できる所がまったくない（わからない）ので、小学校や中学校で、実際の状況について相談できたらいいです。例) 学習の苦手な場合、合う学校は〇〇とか。コミュニティ的なものでもあれば、助かるお母さんたちもいるんじゃないかと思います。 (児童)
- 金沢市から委託された調査員の方が自宅にみえたとき、不快な思いをした。児童相談所の方も事前に書類に目を通していないのか書類に書いてあること（障害や経緯など）も一から説明しなくてはいけなくて嫌だった。二度と来ないでほしい。 (児童)

2 窓口の対応

- 障害福祉課に全盲や視覚障害者を雇用してください。窓口で高齢の男性に「これに書いています」と小さい文字の書類を渡された。せめて障害の窓口の担当に座る人ならば、障害者が何の障害なのか、手帳を取りに来ているのにわかってないのは残念。そういう教育をしっかりやってください。担当をコロコロ変えるのでなく、長くそこにいてくれる、名前も覚えられて安心できるようなエキスパート職員を育てて対応してください。行事には市長の代理でなく、たまには市長と触れ合えるような時間も取ってほしい。市長は我々にとっては視覚化できないし、存在感も活動状態も見えない。山野さんの時くらい存在感を見せてほしい。 (視覚)
- 市役所の福祉課の窓口の手続きは、身分証明書を見せても代理で手続するのにハンコが必要だと言われてびっくりしました。本人も同席していたのに。時間もかかるし、わざわざ障害のある本人を連れていかなければよかったと後悔しました。本人がいなくてもハンコがあればできるとか、なんだか納得いかない思いでした。 (視覚)

- なぜ金沢市役所職員に聴覚障害者がいないのですか？パートの方がいることは知っていますが、正規職員がいない。いても本人は本人の事情で市職員であることを伏せているのかもしれない。ですので、私は正規のろう者職員はいないという認識です。「採用試験での受け入れは実施している」という話ではなく、実際採用後の受け入れ態勢の問題なのか、採用選考において、それぞれの障害の種別によって採用時の有利不利がないかといったあたりもクリアにすべきと考えています。ろう職員を2～3人配備することで、ろう者に対する理解が市職員、市民双方に対してぐっと進むと思います。1名採用は本人の孤立化を招くリスクがあるので、複数年かけてもよいので、複数のろう職員の採用が望ましい。(聴覚)
- 金沢市の福祉課での相談の際に、聞いたことしか答えるのではなく、相談ごとに付随したことも教えてほしい。(下肢)
- 窓口の方の対応が不快なことが何度もある。(下肢)
- 市役所、市民センターの業務を、ハローワークみたいに週何日か延長してほしい。ハローワークも、以前、火・木と午後7時まで開いていたが、今は午後6時までとなってしまったので、また午後7時までやってほしいです。(体幹)
- 金沢市の福祉課へ障害等級変更の手続きについて教えてほしくて電話で問い合わせたところたらい回しにされた挙句「ネットで調べてください。」「さあ、わかりません。」と対応されました。知識のある親切な対応をお願いしたいです。その方の氏名も覚えています。(内部)
- 窓口の方の対応が不快なことが何度もある。(下肢)
- 以前、金沢市のホームページで障害者に対する支援制度？を見つけて、申請に行ったら、できないと言われたが、「ホームページで見た」と伝えたら、申請できた。自分で調べて窓口で伝えられる人でないと、せっかくサービスがあっても受けられないと思った。どの職員でも対応できるように、マニュアル化する必要があると思う。また、普通に働いていて、同じような障害を持つ人と情報共有する場があったら良いと思う。働けない人に対してではなく、普通に働ける程度の人に対しても、情報を得られるような機会をつくってほしい。(精神)
- 市長以下職員の啓発が重要です！(精神)
- 金沢市の乳幼児健診では事前に相談していたのに関わらず、全く配慮してもらえませんでした。泣き喚く我が子を抱えて、本当につらい思いをしました。眼科健診ができなかったのですが、健診先の病院もしっかり教えてもらえず、自分で何軒も病院を回って大変でした。健診や富樫の教育プラザでは子の発達について相談しているのに、具体的な診療機関や受けられるサービス、保育園の加配についても教えてもらえませんでした。いろいろなことをほぼすべて

一人で調べたように思います。金沢市の職員の方、ちゃんと仕事してください。金沢市は障害のあるお子さんの保護者には相談支援員を早急に紹介してあげてください！ (児童)

○療育手帳の取得、特別児童扶養手当の受給に関して、金沢市のやり方は、非常にわかりづらい。あえてわかりづらく、ややこしくしているのでは？と思うほどです。実際、我が子は、市外（能登方面）に引っ越したタイミングで（転入届の段階で）、療育手帳や特児手当の話を役場の人から教えてもらい、取得、受給できました。金沢市は、対象の人が多くが原因なのか不明ですが、役所の人自ら制度を提示してあげたら良いのではと思います。同じ県で子育てしているのに、対応の差がありすぎです。 (児童)

3 障害者手帳・障害等級・障害支援区分等

- 認定調査を適切なものにしてほしい。 (視覚)
- 視覚障害で家族と同居だと介護認定が取れない状況を改善してほしい。 (視覚)
- 3障害統合に大反対。 (下肢)
- 障害者手帳のカード化。サイズが少し大きいので、財布に入らないので、持ち歩きにくいです。ミライロのようなアプリでもいいと思います。 (内部)
- 石川県の障害者手帳の有効期限のお知らせを郵送してほしい。国は知らせてくれるから。 (精神)
- 元々2級だったのに、3級になった。納得がいかず、主治医にお願いして診断書を書いてもらったが、また3級という結果。しかも、電話で問い合わせても、理由を話してもらえない。納得がいかない。また、障害者雇用で収入が少ないのに、年金などの申請をしても、却けられた。生活が苦しい。 (精神)

4 介護保険

- 私は有料老人ホーム（●●）に入居中です。 (視覚)
- 父は3年間特別養護老人ホームでお世話になり、10月25日に食事が食べられなくなり漏水で亡くなりました。特別養護老人ホームで看取り状態になり、胃ろう、口からチューブ、点滴も悩みましたが、自然に穏やかに死を迎えました。 (視覚)
- 主人は昨年8月9日から松原病院に入院しておりました。今年9月21日から●●（介護老人

施設)にお世話になっておりますので、この種類にはあまり返答ができません、お許しください。
(聴覚)

○特老施設に入居中です。認知機能も低く、右半身まひ。
(体幹)

○介護保険の利用料で、収入による上限額を引き下げてほしい。負担が大きい。
(精神)

5 申請手続き

○金沢市の支援がわかりづらい。収入で支援区分を分ける必要性がわからない。申請がわかりづらい、書類が多い、この時代に。
(聴覚)

○「福祉サービス制度をもっとわかりやすく紹介してほしい」ですが、車の買い替えを予定しているのですが、複数の場所での手続きが必要で、時期もわかりにくい。例、免税とか等。
(上肢)

○福祉サービスを受けるための書類が難しいので、わかりやすくしてほしいです。
(聴覚)

○申請や手続きのために役所に行くのが大変なのでネットでできるようにしてほしい。
(体幹)

○福祉サービス利用の更新手続きが、毎年毎年繰り返されるシステムに、非常に不安を感じています。利用開始から10年を過ぎたら、更新の簡素化なり、更新不要にするとか、何とかしてほしいです。切実に！
(知的)

○マイナ保険証と障害医療受給者証を紐づけしてほしい。病院窓口で両方出さないといけないため。
(内部)

○様々な手当や給付金を受給させていただき、大変助かっております。が、それぞれの申請時期に合わせた更新時期(手帳、割引関係、手当等)で、年に何枚もの診断書が必要になります。タイミングによってはその都度大きな病院で検査が必要になることもあります。申請書類目的以外にも、年に何回も定期検診等病院への受診が必要です。障害をもった子を連れての受診や手続きは本当に大変です。(特に乳幼児期は)お金も時間も労力もかかります。例えば1年に1枚の診断書ですべての給付関係を更新できるというようなシステムになりますか?ご検討いただくと大変助かります。
(児童)

○いろいろな支援があり利用させていただいていますありがとうございます。支援を受けるにあたり、当然、申請書や調査表が多数あります。その書類の簡略化やオンライン申請にする。また、提出を隔週土曜日対応していただきたい。あと、提出したら別の申請、調査表が届く、提出するなどが発生する。障害があるため、いろいろな面で本人、介護者は、自由な時間がなく

申請提出が困難なことが多い。申請書、調査表のスケジュール帳があれば助かる。 (児童)

○小児慢性特定疾病を受けています。毎年、診断書を出すように言われますが、移植した腎臓は変わらない(治らない)のに、毎年変わらない診断書を出すのが負担です(毎回6,600円かかります)。 (児童)

Ⅷ 全 般

○視覚障害者となってもうすぐ10年になります。自由に外出ができなくなり、思うようにできない生活に私自身も家族も慣れてきたところです。サポートして下さった皆様に感謝しています。 (視覚)

○厚い支援に助かっています。今後どうぞよろしくお願いします。在日の外国人に税金が流れずに、市民のために市民が生活しやすい金沢市であり続けてほしいです。 (視覚)

○弱視であります。特に困ることはないが、これ以上悪くなると諸々のサービスを今後受ける場合、相談するかもしれません。 (視覚)

○現在いろいろ問題があるけど、世間的に物価高やガソリン税など経済が一つずつ解決して、住みよい世の中になってほしいです。障害があっても皆がんばっていると思います。 (聴覚)

○現在はなんとかこなしていますが、今後、障害が進んだときは何らかの介助をお願いすることになると思います。いま少し足がもつれかけています。ケアマネジャーさん等頼りたいと思います。 (聴覚)

○これからも住みよいまちづくりに進んでください。私たちもいつまでも健康に気をつけて生きていきます。 (言語)

○むつみ体育館をなおしてください。夏は暑くて使用中止になります。リハビリできる施設をつくってください。車いすの手続きを早くしてください。住宅地にバスをもっと走らせてください。歩道の段差に引っかかります。 (上肢)

○特別支援学級の教育の内容の充実を図ってほしい。自動車運転免許を取得しても、タクシーを利用することは多いので、タクシー券を交付してほしい。道路整備、歩道整備など障害のある人が安全安心に通行できる環境整備にしてほしい。 (下肢)

○よりよい社会になれるようがんばってください。 (下肢)

○理想論でなく現実的なものがほしいです。 (下肢)

- 今現在、身体の調子も良く、運転もできて仕事もあるため、不便を感じることはないのですが、将来的に免許を返納したり、仕事もできなくなった時はどうなんだろうと考えると不安に感じたりします。金沢には移住して来たため、ご近所とのコミュニケーションもなしに等しいです。
(下肢)
- 結婚したいが収入が少ない。障害者の結婚の難しさ。
(下肢)
- この頃、本当に物価が高いので、経済的な面で支援を増やしてほしいです。金沢市役所の手続きが、当人の記入する部分が多くて、困っています。これまで他県にもいましたが、金沢市役所は、デジタル化が遅れています。外出できなくなっていくので、買い物はネットですることが多くなってきました。家の近くのゴミ捨て場で、段ボールを資源ゴミの日に出せるようにしてほしいです。
(内部)
- ほぼ満足。
(体幹)
- 今は自身の生活と孫守りで忙しく、ある意味充実しているが、体力の衰えを考えるとリハビリや気分のリフレッシュを今後考えていきたいと思います。
(体幹)
- 地域で安心して暮らせる社会でいてほしい。
(内部)
- 計画倒れにならないよう、実現可能な計画を立ててください。
(内部)
- 国の手厚い社会福祉のおかげで、大変助かっています。感謝しかありません。
(内部)
- 経済的には、生活は厳しいですが、それ以外のことはできています。要介護の母親といますが、何かあった時は、自宅で待機、もしくは、災害時は何があっても受け入れようと思ひ、暮らしています。母親と一緒になら、悔いはありません。たくさんの人に迷惑もかけたくありません。正直に図々しくも答えました。お許してください。
(内部)
- 県外へ旅行に行った時、県内ならたすけあい駐車スペースを利用したりできますが、それができないのが残念。車いすではない分、車いすスペースに駐車できない。札を県外でも利用できたらいいなと感じます。今の職場は理解もあり、働きやすいのですが、中には辞めたいけど、障害があることで次の職場が見つかるのか不安で…と思ひながら、仕事をしている方もおいでると思います。企業側も、募集要項に記載があると、転職も考えやすいのではないかと思います。
(内部)
- 金沢市は障害のあるなしに関わらず等しく支えてくれているとてもよい地方自治体であると改めて実感しました。
(内部)
- 車いすでの買い物が本当に難しい。必ず介助者が必要。車いすでの買い物がより簡単にできる設備・備品がスーパー等にあると有難いが……。金沢市での医療費補助にはとても助かっている。所得制限額を上げてほしい。自分で頑張っけて働き納税している。
(内部)

第2部 障害のある人

- 私のような障害者を、普段見かけても援助してくれるのは、シニアでなく若い人が多い。日本も捨てたものではないと強く思うと同時に、シニアの方にも援助する勇気を持ってほしいと思う。日本の数多い都市の中でも、金沢市が一番障害者に優しい都市と言われるよう、がんばってほしい。(内部)
- 私は、10年前に心臓弁を交換し、1級になりました。おかげさまで、毎日感謝しながら生活しています。(内部)
- 行政が縦割りである。縦割りではなく、連携し、問題解決にあたってほしい。(内部)
- 現在は、夫婦でなんとか助け合いながら生活していますが、免許の返納や、夫婦のどちらかが寝込んだり、倒れたりした場合、福祉サービス等のお世話になりたいと思っています。それまでは、二人でなんとかがんばって生活していきたいと思います。何卒よろしくお願い申し上げます。(内部)
- 若い子に教育を！(内部)
- 障害者が住みやすい世の中になることを希望します。(知的)
- 医療費の負担額が高額のため、必要な医療を諦めている部分がある。障害者医療費助成を本人の所得で見てほしい。普段入院をしている病院へのレスパイト入院を許可してほしい。ショートステイを利用したいが、体調が不安定のため、利用ができず、介護者が疲弊している状況。訪問入浴→2年ほど空きを待っているが、まったく空いておらず、利用できない。移動支援→空きがない。空いていても、移動支援を利用するには、その前後の時間に訪問看護に入ることが条件だと言われ、利用したくてもできない。使いたいサービスはいろいろあるが、空きがない(人手不足)のため、利用ができない状況。結果、行政サービス外の有償での利用となり、医療費が高くなる。ソーシャルワーカー・相談支援員等、サービスや助成制度に詳しい人がいないので、相談しても解決しない。訪問学級のように、学校卒業後も自宅で余暇活動をしてくださる人が来てほしい。リタイヤされた特別支援の先生方や保育士さんなど、一緒に絵本を読んだり、工作をしたり、週に一度でもそのような活動をさせてあげたい。(知的)
- しゃべりたいけど、しゃべれない人は、どこで働けばいい？コミュニケーションの取り方がわからない。友達がほしいけど、しゃべれない。だから、何もできず、家にずっといる。誰も受け入れてくれないし、受け入れられない。(知的)
- 障害者手帳というものを持つ私への親族の目がすごくいやだったので、家族以外には特に何も言っていないが、手帳があり、支援してくださる方へは、いつも感謝しております。ありがとうございます。(知的)
- 障害者にとって住みやすい家、まちになってほしい。(精神)

- 障害福祉サービスについて、実際に手帳の交付で窓口に行っても、冊子を渡されるだけなので、障害者同士で話をしないと、新しい情報が手に入らない。普段、仕事をしていて、窓口に行けないので、利用できないサービスが多く、困っている。現に、今年度より始まった新幹線乗車券の割引のハンコひとつのために有休を取ったり、県のハンコが間違っていることをみどりの窓口で初めて指摘されたり、不便が多かった。また、担当者も県のせいにして、どこか精神障害サポートを市として取り組もうとする姿勢を感じるができない。また、公共交通についても、より広く学識経験者の意見を取り入れて、観光者も市民も障害者も暮らしやすい持続可能なまちづくりをするべきだ。障害福祉課の名称上、仕方がないのかもしれませんが、社会では「障がい」との表記が進んでいますが、どうして「障害」表記されるのでしょうか。共生社会の実現が、かなり遠く感じました。 (精神)
- 長い間、福祉には、大きく助けていただきました。これからは、成功して、自分で好きなようにやっていきたいです。 (精神)
- ①障害者が入れるひとり暮らし用の新築マンションまたはアパートをもっと建ててほしい。②潔癖症の人用に古いアパートばかりでなく、新築のアパートまたはマンションを建ててほしい (部屋代金が高くてもよい)。③障害者手帳を持っている人の医療費を3割から2割または1割にしてほしい (自立支援だけでなく)。④開放病棟をもっと増やしてほしい。自分と親が共倒れしないよう、しばらくの間、療養、治療できる場所がほしい。 (精神)
- 入院中に院内感染で骨に菌が入り、車いす生活となり、今は介護医療院へ転院し、看取りができる病院で入院生活を送っている。足が良くなって歩きたい、グループホームへ戻りたいという望みが消え、この先どうなるかの不安がある。きょうだいの支援を受けながら、日々生活しているが、ひとりぼっちにおかれる不安も時々よぎる。自分なりの楽しみが見つけれないが、何とかやっていくしかない。どうしたらいいのかなあー。 (精神)
- 苦手と思うことの訓練ができる場所があれば良い。 (精神)
- 就労支援施設を増やしてほしいです。障害のある人だけが利用できるスポーツ・レクリエーション施設をつくってほしいです。老人ホームと障害者入所施設が併設する施設をつくってほしいです。そして、それは山の中ではなく、まちなかにつくってほしいです。 (児童)
- 児童発達支援の日数を増やしてほしい。月23日だと足りないと感じる。集団検診を病院で個別に受ければ良いようするなど、柔軟に対応してほしい。連れて行くだけで大変です。健康福祉センターで相談した際、発達の遅れは、3歳まで様子を見るように繰り返し言われたが、もっと早くに病院とつながっていたら良かったと思います。2歳でも病院につながるようすすめられる自治体もあるようなので、金沢市と病院が連携して、この先困る子どもが減ることを願っ

- ています。 (児童)
- まだ本人が保育園児のため、どこまでできるようになるかわかりませんが、障害のある人に対する周りの人の理解を深めてほしい。自分でお金を稼げるようになってほしい。 (児童)
- 医療費をただにしてほしい。こども福祉課のTEL対応が悪い。面倒くさい感じがする。(児童)
- 金沢市は、医療費や福祉制度（補助金など）が手厚くないと感じます。 (児童)
- 将来は、不安はあります。自分では食事もできません。動くこともできません。話すこともできません。成人した時にどうなるかが、何をしたら良いのかが、家族もわかっていない状態です。 (児童)
- ユニバーサルシートを増やしてほしい。車いすの駐車場に屋根をつけてほしい。後ろのスペース広めで。いろいろなものの申請をもっと簡単にしてほしい。ネットで買った物でもOKにしてほしい (蓄電池)。 (児童)
- 書類の提出が多い。もっと障害のある人のための情報、支援がほしい。医療機関の受診が困難である。 (児童)

XV その他

- 金沢のメインストリートに市街電車が復活運行されるのを夢見ています。 (聴覚)
- 70代なのであまり気にすることもなくなりました。小さな子どもたちが不自由なことがないよ
うに助けてあげてほしいです。 (聴覚)
- 年齢がいつていますので、このままで満足しています。子どもたち（男1人、女1人）もよく
来てくれますので。 (聴覚)
- 今は高齢者の事故が多いといわれますが、高齢者でも一部だと思います。金沢市の場合、交通
の便利が非常に悪いので、高齢者の免許を取り上げるのではなく、更新の時に試験所の検査を
脱輪とか逆走したら受かるまで免許を出さなければいいと思う。 (言語)
- 本人は昨年2月22日に脳幹出血で入院して、1週間後に心臓が止まり、意識が戻っても自分
では何もできなくなり、負債を持っていて後見人の弁護士が付くことになりました。 (上肢)
- 介助もいらず、まだ元気に生活しております。 (下肢)
- 14歳で急性散在性脳脊髄炎を発症し、その後において10年前脳梗塞を発症した。その時から1ヶ
月毎、体調不良が繰り返されて来ている。 (下肢)

- 家の近くの店の品ぞろえが少ない。 (下肢)
- 私は現在、介護等のサービスを受けなくても自立して生活できる状態ですが、必要とされる人たちのために、よりよい制度になることを願います。 (下肢)
- 脳の病気で入院中で、先の希望が見えない。 (体幹)
- 大変な仕事でしょうが、がんばってください。 (体幹)
- いろいろとお世話になり、ありがとうございます。これからもがんばって生きていきます。 (体幹)
- 現在、寝たきり状態で、病院生活です。 (内部)
- 現在、がんの治療中につき先のことはわからない。 (内部)
- いろいろ気を配っていただいて、ありがとうございます。昔、実母が96歳まで元気でしたので、私も96歳までは元気で、あまり迷惑をかけないでいたいと思っております。 (内部)
- いつもありがとうございます。 (知的)
- 今現在恵まれた環境で幸せな生活を送っています。今を開いていただいた先輩方に心から感謝しています。 (知的)
- これからも、我々障害者をよろしく願いいたします。 (精神)
- まだ1歳で、今後何が必要になるかわからないので、何に支障があるかわからない。 (児童)
- 特になし。 (児童)